

ジョージ・アダムスキー「テレパシー」第1部 1章 段落001 [2014-01-06]

TELEPATHY

THE COSMIC OR UNIVERSAL LANGUAGE

BY GEORGE ADAMSKI

COSMIC

RELATING TO THE UNIVERSE AND

TO THE LAWS BY WHICH

ITS ORDER IS

MAINTAINED

PART I

Forward

Chapter 1 Telepathy - The Cosmic Language

Chapter 2 The Four Senses of Man

Chapter 3 Feeling - The Cardinal Sense

Chapter 4 Thought AS Energy

Summary - Part I

テレパシー — 宇宙すなわち万物共通の言語

ジョージ・アダムスキー 著

宇宙とその秩序が保たれている諸法則に関連する宇宙的要素について

第1部

まえがき

第1章 テレパシー — 宇宙的言語

第2章 人間の4つの感覚

第3章 フィーリング — 基本的感覚

第4章 エネルギーとしての想念

要約 第1部

【解説】

この「テレパシー」はアダムスキー氏の哲学3部作の内、最も早期に出版されました。それほどにこの内容はアダムスキー氏が他惑星人とコンタクトした際に最も私達地球人に不足しているもの、身に付けなければならないテーマだと思われたことだと推察されます。

とかく通常の間には無い「超能力」、或いは科学的な説明が出来ない不可思議な現象とされがちなこれら能力は、実は訓練により誰もが身に付けられる能力です。その学習教科が本書である訳ですが、本書は単なる技術・能力を身に付けることだけを目的とはしていません。技術・技能もある面では必要でしょうが、それにも増して世の中や物事の原理、真相を大局的に理解することの方が遥かに重要です。

即ち、私達は超聴力者を信奉する者ではなく、その人の生き方、人間としての誠実さ、創造主への姿勢こそ重きを置く者です。そういう意味では、テレパシー能力はその歩む過程で自然に身に付くものであり、付随的な能力です。各自が本書を通じて、その進化の道を歩まれることを祈る者です。

FOREWORD

002 Telepathy is the natural ability inherent within all forms of life to communicate their feelings to all other forms. Nature responds unquestioningly to this law, and each element gives freely of itself to bring forth as a united whole, the fruition of manifestation

まえがき

002 テレパシーは他の全ての形有るものとフィーリングを伝達する為に全ての形有る生命の内側に本来備わっている自然の能力です。自然は疑い無くこの法則に呼応しており、各元素は統一された全体として、発現の結実をもたらす為、自身を無償で与えています。

【解説】

自然界にある全ての生きものには生来、テレパシー能力が備わっていると説かれています。即ち、私達は何か新しく技能を修得するというよりは、自分の中で長年使われなくなっていた潜在能力を呼び起こすことが重要となる訳です。

あらゆる生きものに音声や文字によらないコミュニケーション能力があることは、大空に舞う鳥の群れが一糸乱れぬ編隊で飛行したり、顕微鏡下で活発に活動する微生物群の動き一つを見ても、その能力の存在が分かります。

またもう一方では、こうしたテレパシー能力はもっぱら創造の過程で発揮されており、特に原子・分子のレベルの活動においてはこのテレパシーがより大きく作用していることを本文は示唆している訳です。即ち、人間の眼には見えない創造の微細・精妙な過程ではより顕著に作用するということだと考えます。

003 Man is a thought in action. However, through his limited understanding he has caused the distortions which have resulted in the chaos he finds around him today. Man has the tools with which to work; but he has lost his awareness of their ability to serve him in the greater field of selfless, self-expression.

003 人は行動する一つの想念です。しかし、その限られた理解のために、人は今日、自分の周りを見る混沌の原因となる歪みを引き起こしています。人には役立つ諸道具が備わっています。しかし、人は無我の自己表現という、より大いなる分野で自分に仕えるはずのそれらの能力についての知覚を失ってしまっているのです。

【解説】

人間の本質は行動する想念だと本項は説いています。言い換えれば想念を基に行動する姿に人間の本質がある訳で、そこには想念と行動という二つの側面があることとなります。この内、想念はその行動の源となるものであり、想念を行動で表現することに私達人間の本来の役割があることとなります。

また、本文では、私達には既に様々な能力が備わっていて、それらを使わないまま、或いは誤って使う為に歪んだ環境や混乱をもたらしているとしています。私達の何処に誤りがあるのか、それがどのようにして現実の状況に結びついているのかを探求すべきことは言うまでもありません。

それには創造主の指導の声に耳を傾け、自然の法則に沿って命を惜しまず行動している自然界の生きもの達を深く観察し、自分との違いを学ぶことが重要でしょう。本書に記されている自然界の仕組みについて正しい知識を身に付けることも必要になるという訳です。

004 His capacity to progress and expand his thoughts from the coarser to the finer expressions, could be likened to a kaleidoscope containing a sphere, a triangle, and a square. Each turn of the kaleidoscope produces a new pattern...no two alike. When man expands his awareness to a oneness with the Cosmos, the same law of diversity, in an ever-changing, growing pattern, will give him the fullness of life

004 その進化と自らの想念を粗雑なものからより精緻な表現に拡げて行く人の能力は、丸や三角、また四角形を入れた万華鏡になぞらえることが出来るでしょう。万華鏡を一回転させる毎に新しいパターンが作り出され、二つとして同じものはありません。人が自分の知覚を宇宙と一つになるまで広げる時、その同じ多様性の法則が未来永劫に変化し続け、成長し続けるパターンとして、人に生命の充実性を与えることでしょう。

【解説】

私達の目指す進化の先にある状況について、本項は私達に伝えています。

これまで私達は何か静かな瞑想時のような恍惚感のような状態を想像しがちでしたが、本項で説かれていることは大きく異なります。刻々と活動する中で、想念は高速で出入りし、様々な内容が心を通り、丁度万華鏡が作り出す文様のように様々なイメージが活発に生じるとしています。その状況は"diversity" (多様性) と呼ばれていますが、それはまさに熱帯雨林の中の植物種や動物種が多様性に富んでいる生物界にも相似するところがあります。

言い換えれば、私達も各自各様の進化を遂げるばかりか、日々刻々私達自身も様々な変化を遂げ、各々独自の才能を発揮出来るということでしょう。私達の目指す場所に到達した後はまた、各自に適した多様な進化の道があるという訳です。

ジョージ・アダムスキー「テレパシー」第1部 1章 段落005 [2014-01-10]

005 To attain this goal, he must understand that touch is a nerve reaction; while feeling is a state of alertness. The state of true alertness is conscious consciousness ... which is all-inclusive Cosmic Knowledge. -George Adamski

005 このゴールを達成するためには、人は触感の一つの神経反応である一方、フィーリングは警戒の状態であることを理解しなければなりません。真の警戒の状態とは意識的な意識であり、全てを包含する宇宙の知識なのです。 ジョージ・アダムスキー

【解説】

この「テレパシー」が出版されてから本年（2014年）で56年も経過してしまいましたが、私達はまだ著者の言う真のフィーリングを理解できておりません。アダムスキー哲学書の中で最も早期（1958年）に出版されたのが「テレパシー」であったことは、アダムスキー氏が会った宇宙兄弟達と私達地球人の間で最も能力の違いがあったのが、このテレパシー能力であったことに由来するものと思われます。

一連の学習を通じて確かに物事がうまく進むようになったとか、健康になったという話は昔から多く聞くところですし、学習の効果として挙げることもできるでしょう。しかし、本質的な意味で未だ私達は目に見えず、耳に聞こえないフィーリングを取り扱う世界については良く知らないままになっています。

これら新しい分野の知覚力については、一朝一夕に身に付く筈もなく、私達は継続的に学びながら、時間をかけて少しずつ理解を拡げる必要がある訳です。

CHAPTER I

Telepathy - The Cosmic Language

006 Upon the bookshelves of the Scientific Mind, neatly labeled and dated with methodical accuracy, are arranged innumerable recognized, but unsolved riddles of life. From time to time, an inquiring mind will unshelf a volume from the dusty archives and bring it to the attention of his colleagues.

第1章

テレパシー — 宇宙的言語

006 整然とした正確さできれいにレベルされ、日付け分けされている科学的心と題された書棚には、数限り無く認識されてはいても解決していない生命の謎が並んでいます。時として探究心のある心はその埃にまみれた書棚から一冊を取り出し、それに仲間の注目を引き寄せようと示すことでしょう。

【解説】

3年ほど前にトルコを訪れたことがあります。その地中海沿いの地域には未だローマ時代の遺跡が多数保存されており、ツアーの行程の中でそれらのいくつかを見学したものです。私にとっては初めてのローマ時代の街並みでしたが、大きな石が敷き詰められた広い道路や上下水道、更には水洗式の公衆トイレなど、基本的には今日と変わらない街路の佇まいであったことが記憶に残っています。

その遺跡の中に大きな石造りの建物があり、図書館の跡とのことでした。当時どのような書物が残され、研究されていたかは分かりませんが、更に遠くエジプト文明においてもアレクサンドリアには大きな図書館があったとされる等、様々な重要な発見や記録はいつの時代でも綴られ残されて来たものと思われまます。

本項の記述も同様に、このテレパシー問題は太古の昔から指摘されて来たテーマであると述べられています。しかし、一部の例外を除けば、私達の知識は未だ未だ貧弱です。2000年前イエスがこれから起こる近未来のことを弟子達に告げた際にも、弟子達はただただ驚き、後世の人々はそれを奇跡として奉ってしまい、自分達の何処にその能力が隠されているのか、探求はしなかったという訳です。

それから何十もの世代を経て、私達は再び、このテレパシーに取り組もうとしています。音や文字によらないコミュニケーション、近未来の予知等々は自然界の他の動植物ではごく普通の事柄として実践されているのですが、ようやく私達人間もその取っ掛かりを掴もうと手を伸ばしたところと言えるでしょう。

ご連絡 [2014-01-15]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

申し訳有りませんが、都合により、次回更新は週明け月曜日になる予定です。

竹島 正

007 Ofttimes, the Power which rules mortal action-the God of Reason-is kind to the eager searcher; and will vouchsafe an additional hint to spur him on toward the unraveling of the mystery. Occasionally, this Power, which is so far above man's reason, impresses a truth upon an individual consciousness; driving him to seek further. So man grows in knowledge, each step leading to something a little higher; but no mystery can ever be completely solved. For back of all apparent or deduced phenomena, lies the Cosmic Intelligence...full understanding of which is not given to mortal mind to comprehend.

007 しばしば現世の活動を支配する大いなる力、理知の神は熱心な探究者には優しく、神秘を解きほぐすことにその者を仕向ける為、追加のヒントを与えるものです。時としてこの力は、人間の理性を遥かに超えるものですが、各自の意識に更なる遠くを求めさせようと一つの真理を印象付けます。その為、人は知識において成長し、毎회가少しずつ高い何物かに導くステップになるのです。しかし、神秘は完全には解き明かされることは出来ません。何故なら、全ての明白な、或いは推論された現象の背後には、宇宙の知性が横たわっており、その完全なる理解は現世の心には与えられることはないからです。

【解説】

ここで重要なことは、真理の探究者に対して創造神は常に優しく接し、その者にヒントを与えて呉れるということです。もしそうでなければ、私達地球人はとっくの昔に退化し、滅んでいたに違いありません。「求めよ、されば開かれん」の言葉は、こうした天の摂理を説いた訳です。

このテレパシー問題も私達にとって未知の様相が多い分野です。その真理を理解するには単に文字による知識としての蓄積では意味を持ちません。自分自身、各自実体験を積むことで初めて理解するものであり、その為にはただ、座して書物を読むだけでなく、行動し実践する中で経験を積み、中で働く法則を発見して行く必要があります。

私達地球人にどれほどの時間が残されているのかは分かりませんが、せつかく著者が残して呉れた教材を十二分に活用し、各自の進化や社会の向上につなげることが、本講座に取り組む意義となっています。

重要なお知らせ [2014-01-20]

いつもご覧いただき、有難うございます。

実は、このブログサービスを提供しているプロバイダー（「プララ」）からこの度、本年6月末をもってサービスを終了するとの連絡が入りました。

これを受けて、目下、新しいブログ開設の場所を探しているところです。

決まり次第、ご案内いたしますが、過去の記事については新しいブログサイトに移行することは作業が膨大となり難しいのかと考えております。

もし、過去の記事が必要とされる方がおられましたら、今の内に必要箇所をコピーされることをお勧めいたします。

ご不便をおかけしますが、よろしく願いいたします。

2014年1月20日

竹島 正

008 One of these volumes, which has been mouldering for centuries in the Mental Library of mystery, is labeled...Telepathy.

008 これら蔵書の一つ、神秘に関する心の図書館に何世紀にわたって朽ちている一冊にラベルが貼られています。テレパシーと。

【解説】

このテレパシー問題は、原始の人類創造の時代に遡る重要なテーマなのかも知れません。身の回りを見ても圧倒的に大多数の他の生きものは言語によらないコミュニケーション手段を持っており、独り人間だけが言語に頼り、文字に依存する生活を送っているように思われます。

何処の地に行っても、ネコやイヌ達は穏やかに過ごしておりますが、現地の言葉を理解出来ない外国人はいろいろな面で不便や不安を抱えながら生活することになります。

しかし、よく考えれば、万物の頂点に立つ者、創造主の似姿として人間が創造された限りは、私達人間には、そのテレパシー能力が十分備わっていることは確かです。本書を通じて私達はその修得のヒントを掴み取らねばなりません。

009 Our present civilization has always been awed by the ability of certain of its members to receive visions of forthcoming events, or mental impressions of incidents occurring at a distance. Not until 1885 was this enigma labeled and placed in the scientific files for investigation. In that year, the Physical Research Society through Mr. Myers, an outstanding figure in that field of investigation, issued the following statement: "We venture to introduce the word 'Telepathy' to cover all cases of impressions received at a distance without the normal operation of the recognized sense organs."

009 私達の現在の文明はこれまでも、その構成員の中に将来起る情景、或いは遠くで起っている事故の心的印象を受けるある能力を持つ構成員によっていつも畏れられて来ました。1885年以前はこの謎めいた出来事は調査の必要な科学的ファイルの中に分類され置かれることはありませんでした。その年、この分野の調査では著名な人物であるマイヤー氏を通じて物理研究協会（訳注：実際には"the Society of Psychical Research心霊研究協会"と称される学術団体であった）は以下の声明を出しました。「私達は『テレパシー』という言葉が認識されている感覚器官の平常な作用によらず、感受する全ての印象事例を指し示すものとして思いきって導入することとする。」

【解説】

「テレパシー」という言葉の由来は19世紀後半に遡るといふ訳です。しかし、その後の学術的な解明は進んでいないのではと思われまゝ。その他の科学技術の進歩と比較して、人間の精神的内面に関わる分野の難しさを示しているとも言えるでしょう。

しかし以前に、この種の「技術」に対して、軍事的側面から研究が行われているとかという記事を見たことがあります。遠く離れ地表と隔絶された深海の原子力潜水艦の乗組員への意思伝達や敵の動静を遠隔地から把握する能力者を配備する等の事例です。

このように実はテレパシーは現代社会においても未だに神秘のままであり、特殊な能力として見なされ、その価値を見出した軍事部門が密かにその能力を高め、相手よりも優位に立とう等という「地球的な応用」について人知れず取り組まれているものと思われまゝ。

しかし、私達は、そもそもテレパシーを誰もが応用できる基本能力として推奨したい訳であり、動植物その他万物共通の言語の一環として学ぼうとしているのです。

010 Interest ran high for a short time, but the subject was eventually relegated to the shell of unsolved problems. It was not until ten years after the termination of World War I, that science considered telepathy important enough to incorporate it into the work of the research departments of several of our leading universities.

010 少しの間、興味は高まりましたが、結局、そのテーマは未解決の問題という殻に追いやられてしまいました。科学がテレパシーを我が国の先導的な大学の幾つかの研究部局の仕事として組み入れるに足る重要な課題と考えたのは、第一次世界大戦の終了から10年が経ってからのことです。

【解説】

世の中、何事も最初は興味本位で関心が高まりますが、問題の本質はそうたやすく取り扱われるものでない為、結局は何も理解されないまま放って置かれるのが常のようです。

ある人には理解でき、実践出来るものが別の者には理解できないことも多いものです。理解力を高める為には、人それぞれ努力を積み重ねる必要があります。同じ景色を見ても受ける印象、感動する度合いが何故かくも異なるのかは、本人の受ける想念の幅、光で例えるなら受ける想念の波長域が広いか狭いかの違いがあるように思われます。これまでの経験が乏しく、他の者への関心より自分自身への拘りが勝っていれば自ずと印象の幅も狭くなってしまいうように思われます。

さて、こうしてテレパシーの研究は第一次世界大戦後に研究分野の一つとして取り上げられることになったと本文は解説しています。人間の持つこのような潜在能力がその後、どのように研究されたか、私自身、調査不足を否認ませんが、少なくともまだ一般にはテレビ番組等で「超能力者」として紹介されている限りは、その後の研究においても真の精神科学として確立してはいないように思われます。

011 In olden times, telepathy was attributed to black magic or witchcraft; but through actual experiments carried out by the universities, it has conclusively proved itself to be a definite fact with which to be dealt. However, that first statement made by the Psychical Research Society has been a dangerous snag upon which science is now floundering; for working from the hypothesis that telepathy is outside the "normal" operation of the recognized sense organs has caused science to place the subject in a field of mystical assumption; rather than of practical analysis. This has resulted in a well-meant but worthless foundation upon which to build. It is now time to lift telepathy out of the confusion surrounding it, and place it once more upon its true foundation as the cosmic universal language.

011 昔、テレパシーは黒魔術や魔法に帰するものとされて来ましたが、大学によって実施された実際の実験を通じて、それが明白なる事実として扱われるべきものであることが最終的にはっきりしました。しかし、心霊研究協会によって出された最初の声明は今や科学がもがいている危険な障害となっています。何故ならテレパシーはこれまで認識されてきた感覚器官の「正常な」作用の範囲外であるとの仮説から来る研究は、科学に対し実際の分析よりは何か神秘的な仮説の分野にその課題を設定させてしまったからです。このことは結果としてよかれと思ってのことでも、打ち立てるには価値のない基礎になってしまいました。今やテレパシーをそれを取り巻く混乱から引き上げて、宇宙普遍の言語としての真の基盤の上に乗せるべき時になりました。

【解説】

おそらく中世ヨーロッパの昔は、正統とされない能力者は魔女・異端として、時の教会組織から迫害を受けたものと思われます。それから時代を経てテレパシー研究が始まったものの、依然として通常の感覚とは異なる作用を出発点とする研究であった為、その後の正常な発展が出来ないでいると本項は解説しています。

何事も最初の出発点、見据えるべき方向性が大事だという訳です。

実は、他のテレパシー研究者と違い、私達は既に他の惑星人の持つテレパシー能力について聞き及んでいる訳ですし、立派な実例を知っていることがここで大変重要になります。テレパシー能力を身につけることはどういう意味があり、どのような状況になるかについて、その最終形を知っている訳で、その点、安心して先に進めることになります。

同じような身体を有する中で何処に他惑星人達との相違が起こるのか、私達は理解力が不足していると言いながらも、その状況に近づくため、一步一步前進する必要があります。

012 In recent years there has been a greater trend, than ever before known during this present civilization, toward the advancement of ideas that would produce a better understanding, and a more enduring relationship, between men and nations. The advent of radio, television, wireless telegraphy, etc., has done much to unite the world. Naturally, this has led to discussions among learned men as to the feasibility of evolving a universal language; for they know it would further facilitate intercourse between the peoples of different nations. Although several so-called universal languages have been compiled, such as Esperanto and Ro, to date no word-system has been developed which will meet with the approval of all nationalities.

012 近年ではこの現在の文明の中で、これまでに無い程、人々と国々の間でより良い理解と永続できる関係を作り出す概念の発達に向けたより大きな傾向が存在するようになりました。ラジオやテレビ、無線電信その他の出現は世界を結束させる為に大なる役割を果たしました。自然の成りゆきとして、このことは知識人の間に普遍的な言語を発展させる実用性について議論を導くこととなりました。何故なら、彼らはそれが異なる国の人々の間における交流を促進することを知っているからです。エスペラントやロー語等、いわゆる普遍的言語と呼ばれる幾つかの言語が編纂されましたが、今日までどの言語体系も全ての国家の承認を得る程には発展していません。

【解説】

本文が執筆された1958年当時と比較して、その後の世界における交流の拡大状況には目を見張るものがあります。衛星放送や電子メール、インターネットの普及により、今日では居ながらにして地球各地の友人と連絡をとり、また航空機により私達庶民も海外旅行に出掛けることが出来るようになりました。

こうする中で、問題となるのは言語の違いです。昔はめったに訪れる訳ではなく、異国として言葉は通じなくてもやむを得ないとして来ましたが、これからは現地の方々と共同で仕事をするケース等、より深い相互理解が求められる上から、互いの共通言語が必要になることとなります。

本項では、エスペラントについて触れられていますが、もはや現実的ではなくなっていました。以前、アダムスキー氏がこれからは米国英語が共通語になると何処かで述べられていた記憶があります。遙か昔、私の中学・高校の頃です。その後の動きを見ると、今日では英語が国際社会の共通言語になっているように思います。

しかし、後述されるように、世界共通語のニーズは、より深い所から湧き上がって来ている点に、私達は着目しなければなりません。動植物を含めた印象の交流こそ、テレパシー開発の目標なのです。

013 We generally think of a language as being a system of word-pictures, either in the form of the written symbol or vocal sound; so in seeking an acceptable means for the exchange of knowledge, we have naturally turned to these familiar methods of expression. However, with either the spoken word or written character, we are dealing with decidedly limited fields.

013 私達は概して言語というものを書き留められた記号か音声の形式による言語イメージとして考えており、その為、知識の交流の為の好ましい手段を探すに当って、私達は自然とこれら親しんだ表現方法に関心を向けて来ました。しかしながら、話された言葉や書かれた文字では私達は断然、限られた分野しか取扱っていないのです。

【解説】

文字にはアルファベット等の表音文字と漢字等の表意文字がある訳ですが、これらのいずれも本来の「知識の交流」には限界があり、不十分な機能しか果たせないと説いています。

つまり、私達が思いつくアイデア、自分自身で得た心境など、相手に伝えたいと思っても言葉では伝えきれないということでしょう。言葉にはイメージを伝える機能はあるものの、それは極く限られた内容だという訳です。小説家が言葉を選ぶように、真に伝達する内容を文字で表現することは難しいということですね。

その点、これらの印象をもって直接的に受け止めることが重要となり、それが本講座を学ぶところとなっています。これらの能力は私達の従来 of 学問では取り扱うことが無かった以上、いわゆる学歴には関係なく、文明のレベルとも係りありません。未開のジャングルで暮らす人々の方がこの種の能力に優れていたり、太古の人々の方が勝っていたことも十分考えられます。

私達は、これまでの常識、前提をひとまず脇に置いて、第一歩からこの学習に進む必要があります。

014 The men who first conceived the idea of a universal language might be astonished to learn they had received their inspiration from the pages of Nature's own handbook. For although few people are aware of the fact, there exists a universal language as ageless as the Cosmos itself. This is the language which includes not only the expressions of man, but the expressions of every living thing; yet it is a language so simple that even a new-born child can understand it.

014 普遍的言語のアイデアを最初に抱いた人達は、自分達はそのインスピレーションを大自然自身のハンドブックのページから得たことを知れば、驚くかも知れません。何故なら、大部分の人々は気付いていないのですが、大宇宙自身と同じく永遠に続く一つの普遍的言語が存在するからです。これは人間の表現のみならず、ありとあらゆる生き物の表現をも包括し、しかも生まれたばかりの子供でも理解することが出来るほど簡単な言語なのです。

【解説】

本書のタイトルでもある"Universal Language (普遍的言語)"が私達がこれまで親しんで来た言語の他に、大地創造の昔に遡って存在していたことを著者は私達に教えています。

世界中で誰もが共通の言葉を話せたら素晴らしいと思った背景には、これらの内容は大自然の仕組みの中に既に存在していたことがあり、そこからの導きがその発想の源泉だという訳です。テレパシーという普遍的言語は何かゼロからスタートする新しいテーマではなく、新生児にも出来る想念の伝達だということでしょう。

相手が何を思っているかは瞬時に感じ取ることが出来、その伝達に言葉は用いられることなく、無音で印象そのままに直接双方に同期して現れるといった具合かと思われれます。いずれにしても、テレパシー能力を高めることは、人間同士ばかりでなく、他の動植物、更には大自然との交流も深まるものと思われれます。

015 What is this medium of communication which is so easily received, and, with understanding, so readily interpreted?

015 それほどに容易に受信され、理解されて直ぐにも解釈されるというこのコミュニケーション媒体は何でしょう？

【解説】

どのようにして文字や音声を介さずに互いの意思が伝えられるのでしょうか。

これについて私達はとかく「目と目で分かり合える」とか、「互いに相手の表情を見て感じ取れる」とか言う訳ですが、本講座においては後述されるように、視覚や聴覚以外の経路があるとしている点に特徴があります。

深海奥深く暗黒の世界に棲息する魚や蟹達は何一つ不自由なく生活している訳で、私達も視覚に依存する生活を見直す必要があるかも知れません。

しかし、これについてはアダムスキー氏が「生命の科学」の中で盛んに述べられていたように、私達は単に既存の感覚を排除しようとするのではなく、従来の感覚はそのままに活用する一方、横暴となっている感覚の裁きを止めさせ、同時に来る印象を受け入れることで、内部で起こっている様々な精妙なる活動に気付くことが重要だということになります。

016 There is only one true universal language....the invisible, creative, feeling impulse, which is Cosmic Intelligence, flowing as Cosmic Force, through all manifestation. This Cosmic Cause, or Universal Force. is ever in motion. It must, of necessity, act upon, or transfer itself, from one object to another.

016 唯一一つだけ、真の普遍的言語が存在します。それは目には見えず、創造作用がある、フィーリングの瞬発衝動であり、大宇宙の英知、全ての創造物を通じて宇宙の力として流れているものです。この宇宙の因、即ち宇宙普遍の力は常に活動しています。それは必然的に一つの目的物から別の目的物へ作用し、或いは自らを転送させなければならないのです。

【解説】

本項ではテレパシー伝達の媒体は「フィーリングの瞬発衝動（インパルス）」であると明らかにしています。またこの「衝動」こそは宇宙の生命力の源であり、全ての創造物に流れているという訳です。

只、言葉に表現する場合は、このような内容になる訳ですが、私達各人は著者がどのような状態をイメージしているのか、各自の知覚力を総動員してその発見に努めなければなりません。

確かに「衝動」とは瞬時の行動意欲ですし、画家が一心に絵筆を振るっている時のように、衝動に基づく一つ一つの行動の理由は背景の説明を加えることはありません。ひたすらイメージが湧くままに絵の具を付け、キャンバスにそのイメージを再現させているに違いありません。その状況は自らがその衝動が現象世界に流れ落ちる水を通すパイプとなって、何ら抵抗を加えることなく、そのままを表現することのみに努力しているということでしょう。

私達は宇宙空間を貫くこうしたフィーリングの瞬発衝動に対し、よくアンテナを張って、著者の示すところを理解するように努める必要があります。

017 So the feeling impulse, which we have called mental telepathy is the great, universal language. One day, when it is understood by all people, it will break down the artificial barriers of race and creed. Before it, self-pride, deception, and vanity will fall; and by its very universality, humanity will be united-- Man with Man--and Man with all Nature. For this is the one language that every atom in the universe is able to speak and understand.

017 ですから私達が心のテレパシーと呼ぶ、感じの瞬発衝動は偉大なる普遍言語なのです。いつか全ての人々にそれが理解される時、それは人種や宗教という人工的な障壁を打ち砕くことでしょう。それを前にしては、自負やごまかし、そして虚飾は崩壊し、そのままに普遍性の故に人類は団結することでしょう。人と人、更には人と全ての自然とがです。何故ならこれが宇宙における全ての原子が話し理解することが出来る唯一の言語であるからです。

【解説】

私自身は本項がこのテレパシーを学ぶ講座の中で最も重要な箇所ではないかと考えております。そもそも講座に臨む出発点が大事であり、私達がどの方向を目指して歩みだして行くのかを本項は示しているからです。

他惑星社会では平和で争いごとは無く、皆各自の才能に応じた自己表現を実現し、助け合って調和ある暮らしをしている訳ですが、それはこのテレパシー能力が発達していることによります。

言葉や文字による言いつくろいや、相手に真意を見破られないように振舞う等、地球社会では疲れる日常も多い訳ですが、ひとたびテレパシーが普及し始めればそのようなものは見抜かれ正直者だけが暮らせる社会になる筈です。また動植物も含め、あらゆる創造物とも交流出来れば、地中深く存在する鉱物資源も含め、全ての創造物と一体感のある穏やかで、かつ活動的な生活に生まれ変わるものと思われま

す。その状態こそ、太古の昔からおぼろげながら伝承されて来た、万物に神宿るとする古代人の思想を本来の姿に発展させたものになる筈です。

018 Conscious thought is known on all planes of consciousness. Its character cannot be hidden either by soft whispers, or dramatic inflections; nor can its meaning be concealed by the clever manipulation of chirographic symbols. Cosmic thought is stark truth; it cannot be distorted. It is the law of activity which must, and does, indiscriminately produce action and reaction in whatsoever form becomes its point of contact.

018 意識的な想念は意識の全ての局面において知られます。その性質は穏やかなささやき、或いは劇的な抑揚によって隠されることは出来ませんし、その持つ意図は書道の文字の賢い操作によって隠すことも出来ません。宇宙的な想念とは厳格なる真実であり、ねじ曲げることは出来ないのです。それは何物であれそれが接触する形有るものにおいて区別なく作用や反応を生み出さねばなりませんし、現に生み出している活動の法則なのです。

【解説】

テレパシーとは何かを本項では説明しています。

私達はとかくテレパシーを何か特殊な能力と考えがちでしたが、実はそれが宇宙で繰り返されている「意識的な想念」の作用なのだという訳です。つまり想念というものは必ず伝達先の個体に何らかの作用をもたらすものだというので、言葉や文字その他上辺（うわべ）の取り繕いで隠せるようなものではないとしています。

私達はここで自ら発する想念の威力について十二分に自覚する必要があることに注意すべきです。自ら発した想念が受け取り手に直接作用を及ぼす訳ですし、互いの怒りの想念が周囲に拡散すればやがては戦争への広がることも有りえるものです。今日世界中で人々の争いが起こっておりますが、平和的に物事を進められないのが私達地球の問題なのです。

そうした戦いの中では憎しみの想念が更に憎しみを生み出し、エスカレートしているということでしょう。私達はこの想念の作用を十分自覚して、この惑星の状況をこれ以上悪くしないよう、正しい想念の放出者であらねばなりません。

ジョージ・アダムスキー「テレパシー」第1部 1章 段落019 [2014-02-04]

019 Telepathy was the means of communication I used during my first meeting with a visitor from another planet, when I conversed with the occupant of the scout ship from Venus. It was partially explained in my second book, INSIDE THE SPACE SHIPS, as a Law of Nature, or one of the Universal Laws.

019 テレパシーは私が金星から来たスカウトシップの乗組員と会話した際、他の惑星からの訪問者との私の最初の会見の間、私が用いたコミュニケーション方法でした。その一部は私の第二の本、INSIDE THE SPACE SHIP（訳注：「空飛ぶ円盤同乗記」）の中で、自然の一つの法則や宇宙普遍法則の一つとして説明されています。

【解説】

もしテレパシーという瞬発衝動という私達内部に湧き起こるものに気付くことが出来るようになれば、互いに言葉は通じなくても、互いの意思は容易に通じ合えるという訳です。もちろん他惑星人はこの分野の達人ということになるでしょう。

「同乗記」の中でアダムスキー氏は様々な人達と会った訳ですが、その壮大なる宇宙船の内部では地上以上にテレパシー感覚が鋭敏になり、受ける印象類も地上に比べはるかに多く、また力強いものであったにちがいません。

宇宙兄弟達は、こうした環境の中で充実した生活を送っている訳ですが、それは彼らが彼ら自身の努力精進で造り上げて来たものであり、かく言う私達もテレパシー能力を高めることで、彼らを手本としてより良い世界を造り上げなければなりません。

020 There is nothing mysterious or unknowable about this means of thought-transference, for man lives by it daily. A thought cannot be given audible expression without first being formulated in the mind. This is automatic with the average person, and he is usually quite unconscious of the fact that his mind is (1) directing every outward movement of his body; (2) composing and arranging his thoughts before giving them audible expression; (3) receiving a continuous flow of thought-impressions from the outside. From this continuous flow of impressions the undeveloped mind rejects all that is not familiar, and retains only those thoughts which confirm the opinions his mind has already formed. That is why, until man understands himself, he is guided only by the world of effect.

020 この想念移動の手段について何も神秘的なものも未知なることもありません。何故なら人は毎日それによって生きているからです。想念は心の中で最初に組み立てられることなく、聞き取れる表現を与えられることはありません。これは普通の人間では自動的に行われており、人は普通は自分の心が、・肉体の外向きのあらゆる運動を指揮し、・自らの想念を聞き取れる表現にする前に組み立て整理し、・外界から絶えず流れ込んで来る想念－印象類を受信しているという事実について全く意識しておりません。この連続した印象の流れの中から、未発達の心は馴染みのないものは全て拒絶し、代わって自分の心や既に作り上げた意見類を確証する想念類のみを保持します。それが人が自分自身を理解するまでは結果の世界によってのみ導かれる理由です。

【解説】

ここではテレパシー能力そのものも含めて、私達の心というものがどのような作用を行っているか記されています。

本文に明示されているように、私達の身体各部を動かす指令を与えるのも心ですし、印象を整理して音として想念を表現するのも心であり、更には外部から想念を受信するのも心だとしています。

つまり、私達の心は未だ言葉として表現される前の印象の段階からその取扱いに関与しており、心が受け入れたくない想念や馴染みのない印象類は排除している所が重要なポイントです。

心が本来、何を頼りにすべきかを自覚できない為、このような精妙なる印象の世界よりは心が確実だと信じる結果の世界、その印象が表現された後の世界に抛り所を見出そうとする訳です。

しかし、このことについては皆様ご承知の通り、仏教では結果の世界は移ろい易く空しいものだと説いています。最近読んでいる本の「無量寿経」の話が出ており、そのお経の中に「波揚無量自然妙声 随其所应 莫不聞者 或聞仏声 或聞法声 或聞僧声 或寂静声 空無我声 大慈悲声 波羅蜜声」というくだりがあるそうです。この中の様々な「声」を聞くとあるのは、本項でいる「印象」、テレパシーを示唆するものと思われます。ちなみに「その声を聞くところにかなって歓喜すること無量なり」とするところが、お経の名前の由来かと思われます。

021 It has been said, "A natural man knows the way of the Spirit, while the unnatural man knows not the way of the Spirit." This means, that once man recognizes his oneness with Cosmic Cause and begins to use its laws, he will have no further need of a teacher; for the Law gave him life....and the Law will be his teacher. The great universal language, which we use daily and know not, speaks to us in the deep reverberations of the thunder; and communes with us in the silence of Creation's deepest repose.

021 「自然人は聖霊の道が分かる一方、不自然な人には聖霊の道が分からない」と言われて来ました。この意味は、ひとたび人が宇宙の因との自らの一体性を自覚し、その法則を活用し始めるなら、その者には今後、教師は必要で無くなるだろうということです。何故なら、その法則が彼に生命を与え、そしてその法則はその者の教師になるであろうからです。私達が毎日用いており、知らずにいるその偉大なる宇宙普遍の言語は、雷鳴の深い響きの中でも私達に話し掛け、創造主の最も深い休息の沈黙の中でも私達と心通わせて来るのです。

【解説】

「フィーリングの衝動」というものが、自然界のあらゆるものを動かし支えている訳で、その莫大なる力を「聖霊」その他の言葉で表現されて来たものと思われまます。その声は私達に生きるヒントを与え、私達自身、自分で気が付かない内に、その声を活用しているということです。

従って、このことを進めて行けば、私達には次々に必要なアイデア、助言が与えられ、また私達自身も何らかの形でその湧き起こる想念の塊を放出することで互いの意思の交流を図ることとなり、いわゆる生物・無生物を超えて心を通わせることが出来るものと思われまます。

著者が言う「宇宙の因」とはそのようなフィーリング衝動の送り手であり、湧き出す源を指すものです。その為、私達がこのような宇宙の源泉と親密になれば、他に師や書物は不要となり、宇宙の因から直接導かれる生活、即ち本項で言う「natural man (自然人)」になれるのです。

022 We cannot lay down a definite pattern for everyone to follow, as there are no two humans alike; we can only present the Law to you. It will work according to each individual understanding and application, and these will differ from person to person. The principle we give here applies equally to all.

022 私達は誰もが後を従うような確定したパターンを敷設することは出来ません。二人同じ人間はいないからです。私達は唯一、その法則を貴方に示すことが出来るだけです。その法則は各個人の理解と応用に応じて作用する筈ですし、これらの事柄は人によって異なることでしょう。しかし、私達がここで授ける原理は全てに等しく適用されます。

【解説】

どうすればテレパシー能力を高められるか、その具体的方法は各自によって本来異なるものだと本項は論じています。

一人一人によってその「心」なるものの体験が異なり、各自の志向も違うことが背景にある訳で、誰にも当てはまるのが、本書に書かれている原理・理論なのです。

具体的な応用は、各自の試行錯誤で進めて行くことになりますが、重要なことは自ら試み、実行したことと、それに対応して現れた結果をよくよく覚えて、次に繋げることだと考えています。また、「自分の場合はこう考えて生活して見たら、良い結果が出た」等々、同行の仲間と話し合うことも他人の経験を学ぶ良い機会です。

しかし、それにも増して重要なのは、創造主はいかなる場合でも私達各々を導き、生きるヒントを瞬間的な印象の塊という形で絶えず贈り続けて下さるということです。

023 If this lesson is to be of any value to you, you must begin with yourself. You must learn your component parts, why each part works as it does; what controls your thinking, and why there is such an apparent conflict between your inner self and the world about you. You must understand your emotional reactions before you can be the expressor of the fullness of life.

023 このレッスンが貴方にとって何らかの役に立つようにするには、貴方はご自身について始めなければなりません。貴方は貴方を構成する各部を学び、何故個々の部分がそのように働くのか、貴方の考えを支配しているのは何か、また、貴方の内側の自分と貴方の周囲の世界との間にかくも明らかな諍いがあるのかについて学ばなければなりません。貴方が生命の完全さの表現者になるには、貴方の感情による諸反応を理解しなければならぬのです。

【解説】

結局、私達は私達自身の心なるものに向き合わなければ、何一つものにならないと本項は説いています。

書物に書かれてある先人の教えを読んで学ぶことは必要です。しかし、本当に自ら納得し、体験することによってその知識は身に付くものではないかと考えております。思うだけでなく、実践する中で、その原因と結果の生きた法則をよくよく観ることが大切だということでしょう。

特に日常生活の中で、時折、私達が見せる感情の起伏が問題です。そのような状態は往々にして自身の身体ばかりでなく、周囲にも計り知れない悪影響を及ぼす訳ですが、それらの感情をコントロールする上でも、それがどのような原因で生じるのか、自ら原因を究明せよと本項では求めています。

024 There is one vitally important truth we must always bear in mind. The Cosmos has no beginning-and it has no ending. It is all that ever was-is-or ever will be... eternal activity.

024 私達が常に心に留めておかなければならない、命にかかわる程重要な一つの真実が存在します。宇宙には始まりもなく、終わりもないということです。それはかつて存在した、現在存在する、未来に存在するだろう全て、永遠に続く活動であるからです。

【解説】

本項は改めて私達が生きている宇宙は始まりも終わりもなく、永遠に存続し活動を続けるということを私達に説いています。それは何故必要であったか、著者の意図について考えることが大事なところですよ。

私達地球人の寿命は所詮限られたものです。その中で本来、達成できるレベルは極く限られたものになるかも知れません。しかし、本文中には敢えて記されていない訳ですが、人間には転生があり、人生は継続することを考えれば、その歩みは次の人生に繋がる一歩になる筈なのです。

特に最初の内は、目に見え（結果に現れ）る効果は少ないのですが、結果（成果）が得られなかったとしても、その精進は大切な部分に取り組んでいることに注意が必要です。これまでとんでもない程の長年月、最低の人生を送って来た訳ですから、それを本来の姿に戻すには、同程度の年月が必要な訳でしょう。

しかし、本項は「命にかかわる程重要だ」と述べている通り、私達の住む宇宙は滅びることはなく、未来永劫躍動する生命を養ってくれる、文字通りの天国であり続けると私達に説いており、安心して一歩一歩進んで来るよう諭しているのです。

025 Man was created to be the perfect expression of all expressions; and he was endowed with the ability to reason that he might understand each effect in the scheme of life. He is innately capable of comprehending all states of Cosmic expression; from the very lowest, to the highest. But through ignorance he has prostituted this Divine gift; and now judges and condemns that which he sees about him. Whether he realizes it or not, by his judgments he exalts himself above the Creator; thereby causing a feeling of separation between himself and the Giver of all Life. But when he casts off the fetters forged by his carnal mind, he becomes the Knower; and is then one with the Cosmic Cause of all creation. All nature works in harmony with the Supreme Intelligence which gave it birth. Man stands alone; the sole distorter of the Law.

025 人は全ての現れの完全なる表現者として創造されました。そして人は生命の体系における一つ一つの結果を理解するかも知れないという推論の元にその能力を授かりました。人は生まれながらにして全ての宇宙的表現の状態を把握することが出来ます。最も低次なものから最高位のものまでです。しかし、無知の故に人はこの神聖な贈り物を売り渡して来ました。そして今や自分の回りを見るものを裁き、非難しているのです。人がそのことを理解しているに問わず、その裁きによって人は自分を創造主の上に高ぶらせているのです。その結果、自分自身と全生命の贈与者との間に分離感をもたらす原因を造っています。しかし、人が自分の肉欲の心によって造られた足かせを投げ出すなら、人は知る者となります。そして全創造物の宇宙的因と一体になるのです。全ての自然はそれを誕生させた至上なる英知と調和して働いています。人のみが独り立っているのです。唯一の法則の曲解者として。

【解説】

現在、仕事である国に来ています。そこで感じていることは、本項で記載されていることそのもののように感じられます。気候は暖かく、緑が多い環境。年間にわたって降水量にも恵まれ、街路樹にはハイビスカスやサルスベリが咲き、冬でも様々な花が絶えることはありません。当然、小鳥達も数多く、種類も豊富です。そのような国で仕事出来るのは何とも幸せそうですが、問題もあるのです。どうも年々、治安が悪くなっている状況があるからです。

経済状況が悪くなっているせいか、白昼でも少年達が街中で薬物の売買をしていたり、働き口が見つからない人達が公園等にたむろしていたりする訳です。これらはひとえにこの惑星を任された人間の側の不適切な運用によるもので、自然界の植物や動物達には何ら落ち度はありません。何故かくも人間が豊かな自然の中でありながら、各もかけ離れた生活、住居の周りに鉄の檻（おり）を巡らし自宅を守る必要がある環境の中で暮らさなければならないのか、大きな問題、矛盾点を実感しています。

本項はその原因を心自らが生来の贈り物を自分の心を高ぶらせる為に、売り渡した故だとしています。アダムとイブの寓話に遡る心の問題が究極の姿として、現代社会の姿に反映しているということでしょう。

026 We will endeavor to explain the necessity of blending Cosmic Man with Earthly man. Telepathic reception will come from both; but when receiving impressions, we must always keep in mind the difference between the man of little understanding, and the Cosmic Man. The thoughts coming from the man of little understanding will contain discriminations, divisions, judgments, and personal feelings; while the Cosmic Man's impressions, coming from Cosmic Cause to all effect, will convey understanding and compassion, without judgment. This is Truth expressing; and in the presence of Truth there is an absence of doubt.

026 私達は何とかして宇宙的人間と地球的人の融合の必要性を説明することとしましょう。テレパシー的な感受はどちらからも来ますが、印象を受ける場合、私達は常に少ししか理解していない人と宇宙的人間の間の違いについて心に留めて置かねばなりません。少ししか理解していない人から来る想念類は差別や分裂、裁きや個人的なフィーリング類を含みますが、宇宙的人間の印象類は宇宙的因から全ての結果にもたらされるものであり、裁きを持たず、理解と思いやりを運んでいます。これは真理を表わしていますし、真理の前では疑いというものはありません。

【解説】

私達は実際には日常的に他の人間からの想念伝達（テレパシー）を多少なりとも受けているということです。

しかし、その中身については想念の放出者の性質を帯び、またその内容も放出者の理解力に応じたものとなっています。従って、受ける印象全てが同調するに相応しいものでは無いとも言えるでしょう。

つまりはテレパシー能力を開発するという事は、その見極める能力も高めて行くことが必要となります。地球だけでも70億人いる訳で、それらの人々が日々発する想念が互いにも影響を与え合っているということも出来ます。しかし、その中において私達はその全てに同調する必要はなく、本来の進化に必要な想念を見極める必要があります。

私達を取り入れなければならないのは、本項で言う人間の内部の宇宙的な部分から来る想念・印象で、そこから発せられる印象類の素晴らしさを良く自覚し、自らも内部の宇宙的な部分に日々親しむよう努力することが重要です。無数の想念・印象の中で自分はどのような方向性の印象を求めているか、を明らかにしておく必要があるように思われます。

027 The study of telepathy will in no way interfere with, or contradict, any religious belief you may have. For telepathy is not a religion, but a Universal Law. Knowledge of this law will give you a greater understanding of yourself and of your relationship to the Cosmos in which you live.

027 テレパシーの学習は貴方が持っている如何なる宗教上の信念を干渉したり、否定したりすることは一切ありません。何故ならテレパシーは宗教ではなく、宇宙普遍の法則の一つであるからです。この法則の知識は貴方に貴方自身と貴方が生きている大宇宙と貴方の関連性についてより大きな理解を授けることでしよう。

【解説】

これまで述べられて来たように、テレパシーとは瞬間的な衝動とも言える形態による印象の伝達プロセスである訳で、これは宇宙における生命活動の根幹にも通じる原理・法則とも言えるものです。

従って、テレパシーは何か新しい宗教や信仰を推奨するようなものでなく、具体的な作用という訳です。

当初、何か特異な能力と考えられがちであったテレパシーは、このような万物の原理である以上、誰にでも生来備わった能力の一つであり、素直にその能力を開花させることが望まれています。また、同時にそれらの能力が高められるにつれ、より多くの情報が宇宙から流れ込むこととなり、生活が充実し、豊かになることは間違い有りません。洞察力も深まる筈です。

私達はテレパシーを音声によらない意思疎通の手段と最初は考えていましたが、実際にはテレパシーはそれだけに留まらず、人の人生を実りあるものにする上で、重要な宇宙や因から適時適切な指導を受ける経路を確立する意味があるのです。

028 The more highly-developed space people have learned that, in its natural state, all life expresses as a joyous, free execution of each action. They do not consider the performance of their daily chores burdensome, but rather, view them as a privilege whereby they can render further service to Cosmic Cause by enabling it to express unhampered through them. They are trained from infancy in the proper care of their bodies and use of their minds. They will not harbor a discordant thought, for they know what it does to the chemicals of the body. Their sense-mind is coordinated with the Feeling, or Cause Mind; so each individual cell of their body responds to the commands given by the sense-mind. By use of this law, their bodies remain firm and youthful regardless of age. They know that all life is constantly active, and that each particle of creation performs its duty in a free, unimpeded expression of Cause.

028 より進化を遂げた宇宙人達は自然状態では全ての生命は、その一つ一つの行為の楽しく自由な遂行として表わされていることを学んで来ました。彼らは自分達の日々の雑用を負担とは思わず、むしろ自らを通じて邪魔されることなく表現することを可能とすることによって宇宙の因にたいして更なる奉仕に尽くすことが出来る特権だと、それら雑用を見なすのです。彼らは幼少時から身体の適切な保護と心の使い方について訓練を受けます。彼らは不調和な想念に留まる場所を与えません。何故なら彼らはそれが肉体の化学物質に作用することを知っているからです。彼らの感覚心はフィーリング、即ち因なる心と調和しています。ですから彼らの個々の細胞はその感覚心によって与えられる指令に反応するので、この法則を用いることによって、彼らの肉体は年齢に関わり無く引き締まっており、若々しさを保ちます。かれらは全ての生命は常に活動的であり、各々の創造の薄片は自由で妨げられることのない因の表現の中でその義務を演じていることを知っているのです。

【解説】

テレパシー能力の開発は、実は遠隔透視が出来るなどという側面よりは、宇宙本来の人間の生き方、あり方に直結することの方が重要だと言うことが出来ます。

本項で著者が説いているように、進化した他惑星の兄弟達は自らテレパシー能力を高めた結果、本来の人間の行き方を学び取っており、それにより宇宙創造主から与えられた自然界の環境の中で、調和しバランスのとれた日常生活を送っているとのこと。体調管理や心の管理も出来ている結果として長命な生涯を送っているという訳です。

つまりは、無尽蔵とも言える宇宙の因からの印象類に心を開放すれば、様々なアドバイスがもたらされ、それに沿って行動する中で物事における因の働きに気付くことになります。身の回りの生活の中に宇宙に繋がる美しさを発見出来るに違い有りません。

029 When we are able to employ this same joyful, relaxed state of mind in our daily living, our consciousness will be raised to the place where impressions of a universal value will come to us naturally. This does not mean that man will then ignore the world around him, for he was born on this earth to live as a participating unit with the whole of humanity, and he has not the right to withdraw. True understanding, or evolverment, will enliven his interest in his fellowman, for he will then recognize a kinship with all he beholds.

029 私達がこれと同じ楽しく、リラックスした心の状態を日常生活に適用するなら、私達の意識は宇宙普遍の価値がある印象類が自然と私達にやって来る位置に押し上げられることでしょう。このことは人が自分の周囲の世界を無視するようになることを意味するものではありません。何故なら人はこの地上に人類の全てと共に一つの構成単位として生きる為に生まれて来たからです。そして人には脱退する権利は無いのです。真実の理解、或いは進化というものは同胞への関心を活気づけます。何故なら人はその後自分の見る全てのものに親近感を認めるようになるからです。

【解説】

先ずは私達の精神状態、心の状況をリラックスした、何ものにも開放的な状態にすることが必要だと説かれています。心が何かに執着していたり、怒りその他の興奮状態では印象への関心など持てる筈もありません。

心を常に宇宙から来る印象類を待つような状況に保つことで、自然とそれらに気付くようになり、やがては自らの進化に繋がる宇宙的な志向を身につけることとなります。その結果は、本文に記されているように、人間本来の創造主の似姿としての役割を果たせるようになるというものです。

私達は肉体とともに結果の世界に生きている訳ですが、同時に心や想念という原因の世界にも生きている訳で、まずは後者の心や想念の保持すべきレベルを高め、より高次、広範囲からの印象に対して、心を開放して置くことが必要だという訳です。

CHAPTER II

The Four Senses of Man

030 I have been deluged with letters from all parts of the world requesting information about thought-transference. The vast majority of these have contained questions such as, "What is telepathy? How does it work? Could I learn to use this means of communication?"

第2章

人間の4つの感覚

030 私はこれまで世界各地からの想念の交流についての情報を求める手紙で溢れかえっていました。これらの大半は、「テレパシーとは何か？それはどのようにして働くのか？私もこのコミュニケーション手法を用いることが出来るのでしょうか？」というような質問を含んでいました。

【解説】

本項は「実見記」が世界中で刊行されてから、アダムスキー氏の所には海外を含めて様々な人々からテレパシーについて教えるを請う手紙が寄せられ、それが本書執筆の発端になったことを示唆しています。

進化した他惑星人がテレパシー能力に優れているということは、私達もやがてはその能力を持つ必要があると人々が気付いた訳で、その原理や修得に関心が高まったこととなります。

特に宇宙船を間近に見たい、近くにやって来て欲しい等、いわゆるUFO観測をする際に遠くの宇宙兄弟達に私達の意思を伝えるのも、テレパシーの一環です。

しかし、これらテレパシー能力は、自らの願望・欲望を強烈に発すれば済むというようなものではなく、まずは印象の無言の声と瞬間的に同調出来る心の態勢が必要になるものと思われます。そういう意味で、まずは私達は本章で、心なるものの正体を学ぶこととなります。

031 I do not know by what method others attained their understanding. I can only tell you how I achieved mine.

031 私は他の者達がどのような方法によって、理解を得たのかは知りません。私は私が如何にして自分の理解を達成したかを述べる事が出来ずに過ぎません。

【解説】

恐らくは過去このようなテレパシーに関する解説書自体が無く、本書が唯一のものであることを本項は示唆しているものと思われます。仏典その他には、進化した他惑星人（諸菩薩）が如何にこれらの能力に優れているかについては数多く述べられていますが、どのようにしてそのようになれたかについて、記されてはいないように思われます。

一人一人内側の個性は異なりますし、問題となる心とどう対峙して行くべきか、課題は様々です。そうした中で本書は私達に著者自身はこのように考え、実践して身につけることが出来たと、ある意味惜しみなくその具体的な取組を教えてくれています。

私達は素直に著者の導きに従い、本書の一つ一つの記述の中で、著者が何をイメージしているのかを自ら受け取れるよう、学びたいものです。

032 Many years ago when, as a youth, I first became interested in the subject, I knew some people could communicate telepathically. I wanted earnestly to know how this was done, so I began to study. At that time, I accepted the idea that man is a five-sensed being; with the potential of developing a sixth sense, etc. This was the commonly accepted theory then, the premise of which had been laid in antiquity.

032 私が青年であった昔、このテーマに初めて興味を持った時、私はある人々がテレパシクに意思疎通を行えることを知っていました。私はこれがどのようにして行われるのか、真面目に知りたいと思った為、研究を始めました。当時、私は人間は5感を持つ存在であり、6番目の感覚も発達させる可能性を持っている等の考えを受け入れておりました。これは当時は広く受け入れられていた理論であり、その前提は古代においても置かれていたのです。

【解説】

私達には想像しがたいことですが、著者アダムスキー氏にも少年時代はあった訳です。実は氏は最初から宇宙について、あるいは精神面について取り組んでいたことが知られています。「ロイヤルオーダー」をはじめとする精神開発について長年の活動があり、その発端とも言える話が本項で記されています。

心の問題は、何より自分で取り組まない限り何一つ成果はありません。他人に治してもらう訳には行きませんし、その努力の成果はひとえに自分自身に返って来るものです。本項では著者が若い頃、独力でこの問題を探求したと記しており、私達も同様に何かを掴む為には、本気になって取り組まなければ成果は上げられません。

こうした長年の努力の結果、遂には他惑星人からも信頼され、交流を持つに至ったことも私達の参考になるものです。

ご連絡 [2014-02-24]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、次回の更新は2月27日になる見込みです。

033 In the early ages of human development, man had been content to accept the world in which he lived as a mere five-sense manifestation. But as he grew wiser, he noticed actions taking place about him that were difficult to explain-actions that seemed to transcend these powers of outer perception. Puzzled by what he beheld, yet having no physical sense to account for this phenomenon, he relegated it to a realm of his own invention.... the sixth sense! He was then content (and still is), to consign everything not explained by his senses to this indefinable, mysterious plane.

033 人間の発達における初期の年代においては、人は自分が5感の創造物として生きているに過ぎない世界を受け入れて満足していました。しかし、成長して賢くなるにつれて、人は自分の周りに説明できない諸作用、即ちこれら外側の知覚力を超えるように見える作用が起っていることに気付きました。人は自分が見たものに当惑したものの、この現象を説明する物理的な感覚を持ち合わせていないことから、人はそれを自分の発明品の領分に追いやってしまいました。それが第6感です。人は自分の諸感覚では説明できないあらゆるものをこのはっきりしない、神秘的次元に委ねることに、これまでそして現在でも甘んじているのです。

【解説】

実は私達自身は本項で言うような「五感」至上主義の認識の中にまだ生きているように思われます。自分の目、耳、鼻、舌そして手で触れることが出来る、ある意味確固とした物証の上に私達は暮らしている訳です。

しかし、少し生命活動の内側を覗いて見れば、目に見えない微細なる世界の中で驚くべき活発な活動がなされ、様々な仕組みが働いていることが分かります。そして何よりもそれら活動に関連して、宇宙の源泉から絶え間なく印象類が伝えられていることに気付けば、私達は実際には印象のレベルでは非常に活発な世界に生きていることが分かります。

これら印象類の取扱いの受け皿として、何か新しい「感覚形態」を人為的に想像して見ても解明には程遠いことは明らかです。私達は何とかこのような安直な言い逃れを廃して、本質に立ち向かうべきだということです。

毎日休み無く鼓動する心臓が私達の生命を支えていることは承知できる訳ですが、その鼓動から何を洞察出来るか、それら与えられ続けている生命力に対して、ふさわしい日常生活を送っているかが問われています。

034 My early studies, based on the antiquated theory of telepathy being a sixth sense, led nowhere. After careful observation, I found that others using this same trend of reasoning were not attaining the desired result, either. Innately I felt something was being injected which did not align itself with natural, or universal law. So I turned to nature and studied her actions. Here, where the reasoning mind of man did not interfere, I found all things working in harmony. As I thoughtfully observed life expressing in its many forms of manifestation, I realized there must be an intelligence, or a law, that operated according to an exact pattern.

034 テレパシーが第6感であるとする古代の理論に基づいた初期の私の諸研究は何処にも導くものではありませんでした。注意深い観察の後、私はこれと同じ推論傾向を採る他の者達も、目的の結果を得ていないことを発見しました。生まれつき、私は何か自然或いは宇宙普遍の法則と揃わないものが注入されているように感じておりました。そこで、私は自然に目を向けて、その諸活動を観察したのです。人の推論する心が邪魔をしないそこで、私は全てのものが調和をもって働いていることを見い出しました。生命が様々な創造の形態に現れていることを注意深く観察するにつれ、私はある正確なパターンに沿って作用する一つの知性、或いは法則が存在するに違いないことに気付いたのです。

【解説】

テレパシーを「第6感」とするのは誤りであるということは何を意味するのか、じっくり考える必要があります。私達は氏の著作から既に心というものが感覚から成り立っているような存在であることを学んでいます。つまりは、テレパシーはこのような既存の感覚とは異なるものだという点を先ず明確にした方が良いでしょうと思います。

その上で、自然界の万物が絶え間なく一糸乱れぬ調和した活動を支えている法則の一環としてテレパシーを位置づけて置く必要があるという訳です。

本文の中で著者は自身の中に自然の法則と整合しない異質な部分の存在があることに気付いたと記されていますが、それこそ私達が今後、長期間にわたって対峙しなければならない心本来の正体であり、これらを宇宙的法則の下に整えることが各自の大きな仕事になっています。

035 The orange tree, wafting its perfume on the southern breeze, need not delve into a laboratory analysis of atmospheric conditions to know that only in the milder climes will it survive. This tender species depends upon natural law to insure its continuation; so nature does not capriciously broadcast its seed in frigid zones, she sows them. where the sun is warm.

035 南からのそよ風に芳香を漂わせるオレンジの木は、温暖な気候においてのみそれが生き延びられることを知る為、大気の諸状態を研究室で分析する必要はありません。この繊細な種はその存続の保証を自然の法則に依存しており、自然は気紛れにその種を寒冷地に播くことはなく、太陽が暖かな場所にそれらの種を播くのです。

【解説】

以前、スペインを旅行した際、地中海沿いの広範囲な地域で一面のオレンジ畑を見たことを思い出します。バレンシア地方はオレンジの栽培に適した場所のひとつです。

さて、本項で著者が伝えたい内容はどのような事なのか、考えて見る必要があります。つまり、人為的にはオレンジの種を地球上の何処にでも蒔くことは出来ますが、植物には各々適した寒暖の条件があり、寒冷地では発芽は望めません。植物の種は自分の周囲の環境条件を何らかの方法により感知して、自分に適した条件下において初めて発芽する訳です。またひとたび発芽した後は、その後気候が合わず芽が枯れてしまえば、その種の生命は終わってしまう為、種の発芽は慎重なものとなっています。

しかし、条件を整えば、古代蓮のように何千年経過しても発芽し、遂には花を咲かせる程に、種子はがまん強い者と言えるでしょう。

オレンジの話に戻れば、一般にオレンジの実が木の根元に転がり、近くで種が芽を出したり、鳥に実を食べられ種が運ばれることにより、ある程度の狭い範囲に広がって行くというのが実情かと思えます。つまり自然は親木の生き抜いた実績の上にその子孫を残せるよう配慮していると言うことでしょうか。親木と実の間の意思疎通、子孫である種に対し、親木の愛情が注がれるような関係もあるのかなあと思うものです。親と子の関係は動物ばかりでなく、植物にもあるのかも知れません。

036 Lifting my eyes to the hillside, I discovered feats of engineering that would have been impossible for man to duplicate not too many centuries ago. Growing straight and strong, a sturdy oak clung to the precipitous slope. Nature had not used a slide rule to calculate at which angle the roots should imbed themselves to stabilize the tree's weight; they had instinctively grown in the right direction and to the proper depth. And I knew that if I were to take a saw and cut a large limb from that tree, nature would immediately compensate for the shift in weight by sending out new roots to bring the tree once more into perfect balance. The wild poppy growing at its feet, and the clumps of sagebrush dotting the slope, all bore witness to this same engineering principle.

036 丘の斜面に目を上げると、何世紀か前までは人間が真似出来なかった工学の偉業を発見しました。真直ぐに逞しく成長する1本の樫の木が急峻な斜面にしがみついていた。自然は木の重量を安定化させるには、それらの根がどの角度で潜り込んだら良いかを計算する為、計算尺を用いたのではありませんでした。木の根は本能的に正しい方向、適切な深さまで成長したのです。また、もし私がノコギリを手にとって大きな枝をその木から切り落としたり、自然は直ちに新たな根を伸ばして再び完全なバランスがとれるようにして、重量変化を補正するだろうことは私には分かります。野生のケシがその樫の根元に生え、ヤマヨモギの茂みが斜面に点在していますが、それら全てがこれと同じ工学の原理の証拠を与えていました。

【解説】

私達日本人にとっては、松の枝が優雅にバランスを取る姿を特に美しいと感じる訳ですが、それを支える地中深く伸びる根の行動が無ければその美しい姿は成り立たないこととなります。

あらゆる植物はどのようにして自分を支え、生きて行くかについてですが、それは自ら考えるというよりは、因から与えられる無言のアドバイスに従って適時適切な行動をしていることが分かります。

問題は植物が行っていることを何故、私達地球人が行えないのかということです。本来、因からはあらゆる生きものに対して等しく生きる上での智慧を授けており、それ故に自然全体がのどかな風景を作り上げている訳です。独り人間だけが、その贈られているアドバイスに無関心のまま、自分自身の心のみで生きて行けるとしているのではないのでしょうか。しかし、そのような限定的な生き方から因に対する信頼と誠実さをまず身につけて、より広い世界に生きることの必要性を著者は私達に説いているのです。

037 My gaze slowly traveled from wonder to wonder until it rested on the grass at my feet. Here, too, was the miracle of creation. As I stooped to study the slender, green blade, I realized humbly that no man on earth could create it. Nature alone had germinated the seed, guided the spear through the hard crust of the soil to the light of the sun, and brought it to full maturity.

037 私の注目は驚きから驚きへと移り、遂には足下の草に止まりました。ここにもまた、創造の奇跡がありました。私は屈んで細めの緑の葉を調べた結果、地球の誰一人としてこれを造り出すことは出来ないことを率直に自覚した次第です。自然が只独り、その種を発芽させ、幼芽を硬い土の塊の中で、太陽の光に導き、完全な成熟まで育てたのです。

【解説】

普段は何ら気に留めることもなく、踏みつけている野の草一本にも自然の驚異があるのだと本項は説いています。

種から芽を出し、各々の種の集大成に向かって成長する姿の背後には自然がその成長の詳細を促し、育てていることを私達はよくよく観察し、自覚しなければなりません。

自然界の生きもの全ては、こうして変化し成長しています。肉眼ではあまり変化は認められないかも知れませんが、それでも1日単位、1週間単位で見ると植物達が驚くべき変貌を遂げることが分かります。花の開花、新芽の成長等、身近に変化を見ることが出来ますし、これら生命活動を支える自然の力に気付くことが出来る筈です。

私達は本来、こうした植物と同等以上の存在として創造され、より高次の成長に向けた支援・指導の声が与えられている筈です。その声（瞬間的な印象）に素直に従って、自らの成長を遂げることが各自の生きる目的と言えるでしょう。

038 Surely, all I beheld around me was orderly, directed, and controlled intelligence in operation. There was no haphazard growth. Each minute detail had been carefully worked out. The orange tree in its native clime, the oak tree clinging to the precipitous slope, and the blade of grass at my feet were all guided and given being by the one Cosmic Intelligence.

038 確かに私が自分の周囲で見守ったもの全ては、秩序があり、指導を受け、統制された知性が働いていました。偶然の成長というようなものではありませんでした。一つ一つの微小な細部が注意深く働き完成されていました。原産地の気候におけるオレンジの木や急峻な斜面にしがみついている樫の木、そして足下の草の葉、全てが一つの宇宙の知性によって導かれ、与えられていたのです。

【解説】

自分の周囲にあるもの一つ一つを丁寧に観て行くと、私達はそれらが皆、的確に行動し、所定の目的を達しており、それら行動に無駄が無いことに気付きます。

これは私達人体の活動にも言えることです。私達が心の指示によって行動した結果には多くの誤り、或は重大な過失、更には犯罪まで犯すケースもある訳で、その違いは今後、私達が探求すべき課題になる筈です。

このように未熟な私達ですが、与えられた人体は素晴らしい機能を有しており、日夜主人である私達の為に働き、その活動を支えています。その繊細で活発な活動を学ぶ為には、先ずはご自身の手や足を観察すれば良く、何処に居ても出来ることになります。むしろ、自らの心の正体を探求する為にも、自身の何処に心が居るのかについても探求したい所です。60兆個ともされる肉体細胞の一つ一つが独立している一方で互いに協調協力して器官その他を構成する等、人体という莫大な世界をどのようにして構成出来ているのか等、理解したい項目が次々に現れることになる筈です。

039 I then turned to a closer observation of the birds, insects and animals. In all three I found the same marvels of engineering. It is interesting to note that much of our present architectural knowledge has been acquired from studying the principles employed by nature. In fact, man thinks so highly of the engineering ability of the industrious beaver, that he now parachutes them in pairs into inaccessible territory so they will build dams to help control the disastrous floods which rush down to the lower valleys each spring. In this way, the little animals render man and nature an invaluable service; for where their dams dot the mountain streams, floods and soil erosion are cut to a minimum.

039 私は次に鳥や昆虫、そして動物達を綿密に観察することにしました。その全てで私は植物の場合と同じ工学の驚異を見出したのです。私達の現代の建築の知識が自然によって採用された諸原理を研究することから得られたことに気付くのは興味深いことです。事実、人は勤勉なビーバーの持つ工学上の力量を高く評価していますので、つがいのビーバーを未踏の地域に落下傘降下させ、彼らが毎年春に低地の谷間に破壊的な洪水を引き起こすのを阻止する為に役立つダムを作らせています。このように、小さな動物達は人間と自然に計り知れない奉仕を尽くしてくれているのです。何故なら、ビーバーのダムは山麓の水の流れを点在させ、洪水や土壌の侵食を最小限に削減するからです。

【解説】

本項ではビーバーの助けを受ける話が紹介されていますが、動物達の能力の世話になっている意味では、ミツバチによる受粉の例を挙げる事が出来ます。

今日では果物や野菜のハウス栽培が盛んに行われていますが、受粉が必要な果物の生産を支えるのがミツバチ達です。箱の中に一家を構えるミツバチをハウスの中に置いて、イチゴ等の受粉を助け、ハウスの中でイチゴを育てる上でミツバチは欠かせないとされています。

ここで注意したいのは、これら自然の生き物の協力を得る為には、害虫が出たからと言って農薬を使用することは厳禁であることです。肝心のミツバチも生きて行けなくなるからです。この一例でも自然と調和した生き方とは何なのかについて、様々なテーマを私達は抱えていることが分かります。

それを為す為には、まず、私達はよくよく自然の仕組みや相互の関係、各々の生き物の能力等を学んで自らの生活をその自然との調和の中で見つめて行くことが必要ではないかと思われれます。熊谷守一、熊田千佳慕、その他多くの画家や芸術家は自宅の庭の茂みの中に驚くべき世界を発見していたように思われれます。

040 Yet they do not use mathematical calculations to estimate the stress the rushing water will exert upon the finished dam, nor do they need mechanical tools to anchor it securely or build it to the prescribed height. Here, as in the inanimate kingdom, we find nature's unerring, guiding hand.

040 しかし、彼らはその完成したダムに激流が加えることになる力を予測する為、算術的な計算を行ってはいませんし、彼らにはダムを固定し、或いは所定の高さまで建設する為の機械的な道具類を必要とはしていません。ここでも、無生物の王国におけるのと同様、私達は自然の的確な導きの手を見い出します。

【解説】

ひと昔前まではコンピューターはもっぱら計算をさせるものでした。面倒な計算手順を機械がすばやく行ってくれるものとして使われていた時期もあった訳です。

工学の分野は人間が作り出す製品をより確かな性能を発揮する為に必要な寸法や強度についての的確な値を導き出すのが仕事ですが、本項で説いているのは、このような手順を一切必要なく自然は直接、生き物達に答えを与えているということです。

もちろん著者は橋梁や高層ビルの建設等、今日人間が作り上げているこの文明の力量とも言える建造物の設計にこのような工学・技術が不要と言っている訳ではありません。これらの知見に加えてビーバーが自分のダムを作り上げる時のように大自然からの印象に積極的に心を開いて適切な指導を受けて欲しいと説いているのです。

即ち何か新しい分野に立ち向かう時、全て何も無い状態、これまで誰も試みたことのない世界に立つというよりは、既に答えはそこに有って、宇宙からは常にその答えに向けてアドバイスが流れ込んでいると考えた方が良いでしょう。

041 (In my references to the animate and inanimate phases of manifestation, I am using the words as we understand them. In reality, these divisions do not exist; for all expressions of life are active.)

041 (私の前述の創造における生物と無生物の各状態に関連して申し上げれば、私はそれらの言葉を私達が理解している通りの意味合いで用いております。しかし、実際にはこれらの区別は存在しません。何故なら全ての生命の表現は活動的であるからです。)

【解説】

生物と無生物の区別は無いのだと本項は説いています。

このことは既に私達も原子・分子等各々の構成要素には何ら区別がある訳ではないことを学んでいます。肝心の概念の上では十分な認識は育っていません。同様なことは植物と動物の区分についても当てはまります。

しかし、少し詳細に調べれば、微生物の世界では動物とも植物との言えるような原生動物（例えばミドリムシ）も存在しますし、自然は多様な形態に溢れています。

逆に言えば私達はこれまで無生物として来たものに対し、より以上に愛着を持ち、あたかも友人や兄弟のように接することも大切なことではないかと考える次第です。磨かれた石には内部の美しい文様が浮かび上がり、秘められた美の造形を目にすることが出来ます。まして全山、これら岩石から成る山に対しては、私達日本人は古来からその山を崇めて来ました。また人間世界を見つめて来た大木（たいぼく）に対しては、しめ縄を飾って霊木、人智を超える智恵を持つものとして大切に接して来た訳です。

このように私達の祖先は自然界にあるあらゆるものの中に神性を観るという優れた感性を有していた訳で、そういう意味ではテレパシー能力開発の上から、十分なる下地が出来上がっているということになります。

042 On every level (such as insect, bird, and animal), the Life Force animates all forms, which also have a certain reasoning power; yet there is an eternal blending between this animate and inanimate phase. And Man, the highest form of creation on earth, is dependent upon all.

042 一つ一つの段階において、（例えば昆虫や鳥、そして動物等）、生命力は全ての形あるもの達を動かしますし、その形あるものはある程度の論理力を有していますが、また同時にこの生物と無生物の相の間には永続的な融合があるのです。そして地上における最高位の創造の形を持つ存在としての人間は、全てに依存しています。

【解説】

花壇を動き回る昆虫や空を飛び交う鳥達等、動物は文字通り動く訳で、それを動かす源泉が生命力（Life Force）だと説明しています。ここではその生命力からの指示を把握するだけの知性はそれぞれの創造物には備わっていること、更には生物・無生物に係らず常に融合作用が起こっているとしています。

テレパシー開発の上で大切なポイントはこれら身の回りの創造物に対して、生物・無生物の区別なく接することではないかと最近考えるようになりました。よく「以心伝心」という言葉があるように、親しい者同士の間には想念のスムーズな流れがあるように思われるからです。

そういう意味でも、私達人間がその衣食住等、全てを他の創造物に依存している訳で、それらとより親しく接し、互いの意思を分かり合える間柄になることを目指したいものです。

043 Tracing the intricate blendings of nature makes a fascinating study. Every level is interlaced with all others. For example, the little insects and burrowing creatures contribute their important share to the common welfare; for their subterranean activity aerates the soil to promote lush growth. Now, let us take this thought a step further, and look at the indispensable part insects actually play in the perpetuation of life-forms on earth.

043 複雑に融合している自然を探究することは魅力ある研究になります。あらゆる段階が他の全てと織り込まれています。例えば小さな昆虫や穿孔動物は共通の福利に対する自分達の重要な役割で貢献しています。何故なら、彼らの地下の活動は土壌に空気を与え、青々と繁茂する植物の生長を促進しているからです。今度は更にこの考えを一步先に進めて虫達が実際に果している地上における生命体の永続にとってかけがえのない役割を見ることにしましょう。

【解説】

以前何処かで地中に生きるミミズは1日に自分の体重の半分以上の土を食べ、それらを団粒化し、土壌の通気性を高めることやオサムシその他の多くの昆虫は他の動物の死骸を分解し、土壌の腐敗を防ぐ等、自然界の物質の円滑な循環を担っていることを聞いたことがあります。

私達が普段気付かない所で、多くの昆虫達、動物達が活躍し、その上に私達の生活が成り立っていることが分かります。

著者アダムスキー氏は本項の中で、ファーブルに似た観察眼を持って身近な自然を研究せよと説いているのです。他人から教えられた知識でなく、自ら自然の中の生きもの達の普段の活躍振りを自らの眼で確認し、私達がそれら多くの生きもの達の活動に依存して生活していることを自覚せよと説いているのです。

とかく私達は全て自分の思い通りに生きていると考えがちですが、実際には私達の生活はその全てをこれらあらゆる生きものによる見事に調和した活動の上に成り立っているのです。

044 Have you ever stopped to consider what would happen to our planet if insects were to be suddenly withdrawn? Life, both animate and inanimate, would cease. Mother Nature depends largely upon these tiny life-forms for pollination. Remember, it is the bees and others of the insect world, laboriously traveling from blossom to blossom that propagates for her. So without the vital part they play, all vegetation would eventually die out

044 貴方はもし、昆虫達が突如として引き上げたらこの惑星にどのようなことが起るかを考えたことがありますか？生物も無生物もともに生命は途絶えてしまうことでしょう。母なる自然はこれら小さな生命体に受粉の多くを依存しています。花から花に精一杯移動し自然の為に繁殖しているのは、昆虫の世界のミツバチやその他のもの達であることを忘れないで下さい。ですから、彼らが果たすその極めて重要な役割無くしては、全ての植物はついには死に絶えてしまうことでしょう。

【解説】

どなたにも蜜を求めて花から花へ慌しく飛び回るミツバチその他の昆虫を眺めたことがあると思います。また古来より人間はハチミツを栄養に富んだ食品と気付いていました。そのミツバチ達の活動の本来の意義は花の受粉活動にある訳で、私達人間のハウス栽培のみならず、自然界のあらゆる植物の受粉を担う彼らの活動は無くしてはならないものです。

そのミツバチが最近、急速に数を減らしているというニュースが流れています。農業その他の原因が指摘されていますが、また確定していないようです。これら小さな働き者が植物界の繁栄を支え、更には人間を含めた動物界の生きる糧を支えていることに私達は気付かねばなりません。

故熊田千佳慕のミツバチの絵本を一度、見たことがあります。実に繊細、克明に描かれています。あるテレビインタビューで熊田氏は「自分は線で画を描く。そこには消しゴムで消すような作業は無く、よくよく観察した末、画に向かう時は線の一本一本迷うことなく描くことを心情としている。」という趣旨のお話をされていました。

良く観察するとは、そのように対象と一体感、同一感が得られる程に相手に関心を持ち、心のレベルにおいても同化するような観察を言うものだと思います。そうすればたとえミツバチ一匹とも意思を通わせるまでの交流が出来るように思います。

045 The bird would no longer have the high, sheltering branches of the tree in which to build a nest to protect her young from prowling animals. Her food supply of insects, grubs and worms would be gone; and the wild berry bush on the hillside, no longer pollinated, would not bear.

045 鳥はもはや幼鳥をうろつく動物達から守る為の巣を作る高く、身を隠す木の枝を手に入れることは出来ません。鳥の餌となる昆虫や地虫、ミミズ達は姿を消すでしょうし、丘の斜面の木イチゴの茂みはもはや受粉することはなく、実を付けることもないでしょう。

【解説】

この一、二年ブラジルに仕事で出向く機会がありました。その中で日本とは異なる植生世界を見ることも多く、興味深い経験もしています。その中の一つに「パラナ松」があります。正確には「松」ではないようですが、現地ではそう呼ばれています。通常の松と異なるのはその枝振りが全て水平に伸びることです。若木の頃は通常通りなのですが、成長するにつれ下の枝が落ち、上部の枝は横に張り出します。その枝木は鳥達にとって格好の止まり木であり、とげの多い葉は他の天敵から鳥達を守って呉れるようです。木々は鳥達を支える大きな後ろ盾だと言えるでしょう。

このパラナ松、太古からパラナ州にだけ生息するもので、近くでその幹を見ると、トゲトゲがあり、いかにも頑丈な木肌をしています。現地ではその保護政策が行き渡っており、パラナ松を伐採することは原則、許されておりません。建物はその木を避けて建築されています。

さて、本文に戻れば、こうした木々は昆虫達に生存を依存していないかも知れませんが、昆虫達が居なくなり、植物の受粉が無くなれば鳥達は毎日の食べ物を失うこととなり、生きては行けません。自然界のあらゆるものは互いに依存し合って生きていることを如何にして理解するかが私達にとっての最初の課題となっています。

046 With the dying of the vegetation the herbivorous animals would starve; the carnivorous ones, their natural prey extinct, would follow suit. And Man, relying upon both the animate and inanimate phases of manifestation for food, could not survive.

046 植物が死に絶えると共に、草食動物達は飢え、自然界の餌となるものが消滅する肉食動物達も同じ後に従うこととなります。そして食物を創造の生物、無生物の両面に依存している人間も生き延びることは出来ません。

【解説】

元はと言えば、花から花に飛び回るミツバチ達の活動が無ければやがて植物達はこの世から無くなり、植物を生存の糧とする動物達も生きては行けないこととなります。

また、昨今では気象変動も大きな影響を与えており、降水量の過少や過大は植物や動物そのものの生存に直接驚異を与える状況となっています。

このように私達はこの惑星の絶妙な環境バランスの上に生きている訳で、一日たりとも調和が外れた状況になれば、生きては行けないことに注意したいものです。

その一方で、身の回りの自然環境を眺めれば、春夏秋冬様々な環境変化があり、人々の営みがあります。これら私達が従来、当たり前として来たものの中に、自然法則の具体的で緻密な働きとそれらの従順に従って行動する生き物達の活動があり、それらのお蔭で私達が生きて行けることを自覚しなければなりません。

ご連絡 [2014-03-18]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。

都合により、次回更新は3月26日頃になる見込みです。

047 Volumes could be written on this, yet never cover the subject completely. But I believe from the simple illustrations given that the sincere student will find much to intrigue his thoughts. Understanding the interdependency of life-forms is essential before man can grasp the universal truth that, in reality, all life is an expression of the one Cosmic Intelligence.

047 これについては何冊も本が書けるでしょうが、そのテーマを完全に覆い尽くすことは出来ません。しかし、私はこれまでに示された単純な諸実例から、誠実な学習者は自らの思いをめぐらすのに十分なものを見つけられるものと信じています。生命体の相互依存関係を理解することが、人が宇宙普遍の真理を把握する為には必須であり、その真理とは、実際に、全ての生命は宇宙的知性の表現の一つであるということです。

【解説】

自分が誰のお蔭で生きていられるのか、どのような者達の助けを受けて暮らしを立てているのか、私達はこれまであまりにも自分自身の関心事の中に居て、見失って来ました。

そもそも私達各自が活着ているのは、水や空気に始まり、動植物の恩恵によつています。家畜として暮らし、最後は自らの肉体を提供して呉れる動物も数多く居ます。更には生きるに必要な衣類や道具、その他工業製品も必要です。それらの原料を大地は提供して呉れています。

このように様々な恩恵の上に私達の生活が成り立つ訳ですが、同時に私達自身も働くことで、他の人々に恩恵をもたらす仕事をしているということでしょう。

大切なことは本文に著者が明記しているように、各々の生命体が互いに関連して活着ており、相互に依存し合っていることに気付くことです。眼には見えないこれらの繋がりへの理解が私達の次なる進化には是非とも必要な要素となっています。

048 The longer I contemplated the wonders of nature, the more I realized my oneness with all I beheld. All forms breathed the same air; all enjoyed the blessings of the same sun and wind; all obtained their sustenance from the one source. In fact, no division existed; all were created under the same law of Nature.

048 自然の不思議について考えれば考えるほど、私が見る全てのものと自分との一体性についてより深く認識するようになりました。全てのものが同じ空気を吸い、全てが同じ太陽や風の祝福を享受しており、全ては一つの源泉からそれぞれの支えを得ていました。事実、如何なる区分も存在していませんでした。全ては同じ大自然の法則の下で創造されていたのです。

【解説】各自、自分が生きている中での他との関係について観察すればするほど、私達が実に密接につながり合っていること、更にはそれら全てが一つの宇宙にまで遡る生命の源泉に通じていることを知るという訳です。こうした自然観察や自身への洞察は、私達の進歩にとって無くてはならないものです。この自覚を発端として、私達は身近なものや宇宙源泉なるものの結びつきを学ぶ訳です。その上で、現状の自分に何が不足しているのか、どういう自覚が足りないのかを学び、自然を教師とする中で、学習のテーマを追求して行くことが求められます。テレパシー能力は決して他者から全てを教わるようなものではなく、自ら体験し体得する中で身に付くものと考えています。

049 As I continued to watch the birds, insects and animals, I noticed they were alert to climatic changes before these took place. Heretofore, I had been content, as were others, to say, instinct; and relegate it to the realm of the mysterious extrasensory perceptions. But now this answer no longer satisfied me. I wanted an understanding of the awareness that had alerted the seedling oak to the topography of the terrain, then guided its roots in the proper direction; for I could now see that in the animal kingdom, this same instinct, or awareness, alerted the squirrel to the coming of a severe winter, warning him to store extra food to carry him through until spring. Why did not man, the highest expression of the Creator of forms, participate in this alertness?049 私が鳥や虫、動物達をじっと見守るにつれ、彼らが気候変化が起る前にそれらに十分気付いていることに気が付きました。これまででしたら、私は他の者達と同様、本能と称して満足し、それを神秘的な超感覚的な知覚力の領域に追いやっていたことでしょう。しかし、今はこの答えでは私を満足させません。私は檜の木の苗木に土地の地形を知らせ、その根を適切なる方向に導いた覚醒状態に関する理解が欲しかったのです。何故なら、今では、動物界の中でもこれと同じ本能、ないしは覚醒状態がリスに厳しい冬の到来を知らせ、春までの余分な食料を保持するように警告しているのを見ることが出来るからです。形有るものの最高位の表現である人間がこの覚醒状態に参加していないのは何故なのでしょう。

【解説】 私達のテレパシー開発の目的の一つが、本項に記された予知能力を身に付けることにもあります。それにつけても昔から火山噴火や大地震の前に動物達の異常行動があったと伝えられています。そういう意味では明らかに動物達は未来の出来事を予知する能力を持っていると言えるでしょう。しかし、その仕組みは一般的には理解されておらず、単に「神秘」や「本能」というレッテルを貼られるだけでした。本講座はそれを深く研究し、そもそも予知や遠隔透視とはどのような原理で起こるものかを探求している訳です。これについては本項座を進んで行く中で理解が深まるものと考えています。根本は宇宙源泉からの啓示ということになるでしょうが、私達の心がそれら源泉の方向に耳を傾け、眼を凝らす中で自然にそこから無尽蔵に与えられる印象（情報）に気付くことが出来るようになる筈です。仏教では観音様や阿弥陀様の導きに素直に従うこと、その御声を体内に取り入れると表現するのも知れませんが、その心境を一度掴めれば、次からはその心境に常時なれるよう自らの心を制御して、その状態を保つことで、次なる導きの声を聞くことが出来ることとなります。自然の動物達が過酷な環境下にあってもかくも落ち着き、今この時の生活を楽しんでいられるのには、そうした導きの声を聞いているからに他なりません。

050 The answer came silently, yet with unmistakable knowing. "Those who do not receive have closed their minds to the Cosmic Intelligence."050 その答は静かに、しかも揺るぎない知識を伴ってやって来ました。「感受しない者は宇宙の英知に自らの心を閉ざして来たのです。」

【解説】 どうして他の動植物は創造主からの印象を享受しているのに、人間だけがそれが出来ないのか、本項は明確にその理由を記しています。人間自ら、その声に心を閉ざしているという訳です。この問題は単純と言えば単純ですが、実際に取り組むのは容易ではありません。「悟り」と表現される状態が長年月の修行の末に辿りついた心の状態を指す訳ですが、そこに至るまでには長い時間の心に対する修練が必要であった訳です。私達には自尊心をはじめ、羞恥心、妬み、驕り、貪欲など様々な問題があります。また生きている現実環境は競争社会であったりして、その中で生き延びる道を求めて歩んでいるからです。こうした中で人間の本質に迫る印象の声を聞こうとする態度は貴重な存在とも言えます。これらは一朝一夕には達成しない課題ですが、その取組みの価値は他に比べるものが無い程、貴重なものであり、私達の次の生涯にも直結する大事な訓練と言えます。たとえ目標とする心の状態は容易に達成できるものでなくとも、私達は他の動植物を良く観察し、自然の中の生きた事例から多くを学び取らなければなりません。彼らの生き方や死に方を手本として自然の法に沿った生き方とは何か、瞬間的に湧き起こる宇宙的印象に従うことは、どのような心境を指すのかを学ばねばなりません。

051 My problem then was, how could I open my mind to become aware of this Supreme Intelligence?051 私にとっての次なる問題は、どうしたら私は自分の心を開いてこの至上なる英知に気付くようになるかという事でした。

【解説】誰でも宇宙の源泉から来る印象に触れたいと思っていることでしょう。しかし、ある人には出来て、何故自分にはその機会が来ないのかについては、深く考える必要があります。自然は平等であることは明らかです。その中でこうした印象に触れられないのは全く、私の側に問題があるということでしょう。その取組み姿勢や環境、歴史的な背景の違いも原因として挙げられるかも知れません。しかし、とりわけ重要なのはこの問題に対する本気の度合、覚悟であると考えています。問題解決に向けた扉を叩く気持が真剣であれば、創造主は折を見計らってチャンスを与えて呉れると思っています。こうした問題は他人に頼まれて実行するようなものではありません。自分自身の課題として、独り取り組む必要がある訳です。言い換えれば、貴方ご自身と創造主との関係の問題であり、その課題は他人はアドバイス出来るとしても、あくまで実行するのは本人自身です。その為に本講のように講座の解説の一例を示すことは出来ますが、それを読んで終わってしまっただけでは、折角のチャンスを逸します。少しずつでも実行し、成果を体験しながら、こう言う私を後に、前に進んで行って欲しいと思っています。"自未得度先度他"ということです。

自(じ)未得度(みとくど)先度他(せんどた)の心とは「自(みずか)らは未(いま)だ得(え)ていなくても、まず先(さき)に他(た)に得(え)させてあげる」という利他救済の心のこととされています。(坂村真民の展覧会で見つけた言葉です)

052 I continued to study things close at hand; at the same time letting my thoughts encompass the solar system of which we are only a small part. From there, it was but another step into the infinite vastness of Cosmic Whole. Throughout all creation I found a constant blending, with never a dividing break. Therefore, I could not stand apart, but was one with creation.

052 私は身近な物事の研究を続けましたが、それと同時に私の想念を私達がその一部でしかない太陽系を取り巻くようにしました。そこからは、宇宙全体の無限の広大さに入るもう一つの段階となったのです。全ての創造作用を通じて私は一時の切れ目も無く絶え間なく続く融合を見い出しました。ですから、私は創造作用から離れて存立することは出来ず、創造作用と一つになったのです。

【解説】 如何にしたら創造活動と一体感が持てるのか、またその一体感こそが印象の感受にとって欠くことが出来ない条件であることを本項は示唆しています。身の回りの諸物と空の星々や太陽、月その他とは繋がっているという感覚が重要になります。実際、自然界の動植物がどのような感性にあるのかは、私には未だ分かっていませんが、私達同様の感性があるとすれば、それらは直接、宇宙源泉を慕っており、その印象には100%信頼し、受け入れ、行動しているものと思われれます。今の季節（3月）、各地で梅の花が咲いていますが、まだ寒い時季にも拘らず花がほころぶように次々に咲く中、澄み切った大気にほのかに香りを漂わせる為には、やがて来る本格的な春に対する確信がなければなりません。梅の木は現状の寒さだけでなく、季節の移り行く時間を感じながら、春をいち早く知る者だと考えます。宇宙との一体感の中にもテレパシー能力開発のヒントがあるということです。

053 This revelation made it apparent that all was contained within man, and the answer lay in his becoming better acquainted with himself. I recalled the well-known adage, "Man know thyself, and all things shall be revealed unto you." Until then I, too, had parroted this profound truth, unaware of the immensity of its depths. But now I realized that Nature held the key to the Cosmic universal language; silent, yet everywhere present; and it was here in the manifested world that I could find the understanding for which I searched⁰⁵³ この啓示は全てが人間の内側に含まれていること、そして答えは自分自身を熟知するようになることにあることを明らかにしました。私は良く知られている格言、「汝自身を知れば全ては明らかにされるだろう」を思い出しました。その時までは私もまた、この深みのある真理をオウム返しに繰り返すだけで、その深遠さに気付かなかったのです。しかし、今や私は自然が大宇宙普遍の言語の鍵を持っていることが分かりました。無言でかつ何処にでも存在します。そして、私が探し求めて来た理解を見出せたのはこの創造された世界の中のこの場所であったのです。

【解説】 全ては私達自身の中にあるという訳です。私達は長年、答えを求めて様々な書物を読み、他人に教えを請うて来ましたが、しかし、それらの真の答えは自分自身の中に備わっていたのです。即ち、私達は自分に向き合い、探求することで長年探し求めていたものを手にすることが出来るということになります。古今東西、あらゆる宗教・哲学が道を説いて来ましたが、実はその内容は極めて似たものであることに驚かされます。まさに真理は一つである訳で、その者の個性が表現に出るだけの違いでしか無いように思われます。私達は自分自身を生きた教材として、日々の心境と自身の体調や周囲の環境条件との因果関係を学べますし、その結果は生きた実例として良い経験になります。こうした毎日の観察によって自分の課題克服のテーマを自覚することになります。人体には60兆もの細胞があり、人体存続の為に活躍していることは、自分自身が良く分かる筈です。そうした中で自分がどのように宇宙と繋がっているのか、探求は直ぐにも始められることになります。

054 My analysis continued. Since my human form had been brought into being by this Cosmic Intelligence, I, along with other forms of nature, must have inherited its laws and benefits, as well as its intelligence. Then why did I not have ready access to these birthrights?054 私の分析は続きました。私の人間としての身体は宇宙英知によってもたらされたものであるからには、私も他の自然界の形有るもの達と同様、その知性と共にその諸法則や恩恵を受け継いでいる筈です。それでは何故、私はこれらの生来の権利を直ぐに入手出来なかったのでしょうか？

【解説】 人間と人間を除いた他の生物との大きな違いの一つに、彼らには「迷いが無い」ことを挙げる事が出来ると思っています。人間の場合にはあれこれ思案して、結局は不完全な行動となり、良い結果を得ないものですが、彼らにはそれが無いように思うのです。彼ら野生の生き物は私達人間と比べて生死の境が日常的に存在する等、厳しい生き残りの世界に生きている訳ですが、それにも拘らず人間よりもゆったり落ち着いた生活を送っているように思います。本文にあるように人間には本来、恵まれた能力が備わっている筈ですが、何故か毎日目先の事柄に翻弄され続け、遂には最後の時を迎えてしまう例が多いのではないのでしょうか。このような状態は大変惜しむべきことで、生来与えられたこれら才能という財産を活用し豊かな人生を送ることが本来、一人一人の責任でもある筈です。その為にも自分自身の身体や心境がどれほど宇宙源泉の流れに沿っているか、絶えずチェックし、是正を行って行く必要があります。

055 I knew that scientifically the human body was a marvel of construction beyond the duplication of man. Just one small function of the body, which scientists do not fully understand, is the working of the "chemical laboratories" within us which daily extract and distribute the essence of the foods we eat. This alone is proof that the natural actions of the body obey the laws of Cosmic Intelligence. It must then follow that the reasoning mind has become so immersed in the material world of effect, it has temporarily lost sight of its origin. Man did indeed "hide his light under a bushel."055 私は科学的に人体は人間というものの複製以上の驚異の建造物だということを知っています。人体のわずか些細な機能であり、科学者達が完全には理解していないこととして、私達の中にあつて私達が食べる食物のエッセンスを毎日抽出し、分配している「化学実験室」があります。この一つをとつても人体の自然な行動は宇宙英知の法則に従っている証拠になります。そのことはまた、論じがちな心が結果の物質的な世界に余りにも夢中になっている為、心は一時的にその元の由来についての視野を失っていることに繋がっているに違いありません。人はまさしく「ともした明かりを升の下に置いてしまった」のです。

【解説】 自分自身を知るというテーマに関しては、各自の肉体各部、各側面について探求する中で、自ずと答えが見えて来るように思われます。人間が人間として存在するには、丁度精密な絵画や彫像で外観上の人体を複製することは出来るでしょうが、それだけでは人間の機能を表すものとはなっていません。本項に記されているように人体深く存在する内臓組織の有機的な代謝活動がなければ人体を存続させることは出来ないのです。この重要な化学反応があつて初めて人体が機能し維持される訳です。この働きについて私達は自分のこととして今まで以上に真摯に受け止め、自らのこれら体内の諸活動をつぶさに観察し、その働きの源泉が何処にあるのかを知ろうとしなければならぬ筈です。私達は日々、自らの身体と一緒に行動しています。24時間切つても切り離せない程、親しい間柄なのですが、その中身については実は私達の心はあまり関知して来なかつたと言えます。それらの働きをじっくり観察する中で、自らの細胞達が実はテレパシーに基づいて行動していることが分かるという訳です。

056 The task confronting me now was the shedding of this false conception, and a recognition of the existence of the underlying Cosmic Cause. So I sought a better understanding of my mind and my body; how they operate and their purpose for being. This line of investigation led me to the realization that it was Cosmic Intelligence coupled with a force, that was the creator of my being.

056 今や私に立ち向かう任務は内在する宇宙的因の存在に対する誤った観念と認識を取り去ることでした。そこで私は自分の心と身体についてのより良い理解、即ち、どのようにしてそれらが働くかやそれらの存在目的について探し求めました。この探究の筋道は私を私の存在の創造主は力を伴った宇宙的英知であるとの実感に導いたのです。

【解説】 結局の所は自分自身の心と肉体について自ら探求し、それらが何処からの支援を受け、どのように活動しているか、自らの心はそれに対してどのように反応しているかを調べることだと本項は説いています。この問題に対する自覚が無ければ自ら納得するような理解は得られません。他人が述べることは大いに参考になるのですが、自分で自らの心を開発しない限り、うわべだけの浅い知識に留まることとなります。そして重要なことは、本文に述べられているように自らの生命は宇宙的知性と呼ばれるような存在によって生かされていることに気付けるようになることです。その英知は単に知性というだけでなく、壮大なる力をも兼ね備えており、具体的な肉体細胞や分子群の行動に力を与えているということです。

057 My earthly parents had merely served as a channel for the birth of my physical form. But this Force in Cosmic Intelligence had formulated the plan and directed the building of my body. So it is with all expectant parents. The mother's body furnishes the necessary materials for this Master Builder, yet at no time does she control the miracle of creation taking place within her.

057 私の地上の両親は単に私の肉体の誕生の為の経路を務めたに過ぎませんでした。この宇宙的英知の中の力がそのプランを組み立て、私の肉体を作り上げることを指揮したのです。それはこれから両親となる全ての者についても同様です。母親の肉体はこの棟梁の為に必要な材料を供給しますが、彼女が自身の中で起っている創造の奇跡を統制することは決してありません。

【解説】 自分自身の身体がどのようにして生まれたか、私達は自覚の無いままに与えられた身体とともに生きている訳ですが、誕生の始原を遡れば卵子の受精の瞬間に行き着く訳で、それ以降、誕生までの間、人体は驚くべきスピードで変容を遂げています。結局、私達の両親はこれら生命の活動の通り道の役割を果たしている一方で、その本質的活動を把握している訳ではなく、単に場所を提供しているということです。これについては既にイエスの言葉にも同様な趣旨が述べられていたように記憶しています。重要な点は私達各自の肉体を造り上げた知識と行動は、私達の両親とは別の存在の指導の下に遂行され、人体が創造されるということです。この人体の中にどのような仕組みがあるのかは、これからの生命科学が次第に解明して呉れると思いますが、その英知の指導に気付くこと自体は、私達も少し努力すれば、何の道具や装置を要することなく、出来るものと考えます。

058 Pursuing this train of thought, I made a vital discovery. If one asks an expectant mother whether she can foretell when the little form within her is about to turn, she will answer, "No " She cannot direct the movement of the baby, and the knowledge it has turned comes to her as an alertness, or feeling, after the action has taken place. Therefore, it is the intelligent force which transmits the information to the mother through her sense we call feeling.

058 この一連の思考を追って行く中で私はきわめて重要な発見をしました。もし人が妊婦に彼女の体内の小さな胎児が何時向きを変えるか予告することが出来るかを聞いても、妊婦は「いいえ」と答えるだろうということです。彼女は赤ちゃんの動きを指図することは出来ませんし、胎児が向きを変えたとする知見は一つの警戒、或いは感じとして、その行動が起ってから彼女にやって来るのです。従って母親に私達がフィーリングと呼ぶ彼女の感覚を通じて情報を伝えるのはその英知ある力ということになります。

【解説】ここでは著者は極めて重要な発見をしたと述べている訳ですが、私達は何故本項の内容が重要なのかについて深く考えて見る必要があります。即ち、妊娠中の母親が自身の体内の胎児について、そのようにしてその動きを知ることになるかについてです。この場合、本文にあるように母親の心（感覚）には何ら知覚能力は無いということになります。目や耳その他の既存の感覚では把握出来ない訳です。しかし、フィーリング（感じ）を通じて、胎児の動きが伝達され、母親はその動きを知ることです。即ち、私達は自身の体内で起こっていることを知る為には、このルートを用いる必要があることとなります。印象を通じて私達のフィーリング（感じ）に伝えられている情報がそれであり、身体内に起こっているその他諸々の活動も同様なルートで私達に伝えられるという訳です。

059 In other words, feeling is the creative force within all forms. So the definition of telepathy as being a sixth sense was entirely wrong. Man is not a five-sense being . . . but a four! The fifth sense, or feeling element, through which telepathy actually works, is not a sense; but an intelligent force giving all manifestation conscious alertness.

059 言い換えれば、フィーリングとは全ての形有るものの内側にある創造的な力なのです。ですから、第6感であるとするテレパシーの定義は完全に誤っていたのです。人は5感の存在ではありません。そうではなく、4感の存在です。第5の感覚、即ちテレパシーがそれを通じて実際に作用するフィーリングの要素は感覚の一つではなく、全ての創造物に意識的警戒状態をもたらす英知の力の一つなのです。

【解説】

本文冒頭にある「フィーリングは創造的な力」こそ、重要なポイントです。

これまで私達は自分の感情、とりわけ「感じ」というものについて、あまりにも軽視して来たように思われます。目や耳その他で感じる最初の感情、即ち「感じ」というものの中に多くの場合、差別や裁きが多く含まれていますし、それらをそのまま放置することは良くないことなのです。それらの良くない性質が良くない結果を引き起こす力を持っているからです。

私達は自身の持つ感じ（フィーリング）をこれまで以上に重視して、そのような印象の出入りを監視する必要があります。これら私達の抱く感じは私達自身の身体や周囲の環境に大きな影響を与える力を有しており、それが本項で言う「フィーリングは創造的な力」を有するということでもあるからです。私達の心を通過するこれら想念を良質なものに整えることによって、それら本来の創造的な力が発揮され、人生に活かされることになるからです。

また、後半に説かれていることも大切な側面です。そもそも私達の心を構成する感覚は視覚、聴覚、味覚、嗅覚の4つであること、5番目となるフィーリングは感覚ではなく、万物を意識的にする知的な力であるということです。仏教用語に「浄心」という表現があるそうですが、その状況は心を通過する感じ（フィーリング）が私達の想定を超える大きな創造的な力を有している故に、ポイントとされているものと思われま

060 I realize this is throwing a bombshell in the face of age-old theory, yet the idea that physical man is a four-sense being can be logically demonstrated

060 私にはこれが大昔からの理論目掛けて爆弾を投げ付けるものであることは分っていますが、肉体としての人間は4つの感覚による存在であるとする見解は論理的に証明され得るのです。

【解説】

そもそも本講座の冒頭部分で著者はこのテレパシー問題が有史以来のテーマであり、近代になって「テレパシー」と名付けられるようになってからも、その取扱いは誤ったものとなって来たことを述べています。

人間は従来、5感の存在であるとし、テレパシーは第6の感覚だとされて来た訳です。しかし、本書は人間の心は4感の存在であるとしており、フィーリング（感じ）こそ、宇宙生命力に繋がる基本的な要素であるとしています。

そういう意味では、既存の4感はおっぱら結果、現象の世界、物質の世界に対する感覚であるのに対し、感じ（フィーリング）は物質にその活動を指令する宇宙的知性であるという大きな違いがあります。

私達はこれまで自分の4感にしか重きを置いて来ませんでした。自己の身体の生命活動も含め、あらゆる活動の原動力はこの感じ（フィーリング）によって与えられる訳で、この感じ（フィーリング）こそ、実際には力を有していることが分かります。

それ故に私達は自分の受ける印象や感じ（フィーリング）を注意深く取り扱うことが大切で、努めて良質な想念を抱くようにしなければなりません。これら私達が心に抱く想念・印象が現実世界を突き動かす原動力となる訳で、私達はこの点を畏れるごとく自覚・自戒することが必要です。

CHAPTER III Feeling - The Cardinal Sense 061 According to popular belief we possess five senses sight, hearing, taste, smell and feeling; each of which, we know, has the ability to act independently of the others. We can see objects without using the senses of hearing, taste or smell. We do not need hearing, sight or smell to discern sweet from sour. Our olfactory organs work admirably without the help of ears, eyes, or palate; and sounds can be received through the auditory canal exclusive of the other three senses. This all goes to prove that the four senses work independently of each other. 第3章フィーリング - 基本的な感覚⁰⁶¹ 一般に信じられていることに従えば、私達は5つの感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚そしてフィーリングを持っていますが、それら感覚の一つ一つは私達が知っているように他の感覚とは独立して働く能力を有しています。私達は聴覚や味覚、嗅覚を用いずに対象物を見ることができます。すっぱいものの中から甘いものを識別するのに聴覚や視覚あるいは嗅覚を必要とはしません。私達の嗅覚器官は耳や目、舌の手助け無しに見事に作用しますし、音響は他の3つの感覚を排除したまま聴覚の内耳導管を通じて感受されることが出来ます。これら全ては4つの感覚は互いに独立して働いていることを示しています。

【解説】 先ずは本章の題であるフィーリングの重要性について述べるべきかと思えます。つまり、私達はこれまで視覚や聴覚こそ自分をガイドするものとして来た訳ですが、既に学んで来たように実はそれは全くの誤りで、感じ（フィーリング）こそ生命活動に直結する存在である訳です。しかし、感じは対象物が物質でないだけに把握するのは容易ではありません。それでも人間を除く他の生きもの達は実はこの感じに従って自らの行動を起こしているのです。季節の変わり目に一斉に飛び立つ渡り鳥達の間にも、地中深く生活する虫達に春の訪れを伝えるのも、この感じ（フィーリング）によるものと思われまます。このテレパシー問題に取り組む際、私達は単に予知能力や遠隔透視能力を身に付けたいと考えて来ましたが、実はこのテレパシー能力は宇宙本源の生命力と常日頃、印象を通じて交流出来るという大きな進化に繋がることの方がより重要であるのです。

062 But what of the so-called fifth sense? If we deprive man of feeling, as we have done with sight, hearing, taste and smell, what is the immediate result? He lapses into unconsciousness, and will remain in that state until feeling is restored. While he is in this state, the organs of sense are still in the body and in perfect condition. The eyes, nose, palate and ears are uninjured, yet they do not see, smell, taste, or hear. And if feeling is completely withdrawn from the body, that person dies. Therefore, it is quite apparent that each of the four senses is dependent upon feeling for its existence.

062 しかし、いわゆる第5番目の感覚とは何でしょう？もし、人間から私達が視覚や聴覚、味覚や嗅覚について行ったように、フィーリングを取り除いたら、どのようなことが直ちに結果となって現れるでしょうか？その人は無意識の状態に陥り、フィーリングが回復されない限りはその状態に留まるだろうということです。その人はこの状態にある間、それら感覚器官は肉体内にあり、完全な状態にあります。両目は鼻、舌や両耳は損傷を受けていませんが、それらは見たり、匂いを嗅いだり、味わったり、聞いたりしないのです。そしてフィーリングが肉体から完全に取り去られるなら、その人物は死にます。ですから、この4つの感覚各々はその存続をフィーリングに依存していることは、まったく明らかなのです。

【解説】私達が何らかの重大な病状で危篤状態になった時、目や鼻、耳はもはやその機能を果たしません。通常、私達はこれを意識が有る無しという表現で表します。また深い眠りについた時も同様です。この状況は本文で言うフィーリング（感じ）が肉体から去りつつあることを示しており、私達が生きていること、意識があることが実はこのフィーリング（感じ）が十分働いていることと密接に繋がっているという訳です。また、私達がこの状況に関連し通常用いる「意識の有無」という表現も、著者が長年表現する「宇宙意識」と近いものと考えます。「感じ（フィーリング）」という状態こそが、全ての身体器官を下支えしており、私達はその上に生きているという訳です。実はそれほど重要な要素であるにも拘らず、私達の生活はもっぱら目や耳その他に由来する表層的な認識でしかない限られた感覚に依存して来ました。また、その感覚自体、自ら関連する細胞が増長してこの両親とも言える感じ（フィーリング）に関心を持つことは無かった訳です。このテレパシーを学ぶ上での重要な点は、自らの日常の一挙手一投足を従来の感覚ではなく、「感じ（フィーリング）」に基づいて進めることだと考えています。こうする内に、自然界の諸々の創造物とも意思を交わせることが出来、また自分自身にもインスピレーションに満ちた生活を送ることが出来るように思われるのです。

063 Let us now deprive man of one of his four senses, such as sight. Does this affect the life force in the body? Not at all! We can go further and deprive him of two, three, or even all four; yet he will still be a conscious, living being. Though the actual organs of sense are not functioning, he is conscious of knowing joy or sorrow, peace or pain, and he is able to receive mental impressions and visualize them perfectly.

063 では人からその4つの感覚の内の一つ、例えば視覚を取り去って見ましょう。これは肉体内にある生命力に影響を与えるでしょうか？ 全く有りません。次に進んでその者から二つ、三つそして四つ全部を取り去ることも出来ますが、それでもその者は意識ある生きた存在であり続けることでしょう。実際の諸感覚器官は機能していないにも拘わらず、その者は喜びや平安、或いは苦痛を知る意識を有していますし、心的印象を感受し、それらを完全に映像化することが出来ます。

【解説】 たとえ視覚や聴覚が無くなっても、人間は人間らしく生きる上で障害にはならないことは、ヘレン・ケラー女史が身をもって証明しています。目は見えず、耳が聞こえなくても著作をしたり、世界各地で講演する等、多くの障害者を励ます存在であり、本項で説く内容を私達に示して呉れた存在です。既存の4つの感覚器官は実は生命の本質的な活動とは離れた存在であるという所が、テレパシーを学ぶ私達にとって重要なところです。従って私達は以後、これら4感（視、聴、嗅、味）に代わって、感じ（フィーリング）に重きを置いた生活を始める必要があります。外見よりもそこから発せられる印象を第一とする訳です。しかし、そうだからと言って、これら4感が全く不要だとする訳ではありません。創造物の美しさを愛で鑑賞する経路として用いることです。

064 It is through this so-called fifth sense that telepathy works; so if we continue to cling to the idea of feeling as a bodily sense, the definition of telepathy is incorrect, and science has been sidetracked. The act of thought-transference, clairvoyance, premonition, or whatever term you choose to use for invisible perception, is a perfectly normal function of the feeling element expressing through the brain, with the cooperation of the mind.

064 テレパシーが働くのは、このいわゆる第5感を通じてです。ですから、私達がフィーリングの概念を一つの肉体内の感覚であるとする概念に固執し続けるなら、テレパシーの定義は間違っただけのものになり、科学は横道にそらされていることになります。想念の転移、透視、予感あるいは目に見えない知覚に対して貴方がどのような名前を選ぶにしても、それが心の協力の下、脳を通じて表現されるフィーリングの要素による全くの通常の機能なのです。

【解説】

フィーリングが持つ基本的役割を私達は理解し自らその実状を把握しなければなりません。更に言えばフィーリングの前では視覚や聴覚等、取るに足らない存在になるかも知れません。それ故にフィーリングを掴めれば、他の生命体はもとより、遠隔地の事象や将来起こりつつある現象についてさえも理解することが出来るようになることでしょう。

おそらくはこれらの能力は他惑星人のみならず、古今東西の優れた指導者は皆各々身に付けていたものと思われまふ。四国お遍路の各地には弘法大師が掘り当てた井戸等、当時の民衆に役立った業績が伝えられていますが、それらは皆、大師が持つこれらフィーリングの能力が発揮された実例と思われまふ。

実はこれらテレパシー能力をどのように生かすのかが、より重要なテーマとなっています。私達がテレパシー能力をどのように活用したいのかが大切なところだ。単に自らの生活の質を高める為に努力するのか、他の者よりも能力を高めたいということでは、問題が多いのです。テレパシー能力を開発したことが却ってその人及びその周辺の人々に悪影響を与えてしまつては意味がありません。現実の厳しく荒んだ（すさんだ）地球社会の中でも劣悪な想念に左右されず宇宙本来の高貴なる想念・印象に同調し、それらを地上に広める役割を持つ覚悟が必要な訳です。

065 It has been brought to my attention by many individuals that the fifth sense, as it is generally understood, is not the sense of feeling, but that of touch. This does not change the theory, as each of the four senses possesses this faculty of feeling, or element of conscious-contact, without which there would be no awareness. Touch is a bodily nerve reaction, while feeling is the cardinal Life Force. It is through the conscious-contact of this Life Force that sensation is produced.

065 多くの人々が、その第5感覚は一般に理解されているようにフィーリングの感覚ではなく、触覚のことではないかと私に知らせに来ています。しかしそれはこの理論を変えるものではありません。何故ならその4つの感覚もフィーリング、即ち意識的接触に関する要素の機能を有しており、それ無しには如何なる感知能力もないことになるからです。触覚は肉体の神経反応である一方、フィーリングは基本的な生命力なのです。感覚衝動が作り出されるのはこの生命力の意識的接触を通してなのです。

【解説】

通常、私達が5感と言う時、5番目の感覚として触覚を挙げる訳ですが、本項ではそれに関して解説しています。即ち、私達が言う「触覚」とは神経の反応なのですが、その内容はフィーリング（感じ）と類似した機構にあること、及び触覚はフィーリングとは異なる次元のものであるということです。

本講座で言う「フィーリング」とは自己の意識が宇宙生命力に触れることにより、起こる衝動であるという訳です。

問題はフィーリングを鋭敏に保つことですが、同時にこれは私達の心の状態、即ち4つの感覚を鎮め、受入れる側の態勢を整える所から準備しなければならないという所にあります。また、何か新鮮な印象に私達の意識が触れたとしても、それを行動に移せるかどうかによって、成果は大きく異なります。印象を感知するだけでは大きな意味はなく、それを実行に移し表現することで初めて人間の役割が果たせることになるからです。

066 We can only know motion through the law of comparison, which is actually the law of contact, or the relationship between one phase of expression and another. When we touch an object with our fingers, we receive an impression of that object because of the pressure created through the contact of a lesser with a greater vibration. Likewise, we receive visual impressions or auditory impressions through the contact of light or sound vibrations with the retina of the eye or the ear drum. We are made aware of atmospheric conditions and temperature changes through the contact of atmospheric cells with the cells of our body. All of this proves that touch is merely the nerve reaction to contact.

066 私達は比較の法則を通じてのみ運動を知覚することが出来ますが、それは実際にはある表現の位相と他の位相との接触の法則、あるいは関連性であるのです。私達が指を用いてある対象物と触れる時、より低次の振動がより高次の振動と触れることによってもたらされる圧力が原因となってその対象物の印象を感受します。同様に私達は光あるいは音の振動と目の網膜や耳の鼓膜との接触を通じて視覚の印象や聴覚の印象を受け取るのです。私達は大気の小房と私達の肉体の細胞との接触を通じて大気の状態や温度の変化を知るようになります。これらの事柄全てが触感接触に対する単なる神経反応であることを物語っているのです。

【解説】 既存の感覚器官を通じて外界を認知する時、その最初の段階は皆、接触の要素から成り立っていると本項は説いています。これは視覚における網膜細胞と光波動の接触、聴覚における鼓膜への音波の接触等がそれであり、気温や気圧の変化を含め、あらゆる状況はこれら触覚的要素によって最初に伝達される訳です。そういう意味では触覚はその者の感受性を象徴するものと言え、鈍感や無神経、傍若無人と評されることはその者の基本的な感覚の劣化・老化を意味するものです。この反対の例が昆虫達の生き方です。今の時期（春）、彼ら昆虫の生態を観察するとその鋭敏さが良く分かります。もちろん自然界には危険な敵も多い訳ですが、蝶は自分の足や吸管をすばやく動かし、その花に蜜が残っているかないかを判断し、わずかでも残っている場合には、急いで吸い上げ、他の花に移動します。蜜を探す彼らの動きには鋭敏な足や触角が見事に活躍しているという訳です。それにひきかえ私達はまだまだ基本的感覚であるフィーリングを活かしておりません。一見しただけで何が隠されているのか、分からず、現実世界の中に埋もれている数多くの宝物を発見できずにいるように思われます。

067 Feeling and touch being practically synonymous, I will continue to use the word feeling to denote the so-called fifth sense.

067 フィーリングと触感は實際上、同義語であることから、私はその言葉（訳注：フィーリング）を、いわゆる第5感を象徴する為に用い続けることとします。

【解説】 フィーリングを頼りに生きて行く姿は、昆虫はじめ多くの動物、或いは植物に見ることが出来ます。夜、真っ暗な環境でも多くの生きものが活動しますが、コオロギはその長い触角を絶えず動かしながら、身の回りにどのようなものがあるか、食べ物の有無、危険の存在を探っています。また同様な動きは水中のエビその他多くの動物に見られます。植物についてもその地中深く水を求めて根を伸ばす状況は、皆、これら触覚に基づく活動と言えるでしょう。私達も当面する問題の本質は何かについて、或いはどのような解決策が存在するかについて、同様な手法で感じ取ることが必要だと考えています。先ずはその問題をそのまま受け止め、その全体をフィーリングによって内容を探り、本質を理解することです。そうする中で、解決策を見出せるように思っております。人生のあらゆる側面において、自我を増長させることなく、謙虚にフィーリングを頼りに生きることが大切なポイントです。

068 Inasmuch as each of the four senses possesses this element of feeling, which is an intelligent force having the ability to react in a conscious state to expressions of itself, or in other words, the element that registers each contact of existing vibration, we must admit that telepathy is certainly not outside the normal operation of the recognized sense organs. For it is through the feeling channel, regardless of the avenue of reception, that thought becomes known.

068 この四つの感覚が意識的状态の中でそれ自身を表現する為に反応する能力、言い換えれば存在する振動との接触を毎回記録する要素を所持している以上、私達はテレパシーは確かにこれまで認識されている感覚器官の通常的作用を超えるものではないことを認めねばなりません。何故なら、感受の経路に係わらず、想念が知られるのはフィーリングのチャンネルを通じてであるからです。

【解説】 私達の基本的な感覚はフィーリングであり、触覚もそれに含まれるという訳です。言うなれば、私達は日頃から触覚的な手法で物事を認識する必要があります。私が良く用いる例に明かりがあります。電灯を消して真っ暗にした部屋とその直前とは部屋の状況は全く同じですが、私達にとって暗闇は不安な気持ちになります。しかし、それは視覚が騒いでいるだけで、明るさに係り無く部屋にある事物はそのままであり、私達の視覚だけがそれを捉えきれないだけなのです。一方、私達の身体は外界の明るさに関わり無く正確に動いていますし、暗闇の中にあっても所定の活動は影響されることはありません。独り視覚だけが暗闇を問題視し、騒いでいるだけなのです。フィーリングを主軸とする生活は私達に各々の対象についてその本質は何かについて啓示を与えてくれます。しかし、最初の内はこれらの印象は微弱で十分には捉えられません。また感受しても行動に移せず、後で後悔するケースも多いものです。フィーリングを中心とする生活はこれまでの自分から飛躍するチャンスなのですが、そこに至るまでには数多くの失敗を経ることが通常のようなのです。

069 The question may arise: How do you explain those rare individuals who are born without feeling? They suffer no bodily pain, even from severe injuries. Will this impair their telepathic ability?

069 疑問が生じるかも知れません。フィーリングを生まれながらにして持たない稀な人々についてはどのように説明するのかと。彼らは例えひどい怪我をしても肉体の痛みに煩わされません。このことは彼らのテレパシー能力を損なうことになるのではないのでしょうか？

【解説】

本項で言う問いかけについては、次項（070）で述べられているように、触覚自体の喪失は本来のフィーリングの感受性まで及ぶものではありません。

しかし、私達の経験からしても、触覚（触感）は生きて行く上で大変重要な感覚であることは良く分かります。歯科医院で歯の治療を受ける際、時として麻酔を受ける場合がありますが、よく注意されることは麻酔が覚めるまで、食物を食べてはいけないことです。つまり、触覚が喪失したまた口を動かすことは口腔内を怪我する危険性があるからです。

実はそれ程に私達の日常生活に触覚が用いられているという訳です。同様な意味で、実は私達が気付いているいないに係らず、フィーリングも私達の生命活動に重要な役割を果たしているということでしょう。

私達が自らの意識的な部分を自らの身体のみならず、広く拡大して対象物を包み込むような状況に持って行ければ、その対象を文字通り全身全霊で理解することが出来るのではと考えています。

070 Not in the least. This is a purely physical condition caused by the malfunctioning of the nervous system; and has no more bearing upon the operation of the Life Force, or true feeling, than if the individual is born without a finger. The senses of sight, hearing, taste and smell, work normally in these people. The degree to which anyone registers pain is dependent upon the nervous system; the more sensitive the system, the more intense the pain felt.

070 全然そのようなことはありません。これは神経系統の機能不全によって引き起こされた純粋な肉体の状況であり、個人が指1本欠けて生まれたとしても生命力、即ち真実のフィーリングの作用には何ら問題が無いのと同様です。視覚や聴覚、味覚や嗅覚はこれらの人々の中で正常に働いています。人が痛みを表わす程度は神経系統に依存しています。その系統が高感度であればある程、その痛みは強烈に感じるのです。

【解説】

私達がこれまで触覚として整理して来たものは、実は神経の単純な反応であることを本項は再度示しています。身体にくまなく張り巡らされた私達の神経網は体内の異常をいち早く発見し、身体全体に警告を発する重要な役割を担っています。

しかし、フィーリングはこれら触覚と類似した機能、即ち全身を被うような鋭敏な感性とも言えるものですが、肉体上の仕組みである触覚（触感）とは異なるものと言えるという訳です。

私達はこのフィーリングの方をより重視して、自らの生活の中に取り込み、活用する必要があります。その為には、自らの心を印象を感受出来る程に沈静化し、常に新しい、清浄なる印象・想念に対して受け入れられるよう状態を整えておくことが重要です。

071 These unfortunate individuals, rather than being envied, should be pitied. For the little sentinels who stand guard constantly throughout the body to flash warnings to the brain - nature's switchboard - of any unusual condition, are our staunch friends. Let us say we run a splinter in our hand. These sentinels, or nerves, immediately set up a clamor, informing the brain that a foreign substance is exerting pressure upon the surrounding tissue. We then relieve the pressure by removing the splinter and the wound will heal. But if the brain had not received this information because the nerves were not functioning properly, we would have been unaware of the splinter until the body, in trying to expel it, had caused the area to fester. But it is a physical condition; and lack of this nerve feeling has no more to do with a person's telepathic receptivity than the color of his eyes.

071 これら不遇な人達はうらやましがられるよりは、哀れまれるべきです。何故なら、どのような異常時であれ、自然界の交換機のように脳に警報を発するべく、体中を常に警備に立っているその小さな歩哨達は私達の信頼する友人達であるからです。私達が手に棘を刺したとしましょう。これらの歩哨達、神経はすぐさま大声を発し、脳に異物が周囲の細胞組織に圧力を加えていることを伝達します。私達は次にその棘を取り除き、その傷はやがて癒えます。しかし、神経が適切に機能していなかった為に脳がその情報を受け取らなかった場合には、私達は肉体がそれを追い出そうとしてその部分を化膿させようとするまでは、その棘に気付かなかったことでしょう。しかし、それは肉体の状態であり、この神経フィーリングの欠如は両目の色以上に各自のテレパシー感受力に関係するものではありません。

【解説】

身体における触覚の役割について本項は説明しています。通常、痛みや痒みが私達は毛嫌いし、それらの感覚を麻痺するような薬剤を処方されることが多いのですが、本質的には私達の肉体をガードする大きな役割を担っていることが本項を読めば良く分かります。

しかし、これら触覚（神経フィーリング）と私達が追求しているテレパシーに係るフィーリングとは別のものであると本項は説いています。根本的には同種の原理で働くものの、具体的な存在形態や機能が異なるものと思われる。触覚（神経フィーリング）や他の4つの感覚は肉体の該当する感覚器官が損傷を受けた場合には失われるものですが、フィーリングは失われることはないようです。このことはフィーリングこそが生命に直接係る基本的な認識経路であることによるものと思われる。

また、このフィーリングは人間のみならず、あらゆる生命体と共有出来るものであり、互いにフィーリングを通じたコミュニケーションを図ることが出来ます。植物と話したり、動物と会話する等々の事柄はこのフィーリングを通じて行われるものと考えます。

072 Man is a miniature universe; so let us analyze him in that light.

072 人間は小型宇宙ですので、その観点から人間を分析して見ましょう。

【解説】 私達各々に与えられているこの肉体は60兆個もの細胞からなり、血管の総延長は地球を2周半するほどの長さを持つとされています (<http://blog.livedoor.jp/aritouch/archives/222227.html>)。昔「ミクロの決死隊」という映画がありましたが、高性能顕微鏡で見れば肉体内部は小宇宙と言うべき様々な世界が広がっているという訳です。問題はこれらの小宇宙の責任を担っているのは私達一人一人であるということです。それら精妙な機能を探索し、その本来の機能を高めたり、隠されている機能を発見して応用することは一人一人に委ねられています。いわばこれら既存の調度品に気付き、それらを活用し、維持出来るかどうかはその館に住む者に任されている訳です。そういう意味からは、宇宙のあらゆる要素が私達の身体の中に埋め込まれているとも言えます。1日で2%の細胞が入れ替わる私達の身体内の活動の様子は生きた生命活動の典型例と言えることになります。更に言えば、自身の精神状態がそれらの活動にどのような影響を及ぼすかは、自分が良く分かる筈です。それらの結果を良く観察し、その原因に遡って修正しながら、自らの宇宙、身体の仕組みを探索して行くことは大いなる醍醐味と言えるでしょう。

073 We know all things in the manifested world are based upon four elements; earth, water, fire and air. From combinations of these four elements are brought forth the innumerable variations of form. But within each atom comprising these elements, is a force which is indestructible and inexplicable. It is a definite, yet elusive something, that evades the best efforts of the research workers; and even the most sincere cannot define its character or its source. It is this activating force which gives impetus to creation.

073 私達は創造された世界の中の万物は四つの要素に基づいていることを知っています。土、水、火そして空気です。これら四つの要素の組み合わせから無数の形有るものの変化がもたらされました。しかし、これらの要素を構成している個々の原子の内部には破壊されることのない、また説明できない、ある一つの力があるのです。それは確固としたものですが、どこか捕らえ所のないもので、研究者達の最高の努力もくぐり抜けてしまいます。また最も誠実な者もその特徴やその源泉を定義することは出来ません。創造作用に刺激を与えるのはこの活性化力なのです。

【解説】

本項は古来から宇宙の構成要素とされて来た物質の4態（即ち固体、液体、プラズマ及び気体）について述べると同時に、真の生命力について既存の科学では捉えにくいものが各原子の中に存在すると説いています。それはこれまで伝典その他で捉えようもない存在とされて来たものと同じものを指すものと思われます。

私達が目にする大自然の営みが実はこうした精妙なる力によって動かされているという訳です。しかし、私達はこれらの活動を単に人智の及ばない領域と放置して良いと言っている訳ではありません。フィーリングの感受能力を活用してそれらを理解し、真の生命力を自らのものとすべきなのです。

人体における構成要素が小宇宙のように整然と調和ある行動をとっていることは全く不思議です。その調和のタクトを誰が振っているのか、その指示の言語（印象）はどのようなものなのか、私達は自らの身体各部の働きを研究することで、それらを学んで行く必要があります。

074 In man we find the same condition existing . . . four phases of action, or manifestation, aided and supported by the inexplicable force that causes impulse, or action, within them. It is therefore obvious that feeling is no more a physical sense, than is the activating force in nature one of the four elements.

074 人間においても同じ状況が存在することに気付きます。その内部に衝動や行動を引き起こす説明出来ない力によって助けられ、支えられた四つの行動、創造の側面の存在です。ですから、フィーリングは肉体の感覚ではなく、四つの要素における自然界の活性化力であることは明らかです。

【解説】 およそ物質の存在形態とは固体から気体までの4つあることは前項（073）で述べられました。人においても人体はこの4つの状態から成っていることが説かれています。歯や骨格等は明らかに固体として人体を支えていますし、時々刻々の呼吸は人体と大気との間のガス成分の出入りと解釈出来ます。このような生体作用はどのような発端、衝動に基づいて行われているかについては、著者は「説明出来ない力」であり、それがフィーリングと呼んでいるものであるとしています。この「説明出来ない力」という表現は、実は仏教ではよく説かれている概念で、物質的なものに属していないことを意味しているようです。自然界にある諸々の事象を見つめ、その原動力が何であるかを常に観察し、その本体に迫る探究こそ、価値ある経験になるように思われます。

075 Once I understood this, I knew that this force, born of Cosmic Intelligence, is the foundation of all life. Nothing need be added; all is present. But I, as a physical man, must recognize and begin to use this all-inclusive power. At this point, I took a closer look at my mind. To my surprise, I found it badly equipped and behaving like a tyrant ! I saw it was merely the spokesman for the sense reactions; not the Knower of Cause.

075 一度このことを理解するや、私には宇宙的英知から生まれたこの力が全ての生命の土台であることが分かりました。何も加えられる必要がなく、全てがそこに在るのです。しかし、肉体の人間としての私はこの全てを包括する力を認識し、応用し始めなければならないのです。この時点で、私は自らの心を注意深く見詰めました。その結果、驚いたことに、私は心がひどく身構えて暴君のように振る舞っていることに気付いたのです。私にはそれが因を知るものの代弁者ではなく、感覚反応の代弁者となっているに過ぎないことが分かりました。

【解説】

重要な点は、私達一人一人には全てのもの、即ち生きる為に必要な知識も資材もあらゆるものが既に備わっているということです。必要な知識は少し必要になれば直ちに与えられますし、真に必要なものは無尽蔵に与えられる体制にあるという訳です。

結局の所、満ち足りた環境に居る訳で、このことを理解すればあくせく働く必要はなく、穏やかで喜びに溢れた生活を送ることが出来ます。ここで唯一問題となるのが、私達自身の心の在り様なのです。私達の思考を指図する心は実は単なる感覚による裁きの代弁者になっており、本来の機能を果たしていないことが問題となっています。一人一人が時々刻々発する想念は実現力を有している訳で、粗い攻撃的な想念は自らの周囲に類似した状況を造り上げてしまいます。その甚大なる想念の力こそ私達は畏れる必要があり、自らを律する必要がある訳です。

他方、私達の進むべきは、この無言で一見掴みようもない力 (force)を探究することです。既に他の生物は皆、この力を活用し切っている訳で、自然界における様々な生命活動こそ、その力の現れと観ることが出来ます。自然観察、自然鑑賞を通じて、本校で著者が言う宇宙英知を起源とする力を理解することが重要な所です。

076 Let me explain it in this way. The mind of the average human we encounter today expresses only the opinions gathered from the reactions of his four senses. Therefore, his so-called intelligence is hampered by his likes, dislikes, and autocratic judgment of all that he does not understand. He should not be condemned too harshly for this. It has been the accepted attitude for ages. We have allowed our four senses to be the domineering rulers, quarreling and dissenting amongst themselves; totally unaware of the Creative Force which brought them into being.

076 このように説明しましょう。今日私達が出会う平均的な人の心は只、その人の四つの感覚の反応から集められた意見だけを表現しているということです。その為、その人のいわゆる知性はその人の好き嫌いや、自分が理解しない物事すべての専制的な裁きによって妨げられています。しかし、人はこのことについてあまりに厳しく非難されるべきではありません。それが長年にわたって受け入れられて来た態度であるからです。私達は私達の四つの感覚が威張り散らす支配者達であることを許して来たのであり、それらは言い争い互いに異議を唱えながら、それらを産み落とした創造力に全く気付いていないからです。

【解説】 前項（075）で著者が示している生命躍動の根本的な力を理解する上で障害になっている状況を本項で示しています。私達のこれまでの姿勢が単に各感覚の代弁者に過ぎず、より本質的な理解に向かうことなく、その場その場の裁きに明け暮れていたことに問題があるとしています。しかし一方では、このような状態に陥るのも私達にとっては自然の成り行きであると慰めています。私達がこの状況から抜け出し、真の進化の道を進む上で、この問題に取り組むことは避けては通れません。自分の心の動きを観察し、何処に問題があるのかを理解すること、また時に垣間見る生命力溢れる力(force)の姿を大切に、自らをこれまでの心でなく、フィーリングを通じてやって来る宇宙的想念に従うよう訓練することが大切です。

077 As I studied carefully the actions of these four senses, I realized that each one stands alone, contradicting and fighting with the others. Since each sense has a will of its own, it can, and does oppose the other three; and in so doing, it opposes the Cosmic Will. This condition will continue in man until he becomes a unified being; understanding himself in all his component parts.

077 私がこれら四つの感覚の行動を注意深く調べた結果、私はそれらが各々孤立しており、互いに反論し、言い争っていることがよく分かりました。感覚は各々自分の意思を持っておりますので、それは他の三つに対して反論できますし、そうしているのです。また、そうすることで、宇宙の意志に対抗しているのです。この状態は人が自分を構成する様々な部分の全ての中において自分自身を理解する一体となった存在にならない限り、続くことになるでしょう。

【解説】 アダムスキー氏が伝える進化した他惑星人が日常応用している実践哲学の要点の一つにこの4つの感覚に左右されている心の問題があります。他方、これまで心の問題は指摘されることはあっても、その原因が4つの感覚に行き着くことを指摘する教義はこのアダムスキー哲学以外に聞くことはありませんでした。逆に言えば、この心に影響を与えている感覚の意見こそよくよく観察し、その実態を暴く必要があります。その上で、何故そのような差別的な見解が生まれるか等々について考える必要があります。極端な例としては、わがままな幼児の姿が代表しているように思われます。つまり少しでも自分の気に入らないものは拒絶し、自らの欲するままにあたり構わずわがままし放題で、周囲の大人からひんしゆくを買っているような光景です。実は他惑星人から見れば、現状の地球で繰り広げられている物事は、これと同種、同次元の内容ではないかと思う次第です。

078 Here are a few examples of how the senses disagree. First, let us use this fanciful situation. In a hall seating a thousand people, imagine we have sensitized the floor to the degree where an insect falling upon it would register a sound loud enough to be heard by all; and to implant this information strongly in the minds of those present, we have conducted a number of experiments demonstrating the sensitivity of the floor. So if, by the trick of using heavily padded soles, we have a man walk down the aisle without producing the sound of accompanying footsteps, the following imaginary conversation might take place between our eyes and ears.

Eyes: "I see a man walking down the aisle."

Ears: "Impossible! I hear no sound."

Eyes: "But I tell You he is there. He's about half way down."

Ears: "It's your imagination. We both know how sensitive this floor is. I'd hear anyone walking down the aisle."078

ここで各感覚が如何に互いに意見が合わないかを示す若干の例を挙げましょう。この空想上の状況を採用しましょう。千人の人々が着席しているホールの中で、一匹の虫がその上に落ちても全員に聞こえるようなだけの大きな音が記録されるような位に床の感度を高めたとして、その情報を強くそれらの人々に植え付ける為に、私達はその床の感度を実証する数多くの実験を行って来ました。そこでもし、靴底に厚い当て物をするというトリックを使って、一人の男に足取りに伴って発生する音を出すことなく、通路を歩かせたとすると、私達の目と耳の間で以下の想像上の会話がなされるかも知れません。目：「通路を歩く一人の男が見える。」耳：「有り得ない！全く音がしていない。」目：「しかし、言っ置くが、その男はそこにいる。もう半分の所まで来ている。」耳：「それはあなたの想像だ。私達二人共、如何にこの床の感度が高いか知っている。もし誰かがその通路を歩けば聞こえる筈だ。」

【解説】 自分の考えを主張し合うだけの討論の光景を地球ではよく見かけます。同様なことが私達自身の中でも起こることを本項は示しています。一方で、進むべき方向が異なる意見の中、どうしようか葛藤する状況も類似したものと言えます。このような状況をかつてイエスは「2心ある」状況と語ったのではないかと思われます。つまり各感覚が一つにまとまっていない限り、物事は成し遂げられないことを示唆しているように思われます。好例はフィギュアスケートその他一流のスポーツ選手やピアノ演奏等に見る音楽家です。その行動には一切の迷いや躊躇は無く、一瞬一瞬を高度な行動を行っています。そこには感覚の意見など入り込む余地はなく、宇宙空間からのインスピレーションを身体に取り入れ自らの身体行動で表現しているのです。私達が目指すべきはこうした既存感覚を宇宙からのインスピレーションと直結し自身を表現するよう、融合させることにあると思っっています。

079 The eyes see the man, but the ears hear no sound; therefore, the sense of hearing accuses the sense of sight of giving false information. The man is there, however, but due to their lack of respect for one another, neither the eyes nor the ears will concede that they could be mistaken; so the argument between them cannot be satisfactorily settled.

079 両目はその男を見ているのですが、両耳には音が聞こえず、その為、聴覚は視覚に対し嘘の情報を出していると非難しています。しかし、男はそこに居ますし、感覚同士、互いの尊重が欠けている故に、目も耳も自分達が間違っているかも知れないということを認めようとはせず、その為、彼らの間の議論は満足に行く解決ができないのです。

【解説】 私達の日常生活の上の判断の中にも、このような感覚同士の葛藤があるということでしょう。各々の感覚はそれぞれの好みがあり、それを判断基準に良し悪しを即断している訳です。しかし、私達の感覚は表層的な現象しか認識できないことは明らかですし、その対象物の内部で起こっている事柄まで把握しようとはしません。常に表層的な理解ということになります。一方、自然界の他の生きものについてはどうでしょうか。私の見る限り、彼らは一瞬で対象物を認識し、逃げるべき相手か否かを判断できるように思います。その場合、本項で述べられているような各感覚による葛藤のヒマはありません。野生動物は常に自らの感覚を一体化させ、不測の事態に備えているということでしょう。私達地球人の課題は、先ず自らの既存の感覚をより誠実なものに清め、それらを私達自身が進むべき方向に役立つよう、整えることにあります。

080 We will now reverse the procedure, and by remote control produce the sound of walking down the aisle. This time the eyes will accuse the ears of conjuring up an imaginary situation. Again, the argument will rage between the senses, each one sure it is right.

080 今度は手順を逆にして、遠隔制御を用いて通路を歩く際の音を出して見ましょう。今度は目が耳に対して魔法を使って想像上の状況を作り出したと非難することでしょう。再び感覚の間で各々自分が正しいと確信して議論が荒れ狂うのです。

【解説】 自分が見たもの、聞いた事柄が信じがたいと思う時もある訳です。中には単純な感覚の特徴を利用してマジックやイллюジョンを見せるカラクリを用いて、人々に「超能力さ」を見せ付ける者も最近は多く出現しています。もし、それらの幻覚を誘導するニセモノが世の中にはびこってしまうと、人々に真の進化の道を歩むことを妨げることとなり、大変危険です。人々は直ちに「結果」（成果）を求める為、安直に成果の得られる方向に動き易いからです。特にこの問題は新興宗教においてありがちであり、奇跡を待ち望む人々を騙そうとする勢力も多いように思われます。そういう意味からも、この種の問題は自分自身の体験・実感を通じて、一步一步進むことが王道だと信じています。この惑星においては一見テクニックだけ修得した者が、弱い多くの者を餌食にする事例も残念ながら増えているように思います。

081 Actually, both are right. The eyes did see the man, and the ears did hear the footsteps. If they had been properly coordinated or synchronized, the eyes would have told the ears what they saw, and in place of a flat contradiction, the ears would have accredited the report. When the ears heard the sound but the eyes did not see the man, the eyes, after scanning the hall carefully, would have admitted it was something they did not understand; yet have accepted the information given by the ears. In other words, instead of arrogantly accusing the other of telling an untruth, each would have conceded that they could have been mistaken.

081 実際には両者とも正しいのです。目はその男を見たのですし、耳はその足跡を聞きました。もし両者が適切に連携、或いは同調していたら、目は耳に対して自分達が見たものを伝えたいでしょうし、単純な否認の代わりに耳はその報告を信頼に足ると評価したことでしょう。耳がその音を聞き、目がその男を見なかった場合でも、目はホールを注意深く見渡してそれが自分達が理解出来ない何かであることを認め、耳から伝えられた情報を受け入れたことでしょう。言い換えれば、他を嘘を言っていると横柄に非難する代わりに、各々は自分達が誤っているかも知れないことを認めるようになることです。

【解説】 人の性格は様々ですが、昔はよく徹底的に頑固な者も多く居たように思います。一度言い出したら最後まで自分の説を曲げない者達です。中にはそのことによりうまく行く場合もありますが、多くは事実誤認があり、仲間が離れていくことになるものです。それらの頑固者の特徴を突き詰めて行くと、本項で説明する感覚の姿勢に行き着きます。如何に柔軟性が大切かが分かる訳ですが、その柔軟性の源には、自分はひょっとして真の姿を捉えていないかも知れないという自らの感性に対する謙虚さが存在します。人間は学び行く途上であって、まだまだ真実・真理を捉え切れていないと自戒することが大切です。

082 This same dissention exists in the relationship of the other two senses. The palate may savor the delicious flavor of certain rare cheeses; but in many cases, the nose is so outraged by the accompanying aroma that it interferes with the enjoyment of eating the delicacy. So it is very apparent that in their dealings with each other, the four senses are constantly bickering, contradicting, and trying to gain autonomy over the others.

082 これと同じ論争は他の2つの感覚の関係においても存在します。舌はある珍しいチーズの美味しい風味を味わうかも知れませんが、多くの場合、鼻はそれに伴う香りに憤慨し、その美味を賞味する喜びを妨げます。ですから互いの関係において四つの感覚は他に対して常に言い争い、反駁し、自律性を得ようとしていることはとても明らかなのです。

【解説】味覚について言えば、最近テレビで塩分と脳血管障害との密接な関係について解説する番組がありました。人類が塩分を摂取するようになって高血圧が引き起こされたというものです。塩分は味覚に絶大なる影響を与えますし、塩分を全く含まない食品は容易にのどを通らないほどです。その為に市販食品やジャンクフードと呼ばれている食品の多くには塩分やもう一つの有害成分である油脂が多く含まれています。これらは人間の身体に悪影響を及ぼしかねない成分なのですが、通常、私達は食べ物を「美味しい」「まずい」を基準に摂取しますので、全て味覚に左右されていることになります。その結果、美味しいものは必要以上に摂取され、肥満が発生することになる訳です。他方進化した他惑星人に肥満の人が居るとは一度も聞いたことがありません。必要以上に食べないこと、味覚に支配されない食生活が他惑星では実施されているものと思われまます。

083 Now do you see why I say the senses war with one another? how uncoordinated they are and how they pass judgment on each other?

083 もう貴方は何故私が感覚達が互いに戦い、またそれらが如何に協調性に欠け、互いに裁きを下し合っていると言うのか、お分かりになるでしょう。

【解説】

これまで著者が何故に紙面を長々と割いて感覚同士の対立事例について述べて来たか、読者に分かりやすくかと問っています。

テレパシー能力の開発は実に私達の日頃の心の状態を制御・整頓する所から始めなければいけない訳で、そういう意味から各自の心の現実を知る為に、著者は極端な事例を挙げたものだと思います。

私達はこの例示を特殊な事例として日頃の学習環境から棚上げすることなく、私達の日常の中に如何に類似した状況が起こっているか、あるいは起こり易いかを調べる必要があります。

テレパシー能力を云々する前に、自らの感覚が日常的に各々どのような反応を示しているか、調査することが必要です。

084 It is these four avenues that make up the mind of man today. They are the jailers holding him to the realm of the effective world; and until he can loosen their shackles by conquering them through self-control, man will remain a slave unto their whims. It is through our senses that we pass judgment on conditions, persons, nations; not understanding the oneness of all with Cosmic Cause.

084 今日の人間の心を作り上げているのはこれら四つの大通りです。それらは人間を結果の世界の領域に閉じ込めている看守であり、人が自制によってそれらを克服し、彼らの足かせを緩めるまでは、人は彼らの気まぐれの奴隷のままに続けることでしょう。宇宙の因とともに全てとの一体を理解することなく、状況や人物、国家に対して裁きを下しているのは私達の感覚を通じてなのです。

【解説】

結局のところ、人々の離反はこれら感覚による裁き、批判によるものです。このテーマは友人や仲間同士の間での離反の大きな原因となっています。感覚を通じての物事や対象物の受け止め方は各人で異なる為、その解釈は各人で異なり、結局は他者とは一緒にやって行けなくなることになるのです。

しかし、少し冷静になって、自分の解釈を評価出来るようになると、対象との相違は消えて類似性が見えるようになるものです。全てを支える宇宙本来の因をその対象物に気付くことになる訳です。

私達は長年月、自らを支配させて来た既存の4感覚をひとまず脇に置いて、代わって自らのインスピレーションを鋭敏にして、これら感覚が伝える以外の要素に耳を傾け、目を凝らすことです。そうする中で、裁きは次第に相互理解への融和へと進化するものと思っています。

085 Thus, if we're to become a peaceful unit within ourselves, we must constantly guard against these wayward senses, and subdue their criticism and prejudices; for these are the greatest causes of divisions in the family of human relations. Our personal judgments divide brother against brother - nation against nation.

085 ですから、もし私達が私達自身の内側で平和的な単位となるのであれば、私達はこれらわがままな諸感覚に対して常に監視していなければなりませんし、それらの発する批判や偏見を抑制しなければなりません。何故なら、これらは人間社会に分断をもたらす最大の原因となるからです。私達の個人的な裁きは兄弟に対して兄弟を、国家に対して国家を分断させるからです。

【解説】 この種の問題はアダムスキー哲学を学ぶ人々の間にも当てはまります。振り返れば過去40年以上の昔から、アダムスキー氏の体験は様々なルートを経て伝えられ、多くのグループによって研究されて来ました。そして今日、そこから派生した小グループが各々独自の活動をわずかに続けている状況です。惜しむらくは過去には数多くの人々がアダムスキー氏の体験を信奉し、宇宙哲学の学びを進めていたにも拘らず、おおくはグループ内の不和から、皆散り散りになって行ったことです。おそらく、同様な状況は太古から続いていたのかと思われまます。感覚の裁きが全ての原因を構成している訳です。その問題への対応こそ、最も重要な事柄です。先ずは自らを謙虚に保つこと、宇宙の英知に対し常に受容出来るよう私達の心を整えて置く必要があります。人間関係の中にも私達の感覚の支配の構図が隠されているという訳です。

086 When I realized this, I began to school myself by utilizing the law of patience. Even though at first my senses did not understand this law, I knew through discipline they would eventually obey. And by the very fact of acknowledging that they were subject to a higher law, they would in time understand the purpose behind each act; the Cause, (or Creator) behind effect. Therefore, my first step must be to coordinate my sense reactions to a unity with, and understanding of - Cause.

086 私はこのことを悟った時、私は自分を忍耐の法則を使って訓練し始めました。最初は私の感覚達はこの法則を理解しませんでした。私には鍛練によってそれらは遂には従うようになることが分かっていました。そしてそれらがより高次の法則に従うべきことを自覚した事実によって、それらはやがて各々の行為の背後にある目的や結果の背後にある因、(創造主)を理解するようになるのです。ですから、私の最初のステップは私の持つ感覚の反応を、因との一体と因の理解に向けて調和の取れたものにしなければなりません。

【解説】 瞬間瞬間の自分の心の反応を見守り、常にそれらが宇宙に調和的な性質を持つものか否かをチェックし、忍耐強く自らを訓練することが重要です。私達は往々にして怒りや恐怖、落胆等、様々な極端に自らの感情を振れさせており、そのことが身体の不調や周囲の環境の問題化を誕生させる原因になっています。本来、宇宙を流れる想念は、仮に直ちに生命を失う事態にあっても穏やかに且つ活発に生命活動を万物に与え続けており、それと同調することで楽しい生活が送れることは自然界の営みを見れば容易に理解出来ます。独り人間だけがこの感覚の問題を抱えている訳で、その問題解決こそ、何よりも重要なテーマということになります。

087 To use the violin as an example: we all know the four strings of a violin must be tuned with delicate precision before the musician is able to bring forth the subtle harmonies that this instrument is capable of producing. The pitch of each string must harmonize perfectly with the other three. The four senses of man may be compared with the four strings of the violin; for he must attune these senses to work together as a unit in order to fulfill his true purpose in life. And, just as the violin can be used to play baser music, yet it can, under a master's hand, produce melodies to thrill the souls of men so the sense perceptions, turning from effect to Cosmic Cause, will extricate themselves from the mire of self-delusion. They will in this way break old thought-patterns and habits which express automatically through the senses. Carnal mind, being innately lazy, accepts the opinions our senses have formed through their contacts and experiences, never bothering to search for the true Cause behind all effect.

087 例としてバイオリンを用いることを考えましょう。私達は皆、バイオリンの4弦は演奏家がこの楽器が創りだせる精妙なハーモニーを生み出す為には事前に細心の精度で調律されなければならないことを知っています。各々の弦の調律は他の3弦と完全に調和されていなければなりません。人間の4つの感覚はバイオリンの4弦になぞらえるでしょう。何故なら人は人生における自分の真の目的を成就する為にはこれら感覚を一体となって共に働くよう調律しなければならないからです。そして、バイオリンが低レベルな音楽に用いられることができると同様に、巨匠の手の元では人の魂を震わせる程のメロディーを作り出すように、感覚の知覚が結果から宇宙の因に転向すれば、諸感覚は自己欺まんの泥沼から自身を解放することでしょう。諸感覚はこのようにして感覚を通じて自動的に表わして来た古い想念パターンや習慣を打ち壊すことでしょう。生まれながらに怠惰である肉欲の心は、全ての結果の背後にある真の因を求めようと煩わされることなく、自分の感覚が接触したり経験したりしたことを通じて各感覚が作り上げた意見を受け入れるのです。

【解説】

以前にも述べましたが、バイオリンは人間に似た楽器であるという話を伺ったことがあります。四弦が私達の四つの感覚に相似しているということです。

しかし、ここで注目したいのは、著者はこの四つの弦（即ち私達の感覚）を決して取り去らなければならないような不要なものとして取り扱ってはいないことです。バイオリンの各弦のように互いに調和するよう弦を調律することの重要性を説き、調律後は素晴らしい音色を発すると賞賛しているのです。

私達の肉体にとって四感覚は大変重要な機能を託されており、それらを本来の姿に調律・訓練することで、これまで気付かなかった宇宙の真の姿の美しさに気付くことができるというのが重要なところで

088

Thinking deeply about all this, I asked myself, "Suppose I had sight so great that I could see television pictures without the aid of a television set. Suppose my hearing was so keen I could hear the beautiful music traveling through space from station to station without using a mechanical device. Would not my sight and hearing be developed into the fourth dimension?" I then turned my attention to the senses of taste and smell. Suppose I were able to taste the apple before it matured; or detect the fragrance of the flower before it blossomed; would I not have the senses of a superhuman.

088 これら全てのことを深く考えた後、私は以下の事柄を自分に問いかけました。「テレビの助けを借りずにテレビ映像を見ることが出来る程の大いなる視覚を持っていたとしたら。」「私の聴覚があまりに鋭敏なので機械装置を用いることなく放送局から放送局の間の空間を伝わる美しい音楽を聞くことが出来たとしたら。私の視覚や聴覚は四次元の中にまで発達出来ないであろうか？」次いで、私は自分の注意を味覚と嗅覚に転じました。私がりんごが未だ熟する前にそのリンゴの味を味わうことが出来たとしたら、或いは花が咲く前にその花の香りを嗅ぐことが出来たとしたら、私は超人の感覚を持つことになりはしないかと。

【解説】

実は私達の四感も発達させれば、本項のような従来の結果の領域に限られず、遠隔地や未来を把握出来るようになるということです。既存の感覚器官がどのようにしてそれを可能とするか、私には説明出来ませんが、印象を感受した後、その印象が持つ感覚的な要素に対し、既存の感覚が反応し、類似した感覚作用を発するのではないかと考えられます。

これらは未来予測や遠隔透視の際に受ける宇宙の因からの印象が、心によって具体化される際に表現される経路ということになります。具体的に言えば画家がキャンバスに向かう際に目に浮かぶ画のイメージや作曲家にとって新しい旋律が頭に浮かぶ場合です。これらは全て宇宙の印象が具体的に結果の世界に表現される際に起こる現象ではないかと考えられます。

089 I received my answer direct. "All of these are your potential when the senses give up their individual will unto the Will of Feeling. For Feeling is the Cardinal Sense . . . the expression of Cosmic Cause flowing through your being."089 自分の返事は直接受け取りました。「これらの全ては、諸感覚がそれら自身の意志をフィーリングの意志の前に捨て去る時に出現する貴方の可能性なのだ。何故ならフィーリングは基本的な感覚であり、貴方の存在を通じて流れる宇宙の因の表現であるからだ。」

【解説】 よく言われることに野生の動植物の持つ特筆した能力があります。数キロ離れた所からの臭いを嗅ぎ分けたり、対象物を識別したりする能力等、人間を遥かに超える能力を持つものも多いようです。また、真っ暗な夜を何不自由なく歩き回る生きものも多いものです。自然界の生きものは皆、自己保全に汲々とする各感覚の意思を洗い流した結果、このような能力を身に付けるに至っているということかも知れません。私達が成すべき最初の事柄は、自らの感覚の意思を放棄し、より素直にやって来る印象に対して心を開くことです。

090

I then knew that Feeling was truly the Master Builder who had formed this body of mine; and that it could build empires in the absence of the other four senses. From this conclusion, I saw that my mind was only reflecting and reacting according to my limited knowledge of life and its purpose.

090 そして私はフィーリングが実に私のこの身体を造った棟梁であること、またそれは他の四感が無い中で王国を造り上げることが出来ることを知りました。この得た結論から、私は自分の心は生命とその目的についての私の乏しい知識に応じて心が反映し反応しているに過ぎないことが分ったのです。

【解説】 大切なポイントは私達の四感や心の関与が無くても、私達の人体は創造され、日々維持されているということでしょう。日常的な四感の反応は人体を司る役割とはかけ離れているという訳です。むしろ人体内部の生命活動を妨げている要因にもなっているのです。従って、私達が自らの四感をそれらが創造された本来の姿や役割に戻すことが出来れば、かつて無い程の成果が得られることは確実です。その為には本項では私達は生命とその目的について学ぶ必要があると力説しています。最近、機会があり、東京でダライ・ラマ法王の法話講演会に参加することが出来ましたが、その中で法王は学ぶことの重要性を何度と無くお話になりました。自ら学習し、研究することが仏教徒の道であると説かれていたのが印象的でした。この「生命の科学」講座も毎回、繰り返しになりますが、少しずつ見識を広げて行くことを目指しています。

091

All of this has been verified by the space Brothers, for they have observed and evaluated these phases of human activity in relation to the Cosmos.

091 この全ては宇宙兄妹達によって事実であると確証されました。彼らは大宇宙との関係における人間活動のこれら側面を観察し評価して来たからです。

【解説】 時に触れ、著者が私達にこの種 of 取組みで間違えないことを伝えてくれていることは、私達にとって励みになるものです。自らの感覚を統制し、訓練することが進化した他惑星人も同様に通った道であることは、私達の日頃の精進の拠り所でもあります。同じ自然を眺めても、その知覚力や真理に対する洞察力は私達地球人と他惑星人とは大きな差がある筈です。私達は目で見、耳で聴いてもその情報の価値は分からないまま、資源や時間を浪費しています。つまらぬ好き嫌いの裁きの中で、真の姿を見失っているということでしょう。「悟り」を得るまでは、訓練するしか方法はありません。全てが互いに関連し合い、宇宙を構成していることを実感できるまで、私達は自身の四感を鍛え、育てる必要もあるのです。

092 But before my contact with the Brothers, as I sincerely endeavored to progress, I realized it was imperative to coordinate my senses to harmonize with, and fully understand - Cause. For this Cosmic Intelligence is back of, and permeates, all manifestation. I am aware of the fact that I have stressed this point more than once. But this subjection of the dissenting sense perceptions is a major factor in controlling the mental processes.

092 しかし、宇宙兄妹達とのコンタクトの前から、私は進歩に向けて誠実に努力して来たので、私は自分の感覚を因と調和し、完全に理解するよう統合させることが絶対に必要であると実感していました。何故なら宇宙の知性はあらゆる創造物の背後にあり、染み渡っているからです。私はこれまで一度ならず、この要点を強調して来たことは分っています。しかし、異議を唱える感覚の知覚反応を制圧することは心の作用過程を制御する上で主要な要素なのです。（訳注：原文では再終行But this subjectionからthe mental processes.までは太字体で印刷されています。）

【解説】 私達が万物の背後にある因を見る時、著者はそれが万物に「染み渡って」いるものと認識できると説いていることに注目したいところです。また、そのような状況を私達が認識する為には、私達の心の状態が既存の四感覚が互いに言い争っているような状態から統制された状態に整えて置くことが絶対条件である点もよくよく理解して置く必要があります。心自体が勝手な騒ぎを起こしては、物質の背後にある因の本質を知ることが出来ません。同様の事柄は物体に限らず、他人の言動や行動、更には社会の動向に至るまで、その背景を理解すること、気付くことが重要になります。既に他者よりも先じて、この分野を開拓しつつある私達には、他者よりも深い因果関係や社会の行く末が分かる筈です。この傾向を少しでも好転させる為には、各自が何をすべきか、自己実現の次のステップとして期待されている事柄も多くあることになります。

093 Fully realizing that my next step must be the disciplining of my senses and the observation of impressions received by my mind, I decided on a definite plan to follow, a sort of mental ledger. On one side I placed all thoughts received throughout the day that were of a personal nature; and on the other side I recorded the universal thoughts upon which I had acted. At the end of each day I would tally my score to decide whether limiting, personal opinions, or universal insight had governed the day.

093 そのことを完全に理解した後、私の次なるステップは私の諸感覚の鍛練と私の心によって感受された諸印象の観察である筈で、私はある種の精神面の取引記録という追うべき明確なプランを決めました。片方には一日を通じて個人的な性質であった想念の全てを置き、もう一方には私は私が行動した宇宙的な想念を記録しました。毎日の終わりに私は限界がある個人的な意見か、宇宙的な洞察がその日を支配したかを決着する為、得点を集計することとしました。

【解説】 自分の心の状態を知る為に古くから行われている想念観察の手法が、本項で紹介されています。ポイントは誰一人見るものではなく、正直に自分を見つめる手法として自分が日常的に抱く想念の実態について知る必要があるということです。即ち、善悪良否の区別をすることが目的でなく、あくまで自らの想念の実態について観察すること (Observation) が重要と思われます。白日の下にありのままを観る中で、悪とされるもの (即ち、未熟であり良でないもの) は自然と消え去るように思われます。従って冷静公平に観察する中で、真善美なるものしか残って行かないように思われるのです。これら想念観察は一つの手法であり、日常生活の中で湧き起こる想念を迅速にメモすることは大変ですが、著者はそれを実行した結果、成果を上げたと私達に説いているのです。

094 This called for a great deal of patience; but I was finally able to train my senses to listen so they could receive impressions without question. Admittedly, this was most difficult to do, for the old thought-patterns insistently reappeared and gave their interpretations to my mind. But as I continue to gain control over my sense-mind, my impressions became more distinct; containing an increasing number of thoughts of a universal nature, with less involvement in personal opinions.

094 これは非常に多くの忍耐を要しましたが、私は最後は自分の諸感覚を疑義を差し挟むことなく印象を受け取れるよう耳を傾けられるように訓練することが出来ました。正直なところ、これを為すのは最も難しいことでした。何故なら古い想念のパターンがしつこく現れ、私の心に彼らの解釈を与えたからです。しかし、私が私の感覚心に対しコントロールを掛け続けた結果、私の受ける印象はより明白なものになり、個人的な意見についてはますます含まなくなる一方、宇宙的な性質の印象はますます数を増して来たのです。

【解説】 通常、私達は湧き起こる想念に対して半自動的に既存の四感覚が裁きを行った後に認識するような状況になっているのではないかと思います。常に心の判断・評価を経た状態でようやく認識するという具合です。しかし、これでは何時になっても四感覚の支配から抜け出すことは出来ません。私達は素直にありのままの状態で想念と接するよう努力する必要がある訳です。著者自ら、自分のこれまでの粘り強い訓練について本項で語っています。最も強力な敵は自分自身にある訳で、辛抱強く心を統制して行く他に道はありません。しかし、ある段階を過ぎると展望が開けてくることも事実です。想念が本来携えているビジョンを認識出来るようになれば、益々これら因からの支援指導の声を聴くことになるからです。

095 I then turned to analyzing what impressions were, and found many of them to be what we classify as thoughts; our conscious thoughts, as well as the commands our minds are constantly transmitting to the various parts of our bodies.

095 私は次に向きを変えて印象類が何であるかを分析することにしましたが、その結果、それらの多くが私達が分類上想念とするもの、私達の意識に浮ぶ想念類であるとともに、私達の心が私達の身体の様々な部分に絶えず発している指令であることが分かりました。

【解説】 よく自分を見つめることの必要性が説かれますが、その内、最も重要なのは本項で述べられているように、自分の想念に向き合うことです。その人の人格を作り出す源はその人の抱く想念です。そのレベルを自ら見極めることは、第一歩になります。想念は行動を支配することから行為の原因は想念に行き着くことになります。よく犯罪捜査で、動機が事件解決のカギになるとされますが、それもこの想念に帰着する訳です。さて、これまで私達は本項座で想念や想念の伝達について学んで来ましたが、私達の想念のレベルの実態はまだ、本来の想念を取り扱う段階には至っていないように思われます。私達の多くが想念として認識しているもののほとんどは、既存の感覚の反応、即ち感覚の意見でしかないようです。また、私達は宇宙本源につながるような想念やアイデアに接する機会は少ないということでしょう。しかし、これら真の有益な想念・アイデアは宇宙に満ちていると考えるべきです。通常私達の心が自らの感覚の意見に振り回されている為、それに気付くことなく過ごしてしまっているという訳です。こうした本来の想念やアイデアに触れる為にも、まずは自分の心を見つめる必要があるということです。

096 For instance: you are reading. When you reach the bottom of the page you will turn it and continue to read. Yet, before your hand made the slightest move to turn the page, your mind first had to formulate the thought, "This is the end of the page. Turn it and continue reading the next."⁰⁹⁶ 例えば、貴方が本を読んでいるとします。貴方がそのページの最後に到達したら、貴方はページをめくり、次を読み続けるでしょう。しかし、貴方の手がページを返そうとわずかな動きをする前に、貴方の心は最初にその想念を形作る必要がありました。「ページの終わりだ。ページを返して次を読み続けよう」と。

【解説】 実は全ての行動は心の指示に基づいているのです。即ち、私達の行動は心の反映であると言っても良いでしょう。その点について最近思うことは、本書が執筆された当時、世の中に出回っていなかったコンピュータゲームなるもののことが気になっています。以前にも書きましたが、ゲームの仮想空間の中では多くの戦いが設定され、小型のゲーム端末のキーを操作して相手を倒し、殺すことで多くのゲームが進行して行きます。この場合、注意したいのは、仮にゲームの仮想空間の中とは言え、ゲームに興じる者は自身で殺人を体験していることになります。これら殺戮のゲームが著者の心にどのような影響を及ぼすかは明らかであり、今日の社会悪化の元凶のような気がしています。今や無人飛行機ではるか離れた基地から敵地を居ながらにして攻撃する時代になっており、無人機の操作パイロットはゲーム感覚で実際の戦争をする時代になりつつあります。結局、形態はどうであれ、そのような行動に対する指示は心が放っている訳で、心はその行動に対する責任があることになります。普段、私達が何気なく行っている行為も、その全ての行動の指示指令は私達の心が行っていることを、私達はよくよく自覚する必要があります。

097 Normally, we are not aware of these thoughts; and we would indeed live in a slow-motion world if every action had to be expressed consciously in this manner. Yet no movement or action is possible without first having a blueprint drawn and an order given. The command for every physical move must first be a thought in the mind.

097 普通、私達はこれらの想念には気が付きません。また、もし一つ一つの行動が、このように意識的に表現されなければならないとしたら、私達は確かにスローモーションの世界に生きることになってしまいます。しかし、最初に青写真があり、指令が与えられなければ、どんな行動も不可能です。あらゆる肉体の動きに対する指令は最初に心の中の想念でなければならないのです。

【解説】

私達が抱える問題の源が「心」なのですが、その心は本項に示されるように、人間の様々な行動を一つ一つ指示するという重要な役割を持っていることが分かります。逆に言えば、心無くして私達は行動を何一つ起こせない訳です。もちろん、心が抵抗の姿勢を取る、或いは落胆して何もやりたくなくなった場合には、外部の者がどのように働きかけても一歩も前に進ませることも出来ません。心が凝り固まって何も受け付けなくなると、本人は何も出来ない状況に陥ってしまうこととなります。

他方、私達の身体の中には心による影響を受けない器官も多くあります。心臓その他の臓器がそれです。それらは心が落胆しようとする頂天に喜んでいようと、或いは眠りについていても関わり無く所定の活動を行います。しかし、それらも心の指令を受ける器官と同様、何らかの指示を心とは別のところから受けているものと思われます。その指導的想念こそ、宇宙本源から放出されているものであり、私達が求めている印象の筈です。

これら心とは別に人体の維持に不可欠な生命活動を支えている印象類の流れを自ら探求することがこれからの私達の学習目的になるものと思われます。手ごわい「心」を見つめて、それを本来の位置に据えなおすことによって、それが可能になるということでしょう。

098 As we mature, orders from the brain come automatically; but watch a baby learning to walk. His first attempts are made through the conscious effort of placing one foot before the other. Analyze your own movements. Say your hand has just reached up to brush a hair back from your forehead. You will find when you trace the action that you were first aware of a tickling feeling on the skin. If you analyze this action carefully enough, you will discover that the message telling of the tickling sensation was sent to the brain, which then gave the order to the hand to reach up and brush the hair away. Through habit, most actions become sense reactions; but our so-called sense reactions are intelligently controlled. The things we do now with no conscious thought, were major projects at one time in our development.

098 私達は成長するにつれ、脳からの指令は自動的に来るようになりますが、赤ん坊が歩くことを学ぶのを観察してご覧下さい。彼の最初の試みはもう一方の足の前に別の足を置こうとする意識的努力を通じて行われます。貴方自身の行為を分析して下さい。例えば貴方の手が貴方の額から後ろに髪を撫でようと今、手を伸ばしたとします。貴方がその行為を振り返る時、貴方は最初、頭皮にくすぐったい感じがしたことに気付くでしょう。もしこの行為を注意深く分析するなら、貴方はくすぐったい刺激を伝えるメッセージが脳に送られ、次に脳が手に手を伸ばして髪を後ろに撫でよう命じたことを発見することでしょう。習慣からほとんどの行為は感覚の反応になっています。しかし、私達のいわゆる感覚反応は知性的な制御を受けているのです。私達が今日、何ら意識的想念を持たずにやっている物事は私達の発達過程の中では一時期、主要な事業であった訳です。

【解説】 誕生したての赤ん坊は乳を飲むこと以外、何も自ら行動することは出来ませんが、その後の生長により、誰もが日常生活を苦無く送れるだけの能力を持つに至る訳ですが、その歩みの過程で、肉体を支配する心なるものの拡大が進むということになります。心が増長する前の幼児には生きた神性を見ることが出来ますが、年齢を重ねるにつれ、心の増長が目立つようになり、争いごとや心配事も増えることになります。これらは増長した心が外界と衝突することで起こる訳で、自然と調和した生き方が求められている所です。心の発達により、肉体の支配、更には外観重視の結果、衣服や化粧品の消費・生産が進み、アルコール飲料の生産などは今や一大産業になる程、拡大しています。習慣に流され易い人間の心をターゲットにしたビジネスを目論む社会の仕組みも生まれています。私達はこれまで、あまり分析もしないまま、習慣的に半自動的にやってきた行為も多いのですが、今一度その行動を分析し、是正すべき点の所在を確認して方が良さそうです。

099 This, of course, is but one level of impressions, yet one that is very important for man to understand; for it illustrates the dependency of all life upon thought, or intelligence. It is from this level of impressions that many carnal minds form their limited, opinionated, thought-patterns or habits.

099 このことはもちろん、印象の一つのレベルでしかありませんが、人にとっては全ての生命が想念、あるいは知性に依存していることを理解するという点で大変重要な所です。多くの肉欲の心がそれらの限界に満ちた、頑迷な想念パターン類、或いは習慣を作り出すのはこのレベルの印象類からなのです。

【解説】 本項に説かれているように、これら身体の動きに関する脳の指令と肉体各部の動きの関係は基本的な想念の働きを示すものです。実際にはそれより高次元の想念・印象の働きもあるのですが、私達が長年、心による支配を受けていたのは、このレベルの想念活動であると著者は明かしています。つまりは、肉体の各部位を心がコントロールするという構図です。従ってこれらの仕組みの中にこれまでの私達の問題が潜在していることとなります。言い替えれば半ば自動的に心が外界を判断し、肉体に指示を与え、行動をとる為、十分考察、研究することなく移り行く現象に追われているのが私達なのです。これら習慣的想念活動の他に、更に精妙、深遠な想念活動もあると本項は暗示しています。私達が現象界に捉われなければ、更に深い世界が拡がっているということでしょう。

100 In Nature, this urge for action comes directly from the Cosmic Cause of all creation. She does not arbitrarily try to grow a pine tree from an apple seed, but follows the archetype set down by the Creator. Therefore, the universe moves in orderly manifestation of creation and recreation.

100 自然においては、行動に対するこの衝動は全創造物の宇宙的因から直接やって来ます。自然は勝手にリンゴの種から松ノ木を育てようとはせず、創造主によってセットされた原型に従うのです。ですから、宇宙は創造と再創造の秩序ある現れの中で動いているのです。

【解説】ここに私達人間の本質的な課題と可能性があるように思います。本文にあるように、人間以外の生きもの達には身体を動かす為に「心」が介在することは無いと明確に示されているからです。自然界の生きもの達は宇宙の源泉から直接行動の指針を受けており、私達のような心を介在させていないという訳です。その結果は、私達が見る通り、自然界では秩序ある美しさが表現され、生きもの達はその精一杯の自己表現をし、日常の活動を果たすのに労を惜しむことはありません。どうも日常の仕事を自らの才能の発現として飲んで行っており、そこには死に対する恐れは一切見ることは出来ません。これら彼らの活発な生活ぶりは、地面を忙しく歩き回るアリ達の姿が象徴するように、ただひたすら今を生き、身の危険を顧みることはない典型となっています。何故、かくも彼らは勇敢なのか、その答えは彼らが自らの日々の行動の指令を本文で言う宇宙的因から直接受けているからに他なりません。

101 We, too, are under this law. That is why we are driven by an inner urge to strive beyond our present limitations toward a higher understanding.

101 私達もまた、この法則の下にいます。それが私達が、より高次な理解に向かって自分達の現在の限界を越えようと努力するよう内なる衝動によって促される理由です。

【解説】自然界における他の生きもの達と同様、宇宙から直接もたらされる諸印象から日々の行動の指導を受けることを、私達の目指す本分としなければなりません。それこそがこのテレパシーを自己開発する目的でもあるのです。その為には、やって来る印象を心を通じてでなく、自らより率直に受け止め、従来のように心の差配を経ることなく、行動に移すことが重要になります。印象に従うということです。これには印象を贈ってくれる源への絶対的な信頼が前提となる訳ですが、自然界を観察して分かるように、他のいきもの達は例外なく、自らの生命をその贈り主に委ねていますし、その信頼があつて初めて成立する関係であると思われます。これらのことを理解した上で、私達は次なる章に進むこととなります。

CHAPTER IV

Thought As Energy102

This clearer understanding of the basic working of my mind, awakened me to the realization that impressions came through many different channels. It would now be necessary for me to study each one carefully to see whether it stemmed from a carnal origin, known as effect to effect, or if it were a truly Cosmic impression; coming from the Cosmic Cause to the pure Cause (or Force) within me. 第4章エネルギーとしての想念¹⁰² 私の心の基本的な働きに関するこのより明確な理解は、私に印象類というものには様々に異なるチャンネルからやって来ることを悟らせることとなりました。私にとって、個々の印象を注意深く、それがいわゆる結果から結果として知られるように、肉欲に起原があるのか、或いは真実、宇宙の因から私の中にある純粹は因（或いはフォース）にやって来たものであるかを研究することが今や必要となるでしょう。

【解説】 想念や印象の出所は多様であることを私達はよくよく自覚しておく必要があります。とにかく私達は次々に来る印象をそのまま受容し、いつの間にかそれらが導く世界に浸ってしまうことが多いものです。しかし、それらの源が自らの心や他人の心から発せられたものの場合、私達は進化の道とは離れた場所をさまよう結果になりかねません。小説を読む場合、その描く世界が私達に少なからぬ影響を与えることもその例の一つです。しかし、私達が求める想念や印象は更に高次なものである筈です。それを受入れる為には、私達自身の受信機自体も高度なものでなければ同調できる筈もありません。少しずつですが、自らの感性のレベルを高め、より精妙なものを求める姿勢が大切です。その上で、時として高次な印象も入って来るという訳です。時々刻々入ってくる想念や印象を何らの精査もせずこれまで過ぎて来ましたが、これからはそれぞれが帯びる性格等も注意しながら、その出所を調べる心がけが必要です。これが即ち、想念観察にもつながる訓練の一つでもあります。

103 As we take up the subject of telepathy, or thought-transference, we must learn something of thought itself. To do this requires an understanding of the universe in which we live, for man is a product of Nature; and in his natural mental state, aligns himself with its laws either consciously or unconsciously.

103 私達がテレパシー、想念移動の課題を取り上げる際、私達は想念自体についての事柄を学ばなければなりません。これを為すためには、私達が住む宇宙についての理解が必要です。何故なら、人は大自然の産物であるからです。そして人は自然な精神状態において、意識的或いは無意識に自分自身をこの諸法則に従わせるのです。

【解説】私達が盛んにテレパシーを騒ぐ一方で、私達は想念や印象についての知識は貧しいままの状況です。未来を予測したり、相手の感情を読み取ったりすることが出来る者を崇めるだけで、何一つそれがどのような仕組みで実現するのかまでは、知ろうとしなかったことに改めて気付かなければなりません。この問題を掘り下げ、研究する為には、人間の内側のみならず宇宙について学ぶ必要があると本項は説いています。何より私達の想念や印象は一見、私達の身体の内側だけの話に思いがちですが、その内側こそ宇宙の因にも繋がる大きな意義を持っているということでしょう。この宇宙の因とも言うべき、想念や印象が湧き起こる空間は、物質の根源にも通じる力を有しており、般若心経に言う「空」に似た壮大な空間を指すようにも思っています。

104 To the best of man's knowledge, the universe is composed of three things: Intelligence . . . Force . . . Form. I have used the term intelligence here for lack of a better word. No language on earth possesses descriptive powers to define the true meaning of Cosmic Intelligence. We simply know that out of this Supreme Intelligence emerges all manifestation. Force and Form can be measured; one as an impulse, or energy; the other as a manifestation, or form. But the Creator of both, the Father principle in Christianity, is beyond the comprehension of mortal mind to understand.

104 人間の知る限り、宇宙は三つのものから成り立っています。知性、力、そして形です。私は知性という言葉了他により良い言葉が無い為に使って来ました。地球上の如何なる言語も宇宙英知の真の意味を定義できる表現力を持ってはいません。私達は単に、この至上なる知性から全ての創造物が出現したことを知っているだけです。力と形は計ることが出来ます。前者は衝動、或いはエネルギーとして、後者は現出した創造物、あるいは形としてです。しかし、両者の創造主であるキリスト教で言う父性原理は人間の心の理解を超えた存在なのです。

【解説】 宇宙を構成する3要素を著者は英知と力と形の3つであると説明しています。この内、力（原文ではForce）は物質に秘められたエネルギーとして自然界の潮流をはじめ、惑星の運動や天空の雷鳴等として私達も理解することが出来ます。しかし、「英知」なるものは目で直接見えるという訳には行きません。それを見ようとする努力の末にようやく気付くことが出来るものと言える訳です。この3つの要素を等しく観察することが求められている訳ですが、私達にとっての課題はこの「英知」の存在に気付くことが最大のテーマとなります。形あるものであれば実施に見せ、手に触れさせて相手に認識させることが出来ますし、目に見えないエネルギーも温度の変化や目の前に繰り広げられる様々な現象により、その存在を理解することは可能です。しかし、「英知」については、その存在を各自が研究し、自然界の仕組みを理解して行く中でその存在に気付くものであり、ひとえに各自の探求にかかっていることとなります。しかし、ひとまずはこの英知の存在に感謝し、自らもその子供として英知に依存する生活を送るようになれば、英知との距離も短くなり、より身近な存在になると思っています。全てを知る者、即ち英知に従った生活を送るようになれば、疲れも失敗もない穏やかで豊かな生活に変貌することは間違えありません。

105 Of universal force we know little except that it has two fields of action; attraction and repulsion. These are transformed into energy, which pervades all substance, or form. We recognize force only by the effect of its actions, which in mechanical fields is known as energy; and in psychological studies as thought, emotion, etc.

105 私達は宇宙の力について、只、それが引力と斥力という二つの行動の場を持っているということ以外、ほとんど知ってはおりません。これらの場はエネルギーに変換され、全ての物質、或いは形に行き渡っています。私達は力をその行動の結果から認識するだけであり、その力は機械分野ではエネルギーとして、心理学の研究においては想念や衝動等として知られています。

【解説】宇宙における力の本源が引力と斥力、即ち吸引と反発から成るものであり、その結果生み出されるエネルギーの一つに想念があると本項は説明しています。電気や磁気にはプラスとマイナス、NとS極があるように全ての力の本質はこの2つの対になった性質の要素から成り立っています。よく言われるように水面の波の伝播は各ポイントにある水の粒子が上下に振動する中でエネルギーが隣接する粒子に次々に伝わる現象です。これら振動現象は物質の波のみならず、電気や磁気の波についても当てはまるものでしょう。ここで考えるべきは、私達の想念についてです。想念を衝動の波だと考えれば、その伝播も上述の波の場合と同じような仕組みが考えられます。私達自身の心も含めて、宇宙空間には、想念を容易に伝播する要素が詰まっており、その媒体を通じて想念は容易に宇宙くまなく伝播するというものです。また、明言できる状況ではありませんが、ある種のエネルギーとして想念を見る時、それらは宇宙くまなく伝播する波動と見ることが出来、私達は自分の心の中を一瞬、通過する想念波動を感知することで、想念の内容を理解するというような仕組みかと思われま

106 It is this force that brings into existence, and activates, the atoms of form. But form in this sense is not confined to visible manifestation alone; for the same atoms which make up solid substance, also make up the elements of space. To our present knowledge, there are some hundred odd elements; out of which innumerable compounds and compositions are created. We are living in what could rightly be called a chemical universe; conceived out of Intelligence, and perpetuated by Force. Each manifestation we see about us is the effect of chemical action and reaction. Light, heat, sound, growth and disintegration, are all chemical actions. And believe it or not . . . thought is also a chemical action! 106 形有るものの原子達をこの世に存在させ、活性化させているのはこの力なのです。しかし、この形有るものという意味は目に見える創造物だけに限定されてはいません。何故なら、硬い物質を造り上げる同じ原子達が、宇宙の諸要素を造り上げているからです。私達の現在の知識では、百余りの元素がありますが、その中から無数の化合物と複合物が造り出されています。私達は正しく化学的宇宙と言うべき中で暮らしているのです。即ち、知性の中から生まれ、力によって永続されているのです。私達が目にする個々の創造物は化学的活動と反応の結果です。光、熱、音、生長や分解は全て化学的反応です。そして信じないかも知れませんが、想念もまた、化学反応なのです。

【解説】 人体は細胞レベルでも60兆もの細胞から出来ており、それらは互いにバラバラに存在するのではなく、一人の人体を構成しています。その先の原子・分子の世界になるとどれほどの数が存在するか、見当もつきません。これら全てが本項で言う一つの力 (Force) が由来で造られているという訳です。もちろん、その力は何か特殊は要素というよりは、万物を存在させている力と言った方が良いかも知れませんが、私達は自身も含めてこの化学的世界に生きている訳ですが、文末にあるように私達の想念や印象すらも原子の化学反応だと指摘しています。つまり心湧き立つ素晴らしい印象を持つ時、それらは単に精神的な高揚に留まらず、身体各部の細胞更には周辺環境を構成している原子・分子達に驚くべき作用をもたらす、生命力を与えることとなります。想念自体が化学反応の性質があるとしていることは、想念の伝達や作用その他が他に伝播する時のことを想定すれば、良く理解されるかも知れません。体内に起こる化学変化と想念は密接に繋がっているという訳です。また同時に、私達はテレパシー問題は心霊その他の神秘主義からのアプローチは誤りであることについても明確にして置く必要があります。本講座は想念活動は原子に由来すると具体的な解説をしているからです。即ち、私達の探求の目線は、自らの身体や周辺における原子達に振り向け、そこから来るメッセージに耳を傾けることが必要になっています。

107 We cannot explain Primal Creation from the effects we see about us, neither can we explain the creation of thought except as an activity brought about by the law of affinity. We do not know what causes certain attracting and repelling actions. We must simply accept the fact that such a law exists, and that it does command the combination of chemicals to create a form of energy. It is an aggressive force which radiates in all directions, causing pressure upon the surrounding force-space, thereby creating waves in that element.

107 私達は、私達の周りで目にする諸結果から、原始の創造を説明することは出来ません。想念の創造を親和の法則によってもたらされる活動という以外に言い表わすことは出来ません。私達はある種の引力と斥力が何によってもたらされるのか知りません。私達は単純に、このような法則が存在し、それがエネルギーの形を造り出す為、化学物質の組み合わせを命じているという事実を受け入れなければなりません。それはあらゆる方向に放射する積極的な力であり、周囲の力の空間に対し、圧力を生じさせ、それによってその要素に波を作り上げるのです。

【解説】

私達は各自がどのようにして今日に至ったかについて、考える必要があるでしょう。受精卵を始まりとして今日まで肉体が形成・維持されたことはある程度分かりますが、自分の魂となると何処から来たのかは不確かなままです。同様に私達が放つ想念がどのようにして生まれ、伝播されて行くかについても未知の分野となっています。

本項はそれらの事象の根源として、吸引と反発力の存在について明かしています。私達がこれらを身近に感じる事が出来るのは磁石のN極とS極の間の吸引や反発力ですが、何処からそのような力が生まれるのかについては良く分かっていません。そもそも永久磁石においてそのような力が外部からのエネルギー無しで永続するという事自体、不思議です。

更に進んで想念についても周囲に作用・反作用の影響を及ぼしながら、進んで行く波とすれば、どうでしょうか。日頃、良い想念を取り入れよとする理由は、自身や周囲に想念が与える影響を考慮してのことだとすれば、良く分かります。

108 All thought registers as a vibration, in space. When thought is given to audible expression it create a pitch, or frequency, relative to itself. This same law applies to silent thoughts, for they, too, have a definite vibratory rate which registers upon the sensitive plate of space.

108 あらゆる想念は宇宙の中では振動として記録されます。想念が耳に聞こえる表現として与えられる時には、それはそれ自身に比例した音の高低即ち周波数を造り上げます。これと同じ法則が無言なる諸想念にも適用されます。それらもまた、宇宙の感光板に登録される明確なる振動率を有しているからです。

【解説】ここで著者は想念自体が振動であり、その振動を空間に記録させると説いています。水面における波の伝播のように一過性の振動が空間を伝播して行くというよりは、その空間に記録されると表現されているところに注目すべきです。即ち、各自の想念は空間に記憶されると言った方が良いかも知れませんが、元来、想念は空間の原子・分子に直接作用し、物事をその想念の「思い通り」に実現させる潜在力を有している訳ですから、これら想念が空間に記憶されることによって、現実世界にも多大な影響を与えることが良く分かります。一方、これら残留する想念の中には私達にとって役に立たず、良い結果を及ぼさないものも多々ある訳で、私達はその想念の選択にも注意が必要です。

109 Thought is not sent out in one straight line as a bullet travels from the barrel of a gun. It goes out in billions of straight lines in all directions. We may imagine a thought as a spark of light, with radiations extending as an equal force in all directions; giving the impression of a sphere at any point of its expansion. And like light, a thought vibration once created, will extend indefinitely unless intercepted by some object capable of absorbing and dissipating that particular ray of energy.

109 想念は鉄砲の銃身から打ち出される弾丸のように一本の直線として送りだされるのではありません。想念はあらゆる方向に向けた何十億の直線のように外に出て行くのです。私達は光のスパークのように拡大する過程のどの地点でも球体に見えるような、あらゆる方向に等しい力を広げながら拡大するものとして想念を想像しても良いかと思えます。そして光のように、一旦造り出された想念波動は、そのエネルギー線を吸収し、消失することが出来る物体によって遮られない限り、無限に拡がって行くのです。

【解説】

本項は想念の伝わり方を示しています。私達が発する想念は、言い換えれば私達が発信源となって周囲に想念の波を放出するような訳ですが、それは仮に特定の目的、特定の対象への想いであっても、実際には宇宙全方向に対して発せられるものであると解説されています。

このことは発する本人の想念は誰でも感知できるものであり、およそ秘密の想いというものはありません。ということでしょう。深海深く潜行する潜水艦との交信にテレパシーが使われようとしていたという話も十分可能性がありますし、世の中で重要な発明というものが実は同時期に異なる場所、異なる者から為されることが多いという話も、これら想念の全方位的な進行という特徴を反映しているものと思われれます。アイデアをキャッチ出来れば、誰でも類似した発見が出来ることになるからです。

私達は日常的にある時は自ら想念を発し、またある時は他人の想念を感知することを繰り返している訳ですが、少なくとも想念の持つ潜在的な実現力をよく理解した上で、その取扱いは丁寧にすべきことは言うまでもありません。自ら良い想念の発信者となり、良質な想念を感受することを日常の目標にすべきなのです。

110 The question will now arise; if thought is merely a ray of energy produced by chemical action, what is mind?

110 そこで質問が上がるでしょう。もし、想念が化学反応によって造り出された単なるエネルギーの光線だとすれば、心は何であるかと。

【解説】 私達に対峙しなければならない最大の存在が「心」と言えるでしょう。この心については、常に私達各自の内側にあって私達の抱く想念や肉体の行動を支配して来たことについては良く分かります。しかし、その心の実体はと言うとその先は不明のまま、私達はこれまで過ごして来ました。既に私達は一連のアダムスキー哲学を学ぶ中で心が四感覚から構成されているという説明を受けています。即ち、この説明の延長線上として心自体は四感覚の中樞が存在する肉体の内側、脳にあると推定されます。つまりは頭脳と呼ばれる部位に心があるのかと考えております。一方で具体的な部位として何処にあるかについては、まだまだ未知な部分でもあるでしょう。以前、新聞記事に「心はどこに」という記事（朝日新聞、2007年7月9日）があり、切り抜いて置いたことがあります。昆虫のダンゴムシの生態観察を通じて、脳を持たないダンゴムシもどうやら、パニックを起こしたりするような心があることや、個性があること、また記憶と学習をしていること等が分かって来たというものです。心の問題は、生きものに共通する研究テーマかも知れません。

111 Mind is the medium by which thought is carried from one point to another. Common reasoning tells us that it is impossible for any vehicle, whether it be of vibration or matter, to travel from place to place without a medium of transference. Science, in its study of electrical energy, and light and sound waves, acknowledges various agencies of transference. The medium of light transmission they have named ether. While admitting they do not know the character of ether, science is sure of its existence and certain of the fact that it is diffused throughout all substance; that it pervades all space, and is capable of handing on undulations of various types from one point to another. Yet the only proof they have of the reality of ether, is the effect produced.

111 心は想念が一点から他の地点に運ばれる媒体なのです。一般的な推論では、振動であれ物質であれ、どんな乗り物も移動の媒体が無ければ、ある場所から別の場所に移動することは不可能だとしています。電気エネルギーや光、音波を研究する科学は、様々な移動媒体の存在を認めています。光の伝達の媒体を、彼らはエーテルと名付けました。エーテルの性質を知らないことを認める一方で、科学はその存在とそれが全ての物質に拡散浸透している事実については確信しています。即ち、それが全宇宙に行き渡り、一点から他の地点に向かう様々なタイプの波動を取扱うことができるということです。しかも、彼らが手にしているエーテルの事実に関する唯一の証拠は作り出された結果に過ぎません。

【解説】 想念が波動であるとすれば、想念を伝える媒体が必要ということになります。これに対して本項は「心」が想念を伝える媒体なのだとしています。本項が執筆された当時、想念を伝播する媒体を妙なる存在という意味でエーテルと呼ばれており、本項の記述はそれを踏まえて描写されているのです。想念が心の中を通過する際に心に引き起こす衝動によって私達の心はその想念を感受する訳ですが、本項では更に話を進めて想念は心を媒体として伝播するとしています。著者がどのようなイメージを持って本項を説いているか、今となっては確かめようもありませんが、ある意味、想念は伝染するとも言えるようです。例えば国と国の争いがやがて戦争へと拡大して行く時、一般大衆の間の憎しみの想念が国中に広まる過程のこと等を想定すれば、分かりやすいのかも知れません。

112 In like manner, because we have abundant proof of the transmission of thought from a distance, we must admit a universal medium for thought transmittance. We cannot define the characteristics or composition of mind, we only know from effect that, like ether, mind permeates all space and all substance; and that it is capable of passing through itself those thought-waves which are so much finer than the vibrations of light. Whatever mind is, it must be composed of highly charged particles; and, except for fineness of character, be much like the more concentrated substance composing material forms. For only by means of a relay, can energy be carried from place to place.

112 これと同様に、私達も遠方からの想念の伝達に関する豊富な証拠を持っておりまして、私達は想念伝達に対して宇宙に広がる媒体の存在を認めなければなりません。私達は心の諸性質や構成を定義することは出来ず、只、エーテルのように心が全ての宇宙空間と物質に浸透していることを知っているのみです。また、それが光の振動よりもはるかに微細なそれら想念波動をそれ自身を通して通過させられることもです。心が何物であれ、それは高電位に荷電した粒子群から構成されているに違いありません。そして、それが繊細な性格であることを除けば、物体を構成するより濃密化した物質に近いに違いありません。何故なら、リレーの手法によってのみ、エネルギーは場所から場所に運ばれ得るからです。

【解説】 本項では心が宇宙全域に浸透し得る荷電粒子群であると明確に解説しています。これらの事象は未だ地球の科学では論議されていない領域なのですが、著者アダムスキー氏は進化した他の惑星人から学んでいた部分なのかと思えます。詳細は分かりませんが、実は私達の心は自分の肉体の内側に留まるものではなく、発達次第では宇宙奥深く浸透し得る力量を持っているということでしょう。しかし、ここで考えるべきは私達の現状です。おそらくは未熟な私達の心はせいぜいが自身の肉体領域だけでも精一杯であり、それ故に、感受出来る想念のレベルも低く数も少ないということでもあるということです。心を本来の姿に発達させることが出来れば、より宇宙的なアイデアが増すという理由は、文字通り、自身の心の拡がりが増すからに他なりません。

113 To demonstrate this relay, let us set up a row of dominos on a table, leaving a space between each one two-thirds the length of a domino. Now, using our finger to exert a slight pressure we energize, or propel into action, the first domino, which falls forward striking the second; thereby imparting its acquired energy to that domino. The second, as it falls, imparts its energy to the third, and so on until the last domino strikes the table; their total energy now having been transformed into sound and heat. The initial action here was produced by the forceful contact of two objects, our finger and the first domino, then conferred to the other objects by a system of relays.

113 このリレーを明らかにする為に、テーブルの上にドミノを一行に並べましょう。各々ドミノの高さの3分の2の距離を残して並べるのです。そして、私達の指を使って最初のドミノにわずかな圧力を加えるか、動かそうとします。するとそれは前に倒れて二番目に当たります。そうすることで次のドミノに獲得したエネルギーを伝えます。二番目のものは倒れることでそのエネルギーを三番目に伝え、最後のドミノがテーブルを叩くまで続きます。それらの全体のエネルギーは今や、音と熱に形を変えられたのです。その最初の行動はここでは、私達の指と最初のドミノという二つの物体の力強い接触によって作られ、その後リレーの体系によって他の対象物に与えられたのです。

【解説】 想念が伝播する様子を著者はドミノ倒しを例えにして説いています。空間に充満する分子・原子がそのような想念エネルギーに対する感受性と伝播力を持っているという訳です。また、想いが伝達する仕組みもこの例示に示されています。地球上に現れた高い魂の伝えた教えも、代々の人間が媒体となって承継、伝承によってその後の人々に伝わって行くことにも当てはまるものと思われます。しかし、ここで重要な点は、並べられた多数のドミノの駒の一つでも、その役割を理解せず、勝手な行動をとったとしたら、どうなるかということです。一人一人の役割をきっちり果たすことによって始めて後世に大切なことを伝え残すことが出来るということでしょう。

114

This is the way thought is transferred from one point to another. A thought-ray of energy, which is nothing more than a charged particle created by the contact of two or more units (remember, thought is a chemical action), is shot out imparting its energy to other particles by exerting pressure upon them. This continues indefinitely, or until this force once generated, is picked up by some instrument capable of changing its character. Energy of any type cannot be destroyed; it can only be transformed from one form to another. Thought, being a type of energy, will travel through space until it is put to some use.

114 これが想念が一地点から他の地点に移送される方法です。二つ或いはそれ以上の単位の接触によって造り出された荷電粒子以外の何物でもない想念のエネルギー線（想念は化学的作用であることを覚えておいて下さい）は、外に向かって発射され、そのエネルギーを他の粒子に圧力を加えることによって伝えます。これは、この一度生成された力が何かその性質を変えることが出来る何らかの装置によって取り上げられるまでは、無期限に続きます。如何なるタイプのエネルギーも破壊されることはなく、一点から他点に移送されるのみです。一つのエネルギーである想念はそれが何かに利用されるまでは、宇宙を旅するのです。

【解説】 未だ私達が自覚していない分野に本項で言う想念の実態があります。今日、遺伝子解析等、アダムスキー氏が述べていた細胞の記憶としての意味づけも含めて、DNA解析技術は進歩して来ましたが、まだ想念についての解明は進んでいないように思われます。とは言え、私達は自ら発する想念の実態について、装置に頼らず自力で実態を把握することが大切です。想念については放出し、また感受した本人が最も内容を知っている訳で、従来はそれがどのような作用を自身や周囲に与えているか気付こうとしなかっただけなのです。ある意思が想念として心に抱かれる時、本項によればそれは心の中に何らかの反応として作用し、その結果、荷電粒子が生成され、それが次々に伝播して周囲に伝わるのだとしています。即ち想いは心の中から外界に荷電粒子の波動として放出されるという訳です。また、それらの波動はその帯びる内容に沿って心その他の対象物に影響を与えるでしょうから、私達は自分が無防備に感受し、無神経に発する想念に注意する必要があります。自らが同調すべき想念の取捨選択も良質な番組を提供してくれる放送局に周波数を合わせるのと同様に、注意深く行う必要があります。

115 From this we can see that there is no center to the universe; no Throne from which all knowledge is broadcast. Each action is the center of the universe unto itself; for radiations going out from it travel in all directions, and fill space. Since everything, both tangible and intangible (in this case we are speaking of thought), comes out of the one Cosmic Cause, we can safely assume that there is no action that is not universal.

115 ここから私達は宇宙には中心が無いこと、全ての知識が放射されるような王座は無いことが分かります。行動の一つ一つがそれ自身に対する宇宙における中心なのです。何故ならそれから発せられる放射物はあらゆる方向に向かって旅し、そして宇宙を満たすからです。触れられるものと触れられないもの（この場合、想念について述べているのですが）を含めて、すべてが一つの宇宙的因から発せられている故に、私達は宇宙的でない行為は存在しないと思って差し支えはありません。

【解説】宇宙における個々が発する想念が、どのように宇宙全体に影響を及ぼしているか、本項は私達に示しています。結局、想念や印象が全ての知性、物事の形成力の源であり、それ自体は宇宙本来の英知、言い換えれば創造力を有しているという訳です。従って発せられた想念は宇宙を進行する中でそれに接する環境に対して様々な影響を与えて行くこととなります。このことについては、私達は各自で容易に確かめることが出来る筈です。想念・印象の持つ潜在的エネルギーは私達の未来を決定出来る程、発した本人に対しても影響を及ぼします。またよく聞かれるように、各地に聖地と呼ばれる場所がありますが、そうした所は何らかの原因でこのような想念・印象が多く集中する場所ではないかと考えます。人間の感性が高まる場所、宇宙からの印象波動が比較的集中するような場所であるのかも知れません。

116 Let us turn to the story of Creation for conformation. Careful reading of the first chapter of Genesis (or the first creation), tells us that creation was without form, meaning it was then only a thought forming in Divine Mind. In this chapter we find every detail scrupulously planned: the grasses, herbs, and trees yielding fruit; the waters bringing forth abundantly the moving creatures that hath life, and the fowl that may fly; the living creatures after his kind, cattle, and creeping thing and beasts of the earth after his kind. . . . Then God said, let us make man in our image, after our likeness.

116 創造の構造を理解する為、創造の物語に目を向けましょう。創世記の最初の章（或いは原初の創造の部分）を注意深く読むと、創造は形が無かったことが分かりますし、このことはそれは神聖なる心の中に作り上げられた一つの想念でしか無かったことを意味します。この章で、私達はあらゆる細部が綿密に計画されていたことを見い出します。草や草木、果実をもたらす木々、命を持つ多くの動く生き物をあり余るほどもたらす水、空を飛ぶ鳥等、それぞれの生きるものたち、家畜や地を這うもの達、地上のそれぞれの獣達です。それから、神は言ったのです、人を私達のイメージに、私達に似せて造ろうと。

【解説】 誰もが知る創世記の記述です。この物語には宇宙創造の仕組みが組み込まれていると著者は明かしています。おそらくは他惑星人からも本項以降、著者が述べる内容について確認されているものと思われる。実はそれ程に太古から伝えられているものの中に、真理が埋め込まれているということでしょう。さて、本項で重要なことは、最初、私達人間は創造主の聖なる心の中に描かれたと記されていることでしょう。具体的な人体の構成、器官の機能その他、細部に至るまで詳細に創造主が吟味しイメージを造り上げたという訳です。何か物を設計したことのある方は分かると思いますが、物を作る為には材質、寸法を記した設計図が先ず必要です。またその機能を確認する為に様々な机上検討が為されます。実際に物が作られる前に、十分な検討を行うことで確かな製品が出来上がります。それと同様に、私達は創造主によって設計されたということです。人間の持つ複雑な機能を考えれば、創造主は実に偉大な知性であるかが分かります。その上で、本来、所定の目的を持って私達が造られたのであり、各自は自分の誕生の目的を知ろうと努力し、本来の目的に沿った生き方を歩む必要があるのです。

117 In the second chapter of Genesis (or the second creation), we are told how the mists went up from the earth and watered the whole face of the ground, causing the seeds to grow; how out of the ground the Lord God formed every beast of the field and every fowl of the air, and how the Lord God formed man of the dust of the ground, and breathed into his nostrils the breath of life; and man became a living soul. So the Creator, following the patterns that had been formed and pronounced "good," from formless void, brought into manifestation, heaven and earth and all life thereon.

117 創世記の第2章（または第2の創造）において、私達は如何にして霧が地表から上昇して全ての地表を潤し、種を発芽させ、その地面から主なる神が野原のあらゆる獣と空のあらゆる鳥を造り上げ、そして主なる神が如何にして地の塵で人を造り、その鼻の穴に生命の息を吹き入れられ、人は生きる魂となったと伝えられています。ですから、創造主は造られ、「良し」と宣言されたパターンに従って、形の無い空間から天と地とそれらの上の全ての生き物を創出したのです。

【解説】 聖書に記されている万物創造の過程です。既に私達はアダムスキー氏の他の著作から、現在の地球人の祖先について聞かされているところです。それによれば、地球は数多くの地殻変動の歴史を辿っており、結果として各惑星におけるならず者対策として、あてがわれた惑星であったということです。即ち、聖書に書かれているこの物語は宇宙空間における共通した創造の事象について象徴的に記述されたものと言えます。その内容について、確かな検証は出来ませんが、地中深く存在する石炭に代表される太古の地球の植生を見ても、シダ類や巨木等、過去に地上で多くの高温多湿を好む植物が繁茂していた事実からも、かつて地球には湿潤な気候が支配していたことが分かりますし、本項で著者が明かす物語の内容を裏付けています。映画「天地創造」は、この万物創生の物語を再現していました。長年月の間に起こった進化の過程を含めて、創造作用の全てをわかりやすく、象徴的に伝えているのが、聖書の創世記ということになります。

118 This story of creation is not confined to our small planet, as we have been led to believe, but encompasses the entire Cosmos. All creation, from the firmament or sky (ether), through the varying states of density to minerals, was first a thought followed by the forming of matter (atoms) to produce the effect. Matter in this sense is not restricted to tangible manifestation, but refers to the Mother principle in creation. From the Father principle, or Creator, and the Mother principle composed of force, or matter, comes the Son, or all manifestation.

118 この創造の物語は、私達がこれまで信じさせられていたように、私達の小さな惑星に限定されるものではなく、全宇宙を包含するものです。天空あるいは大空（エーテル）から、様々な密度状態を通じて鉱物に至る全ての創造物は最初、想念であり、その後に結果を作る為の物質（原子群）の形成が続きました。この場合、物質は手に触れられる創造に限らず、創造の母性原理をも示唆しています。創造主すなわち父性原理、そして力或いは物質からなる母性原理とから、その息子即ち全創造物が生まれます。

【解説】ここでのポイントは私達自身も含めて、あらゆる創造物の始原は想念であったということかと思えます。無から何かを造り上げる際には、それをイメージしたものがまず必要です。その最初の状態がアイデア・想念という訳です。おそらくその想念というものは、その威力において大きな差があるとは言え、日頃私達が発しているものと大差の無いものではないかと考えています。物質界には絶えずそのような想念に呼応して反応する知性が備わっており、想念を出発点とする創造作用が備わっているのです。今の時季（6月末）、木々は連日の雨の恩恵を受けて一段とその緑を増しており、毎朝、街路を歩くだけで創造作用を見届けることが出来ます。こうした自然界の活動は地球に限ったことではなく、宇宙全体に及ぶ訳で、それを支える諸法則は生きた創造作用の証でもあるのです。

119

From this I now understood that Man is a thought in action! The original prototype was projected from Cosmic Intelligence; hence, Man is but an avenue through which Divine Thought expresses.

119 これにより、私は人は活動する想念であることを理解しました。最初の原型は宇宙の英知から投影されたのであり、それゆえ、人は聖なる想念が表現する大通りでしかないのです。

【解説】 私達人間は創世記に記されているように、創造主がチリ（固体微粒子）から創った人体に息を吹きかけた結果、生けるものとなりました。この息に相当するのが本項で言う想念に当たります。即ち創造主の意思が人体に行き渡ることによって生けるものとなった訳で、私達はその創造主の意思（想念）を受け継いでいるということになります。天地創造がいつ起こったかについて、私達は知る所ではありませんが、脈々とその際の創造主の意思は私達の中に息づいているという訳です。そういう意味から、私達の本質的な意味は、肉体を持つということよりは、こうした想念を通過させ、その意思を伝えることにあることとなります。想念の通り道ということなのです。

120 This may seem startling to some at first, but remember all creation is Divine Thought in action. Therefore man, with his reasoning mind, "given dominion over all the earth," possesses unlimited potential. Owing his very existence to this Cosmic Intelligence (or God), man instinctively feels a kinship with all life. And, the evolution, or refinement, of his thinking is the path by which the Prodigal Son eventually returns to the house of the Father.

120 このことは人によっては最初驚くべきことのように思えるでしょうが、全ての創造は聖なる想念が行動したものであることを忘れないで下さい。それゆえ、人は理性ある心を持ち、「全地上の支配権を与えられ」、無限の可能性を持つのです。この宇宙英知（神）への自身の存在に起因して、人は本能的に全ての生命に親近感を感じます。そして人の考えの進化や洗練は放蕩息子が遂には父の家に帰る道程でもあるのです。

【解説】 引き継がれている創造主の想念が何処にあるかについてまで、本項は述べてはおりませんが、いずれにせよ、DNAその他の各細胞の遺伝分子群の中に継承されているのかも知れません。各分子の記憶として、知性が生きていた方がよいと思われまます。このように自らの細胞、更には自分自身の中に万物の始原である創造主の意思と知性が宿っているということになると、人はもはや他に何も必要なく、ただ原点復帰を目指すだけで良いことが分かります。このことを如何にして自覚し、気付くことになるかが問題で、自分自身の中にある宝物に気付くことが当面の課題ということになります。

121 To digress for a moment: the space people, understanding that man is Divine Thought motivated by the Divine Breath (for ether is Divine Creation), feel a reverence for all humanity. This is the explanation of the statement in INSIDE THE SPACE SHIPS which has proved so puzzling to people. Practical Earthlings have questioned the philosophy of accepting death for themselves rather than the taking of human life; but the visitors know that when another stands before them, they are in the presence of the Living God.

121 少しの間、本題からそれますが、宇宙人達は人間は聖なる息（エーテルは聖なる創造物である故）によって活性化された聖なる想念であることを理解していますので、人類全てに対して敬意を感じます。これは人々に当惑を与えた「INSIDE THE SPACE SHIPS（空飛ぶ円盤同乗記）」における言及への解説です。現実的な地球人達は人生を迎え入れることよりも死を受け入れる哲学に対し疑問の声を上げています。しかし、訪問者達は他人が自分達の前に立つ時、自分達は生ける神の面前に居ることを知っているのです。

【解説】

私達と他惑星人がどの点で最も異なるのか、本項は対象に対する視点にあると具体的に指摘しています。外見上も内部の肉体構造上も何ら違いがない両者ではありますが、物事への視点は大きく異なるという訳です。

論理的に突き詰めて行けば、当然の見解になるのですが、どうやら私達地球人は一時期真理に沿って学んでいても、それを他の分野まで適用しようとして来なかったということでしょう。

生活の全てを終始一貫その具体的な視点に基づいて整理すれば、自ずと得られる結論でもあるのですが、これには長年培った心が抵抗するという訳です。その最初の一步である私達自身、そして他の生きもの全てに共通した創造主の息吹がそれぞれ受け継がれていることを深く考えれば、全ては良い方向に進むに違いありません。

122 They do not condemn us for our shortcomings, for they know we are behaving according to our understanding. Where we now are in Cosmic growth, they once were; where they now are, through the natural evolution and refinement of our thought patterns, we will be. So it behooves us to remember our Divinity at all times; and try to guide our minds carefully.

122 彼らは私達の欠陥をとがめることはありません。彼らは私達が自分達の理解に応じて振る舞っていることを知っているからです。宇宙的成長において現在、私達が居る所に彼らもかつては居たし、彼らが今居る所は自然の進化と私達の想念パターンの精化を通じてやがて私達が到達する所です。それ故に私達は常に自身の神性について覚えて置かなければならず、自身の心を注意深く導くよう努力すべきなのです。

【解説】

アダムスキー氏がデザートセンターで円盤から降り立った金星人オーソンと会見してから、既に60年以上が経過しています。この時を契機に積極的に宇宙普遍の生き方が伝承され、日本でも数多くの書籍が出版されて来ました。

しかし、本当の意味で私達はアダムスキー氏を通じて伝えられた人間の課題に未だしっかり向き合っていないのではないかと思っています。氏が亡くなり、後継となるべきグループも今日では姿を消してしまいました。一方では、世の中、オカルト的な予言、神秘的な啓示をセンセーショナルに伝える破滅予言の本が溢れているのが現状です。

このような状況の中、私達は様々な「にせ預言者」の間を掻い潜って真の宇宙的インスピレーションに辿り着かなければならない訳です。その中で多くは、本項で言う理解不足の故に自分の嗜好に合った予言に飛びつき受入れてしまうのかも知れません。

確かに昨今の状況では、地球自体の存続も危ぶまれることは確かですが、こうした混乱の中だからこそ、改めて自分の理解力を見つめなおし、自分が日々取り込んでいる想念が妥当なものであるかをチェックすることが必要なのです。

123 Since each thought registers a certain pitch, or frequency, relative to itself, we will naturally find different levels of thought. The level of thought-frequency into which we tune daily depends entirely on our understanding. For remember, like attracts like. While at times we may contact either a higher or a lower level, our minds normally move in the ruts in which our understanding has placed them.

123 各々の想念はその想念に比例したある種の高低、或いは振動数を記録に留めるために、私達は想念の様々なレベルに自然と気付くようになります。私達が日常、合わせる想念振動数のレベルはことごとく、私達の理解力に依存しています。類は類を呼ぶということを覚えておいて下さい。一方では、時たま私達はより高い、或いはより低いレベルと接触することもあります。私達の心は普通、私達の理解力が敷いた轍（わだち）の中を動いて行くのです。

【解説】

感受性の鈍い私達も時々はこれまでとは違う印象を持つに至るのは、想念が通過する際に残留させた振動に私達が触れるからだとしています。通常、高次は振動を持つ想念は私達には感知出来ないレベルのもので、想念自体、通過する媒体にその周波数に比例したより低周波の振動を残すという意味かと思われま

しかし、私達はこれまで志向して来た種類の想念・印象しか容易に受け入れようとしな

本項ではそのような習慣的な生き方で良しとしているのではありません。私達に習慣の危険性を指摘し、もっと視野を拡げて高次な想念を受入れるよう、努力することを求めています。

124 Most of the time, the only thoughts we are aware of, are those familiar ones amassed through our senses and experiences. Yet, gems of universal wisdom are interspersed in our habitual thinking.

124 大抵は、私達が気付く唯一の想念は、私達の諸感覚と経験を通じて蓄積されたものと馴染みのあるものに過ぎません。しかしそれでも、宇宙の英知の珠玉は、私達の習慣的な思考の中にも散りばめられています。

【解説】自ら取り入れる想念・印象は長年慣れ親しんだ波長のものになり易い訳です。このことは仮に悩みや憤り等、一時的なマイナスの状況に陥ったとしても、それが数日も続けば、以後、その種の想念波が自身を形成することにもなりかねません。私達はこれ以上、状況を悪化させない為にも、自身の発する想念傾向をチェックしておく必要があります。このように長年月の経緯から、ある意味救いがたい私達ですが、本項は我々の時々の想念の中にも小さいながらも宝石のかけら、宇宙的素質のものが含まれていると諭しています。私達の救いは実にこの印象のかけらにこそ有る訳で、それが次なる進歩のヒントになるという訳です。従って、これに気付くことが大変重要であり、私達は心して日頃の想念・印象の中にわずかに光るヒントに注意して過ごす必要があるのです。このことが著者が度々述べる「警戒」の意味でもあります。

125

Let us say we are going about our daily routine, our minds quietly following their customary pattern of thought. From out of the "blue" will come a thought totally foreign to our normal thinking-something of a universal nature. The majority of people, not comprehending the magnitude of what is happening, will often break the flow with the startled inquiry, "Where did that come from?" Whereas, if they had quieted their carnal mind and listened to the small still voice within, vast vistas of understanding might have been unfolded.

125 例えば、私達が日常の決まりきった仕事に出掛けるとします。私達の心は黙って、いつもの習慣的な想念パターンに従っています。突然青空から降って湧いたように、私達の通常の考えとは全く異質な想念、宇宙的な性質を持つ何かがやって来ます。大多数の人々はその時、起っていることの重大性に気付かず、しばしばびっくりして「それは何処から来たのだろうか」と問いただしてしまうことで、その流れを壊してしまうのです。しかし一方、もし人々が自身の肉欲の心を静めて、ひそかな内部の声を聞こうとすれば、広大な理解の展望が解き明かされたかも知れないのです。

【解説】私達が進歩するきっかけは時折やって来る宇宙的な想念・印象でしかありません。その貴重な機会を無為にしない為に、私達の心をどのように保っておくべきか、本項は説いています。普段とは違ったアイデアが心を通じた途端、私達は通常、その意味をいぶかい流れを阻害してしまいます。その発想を自分の生活や仕事に活かし切れるかが、その人の進歩を左右すると言っても良いほど、重要なものです。また、このようなひらめきは、各人が精進して行く中で、自ずと頻度が増えて来る訳で、学習者である私達は贈られるアイデア、解決策をそのまま受け入れ、実生活に応用して行けば良いのです。そうする中で、一つの実現体験が得られれば、次々にそれらを受け入れるコツが分かり、やがては何ら苦勞もなく、それらインスピレーションに従う生き方が出来るようになります。

126 By this I do not mean we should accept every unusual thought which enters the mind as being of a universal nature; for as we progress in this study, we will learn that thought comes from many different sources. We have been accustomed to thinking of thoughts as coming only from other human beings; when in fact they emanate from Cosmic Cause, from the very atoms of our bodies, and from all phases of nature. It is obvious therefore, that man should be extremely selective about the thoughts he entertains in his mind.

126 このことで私は私達が心に入って来るあらゆるいつもと異なった想念を、宇宙的性質を持つものとして受け入れるべきだと言っているのではありません。何故なら、私達がこの学習を進めるにつれて想念は多くの異なる源から来ることを学ぶことになるからです。私達は想念は他の人間から来るように思い馴らされて来ました。しかし実際には、想念は宇宙の因から、また私達の身体の中のまさに一つ一つの原子から、そして自然の全ての側面から発せられています。それ故に、人は自分の心を喜ばず想念については極めて厳密に選択する必要があります。

【解説】湧き起こる想念・アイデアが何処を起源としたものであるか、私達にとって次なる課題はそれを見極めることです。この地球には過去何十億年もの好ましからざる歴史もあり、また各自の体験内容も他人に誇れるものでもありません。自身の心が自己を正当化しようとするあまり、作り出す言い訳も多くある訳です。こうした中で真の宇宙的想念に巡り会う機会は当初はそう多くはないのです。そこでその想念の価値がある訳で、私達はまずはやって来る想念・アイデアを大切に迎え、その上でその起源を知ろうとする姿勢が必要だと考えます。それは私達が持ち望んでいたものか否か、心に浮かぶ想念に気持を寄せる中で良質なものであるかは直ぐに分かる筈です。もちろん思い通りの行動が望ましい訳ですが、その前提としてその者がどのような想念・思考を良しとしているかが、実はそれ以上に重要だと考えています。

127 Here is one more example of how help may be received unconsciously, which we all have experienced at some time; let us say our minds are struggling with a problem. We have studied it from every angle, and still the solution evades us. We may even be ready to give up . . . when, suddenly the answer is laid before us.

127 ここに如何にして援助が無意識の内に受信され得るかのもう一つの例があり、私達全てが時折、体験しているものです。それは、私達の心がある問題で奮闘しているとします。私達はそれをあらゆる角度から研究して来ましたが、未だに答えは我々をすり抜けています。私達もう諦めようとも思ったその時、突然にその答えが私達の前に置かれます。

【解説】

私達各人が問題を抱えているという本項の事例は、私達にとっては大変馴染みのあるテーマです。しかし、多くの場合、私達は容易には解決に至らず、その間悶々と暮らすことも多いものです。

しかし、それに対する解決策は、その問題解決に向けて長時間過ごした後、私達が最終的にその問題解決を諦めかけた瞬間にやって来るのが実状です。

私達が意識しない状況の中に解決策は提示されているという点が重要な所です。通常、私達は自分（即ち心）の経験（記憶）の中で、何とか解決策を模索するのですが、真の解答は宇宙的な源泉から湧き出たものである筈です。その源泉に波長を合わせることを最優先にすべきで、心の乏しい経験では解決策にならない事例も多いということでしょう。

ひたすら宇宙の源泉からのメッセージに耳を傾ける取組み姿勢が大事という訳です。

128 This is no mysterious extrasensory perception; but an unconscious tuning in to universal knowledge. The student, understanding the law he is employing, will control his carnal mind and allow the solution to come to him. This information has been verified by the space Brothers.

128 これは神秘的な超感覚的な知覚などと言うものではなく、宇宙的な知識への無意識の同調作用なのです。学習者は自分が用いている法則を理解すれば、自分の肉欲の心を制御して解決法を自分にやって来させるようにするようになります。この情報は宇宙兄妹達によって実証されて来ました。

【解説】

自分の心を統制することが問題解決に向けた全ての始まりです。

私達の心は結果の世界にのみ重心を置いている訳で、結果を生み出す因の世界までの関心は薄いのです。それを宇宙本体から来る印象の方向に関心を向けさせることから始める必要があります。

しかし、どのようにして心の関心を常日頃、宇宙の本源に向けて置くかについては、各自の工夫が要るところです。それには先ず、自分自身の肉体各部、手や腕その他をよく見つめ、それらの内側でどのような生命活動が行われているかを知ろうとすること、更にはその活動の中に宇宙本源の働きを観るように努めることです。

私達はこれら宇宙の真っ只中に暮らしていることは間違いありません。その中に暮らしていながら、自分が棲んでいる家の美しさに無関心であることが最大の問題なのです。

Summary of Part One

129 This first part is very important, for it is the foundation for the other two that are to follow. It should be read and reread until this knowledge becomes a part of you. 第1部要約¹²⁹ この第1部は大変重要です。後に続く他の2部にとって基礎となるからです。この知識が貴方の一部となるまで何度も読み返されるべきものです。

【解説】 私達がテレパシー能力を身につける上の基本事項がこの第1部に全て網羅されているという訳です。とかく私達の心を取り扱う分野や、他にもない自分を研究と訓練の対象とする為、取組みには一段の工夫が必要です。つまり、分からない者が如何にして自分を成長させて行くかが問題となるからです。それには本項で著者が説くように繰り返し本文を読むことが薦められています。つまりは十二分に記されている内容を自分自身に染み込ませることです。一方、そのことは単に本文の文章そのものをまる暗記出来ていれば良しとするものではありません。よく見かけるのは長年アダムスキー哲学を学んで来たという方々の多くが、「知識」においては実に詳細は事柄を知っており、また哲学の教義について十分な知識を有しているのです。しかし、それだけでは不十分なように思われるのです。問題は日々の生活の中で本文で記されている事柄に沿って自分の心をどのように訓練しているか、宇宙根源から来る印象に如何なる時もスタンバイ出来ているかです。得られたアイデアを自らを通じて発現しているかが重要なところではあります。

130 Disciplining the senses is the first step you must take. They should not master you any more than do the hands and the feet. Our extremities do not suddenly develop a will of their own, and start acting independently. They obey the messages from the mind.

130 諸感覚を躰けることは、貴方が最初に取り組まなければならない一歩です。感覚は手や足以上に貴方を支配すべきものではありません。私達の末端手足は突如として自らの意思を発達させたり、個別に行動し始めたりする訳ではありません。それらは心から発せられたメッセージに従っているのです。

【解説】

私達は感覚に私達自身を支配させてはならないということです。その為には、感覚こそ私達が訓練する対象としなければなりません。感覚は私達の手や足と同様に私達にその感受した情報を伝達するのが本分であり、その意思を押し付けて私達を支配するようなことがあってはならない訳です。

今までの私達はうわべだけの感覚情報に支配され、自己の生き方をも感覚の好き嫌いによって左右されて来た訳で、そこからの脱却を先ず図る必要があるのです。

テレパシー開発の課程の中で、最初に取り組む内容が既存感覚を従順にさせる訓練です。

131 Our senses of sight, hearing, taste and smell should be nothing more than conveyors of information to the brain, not the autocratic rulers of our lives. They should be our servants-not our masters. As you study these four senses, you will find they continually exalt their position in the scheme of life, belittling all that they see about them. Do not let this happen.

131 視覚、聴覚、味覚及び嗅覚から成る私達の感覚は、脳への情報の伝達人でしかなく、私達の命の独裁的支配者ではありません。それらは私達の召し使いであるべきで、主人ではない筈です。貴方がこれら四つの感覚を研究するにつれ、それらが見るもの全てを軽視することで、生命の図式における自らの地位を常に押し上げようとしていることを発見するでしょう。このことを起らせてはいけません。

【解説】 自らをより上等なものとする為には、相手をけなすことが手っ取り早い方法です。そういう意味では、私達の感覚は対象の欠点を見つけることで、感覚自身を含めた自己をより優位な存在に仕立てようとする訳です。しかし、アダムスキー氏はここに既存の感覚の大きな問題があると私達に説いているのです。その意味する所は何処にあるかを私達自身で考える必要があります。それは「謙虚さ」ということです。対象を前にする時、いかなるものに対しても尊敬感を持ち相手の神性に着目するということでしょう。かつてアダムスキー氏は同乗記の中で金星や土星の人々の創造物に対する驚くべき尊重の姿勢を述べています。私達から言えば、はるかに進化した人々が当然見下してもよさそうな私達に対し、憐みや尊重の気持ちを持って見守ってくれていることは、大いに参考にすべき事柄です。先ずは他者を裁く各感覚の統制、訓練を實踐すべきだということです。

132 Observe nature with compassionate understanding, realizing that all forms are supported by the same Divine Breath of Life which gives you being. For within this Breath is contained the motivating Force of the vast Cosmos. It is this one Force, permeating all manifestation, which gives form the ability to fulfill its purpose.

132 自然を暖かみのある理解で観察し、全ての形あるものが貴方を存続させているのと同じ聖なる息によって支えられていることを認識することです。何故なら、この息の中に広大な宇宙の躍動を与えるフォースが含まれているからです。全ての創造物に浸透して、形あるものにその目的を成就する力を与えるのは、このフォースです。

【解説】 ヨガ等では呼吸法を大切にしますし、聖書にも土から創造された人体に神の息が吹き込まれることによって生命あるものになったと記されている程、呼吸には様々な意味合いがあると言えます。本項では「聖なる息」について述べられていますが、これは単なる私達の呼吸活動のみを言い替えているわけではありません。おそらくは私達の肉体の呼吸活動と呼応して何か目に見えない宇宙的な生命力も併せて肉体内に取り込まれており、それが私達の肉体を支えているということかと考えます。つまりは日頃、私達が無意識に行っている呼吸作用と呼応して全生命共通の「聖なる息 Divine Breath」が私達の中に取り込まれることが肉体の呼吸作用の大きな目的なのかも知れません。このことはまた、同じ大気の下、同じ聖なる生命の海の中であって、あらゆる創造物が同じ創造主の聖なる息を吸っているということにもなります。

133 So you can see there are no divisions. You must work until you honestly feel a oneness with all creation; for sympathetic feeling is the avenue of communication. This must be established before success in thought-transference can be expected. All Nature expresses the Creator in a free, unhampered manner, and you must strive to emulate her. A good example of what is meant can be found in the message given by the Masters in INSIDE THE SPACE SHIPS. You will notice they compared their way of life to ours, yet at no time did they pass judgment on us for our shortcomings.

133 その結果、貴方は分裂というものは一切無いことが分かります。貴方は正直に全ての創造物と一体になる感じを得るまで力を尽くさねばなりません。何故なら共感的なフィーリングが意思疎通の本道であるからです。このことは想念転移において成功が期待される前までに確立されていなければならない事項です。全ての自然は自由で妨げられることなく創造主を表現しており、貴方は自然を見習おうと努力しなければなりません。その意味での良い例が空飛ぶ円盤同乗記の中の長老によって授けられたメッセージの中に見出せます。長老達は彼らの生き方を私達のと比較しましたが、一度も私達に対して私達の欠点を非難しなかったことに貴方は気付かれることでしょう。

【解説】 自然観察が重要であることは繰り返し述べる価値があるように思います。本項にも記されているように、その観察姿勢は究極には対象と一体になれる程、気を入れたものであることが必要です。例としてしばしば挙げさせていただくのは昆虫の細密画を長年手掛けられていた熊田千佳慕氏(1911-2009)のことです。日本のファールブル画家と言われる程、その描く絵本の昆虫は生き生きとしていて、各々個性を持つような顔付きをしています。それは熊田氏が常に昆虫と同じ目線で草むらに身をかがめて虫達を密接に観察し、その後、アトリエで自分の目に焼き付けた虫達の姿を線画で描く作業です。迷いの無い線、消しゴムを一切使用しない細密画が画面上に生きた虫達の姿を書き写す訳です。こうした自然観察の効用は、生命の科学を学ぶ者にも大きなものとなるのです。

134 You must master and control your emotions. Do not be discouraged when your habitual thought-patterns try to oppose your desire to see things in their true state. Remember, you have been building your thought habits all your life. Perseverance will enable you to realize your oneness with all you see about you, and recognize the fallacy of the man-made divisions.

134 貴方は自分の感情を支配し制御しなければなりません。貴方の習慣的な想念パターンが物事の真実の状態を見ようとする貴方の願いに逆らうことがあっても落胆しないで下さい。貴方は貴方の全生涯を通じて自分の想念パターンを作り上げて来たことを思い出して下さい。忍耐は貴方に周囲に貴方が見る全てのものとの一体感を知覚することを可能にし、人間の作り出した分割の嘘を認知させることでしょう。

【解説】感情をコントロールすることは私達に様々な恩恵をもたらす訳ですが、最も低い次元としては怒りや憤りの感情を抑制することが出来れば多くの犯罪や事故を未然に防ぐことが出来ることとなります。更に進めば、私達の心が感情で支配されていた為に見過ぎていたより精妙な生命活動についても気付く機会が増えることとなります。多くの私達は自らの表層的な興味に支配されていて、生命の本質につながる深遠な印象類に気付かないからです。また、よく「一体感」と表現されますが、その際の私達の意識や心が対象とどのような関係になっているか等、探求する事柄は幅広いものとなっています。少なくとも私達は相手の立場に立てるような抱擁的な姿勢を持って、相手を観察し、どのような生命体なのかを自分自身で知ろうとする姿勢が求められているような気がします。一体感とはそうした観察の結果、私達の意識レベルで融和した状況を示しています。

135

Self-discipline is necessary before you can take the next step. Therefore, I suggest you keep a daily ledger to check on the thoughts and emotions that have influenced you during the day. Note and evaluate each one carefully (both good and bad), then weigh its effect upon your life that day.

135 自己訓練は貴方が次のステップに移る為に無くてはならないものです。それゆえ、私は貴方にその日の中で貴方に影響を与えた想念や感情をチェックする為の一日の記録簿をつけることをお勧めします。(良いものも悪いものも共に) 注意深く一つ一つをメモし評価し、貴方のその日の生活への影響を推し量ることで。

【解説】 自我の訓練は毎日行うということです。とかく私達は日常の中で知らず知らずの内に自分の感情に流され、本来の生命の発現は出来ておりません。これに対して自らの感情を監視し、それが相応しいものか否か、心による裁きその他の反応に由来するかを自己チェックする必要があります。注意したいのは、この作業は本人だけしか出来ない仕事であるということです。他人がどのように説得しても、本人にやる意思が無ければ実現する筈もありません。本文に著者は長い一日の中には良否様々な心の反応が起こり得ること、そしてそれらを集計するように総合的に評価せよと説いています。その為には日記をつけることも一つの工夫かも知れません。自らの心がいったいどのような反応を見せるか、これらの観察を通じて学ぶことが必要なのです。

Part Two, with its exercises, will give you a greater realization of yourself as an expression of Cosmic Intelligence.

136 第二部は、練習も含まれており、貴方自身が宇宙の英知の表現の一つであるとのより大いなる実感をもたらすことでしょう。

【解説】 第2部は具体的事例を含めたより詳細な想念伝達の仕組みが説かれることとなります。アダムスキー氏の哲学3部作の中で最も早期に（注：1958年）に記された本書「テレパシー」の題名は、おそらく他惑星人との交流の中で著者が感じた地球人との最も大きな違いがテレパシー能力にあったことに起因しているものと思われます。そのテレパシーをどのようにして身に付けられるかについて考えられ、著作されたのが、本書出版の経緯であると考えます。そうした観点からすると本講座の第1部は学習者にテレパシーに関する仕組みの全体像を理解させようと費やされたと見るべきです。従って、私達は再度、第1部の最初から全体を通して読み直し、自らの知識を整理する必要もあるでしょう。次回第2部からはより深い説明がなされていきます。

PART II Chapter 1 Cell to Cell Impressions Chapter 2 Impressions From the Body Cells Chapter 3 Effect of Emotions on the Body Cells Chapter 4 Other World Impressions and Thought Habits of Earth Summary - Part II Suggested Exercises

CHAPTER I Cell to Cell Impressions

137 Since there are over two-and-a-half billion people living in the world today-all of them thinking to some degree-we can readily see that we live in a veritable sea of thought. Not only do we receive thoughts from human minds, but since the cell structures of their bodies and all the cells that make up nature, are constantly broadcasting, we also receive impressions from these sources. To augment our conception of the immensity of this truth, we must realize that there is a perpetual blending and an interblending throughout the whole of the Cosmos. Therefore, it naturally follows that there is an intermingling of thought frequencies between the worlds. We will discuss this phase more fully in a later chapter.

第2部第1章 細胞から細胞への印象 第2章 肉体細胞からの印象 第3章 肉体細胞に及ぼす感情の影響 第4章 他の世界の印象と地球の思考習慣 第2部要約推奨される練習法
第1章 細胞から細胞への印象

137 今日、世界には25億人を超える人々が住んでおり、それらの全てが何らかの程度に思考していることから、私達は容易に私達が紛れも無い想念の海の中で生活していることが分かります。私達は人間の心が発する想念ばかりでなく、人間の細胞組織や自然を作り上げている全ての細胞が常に想念を発していることから、私達はまたそれらの源泉から出た印象も受信しています。この真実の広大さに関する私達の概念をさらに増大させる為に、私達は全宇宙を通じて永続的な融合と混合が行われていることを実感しなければなりません。それ故、当然に世界の間での想念周波数の混ざりあいが起こることになります。私達はこの側面については章の後半でより詳細に述べることにしましょう。

【解説】 本項から第2部に入ります。まず最初のテーマは細胞間の想念のやり取りです。本文で述べられているように人間だけをとっても地球上には本書の執筆当時25億人（現在では68億人）の人間が暮らしており、各自が発する想念が各々空間を駆け巡っているとしています。更には人間ばかりでなく、生きもの全ての細胞が知性を持ち各々想念を発しているとすれば、この空間には実に多様、莫大な数の想念波動が渦巻いていることになります。これら想念は各々が指向するイメージを実現しようとする作用を持っておりますので、実際にその姿を見ることが出来れば、その動きは驚異的なものと映ることでしょう。他惑星人がモニタリングディスクを用いて地球を調査するのもそうした動向を調べているものと思われます。従って、こうした中であつても一人これら想念傾向に抵抗し、良質な想念を発信し続けることで、地球に渦巻く謝った観念の想念群を中和することも出来る筈です。古来、天地を鎮める祈祷等、修験行者が行っていた祈りもこのような意義があつたのだと思います。

138 While this combination of thought vibrations bombarding us at all times staggers the imagination, if we take one vibration at a time it becomes understandable. A common example of how thought, or violent emotion-bear in mind that emotion is the expression of strong thought-will impregnate itself upon matter, can be found in the atmosphere of a dwelling.

138 この想念波動の組み合わせが常に私達に衝突して来るということは想像力をも驚かす一方、私達は一度に一つの想念を捉えるようにすれば、その想念は理解できるものとなります。想念ないしは激しい感情、即ち感情とは強い想念の表れであることを覚えていて欲しいのですが、よくある例として如何にしてそれらが物体にしみ込むかは、住居の雰囲気の中に見い出すことができます。

【解説】

文字通り、私達は想念の飛び交う世界に生きている訳ですが、著者が本項で述べているように、通常の私達の知覚力ではそれらを漠然とした印象で知るだけで、具体的には何か一つの想念に同調させてみて初めてその内容が分かるというものでしょう。

また強い想念波動は周囲の物体にも波動を残留させる訳で、過去の地球に起こった様々な苦しみや悲しみの事例を考えれば、至るところにこのような悲しい想念波動が残っていることも理解出来ます。

その一方で、この想念波動の影響は本人自身の身体細胞に最も影響を及ぼすことは誰もが良く分かる筈です。そういう意味で自らの身体管理の上からどのような種類の想念を抱くかについては特段の注意が必要な訳です。更にはその影響はその者が居住する空間、住居にも染み込むものであることも理解出来ます。日本神道には周期的に社殿を立替ますが、そうした行為の意味も人々の穢れた想念による汚染を防ぐ工夫の一つなのかも知れません。

ご連絡 [2014-08-06]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。
都合により、次回更新は週明け月曜日になる見込みです。

139 From the outside the house may appear very attractive. Upon entering we may find ourselves in a spacious, well-furnished room, with large windows offering a wide view of a peaceful countryside. But with the crossing of the threshold a strong revulsion, a deep depression, or in some cases an almost tangible feeling of hatred seems to fill the air around us. This disquieting effect will disturb us as long as we remain in the house.

139 その家の外側からは大変魅力的に見えるかも知れません。中に入ると私達は広々して上等な家具に彩られた部屋があり、大きな窓が平和な田園風景を見せています。しかし敷居を跨ぐや、強い反感と深い憂鬱、またある場合には肌で感じるような憎しみの感も私達の周囲に満ちているように思えます。この胸騒ぎの影響は私達はその家に留まる間中、私達を掻き乱すことでしょう。

【解説】

本事例のように建物には長年そこで暮らしていた者が放っていた想念が染み込むという訳です。この例は著者が体験したことと思われ、以前アダムスキー氏が英国に招かれ、古城の一つに案内された際、その内部に入りたがらなかったという逸話が伝えられています。氏はテレパシクにその城の中でかつて行われた悲しい出来事を察知してしまったからに他なりません。

この点、鈍感な私達は文字通り”知らぬが仏”というように安穩に暮らして来ましたが、テレパシー能力が開発されて行く中で次第にこれら目に見えない残留想念についても気付くようになって来ます。そこで問題なのは、この劣悪な精神環境の惑星とも言える地球では、それら低次元の想念波動は山ほどある訳で、それら一つ一つに同調して身体を壊すことは意味のないことです。より積極的に明るい想念波動でそれらを中和し、鎮めこれからの世代に良質な想念環境を残す努力が必要だと言えるでしょう。

かつてイエスの時代にも劣悪な環境の中でもイエスは従者に野のユリのように創造主に従って生きよと諭しています。他惑星からの進化した人達は地球の劣悪な想念環境の中にあってもそれらに負けないプラスの精神パワーを持っていることは間違いありません。

140 If we trace this feeling to its source, we will find one of two things. Either a tragic or terrible incident, involving the destructive emotions of intense fear and vehement hatred, occurred here, which impinged these emotions upon the cells (or atoms) of the house; or the thought-patterns of former occupants, or of those now living here, have filled the atmosphere with hatred, greed, selfishness and animosity. In either case, if people live continually surrounded by these strong emotions they will be affected adversely by them. It can, and usually does, bring dissension into their lives.

140 もし私達はその源泉に向かってこのフィーリングを辿るなら、以下の二つの事柄のいずれかを見い出すことになるでしょう。強烈な怖れと激しい憎悪の破壊的感情が含まれた悲劇的あるいはひどい事件がここで起き、それがこれらの感情をその家の細胞（あるいは原子）にぶつけたか、あるいは以前の居住者、または現在ここに住んでいる者達の想念パターンが辺りの雰囲気や憎しみや貪欲、わがままや恨みで満たしているのです。いずれの場合も、もし人々がこれら強い感情に囲まれて継続的に暮らしていると、それらによって悪影響を受けることになるでしょう。それは人々の生活に不和をもたらす可能性がありますし、通常は実際、そのような影響を及ぼしているのです。

【解説】

これまでの地球の悲惨な歴史を考えれば本項で記されているような事例は数多いものと思われます。事実、昔から何らかの影響を受けたという話も何度か聞いておりますし、古来より日本人は特別そのような影響を恐れてきたことも確かです。神社におけるお祓いはこうした想念波動を除去・除染する意味合いがあることでしょう。

一方、逆にある特定の場所では、高次元の想念波動の影響を受け易い場合もあるようです。パワースポット等と称せられるその場所は気分が落ち着き、心身爽快になる他、UFOも多く見かけるようです。これらは逆の意味で私達の成長にとって価値ある環境をもたらすものと言えます。

いずれにしても問題を抱える惑星に暮らす私達は日常的にこのようなリスクのある想念環境の中で生きている訳で、そうした中でも自分を正しい方向に成長させる信念をもって時々遭遇する環境に対処しなければなりません。

141 Now, let us take an example of how equally strong, constructive emotions impregnate a dwelling. When we enter another house, a warm feeling of friendliness greets us at the door. In contrast to the first, the rooms may be small, the carpet thread-bare, and the view from the windows confined to shabby cottages across a narrow street; but the cells of this dwelling have been impressed with harmonious thoughts of love and laughter; and we instinctively respond to these emotions. We will find ourselves smiling unconsciously, and will settle back to absorb this feeling of peace.

141 今度は、如何に同様な強い建設的な感情が住居に染み込むかの例を取り上げましょう。私達がもう一軒の家に入ると、暖かい友好的なフィーリングが玄関口で私達を迎えます。最初の事例の家とは対照的に、部屋は狭く、カーペットは擦り切れ、窓からの眺めは狭い通りの向かいの古びた田舎屋が見えるだけです。しかし、この住居の細胞達は愛と笑いの調和ある想念によって印象付けられていますし、私達は本能的にこれらの感情に反応します。私達自身、無意識に微笑んでいることに気付きますし、この平和なフィーリングを吸収する為、ゆったり椅子に座ろうとすることでしょう。

【解説】

本来の生命の流れに沿ったものに対しては、私達はそれに心を開き、それと融和しようとするものです。本事例の場合、たとえ外観は貧しい環境であっても、その中に居ると心がなごむのは、こうした私達自身が目に見えない想念波の影響を受けることに起因します。

よく神社や寺院等で静かな気持になれるのは、単に景色、風景が落ち着いているというだけではなく、祈りや神仏に対する人々の想いを知らず知らず私達が感じ取っているからに他なりません。

アダムスキー氏は生前に金星と土星を訪れましたが、その中で実際、他惑星人の住居を見てその中を見聞した訳で、その体験は氏の生命に関する更なる深い理解に役立ったものと思われまます。

もちろん、各自の家庭をどのような状態にするかは各人の責任です。「修身齐家治国平天下」の表現のように、自分自身の次に行くべきは、各自の家庭を本来の状況に引き上げることです。

142 So we have proof that bricks and mortar do not make a house a home -- for a home is made from the harmonious thoughts of the people living in it. If at all possible, we will avoid the first house after our initial visit, for we will never feel at ease there; but we will revisit the second house as often as the opportunity presents itself.

142 ですから、レンガやモルタルが家屋を家庭に築く訳ではないという立証がある訳です。何故なら家庭というものはその中に暮らす人々の調和ある想念から作られるからです。もし出来ることなら、私達は訪問の後、最初の家は避けようとするでしょう。何故なら私達はそこでは決して落ち着かないからです。しかし、二番目の家は機会があれば何度も再来したいと思うことでしょう。

【解説】

結局のところ私達自身も多少は現状でも想念・印象に対する感受性を持っているということでしょう。自分では気づかないままに、印象に対応した気分になるものと思われれます。その結果、当然のことながら自分に心地よい雰囲気的环境には惹かれることとなります。

ここで思うことは各自の身体そのものも含めて、「家」というものの雰囲気はそこに住む者が作り出すものであるということです。私達が日常発する想念が自分自身の身体、更には社会にまで広がる環境を左右するものとなっています。

地球を住みやすい惑星にする為に、中で暮らす私達の責任は大きいものがあるという訳です。

143 These impressions are known as cell impressions. The cells (or atoms) of the structure have absorbed the destructive or constructive emotions of the occupants, and have communicated these impressions to the cells (or atoms) of our body; causing either a feeling of depression or tranquility.

143 これらの印象は細胞印象として知られています。建造物の細胞（原子）が居住者の破壊的あるいは建設的な感情を吸収し、これらの印象類を私達の肉体の細胞（原子）に伝え、憂鬱なあるいは穏やかなフィーリングをもたらしていたのです。

【解説】

あらゆる物質を構成している細胞や原子と呼ばれる極微小実体は、想念波を記録するという訳です。長年身に付けていたものには当然、その者の想念波動が染み込むことから、その物体に近づくとその残留波動を感知するという訳です。その際、私達が何らかの感じを抱くのは、私達自身のこれら極微細の細胞や原子達がそれを感知するためです。

このように考えると私達は少なからず想念・印象においても環境から影響を受けることが分かります。そういう意味ではこの地球上の人間社会では、好ましくない印象類が多いことについてはも注意が必要です。知らず知らずこのようなマイナスの印象を受けやすくなるからです。

こうした中にあっても私達は自分にとって必要な印象分野を見失うことがあってはなりません。確かに現実を学ぶことは必要ですが、それ以上に自らプラスの想念を発信し、他者に良い効果をもたらすよう想念レベルで努力することも大切です。

144 Those who receive these impressions are often referred to as "sensitives," but when properly understood, this is nothing more than an automatic reaction to the world of effect. In other words, the effect of the strong emotions absorbed by the cells of the buildings, affected the individual. This is one phase of telepathy where the "feeling" within us is altered to, or communicates with, so-called inanimate substance.

144 これらの印象類を受信する者はしばしば「霊能者」と評せられますが、適切に理解すれば、このことは結果の世界への自動的な反応以上のものではないのです。言い替えれば、建物の細胞によって吸収された強い感情の影響がその個人に作用をもたらしたのです。これは私達の内側の「フィーリング」がいわゆる無生物の物体によって変えられたり、それらと意思疎通を行うというテレパシーの側面の一つです。

【解説】

本項では、これら物体に記憶・残留する想念に私達の肉体細胞が同期するのはごく自然の作用であり、それを私達が感じることは当たり前の事象であるとしています。

物体がどのような振動を帯びているかは直接物体に触れなくても分かることは丁度、理科の実験で同一形状の音叉が離れていても同調して音を発することに似ています。つまりはそのような残留波動がその物体付近に発せられているということかと思われれます。

よく仏像の背に光を発するような彫刻飾り（光背）が施されますが、それも仏や仏像から発せられる「ありがたい」想念波動をイメージしたものと思われれます。私達自身もやがては周囲にそれら良質な想念を発し、触れる物体にそれら好ましい想念・印象を染み込ませる努力が必要となります。

145 Ninety-nine people out of every hundred consider thought only in relation to the human brain. They would be amazed to learn that every cell in their body, as well as every cell constituting any other form, is a thought-producing unit; for all manifestation is composed of atoms. We receive the illusion of divisions because of the different vibratory rates of the atoms; but in actual fact, the basic atoms making up the human body, and those manifesting as minerals, are the same. Thus, when we have an understanding of our true relationship to, and oneness with, all creation, we will be able to commune consciously with all phases.

145 毎100人の内、99人が想念というものを人体の脳とだけに関連して考えています。しかし、彼らは自分達の身体の一つ一つの細胞が他の形あるものを構成している個々の細胞ともども、想念を作り出す単位であることを知れば驚くことでしょう。私達は原子群の振動の違いの為に分裂の幻影を受け入れています。従って、私達が全創造物との真の関係と一体性の理解を得れば、私達は全ての段階のものと意識的に交流することが可能となることでしょう。

【解説】

想念というものは頭脳だけが発するものではなく、全身各部の個々の細胞が想念を発し、また受信が出来るという訳です。

顕微鏡下では活発に動き回る微生物の姿を見ることが出来ますが、彼らも危険を察知し、あるいは餌を捕食する等、目を持たない中では全て印象によって行動しています。光の無い深海の生き物も同様でしょう。このように各細胞は実に印象には敏感なのではないでしょうか。

自らの肉体を若々しく保つのはその者の義務である訳ですが、その面からも自らの肉体を構成するこうした細胞達に快く仕事をしてもらえよう、全身に響き渡る私達の心が抱く想念については上質なものとしなければなりません。仁王門にあるような怒りや苦しみを門をくぐる際には捨てなければならないのです。また、鉱物も含め周囲のあらゆるものと交流が出来ること等、本項のような本質を学べばどのような状況下でも私達は喜んで生きて行けることとなります。

146 Another good example of telepathic exchange between human and inanimate nature, can be found in people who possess what we call a green thumb. Everything grows abundantly for them, for while they are planting they unconsciously commune with the soil and the seedlings. You will notice these people know each plant intimately, pointing with pride to those which are thriving, and feeling concern for the plight of the sickly.

146 人間と無生物との間のテレパシー的交流のもう一つの良い例は、いわゆる園芸の達人とされる人々に見出すことができます。それらの人々の為に全てが豊かに育ちますし、彼らが植えている間も、彼らは無意識に土や種と会話します。皆さんはこの人々が親しく個々の植物を知っており、すくすく育つもの達を誇らしく指差し、また、病いの苦境にあるものに対しては気に掛けていることに気付くことでしょう。

【解説】

植物と会話するという話は、古くはルーサー・バーバンク(1849-1926)が著名ですし、日本ではピーター・トムプキンスの本（「植物の神秘生活」、工作舎、1987年）が紹介されています。また最近では「奇跡のリンゴ」の木村秋則氏の話が伝えられているところです。

物言わぬ植物と意思を交流することで、植物も私達に応えてくれるということでしょう。丁度、家庭で飼うペットのように言語は使わなくても十分に意思疎通が図れるという訳です。

私達動物はその生存を植物に依存しています。食糧も石油等の燃料も衣料も全て元はと言えば多くは植物に由来しています。その植物と自由に会話できることは私達の人生を豊かなものにするには間違いありません。そのことだけでも、このテレパシー開発の意義が十分あるというものです。生きとし生けるものを慈しみ、育む気持ちが大切です。

147 Though the person is not aware of using telepathy in this instance, the inanimate manifestations of the plant world definitely respond to the love pouring out from the mind of the individual. This phase of telepathy is little understood and almost never used consciously by Earthlings, for its application calls for a thorough knowledge of man's unity with nature. It is just as easy to exchange mental impressions with plants, vegetables, trees, minerals, etc., as it is with another human being.

147 その人物はこの場合、テレパシーを用いていることに気付いていませんが、植物世界の無生物的造形物はその個人の心から注がれる愛情には断固として応えるのです。この側面のテレパシーは地球人にはほとんど理解されておらず、これまでもほとんど意識的には用いられて来ませんでした。何故なら、その応用には自然との人間の一体性についての完全なる知識が必要となるからです。植物や野菜、木々や鉱物と心の印象を交換することは、他の人間の場合と同様に簡単なことだからです。

【解説】

おそらく本項はこのテレパシー講座の本質的価値を表しているものと思われます。

私達は生命の海の中に生きており、本来、身の回りの全てのものと意気投合出来る関係にあります。それは既に私達も知っているようにあらゆるものが原子・分子から成り立っているのですが、その原子自身が想念波動を記憶することや、細胞が印象を発すること、感受することに由来しています。

想念がどのように記録されるのか具体的なことは未だ私達は理解できていませんが、大切なことはそのような基本法則が各自の実生活において成立しているかどうか、目の前の自然の営みの中に発見出来るかにあります。

目や耳が伝え切れない印象の世界は私達自身の全細胞をアンテナとして探って行くことになります。

148 Before going further, I believe it would be well to discuss the importance cell impressions play in our lives. To do this, we should have some understanding of the physical composition of both tangible and intangible manifestation.

148 先に進む前に、私は私達の生活の中で細胞の印象が果たす役割の重要性について論議した方が良いと考えています。そうする為には私達は有形及び無形の創造の現れに関する物理的な構成について幾分か理解を得ている必要があります。

【解説】

このテレパシー問題に取り組むに当たっては、形があり触れることが出来るものと、出来ないものについて学ぶ必要があると説かれています。この両者について私達は十分な理解を持つことが重要という訳です。

後の項には宇宙空間のこと等が説かれています。これら気体や無限に広がる空間についての認識が重要になります。

目に見える段階の世界は本項で言う"tangible (有形)"である訳ですが、細胞段階の微細で目に見えない段階の世界を理解する為には、そうした極微細から広大な宇宙空間までの目に見えない無形世界はどのような構成になっているかを多少なりとも知る必要があることになります。

ちなみに般若心経に言う「空」とは本項で言う"intangible (無形)"が相当するように思われます。

149 The average person is generally little concerned with the composition of space, for he conceives it to be a vast void existing between planets. The suns, planets and planetoids visible to the eye, he recognizes as form; but the space between these bodies appears to him as nothingness. However, our scientists know that space is a sea of activated attracting and repelling force, always in motion.

149 通常の人は一般的に宇宙空間の構成にはほとんど関心がありません。何故なら宇宙空間は現存する惑星の間にある膨大な空（カラ）の空間だと考えているからです。太陽や惑星それに小惑星を形あるものと認識していますが、それら天体の間の空間は何も無いように見えているのです。しかしながら、私達の科学者は宇宙空間は活性化された吸引と反発の力から成る海であり、常に活動状態にあることを知っています。

【解説】

私達生命の源が宇宙空間であり、そこには絶えざる創造の活動が為されているという訳です。また、この宇宙空間は私達が暮らす地上とも境目が無くつながっており、空間の作用は私達も上空に流れ、湧き起る雲の姿からも垣間見ることが出来ます。

重要な点は、空間（即ち「空」）はあらゆる創造的活動を内包する重要な場所であることです。このテレパシーの作用もこうした空間への働きかけとして理解した方が良いでしょう。

目に見えない空間に畏敬を払い、その存在に融合した生き方を説く教えは神道をはじめ、太古からの信仰にも通じるものがあります。目に見えるもののみを対象とするこれまでの科学を更に空間への洞察のレベルまで深めることが求められています。

150 When man gives any thought to material substance, he is very likely to accept the image given to him by those organs of deception, the eyes, which hold to the solidity of matter; so he believes a vast difference exists between matter and space. Yet, in the laboratory we have discovered that form is not solid; but may be likened, as one writer expressed it, to a mass of soap bubbles.

150 人が物質的な物に何らかの想念を与えようとする時、人は欺く器官、即ち物質の固体性に執着する眼によって与えられたイメージを受け入れ易いものです。その結果、人は物体と空間とでは莫大なる差異があると信じているのです。しかし、それでも実験室で私達は形あるものは硬いものではなく、ある作家が表現したように、形あるものは石鹸の泡の塊に似ていると表現できることを発見しているのです。

【解説】

私達が対象物に目をやる時、まず最初は私達の目がその対象物を形あるもの、固体として認識するでしょう。この時、見えるものしか相手にしない私達の視覚の限界性について、著者は第一の問題と指摘しているのです。

視覚に依存する私達は目に見える範囲のものしか思考の対象としなくなってしまうました。しかし、実際には著者がいみじくも述べているように、物質は泡のようなものである訳です。既に私達も学んでいるようn原子の構造はその大部分の質量を原子核が有しており、その原子核から離れた周囲を電子が周回し、丁度雲のように包んでいる訳で、物質のほとんどは空間ということになります。

逆に言えば、目で見、手で触って確かに固体と私達は思っている訳ですが、それも実際には空間であると言うことができます。即ち、目の前の空間と物体との本質的な違いはないことになります。

151 Every form is composed of definite measurements of space, surrounded by energized particles of force. All substance is made up of these tiny units, which we call atoms. An atom may be compared to a miniature solar system containing a central sun, around which, in definite orbits, revolve negative electrical charges, or units of force. The central sun, or nucleus of the atom, is a positive charge; equaling perfectly the total number of electrical charges revolving about it.

151 あらゆる形あるものは、周囲をエネルギーを持った粒子群によって囲まれた特定の寸法を持った空間によって構成されています。全ての物質はこれら微細な単位から成り立っており、それらを私達は原子と呼んでいます。原子は中央に太陽を持ち、その周囲の特定の軌道をマイナスの電荷あるいは力の単位が周回しています。中央の太陽、あるいは原子核はプラスの電荷であり、その周囲を回る電荷の全数と完全に等しいのです。

【解説】

原子の構造について著者が解説しています。内容は既に私達が知る所ですが、重要なのは著者がどのような統一的概念の下でこの解説を行っているかにあります。

既に他惑星人の宇宙船で外宇宙をこの目で見、彼らの宇宙観を学んだ著者が物質界の構造を改めて俯瞰し、原子の構造が宇宙太陽系の構造と極めて類似していると説いているのです。

あらゆる側面に同一の原理が適用され、極小から極大まで統一した法則が貫いているという所が重要な訳です。言い換えれば全てが同じ原理・法則の下に生きているということになります。

私達はこれまでの自分の目の限界に気づかず、勝手な心の判断の下、過ごして来ましたが、これからはこれら目に見えない極微の世界にも宇宙と同じ世界が繰り広げられていることを自覚しなければなりません。

152 The cells of manifestation are composed of manifold combinations of these atoms. All matter, ranging from the most dense, or what we call mineral, through the varying stages of form until we reach space itself, is composed of these tiny electrically charged atoms vibrating at different rates. So you see, contrary to the information received through the physical senses, form is merely space surrounded by inconceivably small particles of force. Yet it is the action of these tiny units that produces all visible and invisible phenomena. Manifestation is born out of the potential force, or basic vibration within the atom, which, through the law of affinity, forces the particles to unite.

152 創造物の各細胞はこれら原子の多岐にわたる組合せから構成されています。最も密度が高く私達が鉱物と呼んでいるものから、私達が宇宙空間自身に到達する様々な形からなる段階を通じて、全ての物質は各々異なる速度で振動している小さい荷電した原子から成り立っています。ですからお分かりのように、肉体の感覚を通して受けた情報に反して、形あるものは想像も付かない程小さくフォースを持った粒子によって囲まれた空間に過ぎないのです。しかし、全ての目に見える、あるいは見えない現象を造り出すのは、これら微小は単位の活動なのです。創造はこの潜在力あるフォース、即ち原子の内側の基本的な振動から生まれますし、それは親和の法則を通じてそれら粒子に結合するよう働き掛けます。

【解説】

私達生きものの細胞はもちろん、あらゆる物質を形作っているのが物質の最小単位とも言える原子です。そしてその原子も大部分は空間であり、私達が手に触れて知覚できるのは、これら原子核の周囲を回る電子群が作り出す領域であり、それを私達は固形物と認識しているだけのことです。

本項で重要な点は、何か物が作り出されるような場合には、これら微細な原子達がそれを生み出そうとする働きが私達が知らない内に起こっているということです。すべての宇宙の営みはこの極微な原子達が知性を持ち、何らかの背後の指導に従って所定の行動を一斉に起こすことが想定されます。

おそらく私達の想念は、この極微な存在に最も大きな影響を及ぼしているのではないかと考えます。その為に、低次元の想念が繰り返し発信されるとこれら原子達も元気が無くなり、本来の活動が抑えられてしまい、老化や劣化が生じるのかと思います。

重要な点は原子レベルでは物体は消失も発生もなく、未来永劫同じ形態で存在する訳で、そこには劣化というものはありません。私達もいち早くこれら原子の潜在パワーに近づく必要があります。

153 Primal Matter, the Mother principle of creation, preceded form . . . and is indestructible! Through the law of attraction and repulsion the tiny atoms composing matter are gathered together to build a form; but eventually that form will disintegrate and the atoms will be set free, to be used again in manifesting yet another form. For, "dust thou art, and unto dust shalt thou return," Gen. 3:19.

153 創造の母性原理である原始の物質は形に先立って存在し、それは不滅のものです。吸引と反発の法則を通じて物質を構成する小さな原子は形あるものを作り上げる為、集められているが、いつかはその形あるものは分解し、その原子は自由にされます。更に別の形あるものを再び現出するのに用いられる為に。何故なら「汝はチリゆえにチリに帰る」（創世記第3章19節）からです。

【解説】

私達が知らない更に深い世界があるにせよ、先ずはこれら原子群が宇宙の万物を構成する源であり、それらは過去から未来まで永続して創造と分解の活動を行っていることは確かです。

この原子レベルで見れば、私達が誕生して肉体を授けられた時点から、死に至るまで、様々な生命体や無機体を取り込み、排出しながら自らの生命の営みを続けます。この間、その生命活動を支えているのがこれら小さな働き者という訳です。おそらくはこの原子達は更に深い宇宙の法則に従って行動しており、そこには迷いは無いように思われます。

これら原子の中に秘められた活動力（エネルギー）があることは核分裂や核融合でも明らかなのですが、本来、これら秘められた原子本来の潜在力を他惑星におけるような地球とは別の方法で生かすことが出来れば、私達の生活も一変する程変化するかも知れません。

154 Our gardens furnish a very understandable example of this law in operation. The flower matures, broadcasts its seed, then dies. Through decomposition, the plant will return to the dust from whence it came; thereby releasing into the soil and the atmosphere, the atoms which once formed its body.

154 私達の庭はこの法則が働いている大変分かりやすい例を提供して呉れています。花々が円熟し、その種を散らすとやがてそれは死にます。分解を経て、その植物はそれが生まれたチリに還ることでしょう。その結果、かつてその身体を形づくった原子群は土や大気に解放されるのです。

【解説】

長い目で見ると私達は物質循環の中の一つの経路として生きていることが分かります。つまり、肉体を構成しているもの（原子）は時々刻々の呼吸や食物摂取を通じてこの惑星に生きる様々なものを取り込み、排出し、最後は再び惑星の構成物に還って行くという訳です。

丁度、本文で言う「庭」が地球という惑星に相当します。そういう意味ではあらゆる生命体の遺伝子を破壊する放射能を長期間大量に作り出す核分裂こそはこの大切な「庭」を害する典型的なものではないかと思う次第です。

昨今では「地球環境」という概念が定着して来ましたが、依然として地上は戦闘行為が続けられており、私達地球文明の未熟さが露呈している状況です。

155 Let us now sow a totally different species in the bed. These new seeds will draw their sustenance from the soil enriched by the decomposition of the first plant, and in so doing they will use the very atoms that once made up that plant. Therefore, these same atoms are now bringing a new form into manifestation, yet basically, they have in no way been changed.

155 今度は苗床に全く異なる種のタネを播いてみましょう。これらの新しいタネは最初の植物の分解物によって豊かになった土壌から自分達の滋養分を取り込むことでしょう。また、そうする中で、それらは以前の植物をかつて作り上げた同じ原子を用いることになるのです。それ故、今やこれら同じ原子が新たな形あるものを現出させており、しかも原子は基本的に何ら変わっていないのです。

【解説】

既に私達は植物や地中の微生物が大気中の炭酸ガスや窒素ガスを原料にして豊かな有機物を合成し、植物の根や茎葉、そして果実として実らせることを学んで知っています。

低栄養の土壌はこれらの作用により、次第に豊かな土への変貌して行く訳です。まさに無（機物）から有（機物）を造り出す創造の作用が目の前で繰り広げられているのです。

一方、人間もこの循環の経路の中に居ます。人間は植物とは異なり、直接的に地球を豊かにする機能はありませんが、その知識と行動力によって自然の活動をコントロールし、災害を防いだり、新しいエネルギーを取り出したり、地球規模で大きな効果や影響を与える存在になりました。

しかし、その結果、一人勝手な展望から資源の無駄遣いや環境汚染を引き起こすに至っています。他の生き物はある意味、自分を犠牲にして環境全体の維持に奉仕している訳ですが、人間は自分のみ、自分の身内だけの幸福を前提にせせこましく生きているように思います。

各人の肉体はいずれ土に還らなければなりません。自身が生きている間にどのような恩恵を他者に残したか、どれほど社会という土壌を豊かに出来たかが問われることとなります。

156 So it is with Man. The atoms of his physical body-made from the "dust," or atoms of matter-have been used and reused throughout eternity. Thus, these miniature universes carry an indelible memory of the experiences they have participated in during each manifestation.

156 ですから、それは人間についても同じです。「チリ」、即ち物質の原子から作られた人間の身体の原子達は永遠の時を通じて、利用され、再利用され続けます。こうしてこれらミニチュアの宇宙（訳注：原子を指す）はそれらが各々の創造物での間、参画した諸体験について消し去ることのできない記憶を運ぶのです。

【解説】

何事も体験により学び成長して行くものですが、原子についてもそれが取り込まれた身体を通じて経験したものが記憶されるという訳です。原子達は万物創生の時から様々な時代を経ている訳で、その経験と知識は私達の想像を超える内容を持つものと思われれます。また、原子自身が宇宙の法則とも言える英知から逐次発せられる指示に呼応する能力を有していることはおよそあらゆる知識を持っている可能性があります。

実質上、私達の肉体には細胞数だけでも60兆個あり、更にその細胞を造り出す原子の数となれば想像も出来ません。仏典には膨大な数の話が出てくる場面がありますが、実はそれほど多くの「師」が身近に寄り添っていることに私達は気づく必要があります。

要は如何にしてそれら身近な「師」と会話し、自らの生涯と社会を豊かにするかが大切なところですよ。

157 This accounts for most of the so-called memories of previous lives. A person may receive an impression that he once lived on earth as Julius Caesar, and his ego will be inflated. But in reality, a few cells of his body may be composed of atoms which were once present in the body of Caesar.

157 このことはいわゆる前世の記憶と呼ばれるものほとんどに当てはまります。ある人は自分がかつてジュリアス・シーザーとして地球に生きていたという印象を受けるかも知れませんが、そのことでその者のエゴは増長させることでしょうか。しかし、実態はその者の身体の細胞のわずかがかつてシーザーの肉体に有った原子から構成されていたに過ぎないのかも知れないのです。

【解説】

私達は知らない内にこれら自身の肉体細胞の原子群から様々な印象を受け取り、また原子の記憶に触れているのかも知れません。実に広大無辺の知識の宝庫です。

しかし、一方ではその記憶を自我のものだと勘違いすることもある訳です。自身が体験した訳でもないのに、それを自分の体験だと言い張る場合も考えられます。私達はこれら極微な粒子が持つ記憶を大切に取扱い、それに触れることが出来たことに祝福を感じなければなりません。それらを自我を高める目的で使用してはいけません。

とかく前世の記憶とかいう話が出ますが、それはこれら細胞や原子の記憶とは別に自分自身の本体について明確に見えた後に明らかとなる意識レベルの記憶が理解出来てからの話であり、先ずは現在の自我・心の訓練こそ重要なところです。極微な存在である原子が記憶を持つ以上に人間には更に優れた記憶の場所があるに違いありません。

158 Over the years I have made an interesting observation regarding these "memories." It is indeed rare to find an individual who claims to remember being just plain Mr. Average Citizen. These memories-which in many instances can seem very real-usually involve illustrious persons; everyone from the high priests who officiated at the initiation ceremonies in the Great Pyramid, to more recent characters of history familiar to us all. The vast majority of these are not even cell memories . . . they are simply man exalting his ego.

158 何年にもわたって、私はこれら「前世の記憶」に関して興味深い観察を続けて来ました。全くのところ、自分が只普通の一般市民であったことを覚えていると言う個人は珍しいのです。多くの場合に大変リアルに見え得るこれらの記憶には、通常著明な人物が含まれており、偉大なピラミッドの開始儀式を司祭した高位の僧侶から、新しくは私達全員が良く知っている歴史上の人物までが含まれています。これらの大多数は細胞の記憶どころではありません。それらは人を増長させる自分のエゴの為せるものです。

【解説】

本項はある意味、このような細胞の記憶、原子の経験について取扱いを注意すべきことを示しています。とかく私達は印象・インスピレーションを素晴らしいものとして自分自身を高揚させる傾向にありますが、その知識から学ぶ姿勢は大切ですが、それを根拠に自我を増長させるようなことはあってはならないのです。

各人は自分は過去生において偉人であったと思いたい訳ですが、各々の人生を振り返れば、私も含めて大部分の者は今期の人生だけでも目を覆うばかりの未熟な者であった筈です。そういう意味でも到底他人に自分の過去生を自慢出来るような例は少ない筈です。

しかし一方では、今期の人生においてそのような振り返りが出来ること自体、これまでと比べて格段の進歩をしているということでもあるのです。大切な点は、私達が少しずつこれら目に見えない微小な実体から贈られる印象に対して心を開き、それらと同期し様々な事柄を学びながら生活するという事です。

159 But to return to the true cell memory; because all manifestation consists of atoms, which, through creation and recreation are used and reused to make forms, the interrelationship between all things is self-evident. The atoms which now make up your physical body, previously contributed to the construction of innumerable other bodies and forms. And like the cells of the dwellings mentioned earlier which were impregnated with the vibrations received from the occupants, the cells of the body will carry memories received from each manifestation.

159 しかし、真実の細胞の記憶に戻れば、全ての創造物は原子から構成されており、それら原子は創造につぐ創造に何度も再活用されている為、万物の間に相互関係があるのは自明のことです。今や貴方の肉体を作り上げている原子達はかつては無数の他の肉体や形有るものの建造に貢献して来ました。そして以前述べた住居の細胞のように、占有者から受け取った振動を染み込ませており、肉体の細胞も個々の創造物から受け取った記憶を運ぶのです。

【解説】

これら私達の肉体を構成する原子は各々過去様々な生き物を形成し、いろいろな体験を経て来たもの達です。そうした様々な歴史を持つ膨大な数の原子群と私達は身近に暮らしているという訳です。

そういう意味から、私達の第一の義務はこれら未来に続く者達に一刻一刻素晴らしい体験をさせ、それらを記憶させることではないかと考えます。こうした良質の体験をさせることがその後の世の中の進歩に役立つことにつながる筈です。

私達は丁度、人体という惑星を任されている者と言えるかも知れません。60億の人間が住む星をどのように運営し、良好な状態に保つかについて常に心掛けることが大切です。また一つ一つの細胞や原子の持つ潜在力や経験も吸い上げて共に学んで行くことも必要でしょう。

「全ては自分自身の中にある」という言葉は、こうした私達自身の中に本来広がっている知識の海について示唆したものでもあります。

160 The Living Soul, given to man when the Creator breathed the breath of Life into his nostrils, does carry the True Book of Remembrance; but few who have lived, or are now living on earth, have as yet evolved in understanding to the place where they may read. True, on rare occasions we may be given a glimpse of a word here and there, and with understanding can interpret these correctly. But since most Earthlings have not yet learned sufficient control over the sense-mind, more than a brief glance cannot be vouchsafed them.

160 創造主が人の鼻の孔の中に生命の息を吹き込んだ時、人に与えられた生ける魂こそが真実の記憶の書を運んでいます。しかし、地球にこれまで生きて来た、あるいは現在生きている者で、その者達がそれを読み取る場所まで理解力を発展させた者は極くわずかです。真実の所は私達はまれにそこここで記載されている言葉の一瞥を与えられ、理解力により、これらを正しく解釈することが出来るかも知れません。しかし、ほとんどの地球人が感覚心に対する十分な支配を学び取っていない為に、わずかの一瞥以上のことを与えられることはないのです。

【解説】

そもそも私達が生きものとなった瞬間に私達自身の中に記憶の書とも言えるべきあらゆる知識が与えられたという訳です。同様なことは私達が母体から生まれて初めてこの世で呼吸した時点にも当てはまるのかも知れません。

いずれにせよ、私達自身の中に本項で言う記憶の書が入れ込まれており、本来は各自が必要な時それらを調べ知識を得ることが出来る仕組みになっています。

「記憶」については現在の私達の科学レベルでは頭脳の中に記憶場所があることになっています。一部の脳細胞がその内側に記憶を取り扱う役割を担っていることも確かでしょう。しかし、それがどのような形式で行われているのか私達は未だ知りませんし、その記憶がどのように活用されるかも分かりません。

しかし、人体のユーザーである私達は実際の使用方法、活用手法について学んで行く必要があるのです。丁度、自動車のメカニズムは熟知していなくても、自動車を安全快適に運転することと同じです。大切なのはこれら記憶の書を如何に自分のものとして親しむかということでしょう。

優れた講演者は原稿も見ず、長時間聴衆に向けて貴重な講話を行います。彼らは次々に語るべき内容をどのようにして得ているか不思議に思うことがありました。この時、講演者は自身の内側の記憶の書に長年蓄積して来た話題を状況に合わせて引き出し、聴衆の求めに応じて披露していると言うことが出来ます。

CHAPTER II

Impressions From the Body Cells

161 Some may point to the fact that the cells of the body are constantly changing. How, therefore, is it possible for them to retain their memory?

第2章

肉体細胞からの印象

161 肉体の細胞は常に変わっているという事実を指摘する人もいるでしょう。それ故、どうやって細胞達が記憶を保持することが可能となるのかと。

【解説】

本項から新しい章に入ります。

私達が気付かぬ内に私達の肉体を構成する多くの細胞は更新されて行きます。こうして常に新たに生まれた新鮮な細胞が私達を常に若々しくさせている訳です。一方、私達に老化が始まる場合は、それら細胞群の新陳代謝が抑制され、不活発な細胞が身体を占めるようになる訳です。

こうした中、細胞群はおそらく身体維持の為に互いに補い合っ全体としての機能を発揮している訳で、互いのコミュニケーションが良くとられているものと思われま。

詳しい内容はわかりませんが、細胞1個の中の遺伝物質だけでも、身体全体を復元できるほどの情報が含まれていることは近年の遺伝子研究でもわかって来ているようです。つまりは記憶の書はDNA等の分子・原子の中に蓄えられていることを著者は述べているものと思われま。

162 In man, as in the flower bed, the same atoms merely form new cells. Remember the law of affinity, the action of attracting and repelling, is the foundation of the universe. And these tiny atoms, so complete in themselves, obey unquestioningly the Cosmic Intelligence which, through the Mother principle, Matter, has brought them into being. They do not lose their individual identity, but rather, add one more experience through the new manifestation.

162 人においても花壇におけるのと同様に、同じ原子群が新しい細胞群を形成するだけです。親和の法則、即ち吸引と反発の作用が宇宙の基礎であることを忘れないで下さい。そしてこれら微細な原子達は、それら自身が完璧である為、宇宙英知に疑問を挟むことなく、従い、母性原理である物質を通じて生を受けています。それらは自らのアイデンティティを失わず、むしろ新たな創造を通してもう一つの体験を加えるのです。

【解説】

私達の身体はそもそも何から出来ているのか、またそれらは何処から来たのかを考えてみる必要があります。

地球という花壇には季節に応じて様々な草花が植えられるでしょうが、それらは各々異なるものの、皆同じ花壇の土と水、空気が元になって花を咲かせるに至ります。人間も同様に各人はいずれかの地からこの花壇に植えられ、この地を抛り所に自身の花や実をつけることとなります。その間、その生きる過程で人々を楽しませ、他の多くの者に自然の美しさを再認識させることも出来ることとなります。

こうして季節は移り、やがてその草花も生涯を閉じる時が来ます。しかし、その時には次の世代の種が出来ており、次の季節に同じ場所か異なる場所で引き続いての生命の営みを続ける準備が出来ています。

私達はこの間、この肉体を構成するこの花壇の土の原子対し植物としての体験を与え、その記憶を私達と分かち合う機会を与えていることとなります。花壇に何も植えなければ土はそのままの状態が無為な時間を過ごすことになる筈です。

そういう意味からも、私達が生命の流れに沿って各自活発に活動すること、身体内部から湧き起る生命波動を現実世界に表現することが重要な役割となっていることが分かります。

163 Atoms are endowed with alertness or awareness, and through feeling, can impress their messages upon man's mind. For instance, we may be strolling down a lonely road, or hurrying along a busy street; the mind occupied with its own thoughts when, through feeling, we become aware of someone staring at us. As yet the eyes have not seen this person, nor was the preoccupied mind aware of his presence until feeling alerted the brain. It was the cells of our body, responding to the directed thought from the other person, that alerted our mind to his fixed attention upon us. This same alertness can be awakened in us by the gaze of any living form.

163 原子達には警戒即ち、知覚力が授けられていますし、フィーリングを通じて自らの伝言を人間の心に印象付けることが出来ます。例えば、私達が人気（ひとけ）のない道を歩いている、あるいは賑やかな街路を急いでいるとします。心はそれ自体の想念によって占められていますが、フィーリングを通じて誰かが自分達を見詰めていることに気付きます。目はこの人物を見ていませんし、印象が頭脳に警告するまで、その存在に気付かませんでした。私達の心にその人物から私達へ動かない注目について警告したのは、その者から放射された想念に呼応した私達の肉体の細胞なのです。これと同じ警報は他の生き物の凝視によっても私達に知覚され得るのです。

【解説】

実質上、私達が他人の想念を感知できるのは、私達の肉体細胞の原子達がそれを感じ取り、そのことを脳に通報することによると本項は解説しています。

つまりは私達は全身で印象を感じ取っているという訳です。その為には身体全体をリラックスさせ常に鋭敏なる状態に保っている必要があります。丁度自然界の動物達が天敵の存在を感知し、じっと身を潜める時や植物が栄養分の存在する方向に地中深く根を伸ばす等、様々な場面で自身の身体を使ったテレパシーを活用しているものと思われます。

こうした事柄は長年、「本能」とひとくくりにされて来ましたが、その実態は極小単位の原子達が支えていたという訳です。私達が日常暮らす中で、自身の身体を如何に鋭敏にするか、その為には微細な印象の伝達に気づくよう心を澄みきった状況に整えておく必要があることが分かります。

164 What has this to do with telepathy? It is a very good illustration explaining one phase of telepathic communion between man and the body cells, or man and nature. Following is another in which I was a participant.

164 このことはテレパシーとどう結びつくのでしょうか。それは人とその肉体の細胞との間や人と自然との間のテレパシー的な意思疎通の一側面をととても良く表わしている例証と言えます。以下は私が当事者となったもう一つの事例です。

【解説】

本項で言うようにテレパシーとは単に人から人への意思の伝達ばかりではありません。肉体細胞や他の生き物達、更には鉱物までも含んだ原子との印象の交流によるコミュニケーションである訳です。

私達はこの能力を身に付けるべく学習を続けているのですが、これまで分かったことは、私達の教師は最も身近な存在である自分自身の肉体細胞、更には細胞を作り上げる原子にあるということです。

この原子達は繊細な感性を持っており、感受した印象に忠実に従う働き者です。経験した印象を自ら保持することで、万象発生の太古からの様々な経験を有する存在でもあるのです。

テレパシー開発による成果の一つが、これら身近な有能者を自身のアドバイザーとして活用することで、日々の生活の中で危険を避け、豊かな洞察力を収め、新たな体験を得ることにあると考えています。

165 A number of years ago an acquaintance who had been feeling unwell, consulted a doctor. The doctor's diagnosis was that she was suffering from a serious heart condition, and that her teeth were so badly infected they would all have to be extracted. Naturally, she was very distressed by the diagnosis; and came to discuss it with me, asking for advise.

165 何年も前のことですが、長く気分が良くないと感じていた一人の知人が、医者にかかりました。その医者の診断は彼女が深刻な心臓の病を患っていること、また歯は細菌によりひどく感染している為、全て抜かなければならないだろうというものでした。当然のことながら、彼女はその診断によって大変心を痛め、助言を求めて私の所に相談に見えたのです。

【解説】

自分自身の肉体がどういう状況にあるのか、実際なかなか分からないものですが、それこそは大きな問題と言えるでしょう。自身に最も近く日々印象を交流しているべき肉体細胞の声を私達の心は気づかないまま勝手気ままに肉体を酷使しているのかも知れません。

もちろん症状が出れば私達の心もさすがに事態を認識するのですが、実際には症状に至るまでには長期間、身体内部で騒ぎが起こっていた筈です。私達の心はそれに気づかずに過ごしていたということです。

先日もある所でブヨと言われる小型の吸血ハエに刺されたことがありました。気が付くと両手3か所刺された訳ですが、彼らは実に巧みに近づき、対象にとまるや何ら気づかれることなく、所定の吸血活動を済ませます。今回も少し油断していた内に刺されてしまいました。その後長期間後遺症に悩まされることになった訳です。

この場合も手の細胞は虫が皮膚の細胞を切り裂いて血を吸っていると通報していたと思われませんが、心は他の事項に夢中で気づこうとはしなかったのです。はからずも自然界で生きて行く上で絶えず心を警戒の状態にしておくことの重要性が身に染みた体験になってしまいました。

166 The woman's mind had been deeply impressed with the idea that her heart might falter and stop at any minute, and that her teeth were ulcerated beyond medical help. Remember, these were the thoughts she was holding uppermost in her mind when she consulted me. Yet, I received a definite impression from the heart that the action of that organ was normal; and I could detect the presence of only a slight infection in the cells of the mouth. Therefore, I informed her that her heart was perfectly normal, and there was nothing wrong with her teeth except for a slight infection of the gums, which could be eliminated with proper treatment. I did not acquire this information by visible means, for I am not a doctor and I made absolutely no physical examination. The diagnosis-if you wish to call it that-was the result of thought-transference from her body cells to my mind.

166 その女性の心は自分の心臓は何時、ふらついて止まるかも知れないことや、自分の歯が医療の手当てが及ばない程、潰瘍が生じているという思いに深く印象づけられていました。これらは彼女が私に相談した際に心の中で真っ先に抱いていた想念でありました。しかしそれでも、私は彼女の心臓からは、その器官の働きは正常であるという確固たる印象を受けました。口の細胞に若干の感染があることを感知しただけでした。それ故、私は彼女に彼女の心臓は完璧に正常であり、歯茎にわずかの感染箇所がある他は、彼女の歯には何も悪い所は無く、感染箇所も適切な処置によって取り除けることを伝えました。私はこの情報を視覚的手段で得たものではありませんでした。何故なら私は医者ではなく、どのような物理的な診察を行ったのでは決してありません。それを診察と皆さんが呼ぶというのであれば、その診察は彼女の肉体の細胞から私の心への想念移動の結果であったのです。

【解説】

本事例の場合、医師の誤診の告知に心が動揺してしまった例ですが、このように私達は自分自身の身体
の状況についてほとんど気付いていないのが実情です。

その背景には肉体細胞から発せられる印象の言語は現在の私達にとって大変微妙なものであり、それに
気付く為には心をよほど沈静化させて置かなければなりません。それほど細胞や原子から発せられる印
象情報は精妙なもののようです。

しかし早い段階で対処すれば大きな健康問題にならずに済むように思いますし、何よりご自身の事柄な
ので少しずつでもこうした内部の訴えに耳を傾けることは重要です。日本には「お身体ご自愛下さい」
という表現がありますが、このことを良く表していると思います。

167 This lady, still doubtful, went to a heart specialist who confirmed the impression of normal cardiac action I had received from the heart cells. She then visited a dentist, and the information I had received from the cells of her gums was substantiated, for, after taking X-ray pictures, he assured her the infectious condition could easily be cured by a few weeks' treatment.

167 この婦人はそれでも疑って、心臓の専門医の所に行ったところ、その専門医は私が得た正常な心臓の動きの印象を確証しました。彼女は次に歯科医を訪れ、私が彼女の歯茎から得た情報が実証されたのです。何故なら、レントゲン写真を何枚か撮った後、その歯科医が彼女に感染状態は数週間の治療で容易に治ると彼女に保証したからです。

【解説】

他人の言葉によって人は左右されがちです。本事例は医者からの宣告であった為本人は容易に信じてしまい、心は自己保存に危機感を感じてしまった訳です。

しかし、たとえ事実と違った内容であっても長年心がそれを信じているとやがてはその状態が実現してしまうこともあり得るのではないのでしょうか。心は創造主に似た能力を持っており、自ら支配する身体細胞をそのような状況に陥れることもあるのです。

これに対し私達はいつも静かに自身の身体の奥深くささやく細胞の声を聴き、必要な対処を実行すること、正常に戻そうとする肉体細胞の活動を後押しするよう努めることが重要です。私達は元来、皆、創造主から命を与えられたものである以上、自らの生命の存在について心配する必要はありません。それに相応しい暮らしが約束されており、その代わりに与えられている才能を開花させることが求められているのです。

168 This proves that thought can be transmitted from the body cells within a form, without the necessity of passing through the brain of the form as a conscious thought. If thought could only be produced through action of the brain cells, this knowledge could never have been revealed to me; for the woman's brain was broadcasting strong, frantic, thought-vibrations of serious disorder in the body.

168 これは想念は一つの意識出来る想念として形あるもの（訳注：肉体）の頭脳を通過する必要はなく、身体の中の肉体細胞から発せられ得ることを証明しています。もし想念が頭脳細胞の活動を通じてのみ作られるとしたら、この知識は私には明らかにされなかったからです。何故なら、その女性の頭脳は、身体の中の深刻な疾患状態についての強烈で気も狂わんばかりの想念波動を発していたからです。

【解説】

ポイントは頭脳を介さずに行われる想念・印象の伝達です。このことは例えば脳のアンプを介することで心の抱く想念は強烈な音源となって全身を揺さぶる程の効果を出しますが、その多くは心の過ちやかたくなさから、片寄ったものになりがちです。

これに対し、細胞や原子から発せられる想念・印象は精妙なのですが、それらに波長を合わせれば周囲の雑音とは関わりなくその声を聴くことが出来ます。丁度、テレビやラジオのように求めたい波長のみを選局し番組を楽しむのと同様です。

言い換えれば巷の雑踏がどんなに大きく騒がしくても、静かで宇宙の源に心を向けた生活が出来ることと同じです。

169 Each atom making up the cells of the body possesses within itself the element of feeling-which is consciousness. Consequently, it is quite possible for the cells of one form, to convey the state of their activity to the cells of another form. When the cells of one body are impressed with vibrations from the cells of another body, the impulse is created in the nerve plasm and immediately carried through the afferent nerves to the brain, where it is decoded into a conscious thought. It may be difficult to accept the idea of cells as little conscious entities, capable of receiving and passing on vibratory impressions, or of forming their own messages; but experiments which have taken place in our laboratories have proved conclusively that all substance is possessed of consciousness.

169 肉体の細胞を構成する各原子はそれ自身の内部に意識であるフィーリングの要素を所有しています。したがって一つの形あるもの（訳注：肉体）の細胞群が他の形あるものに自らの活動の状況を伝えるというのは全くのところ、起こり得るのです。ある肉体の細胞群が他の肉体の細胞から来る振動を感受すると、神経の原形質に衝動が発生し、直ちに中枢神経を通じて脳に伝わり、そこで意識できる想念に解読されます。細胞が小さな意識ある実体で、振動による印象を受信し、転送する、あるいは自身のメッセージを作り出すとする概念は受け入れることが難しいかも知れません。しかし、私達の実験室で行われた実験では、あらゆる物質は意識を持つことを決定的に明らかにしているのです。

【解説】

あらゆる物体と印象を通じて話すことが出来るということです。極微小な存在である原子が、その状況を印象として発し、誰でもそれらの印象を感受でき、それとコミュニケーション出来ると本項は説いています。

おそらくこれまでこのことを正面きって言及した人物は他に居ないように思われます。これまでは何か神秘的な存在や超能力として、これら印象やインスピレーション問題について取り扱われて来たように思うからです。

しかし、万物に生命があり、万象を同胞（はらから）と認識するルーツは日本神道その他、太古からの教えに多く散見されるものです。ネイティブインディアンの文化のその一つです。森羅万象あらゆるものと一体になれる心境はこうした原子レベルの印象の交流から生まれると言って良いでしょう。

170 For instance, living tissue taken from the body of a chicken has been kept alive for years without the aid of brain, spinal cord, or sense organs; not merely preserved but actively growing, or multiplying in cell composition. It is true that this tissue could not continue to live if it were not supplied with proper heat, moisture, and the necessary food; but if the cells of this living tissue were not conscious entities, how could they know how to assimilate the elements provided for their maintenance?

170 例えば、ひな鳥の身体から取り出した生きた細胞組織は、頭脳や脊髄あるいは感覚器官の助けがなくても、何年も生き続けられました。単に保存されたということではなく、活発に生育し、即ち、細胞分裂をし続けたのです。この細胞組織が適切な温度や水分、そして必要となる食物が提供されなかったとしたら、生き続けることは出来なかったのは確かです。しかし、この生ける細胞も組織が意識ある実体でなかったとしたら、どのようにして、それらは自分達の維持の為、提供された元素を取り込むことを知り得たのでしょうか。

【解説】

一つ一つの細胞が各々個別に生存活動を続けられる程、知性を有していることに私達は気づく必要があります。つまり自然界のあらゆる生きものは基本的に自立し、成長を遂げる知識を有していることとなります。

その源は宇宙につながるものだと考えますが、私達の身体の細胞は皆、こうした能力を持った存在であり、主人である自我は単にその上に坐して差配しているに過ぎません。

この極微小な細胞は休みなく働き、ある場合にはそれ自身をささげることによって他者を生かし、また自身も他者を糧に生きているという訳です。私達はこうした活気ある生命の海の中で日々暮らしていることを自覚することが大切です。そして時としてこれら微小な実体から生きるヒントをもらえることにも感謝したいものです。

171 Every moment of our lives provides us with ample evidence of the intelligence of the body cells. While we go about our daily routine, these busy cells oversee the intricate functionings of our bodies. With no assistance from our conscious mind, they extract the essence of the foods we eat, parcel it out to the various parts of the body in proper proportions, and discard the waste. Admittedly, this is only what we have come to accept as a natural functioning of the body; yet when analyzed, it represents a miracle that man cannot duplicate. Does it not give us a wonderful insight into the workings of nature? And what is Nature but Cosmic Cause expressing Cosmic Intelligence?

171 私達の命の一瞬一瞬が私達にこの肉体細胞が持つ知性について有り余る程の証拠を提供しています。私達が日々の日課に出掛ける間にも、これら多忙な細胞達は私達の肉体の複雑な諸機能を見渡します。私達の意識ある心からは一つも援助を受けることなく、細胞達は私達が食べる食物のエッセンスを抽出し、それを身体の様々な部分に送り届け、老廃物を排泄します。明らかなどころ、これは肉体の自然の機能として私達が認めるところです。しかし、分析すると、それは人間が真似することが出来ないような奇跡的なことであることを表わしています。それは私達に自然の諸作用に対し、素晴らしい洞察を与えているのではないのでしょうか。また、自然とは宇宙的英知を表現する宇宙的因以外の何者でもないことについてです。

【解説】

私達が日々生きて居られるのは、身体内部の様々な細胞が人体維持の為に巧みに働いているからに他なりません。詳しく観察・調査すれば、それは驚くほど精妙なものである筈です。

この事実を考えるだけでも、私達は生かされた存在であり、その源は微小な細胞や原子の知性に発し、また更にはその先には宇宙の源泉から与えられる無尽蔵な恩恵があるのです。このように考えれば、毎日生きているだけでも幸せな気分になることは間違いありません。それほどに60兆もの働き者が私達各人を支えてくれているのです。

これら細胞の活躍ぶりは奇跡的とも言える高度なもので、無駄というものがありません。私達の身内にあるこれら有能な働き手から私達は積極的に知識を得るよう、絶えず身体内部の声に耳傾けることが重要です。あどけない幼児から学ぶことはこの生命の源泉から近い存在に学ぶことに等しく、イエスが説いた「みどり子」の話もここに由来したものであることが分かります。

172 While our minds cannot consciously direct each detail of the complicated workings of the body - we must depend upon nature for this - through our mental attitudes we do wield a tremendous influence over these operations. If we are serene when we eat, the digestive processes are orderly; but if the mind is agitated by thoughts of anxiety or anger, the little cell chemists of the stomach and intestines will be thrown into confusion. This will result in an unbalance in the glands producing the gastric juices, and indigestion will follow. Because the digestive processes were unbalanced, the second group of little chemists, those responsible for controlling the gas, cannot perform their duties properly; and excessive gas will form, often settling around the heart. Since the waste matter was not fully digested, the third group, those responsible for elimination, will be unable to function properly.

172 私達の心は、このことを自然に対して依存しなければならず、意識的に肉体の複雑な作用の個々の詳細を指示することは出来ない一方で、私達の心の態度を通じてこれらの作用に対しては途方も無い程の影響を行使しています。もし、私達が食事する時、穏やかであれば、消化の過程は整然と行われます。しかし、もし心が不安や怒りの想念によって掻き乱されていると、胃や腸のそれら小さな化学者達は混乱の淵に投げ込まれてしまいます。これにより、胃液を作り出す分泌腺にアンバランスをもたらし、消化不良となります。消化の過程がアンバランスになった為に、ガスの制御を担う二番目の小さな化学者達は自分達の任務を適切に実行出来ず、余分なガスが生成し、しばしば心臓の周囲に溜まります。老廃物が完全には消化されない為、排泄を担う第3のグループは機能を適切に果たせなくなります。

【解説】

体の不調は体内の混乱が原因であり、それは心がこれら微小なる働き者を自身の強大な想念によって妨害する結果、発生します。文字通り自然の流れに従えば、これらの活動は滞りなく行われ、正常な生命活動が行われる筈なのですが、独り心が頑なに状況を悲観し、或いは憤っている為に身体内部の正常な活動を妨げているのです。

ここで言っているのは、このような心の状況に陥った原因、理由のことは問いません。大切な身体を心が自ら壊していることに気づくことが大切なのです。

結局、大事なことは何かと言えば、何を置いてもご自身の生命という訳ですから、それを損なうことは厳に慎まなければなりません。「怒りは敵である」とはこのことを示唆するものと考えます。

173 This unnatural condition in the digestive system is the direct consequence of the strong thought vibrations of anger or anxiety impinging upon the body cells, and if continued long enough can cause serious and lasting bodily damage. Science has definitely proved that anxiety and tension can terminate in neurosis, ulcers, etc. So here is evidence that the sense-mind can bring suffering upon itself, the physical man. There is great truth in the saying, "As ye sow, so shall ye reap." for it is applicable not only to our morals, as most people interpret it, but to every facet of our lives. 173 消化システムにおけるこの不自然な状況は、肉体細胞に衝突して来る怒りや不安の強い想念の直接的な結果であり、もし長く続く場合は、深刻で続く肉体の損傷を引き起こす可能性があります。科学ははっきりと、不安や緊張はノイローゼや潰瘍を起こして終結することを証明しています。ですからここに、感覚心が自分自身、即ち肉体としての人間に苦痛をもたらす得ることの証拠があるのです。「播く種は刈り取らねばならない」ということわざには、偉大な真実があるのです。何故なら、それはほとんどの人が解釈するような道徳ばかりでなく、私達の生活のあらゆる側面に適用できるものだからです。

【解説】 「ストレスから胃が痛む」とか心因性の下痢になったとかは、よくあることで、各自体験されたこともあるでしょう。私達の心（感覚心）の問題はそれ自身の抛り所でもある自身の身体をも損なうなど、自ら播いた種（自ら発した想念）は自分自身に最も大きな影響を及ぼしているという訳です。時々刻々発する想念は外部に影響を与えるのみならず、自身には更に大きな影響を与える訳で、私達の発する想念をコントロールすることが如何に大切かが分かります。通常、私達の心は感受する側の能力は大変低く、鈍感なのですが、自分が発する想念が如何に周囲に影響を及ぼすかまでは理解出来ていません。以前、ルーサーバーバンクの"The Training of The Human Plant(1907)"という小冊子（現在はネット上に全編が公開されています。 https://archive.org/stream/trainingofhumanp00burbiala/trainingofhumanp00burbiala_djvu.txt）を読んだことがあります。その中で人間の幼児が最も感受性が高いとの記述があったように記憶しています。つまり、私達も生まれ落ちた直後は大変印象に鋭敏だった訳で、その後感覚心・エゴが拡大した結果、目に見えない対象については鈍感になってしまったものと思われれます。イエスがニコデモに語ったように私達の第2の誕生もこうした原点に戻ることを求めています。

174 Stop and study yourself impartially. Do you rush about, your body a quivering mass of taut, jangling nerves? Is your mind racing ahead to all the things you feel you must accomplish? If so, you will find every muscle in your body is tense. At the end of the day your body and mind will be fatigued. Even sleep will not bring repose if the mind is not at rest, and in time nature will rebel against your continuously breaking one of her fundamental laws. For when your body and mind are tensed and worried, the cells will not function properly.

174 立ち止まって、片寄らずに自分自身を研究することです。貴方は自分の張り詰めて苛立つ神経の塊になった身体を急ぎ立ててはいませんか。貴方の心は貴方が成し遂げなければならないと感じる全ての物事に向かって、駆け出してはいませんか。もしそうであるなら、貴方はご自身の肉体のあらゆる筋肉が緊張していることに気付くでしょう。一日の終わりには、貴方の肉体と心は疲れ切っているでしょう。もし、心が安静になっていなければ、睡眠も休養をもたらすものとはならないでしょうし、また、やがては自然の基本的な諸法則の一つを継続的に破り続けている貴方に、自然は反逆することでしょう。何故なら、貴方の肉体と心が張り詰め、悩んでいる間は、肉体の諸細胞は適切に機能しないからです。

【解説】

著者は私達に心の暴走を鎮めて、もっと落ち着いた生活に戻るように諭しています。とかく私達は心の不安から、次々に先のことを考え、仕事を急ぐものですが、大切な体調を崩すところまで為すべきものは、この世に存在しません。

厳しい生存競争がある野生生物にあっても、彼らはゆったり自然の恩恵を享受しているように見えます。しかし、そのこと背景に何があるかについては良く考えて見る必要があるでしょう。同じ仕事をするについても、楽しく生き生きと行う場合とそうでない場合とでは、成果の内容も疲れ方も変わって来ます。

要は私達の心をどう柔軟なものとし、周囲の他の創造物と融合して円滑に暮らせるように保つかということです。これまでの偏見を捨て、改めて自然や宇宙に同化するような心の状態、心境を整備することが大切です。

175 The natural state of the body cells is a relaxed, yet busy approach to life. When you distort their normal expression through tenseness, they broadcast this inharmony to all about you. We have many examples of this in our daily lives. Notice that when you are tense and out of sorts, and lash out at someone with a sharp retort, you will usually receive a sharp answer. This is caused by the cells of your body impressing their feeling of discontent upon the body cells of the other person. And because you are expressing a strong, destructive emotion that most people have not learned to guard against, their body cells respond in like manner. So if you want to make a happy life for yourself and those around you ... watch those emotions! Stop worrying over every little thing-and over every big thing, too. Worry has never yet solved a problem or changed a circumstance.

175 肉体細胞の自然な状態とはリラックスして、しかも生命に近付こうと専念している状態です。貴方が緊張を通じてそれらの普通の表現をゆがめてしまうと、それらはこの不調和状態を貴方の全周囲に発信します。私達はこの例を日常生活の中で多く持っています。貴方が張り詰めていて機嫌が悪い時、誰かを辛らつな応酬で非難すると、貴方には大抵はとげとげしい応えが返って来ることでしょう。これは貴方の肉体の諸細胞が不満のフィーリングを他の人の肉体細胞に印象付けている為に引き起こされます。そして貴方がほとんどの人がそれに対して守らなければならない強烈で破壊的な感情を表現している為に、それらの肉体の細胞も同様に反応しているのです。ですからもし貴方が自分自身や周囲、等々に幸せな人生を成し遂げたいと思うなら、これらの諸感情を監視しなさい！個々の細かい物事、また個々の大きな物事についても心配することを止めなさい。心配が問題を解決し、あるいは環境を変えたことはありません。

【解説】

本項は言い争いの真相は、相手に送った攻撃的な想念に相手の肉体細胞が応戦する為だとしています。実は私達が気づかない内に、自分の肉体細胞は相手の想いを感知し、反応するという訳です。当然、非難に対しては自己を守るべく相手側の非を主張し、エスカレートすれば肉体を動員して暴力行為に及びます。私達地球人のレベルはまだこのような段階なのです。

しかし、テレパシー能力の開発を目指す私達は、これまでのこうした段階から抜け出る必要があります。自らの発する想念がどのような影響を及ぼすかを自分で確かめながら生活することです。心が抱く想念を絶えず監視し、それらを良質なものに引き上げ、大自然から来る優れた印象に心を開くことです。

自分自身の持つ潜在力に改めて気づくことが出来れば、つまらぬ事象に心の関心を集めることを止めて、周囲の者に役立つより上質な生き方を率先し、良い影響を及ぼすことが出来るようになる筈です。

176 Here is another example of how a worried mind affected the body cells to the point of physical breakdown. For twenty years a friend of mine had prided herself on being an immaculate housekeeper. In fact, her home was so "freshly-vacuumed" looking, both family and friends were never quite comfortable in it. While entertaining, she had an annoying habit of watching the ash trays, fairly snatching them out from under cigarettes so she could replace with clean ones. Her every move, every facial expression reflected nervous anxiety, making the atmosphere in the home vibrant with uneasy tension.

176 ここに心配しがちの心がどのようにして肉体細胞を物理的な崩壊点にまで影響を与えるかに関するもう一つの例があります。私の友人の一人は20年間にわたり、完璧な主婦であったと自慢していました。実際には彼女の家は余りにも「真新しく電気掃除機がかけられた」ように見える為、家族も友人達もその中では決して心地よくはありませんでした。興じている最中でも彼女はタバコの下から灰皿をひったくって新しいのに入れ替えられるよう、灰皿を凝視するイライラさせる癖がありました。彼女の一つ一つの動作や顔の表情は神経質な心配の念を投影しており、その家庭の雰囲気落ち着かない緊張感でみなぎらせていました。

【解説】

私達が生きる目的を何処に置いているかは重要な所です。本項の例はある面、真面目な者にとって陥りやすい点でもあるでしょう。大切なことは、自分自身も含めて、周囲の者、周囲のあらゆるもの達に、生命本来の活動状況を自由に表現させることであり、自分の尺度を押し付けてはいけません。

この場合、きれい好きが高じて周囲に不愉快な思いや不要な緊張感をもたらしているのですが、本人がそのことに気付いていない所が問題なのです。

一般に自分自身のことは自分ではなかなか分からないものです。しかし、それは自分自身を見渡せないことをも意味しています。その結果、心の暴走を止めることが難しくなるのではないのでしょうか。その為には、自分自身を知る為にも、相手の反応から学ぶことも大切です。自分の放った想念は相手に感受された結果、その反応として帰って来るからです。他者を鏡として生きることも有用なのではと考えています。

177 The focal point of this woman's life was her home, her husband, and her children. In her fervid desire to be a good wife and mother, she had become so immersed in physical tasks that she made everyone around her uncomfortable. On rainy nights her husband stopped on the drafty back porch and removed his shoes, traversing the length of the house in his stocking feet so he would not mar the freshly scrubbed tile. The children's lives were ruled by stern admonitions: "be careful not to soil your clothes; pick up all your toys; for goodness sake, don't disarrange the furniture."

177 この女性の人生の中心は彼女の家庭であり、彼女の夫であり、子供達でした。彼女の良き妻であり、良き母でありたいとする熱烈な願望のあまり、彼女は物理的な課業に没頭するようになった為、彼女は自分の周囲のひとりひとりを不快にさせてしまいました。雨の夜には彼女の夫は肌寒い裏のポーチで立ち止まり、靴を脱ぎ、真新しく洗われたタイルを台なしにしないよう、靴下を履いた足で家を横切ります。子供達の日常生活は「衣服を土で汚さないように注意して。自分の玩具を片付けて。お願いだから家具を乱さないで。」との厳格な説諭に支配されていました。

【解説】

清潔ですっきり片付いた家に誰もが暮らしたい訳ですが、それに拘り過ぎることも問題になることがあるということになります。つまりはそれらはあくまで結果、現象の世界であり、私達が最優先にしたいのは、私達の心境の面であり、決して物質界のことではないのです。

この事例ではよく見る欧米型の日常生活のパターンですが、確かに清潔この上ない理想的な暮らしではありますが、何事も過度な行き過ぎは問題になる訳です。主人公の主婦は目に見える状況のみに囚われ、大切な事柄、即ち家族の心的状況についてまでは考え及んでおりません。目に見える現象のみを守って行けばよしとしているだけなのです。

人は様々な状況から必ずしも皆恵まれた環境で暮らしている訳ではありません。本講座はこうした各人に必ずやより恵まれた環境をもたらすものですが、その実現には多少の時間が必要です。重要なのは、そうした現実世界に変化をもたらすのが、私達の日常の想念、何気なく発している心の想いであるということです。この心の活動内容を本来のリラックスし、奉仕に向かうものとする事で、自ずと結果は付いてくると言っても良いでしょう。

ご連絡 [2014-10-02]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

都合により次回更新は、10月6日（月）以降になる見込みです。

178 Nature finally rebelled; and this prolonged tension brought on a serious lung condition. When the doctor gently told her the results of the laboratory tests, outlining a plan for the necessary months of bed rest, the woman ignored the serious condition in her body, but expressed deep concern over the state of neglect she felt sure would invade the home without her personal supervision. In other words, her thought-habit pattern had become so set, even the threat of a dangerous illness could not register its full impact upon her mind.

178 自然は遂に反乱を起こし、この長く続いた緊張は深刻な肺の状態をもたらしました。医者が彼女に優しく、検査室での試験の結果を話し、数カ月の長期療養の治療計画の概要を説明した時も、その婦人は自分の肉体の深刻な状況を見做して、自分自身の監督が無くなった家庭には必ずや放任状態がはびこるとの思いに極度の懸念を示したのです。言い換えれば、彼女の想念習慣があまりに固定化されていた為、危険な病の脅威ですらも、彼女の心に十分な影響を留めることは出来なかったのです。

【解説】

あくまで私の憶測なのですが、私達の身体には様々な防衛機構が働いていると考えられます。体内に異物や有害物が万一侵入すれば、早速白血球その他の防衛部隊がそのものを攻撃し、身体全体にそれら異物の影響が広がるのを防いでいるものと思われれます。

しかし、これらの防衛組織が円滑に活動する為には、それら異物の侵入情報がスムーズに伝わり、これら防衛隊が活動し易い環境を体内に整備しなければなりません。

よく言われる例としてガン細胞がありますが、それらはこれら防衛隊に見破られないよう正常な細胞に似た性質を持って増殖しているものと思われれます。また、もし私達自身が体内のガン細胞に対して警戒出来る程の感受性を高めることが出来れば、極微の細胞レベルのこれら異物に対処するメカニズムを支援することが出来るものと考えられれます。

いずれにしても、自身の身体に最も大きな影響を及ぼすのは各自の心の想念であることは間違いない訳で、その者の身体状況の多くは各自の責任に由来することになります。

179 The doctor's answer carried a philosophy it would be well to heed. "Forty years from now, no one will know, or care, about a little dust on your piano today. So just relax and look into the future forty years. This will give you some idea of how unimportant criticism actually is in your life."

179 その医者 of 次の回答はよく心に留めるべき哲学を備えていました。「今から40年経てば、誰も貴方のピアノの上のわずかなホコリについて知りもしないし、気にも掛けることはないでしょう。ですから、ちょっとリラックスして、これからの40年間を覗き見て下さい。それは貴方に貴方の生活には実際如何につまらない批判主義があるかに気付くことになるのではないのでしょうか。」

【解説】

私達が最も大切にしなければならないこと、それはこれから先に歩むべき人生の道筋です。目的地も定まっていないうまま、毎日をフラフラ過ごしてしまうのは、折角の未来に続く道を見逃すことにもつながります。

しかし、残念なことに私達は自身の将来について考えるより、目先の事柄、心の好き嫌いの騒ぎの中、習慣に埋もれた生活をしがちです。手助けの忠告は印象・想念の形で常に私達に注がれてはいるものの、それに気付こうとしない私達には大きな問題がある訳です。

この場合、時として本事例のように病気という非日常の状況に陥ることで遂に真の実態を理解する機会を得ることもある訳です。また、患者と医者との関係も、優れた医師に巡り合えれば、本来の生きる意義に目覚めることも可能です。

これまでマザー・テレサ女史をはじめ多くの医療従事者が人々から敬愛されて来ましたが、それも自らの最期に臨み、優れた人格に巡り合え、真の生き方を学び取れたことに由来します。私達はあらゆる困難、時に死に臨む場面においても学ぶ機会を見逃してはなりません

180 During the months of her enforced inactivity an amazing change took place in this woman. She found that the house-keeper managed very well without her. This awakened the realization that she had been laboring all these years under a self-imposed slavery to a false idea. The easy-going attitude the motherly servant introduced into the home, enabled the children to emerge from subdued little shadows, to become normal, boisterous youngsters; and as the woman listened to their uninhibited laughter, she could see that the same false standard which had ruled her life, had subjected theirs. Once she acknowledged this weakness and faced it squarely, she knew the doctor was right when he had said that anxiety and tension were the basic causes of her illness. Therefore, her first step on the road to recovery must be learning to relax.

180 彼女の強制的な不活動の数カ月の間、この婦人にある驚くべき変化が起りました。彼女は家政婦が彼女無しでも上手に家を管理出来ていることに気付きました。このことは彼女に自分が誤った着想に自ら課した奴隷状態の下、今迄の年月汗を流していたという悟りを気付かせました。その優しい使用人が家庭に導入したのんびりした姿勢は子供達に服従させられた影から、普通の騒がしい少年達にならせましたし、この婦人は彼らの抑制されない笑い声を聞いた時、彼女は自分の人生を支配して来たそれと同じ誤った規範が彼らの人生も支配して来たことに気付くことが出来ました。ひとたびこのことを理解し、それを真正面から直視した後、彼女は医者が不安や緊張が彼女の病の基本的原因である述べたのは正しかったことを知りました。それ故、回復への道の第一歩はリラックスの仕方を学ぶことでなければなりませんでした。

【解説】

習慣というものは、とかく心の囚われる方向に動くものです。その結果、多くの場合、私達に良い結果をもたらさないように思われます。

それに対抗するのは新鮮さです。新鮮さについては著者が頻繁に述べているところですが、常に新しいこと、自分が知らない事柄への関心、他者の考え方への受け止め等々、私達に新しい展望をひらかせるものになります。

私達はこれらの想念・印象に鋭敏になっていけば、次第にそれらを容易に感受することが出来、日々新鮮な暮らしが出来るように思われます。自然の中では草花はいつもフレッシュかつ明朗に自らのいのちを発現しています。その生命発現の中には停滞や惰性という要素はありません。生きている限り、いつも新鮮、みずみずしく過ごせる実例を私達は自然の中に見ることが出来ます。

181 Upon her recovery she again took over the household duties. However, with her new outlook on life, a feeling of ease now prevails in the home. Where once guests were made uncomfortable by her eyes darting anxiously around the room, checking to see whether a cushion was out of place, a curtain not hanging straight, or an ash tray needing emptying, they now find a charming, composed, hostess, Where once she would have dashed for a cloth at the first sign of a thin film on the recently dusted furniture, she now laughs and says: "If you can write your name on the piano, it proves you're educated."

181 回復後、彼女は家事の仕事を引継ぎました。しかし、生活に対する彼女の新しい展望から、安らぎのフィーリングが今やその家庭を覆っています。かつては部屋の周囲に神経質そうに睨んでクッションが所定の場所から離れていないか、カーテンが真直ぐに吊り下げられていないか、或いは灰皿が一杯になって代える必要があるかをチェックする彼女の眼差しによって客達が不快にさせられていた場所で、今度は魅力的で落ち着いた女主人を見い出します。彼女がホコリを払ったばかりの家具についてのホコリの薄膜の最初の兆候に対して、かつては布切れを取りに走ったのが、今度は彼女は笑ってこう言います。「もし、このピアノの上にご自分の名前を書ければ、教育を受けていることの証しですわ。」

【解説】

本項は各自の実生活において、何を最優先にすべきかを示しています。来客への「おもてなし」は、物理的環境の整備以外に大切なのは、客人の気持に寄り添った対応です。

本事例の場合、主人公はその本質をしばらく自宅から離れることで学んだ訳ですが、同様なことは旅行等で長期間自宅を留守にすることも良い転換の機会になるかも知れません。

いったん現環境を離れて、自分の生活を見直すことも必要だという訳です。今まで過ごしていた生活パターンが真に自分が望んでいたものか否か、単なる惰性の行きつく先であるかを点検することで、新たな発見と発展があるかも知れません。

182 Her change of attitude reflects through the whole family. Now, their youngest boy, the only one still living at home, feels free to bring his playmates in after school for cookies and milk; and the grandchildren romp through the house with an abandon their parents were never permitted. The family has found a new fullness in life, a new freedom bringing laughter to replace the tension that once existed.

182 彼女の姿勢の変化は家族全員に反映します。家族の内、最も年少の少年は唯一、家の中で生活する存在ですが、学校が終わった後、おやつに自分の遊び友達を連れて来ても構わないように感じていますし、孫達は彼らの両親が決して許されなかったような放任の下、家中を走り回っています。家族は生活の新しい充実感がかつて存在した緊張感に代わって笑いをもたらす新たな自由を見出したのです。

【解説】

本項の描写を見ると事例の主人公は孫も居るような中高年の主婦であることが分かります。人間というもの、年齢を重ねるにつれ本人の性格や気持ち、行動のパターンは固まりやすくなるものです。そういう意味から、本事例は劇的に状況を変えられた好例ということが出来ます。

私達自身あまり気づかないことですが、私達の日頃の想念や行動は互いに周囲の者に大きな影響を及ぼしています。私達の抱く想念は外観上何もないように思われますが、実は周囲の者に著しい影響を与えます。人が怒っている、落胆している、或いは楽しんでいる等々のことは言葉や顔の表情が表さなくても周囲の者は良く感知出来ているという訳です。その典型は家に居るペット達かも知れません。人間と動物とでは話す言語は異なりますが、互いに相手の状況は理解できるというものでしょう。

まずは自身の日常の想念をチェックし、少なくとも他に害を及ぼすことのないようコントロールし、より上質なものに昇華させることで自身や周囲にどれ程の変化をもたらすのかを確かめることが重要です。

183 Does this help you to see how important is your approach to life? how all lives are intertwined? Do you, through your anxieties and fears, keep those near you uncomfortable and upset? If so, recall the change the woman brought into her life once she had released her anxieties. Where, before her illness, her body cells were a tense, nervous mass because a chair was out of place, they now radiate a calm, peaceful feeling that is soothing to those around her. Face yourself honestly . . . for the truth cannot be hidden from your body cells.

183 このことは貴方に生活に対する貴方の接し方が如何に重要であるか、全ての生命が絡み合っているかについて理解する助けになっていますか？貴方は貴方の不安や恐怖を通して貴方の近くの者達を不快と混乱状態にさせていますか？もし、そうなら、この婦人が自分の不安を解放してから自分の生活にもたらした変化を思い起こして下さい。病気の前、椅子が一つ所定の場所から外れただけで、彼女の肉体細胞は緊張した神経質な塊になりましたが、今やそれらは周囲の者を落ち着かせる静かで平穏なフィーリングを発しています。正直に自分を見詰めて下さい。貴方の肉体細胞から真実を隠すことは出来ないからです。

【解説】

私達の日常的な気持ちが大変に大きな影響を及ぼします。

その影響は私達の想定を超える程、大きなものであり、私達はその事実を自分の目で確かめる必要がありますし、その際、参考とすべきが本事例な訳です。

日常発する想念は本人の他、環境にも影響を与えます。またその影響は自分にも周囲の者にとっても大変分かりやすい筈です。しかし、一度その因果関係が分かれば後は自分自身の発する想念をコントロールして望ましいレベルに導けば良いこととなります。

正しいか誤っているかは、その結果を見れば明らかであり、各自試行錯誤を繰り返しながら、自らの巧妙な感覚心に立ち向かって行くことが求められています。

184 Remember, as long as we allow destructive emotions to govern our thoughts, we interfere with the natural operation of the body, and we set up an effective block against any incoming impression except those of a like nature. When properly analyzed, these emotions are expressions of the personal ego; and the personal ego must be controlled before we can reach the goal of selfless self-expression.

184 私達が破壊的な感情が私達の想念を支配するのを許す限り、私達は肉体の自然な働きを妨げ、同類の印象以外のやって来る如何なる印象も阻止する有効な障害物を設置していることを覚えておいて下さい。適切な分析を行えば、これらの感情は個人的なエゴの諸表現であることが分かりますし、個人のエゴは私達が無私の自己表現というゴールに到達する為には、統制されなければなりません。

【解説】

海外で仕事をする機会が増えている状況から、つつい現地での生活と日本での暮らしの違い、とりわけ日常生活における治安問題のレベルの差に注目してしまいます。

家の戸締りをして就寝することは日本でも離島以外では当たり前ですが、国によっては家そのものを頑丈な鉄格子をめぐらし常に鍵を掛け外部者の侵入を防いでいるのが当たり前の地域もあります。街を歩く際には、目立たぬよう財布は持ち歩かずポケットに必要額のみ入れておく等々の内容です。犯罪被害に逢うのは旅行者だけでなく、住民も不良少年達に狙われ携帯を取られたケース、或いは夜中自動車を運転中、赤信号で止まったら、脇から出て来た強盗に逢った。以後、夜は赤信号でも車を止めないようにしている、等々です。

これは全くの私見ですが、これらの地域で多く目にするのは、暴力を前面に出すテレビ番組の存在です。腕力のある者が相手を征服し、また逆にその者に反撃する等々、戦いの連鎖が続いているのです。こうした中、現状に不満のある若者が街路で奇声を発し、警官とやりあう等、社会に不安定感があることも確かです。

私達地球人の大部分がこのような環境の中で生活している現実があります。様々な問題を抱えているにせよ、日本とは安定度については大きな差があるように思っています。

本項の内容に戻れば、私達の心の欲望というものは、大概利己的なものであり、それらを野放しにしているには精緻な印象に気付ける機会は失せてしまいます。心をエゴから解放して宇宙に流れる妙なる印象にそっと耳を傾ける姿勢が私達地球人には是非とも必要とされているのです。

CHAPTER III

Effect of Emotions on the Body Cells

185 The little cell chemists within us perform their duties according to an exact pattern laid down by nature. But if through fear, anxiety, or anger, the mind distorts this pattern by over-activating certain glands in the body, the whole "assembly line" is thrown into confusion. The Master Builder, anticipating all situations, has provided both animals and humans with the ability to summon super-strength, unaccustomed agility, etc., when the body is in danger, by over-stimulation of these glands. This is the law of self-preservation in operation.

第3章

肉体細胞に及ぼす感情の影響

185 私達の体内の小さな化学者達は自然によって敷かれた一つのパターンに正確に従って、自分達の任務を果たします。しかし、恐怖や不安、怒りを通じて、心は体内のある種の分泌腺を過剰に作用させることによって、このパターンを歪め、全体の”流れ作業”が混乱に陥れます。偉大なる棟梁（訳注：創造主）はあらゆる事態を見越して、動物や人間に、その肉体が危険にさらされた時に、これら分泌腺を過剰に刺激することによって、超人的や尋常でない俊敏さを奮い立たせる能力を与えているのです。これは自衛本能が作用する法則です。

【解説】

心が勝手な肉体の支配権を有するが故に、肉体は心の暴走の影響を受けてしまいます。それまで整然と行われて来た体内維持作用に対し急激に様々な促進反応を強いられるという訳です。

これは高速道路を整然と走行する自動車のようなもので、私達の身体は様々な部位が連携して円滑に動いています。ところがドライバーがイライラして急にハンドルを切って追い越そうとしたりして、急にアクセルやブレーキを操作するとどうなるでしょうか。自動車の各部品はそれに対応して悲鳴を上げる程、酷使され、暴走の果ては何処かに衝突して終末を迎えます。

本項で述べられているように、これら心による操縦は万が一の時、心の指導で肉体を危機から脱する際に使用するよう、創造主から与えられたもので、乱用すべきものではありません。私達はこれまで自分の肉体を私達自身の感情によって酷使して来てしまいました。本項では改めてこの感情が如何に肉体細胞に影響を及ぼすかを学びます。

186 However, through our uncontrolled emotions many of us keep these glands over-active a great part of the time; thereby throwing the chemistry of our bodies out of balance. This goes back to the need of controlling the senses; for it is the sense-mind that arouses and tolerates these destructive emotions. So it might be well for us to take a closer look at these emotions, which, unless guarded against, make up so much of our lives.

186 しかしながら、私達の制御されていない感情から、私達の多くは大部分の時間、これら分泌腺を過剰に活動させ続けており、その結果、私達の体内の化学システムのバランスを陥れています。このことは諸感覚を制御する必要性にまで遡ることとなります。何故なら、これら破壊的な感情を引き起こし、許容するのは感覚心であるからです。ですから、それに対し警戒しない限り、私達に生活の多くを占めるこれら感情に対し、より綿密に観察することは賢明だと言えるでしょう。

【解説】

これまで私達は自分の自我こそが主人公であり、自身の進路は自分で決定するとして来ました。そのこと自体は正しいのですが、その自我なるものを野放しに放任し、何らコントロールしなければ、やがては自我のわがままや不安定さに支配されることとなります。

本項は体内の分泌腺を常時、過剰に作用させ、体内に要らぬ緊張状態を造り上げることが如何に問題があるかを説いています。

野生動物を見ると普段は落ち着いてのんびり過ごしているように見えます。しかし、彼らも身の危険を感じたり、獲物を得る時は驚くべき速さで走り回ります。実は私達は常時、このような状態を造り出して体内の細胞を疲弊させているのかも知れません。

そのことを防ぐには、先ず自らどのような想念を発しているかを観察することだと説いています。常に観ることで、観られる方は自ずと本来の正しい道を歩むようになります。チベット仏教寺院には巨大な眼のイラストが描かれていると聞いています。人々を観る、見守ることで正しい道を歩めるよう工夫されたものと思われます。

187 We have ready proof that whatever thought a man holds in his mind affects every cell in his body, for his outward expression gives ample evidence of this. Anger quickens the respiration, raises the blood pressure - even to the point of apoplexy - causes the muscles of the body to tremble, and distorts the features. So it is obvious that it is not the brain alone which is affected; for every cell in the body reacts to the violent emotion. What is more, emanations radiating from that body can fill a room.

187 私達には人が心の中で抱く想念は何であれ、自身の肉体のあらゆる細胞に影響を与えることについて、いつでも準備できる証拠があります。何故なら、人の外的な表情はこれに対する十二分の実証を与えているからです。怒りは呼吸を早め、血圧を卒中する所までさえも上昇させ、身体の筋肉を震わせ、顔の表情を歪めます。ですから、影響を受けるのは脳だけではないことは明らかです。何故なら、肉体のあらゆる細胞がその暴力的な感情に反応するからです。そして更にはその肉体から放射された発散物が部屋を満たすことも起り得るのです。

【解説】

私達が発する想念は私達の肉体細胞に大きな影響を与えています。本項で記されている怒りによる表情の変化や血圧の上昇はよくある例となっています。

しかし、このようなことを繰り返しては私達は自らの感情に支配されているだけの空しい動物に成り下がっていることとなります。また、本来の寿命を全うすることも難しい筈です。

私達は先ず自らの発する想念をより適正なものに保ち、自らの肉体を本来の状態に保つ義務があると言いうことも出来ます。何故なら私達は60兆個もの細胞達の君主であるからです。その君主が正しい想念・印象を身体くまなく行き渡らせることによって肉体細胞は本来の姿に形を変えるものと思われま

す。
怒りは怒りの表情を固定させ、悲しみはそれを顔に刻み付けます。私達本来の姿は誕生したばかりの赤子のように穏やかで命の表現が出来ることに歓びを感じる存在であった筈です。

188 We are given a good illustration of the tangibility of these emanations when we walk into a room where two people are quarreling. Upon our entrance the quarrel will stop abruptly, and both parties will turn to greet us with a false heartiness. Though they are trying to pretend that everything is normal between them, their eyes will still be bright with anger and their features tense, making their smiles appear fixed. And as we cross the room, the atmosphere around us will be vibrant with the strong thoughts of wrath. All present will be acutely embarrassed until the participants are able to bring their emotions under control. Unless the animosity between these two people is deep-rooted, the atmosphere will clear and a feeling of friendliness will return. However, regardless of how carefully they try to cover their true feelings with polite conversation, if the enmity between them continues under the surface, we can become aware of it through the feeling channel.

188 私達にはこれら発散物についての明白さについて、二つの人々の集団が言い争っている部屋の中に入って行った際の良い実例があります。この場合、私達が入るや、その口論は突如止まり、両集団は偽りの愛想で私達を歓迎するでしょう。彼らは彼らの間に何も変わったことはないように装いますが、彼らの目は怒りに燃えており、表情は厳しく、その微笑みはこわばっています。そして私達が部屋を横切ると、私達の周囲の空気は強烈な激怒で震えるでしょう。同席の者全員が、彼らの感情が制御できるようになるまでは、ひどく困惑させられることとなります。二つの人々の間の敵意が根深いものでなければ、その空気は澄んで、有効のフィーリングも戻って来ることでしょう。しかしながら、彼らが丁寧な会話で自分達のフィーリングを如何に注意深く隠そうとしても、彼らの間の敵意が表面下で続くなら、私達はそれをフィーリングの経路を通じて感知することが出来ます。

【解説】

私達が何気なく感じる家の雰囲気は、長年その家で暮らす者の発する想念が残留したものを私達を感じ取っていることに他なりません。

優れた上質の想念は周囲に穏やかで宇宙的な印象を与えるでしょうが、怒りや憤りから発せられたものは、その場の雰囲気を長期間影響を与えることになるものと思われます。私達には鈍感な心とは別に細胞レベルで印象を感知する能力が残っており、それがその場の雰囲気を感じ取ってしまう訳で、目で見える表面上の状況とは別のルートでその印象を感知出来る訳です。

しかし一方では、それら低次元の想念波動に過度に同調するのも考えものです。もちろん鈍感に過ごすことは誤りなのですが、一つ一つ低次元な想念を拾っているのは長い困難な歴史を持つ地球で暮らすことに支障も出るものと思われます。

大切なことはこれらの事実や仕組みを踏まえた上で、より優れた生き方を目指して日々努力することです。

189 Here, again, we have received the true picture of existing conditions through telepathic impressions, or feeling, from the body cells. For even though we were sightless, the discordant vibrations in the room would impress themselves upon us, belying any honeyed words which might be spoken.

189 ここでもまた、私達は肉体細胞からテレパシー的な印象ないしはフィーリングを通じて現状に関する真の状況を受信していました。何故なら、仮に私達が盲目でありその部屋の中でお世辞が話されても、不調和な振動は私達にそれ自体の印象をもたらすからです。

【解説】

私達が大事にしなければならないのは、本項で記されているような、目とは関係なくもたらされる「感じ」について、各自これまで以上に鋭敏になれるよう努めることです。

自分自身の肉体細胞を総動員して、それらが受信した「感じ」をそのまま受け入れられるよう、自らの心を訓練するということです。

通常、私達は目による情報に頼って生活している訳ですが、その結果は、外見への自らの心の好き嫌いが積み重なるだけで、印象類が飛び交う真実の活動的な生命力には程遠い生活を送っています。しかし、本来の印象に基づく生活に切り替えれば、それ（印象・想念）は結果を生み出す原動力であり、結果でなくそれを生み出す原因を制御することになり、各自の生活をより良いものに変えさせることが出来る筈です。一秒前の想念が一秒後の世界を、そして自分自身をも造り上げることに繋がるからです。

190 While we are discussing these undesirable emotions which play such havoc with our minds and bodies, it would be well to point out the danger of holding a grudge. When we nurse thoughts of hatred, feeding them constantly in our desire for revenge, we are poisoning our minds and our bodies as surely as if we were taking a noxious drug by mouth.

190 私達がこのように心や身体に大混乱をもたらすこれら好ましくない感情について議論する中では、他人に恨みを抱くことの危険性について指摘しておいた方が良いでしょう。私達が嫌悪の想念を育み、私達の願望の中で常に復讐したいと思う場合、私達はあたかも、有害な毒素を口から飲み続けているように自らの心と身体に毒を入れていることになるのです。

【解説】

長年の想いはその人を文字通り形づくるものです。怒りや悲しみ、恨みはそれぞれの内容を人体各部に染み込ませ、表情その他人体表現を作り上げます。丁度、粘土で塑像を形づくるように私達は自分の想念で自分自身を作り上げている訳です。

本項では恨みについても理由にかかわらず低次な想念を発するものとして強く戒めています。それは日々の想念はその内容により、良薬ともなり、また毒薬ともなる訳で、そのような不適切な想いは自身の肉体を自ら損なうことになることを忠告しています。

この地球には過去の長い歴史において争いが続き、また心の裏切りから多くの人々の恨みの想念も残留しているものと思われます。それらはまた私達にも悪影響を与え得る訳ですし、私達はそれらを鎮め、慰め中和する働きも期待されているように思われます。人々が穏やかに本来の人生を豊かに歩んで行けるよう、祈ることは宇宙的生き方の一つでもあります。少しでもテレパシー能力の開発に成功した者は、自分自身の事柄以上にこのような想念環境についても浄化に取り組む必要があります。

191 The target of our hatred may be totally unaware of our attitude; or if he is aware, he can turn these thoughts aside by refusing to allow them entry. In other words, he can recognize our mental immaturity and not accept these derogatory thought vibrations from us. This adds frustration to our hatred, and causes us still more harm.

191 私達の憎しみの標的は全く私達の気持ちに気付かないかも知れませんし、或いは気付いてもこれらの想念が入り込むのを拒絶して、それらの想念を脇にどけることも出来ます。言葉を替えれば、私達の精神上の未熟さを認めて、私達からのこれら他人を傷つけるような想念振動を受け付けなくすることが出来るのです。このことは私達の憎しみに失望を加え、私達に更なる害をもたらすこととなります。

【解説】

私達は知らない内に自ら自分に向けられる有害な想念波動に対し、自身を守るため防御機能を果たしているという訳です。優れた者は仮に自身に向けられた悪意があったとしてもそれを自動的にはね返し影響を受けることはありません。争い事の中にあっても平静さを保てるのはそれら低次な波動に同調しないよう自らを制御出来ているからに他なりません。

また一方では恨みを発した者の方にはそれがはね返って行くものと考えられる訳で二重のダメージを蒙ることになります。同様の意味では他人に善意を向けた場合、相手が仮に気づくことなくその想念が活用されず自身に戻って来ても、その作用は自身にも及ぶ訳で、作用は二重になる筈です。

私達の発する想念、そして更には私達の生命活動を動かしている宇宙的な印象類は周囲の者も自分自身もやがては人格を形作る重要な要素であり、物質（パン）のみで私達が生きている訳ではないのです。

192 So it is apparent that we, alone, suffer in these circumstances. And if prolonged, nature will exact a terrible price, because we not only keep the atmosphere immediately surrounding us polluted with our discordant thought vibrations, which will eventually alienate us from our friends, but all the while we are inexorably poisoning our physical bodies.

192 ですから、このような状況の下では私達だけが被害を蒙ることは明らかです。そして長引けば自然は恐るべき代償を迫ることになります。何故なら、私達は私達を直接取り巻く大気を私達の不調和な想念振動に保ち、それにより私達を友人達から遠ざけるほか、その間ずっと私達は自分の肉体に容赦なく毒を盛っているからです。

【解説】

人の雰囲気は誰でも感じ取ることが出来ます。鈍感な者は周囲に関心がない為、気付きは遅いかも知れませんが、とりわけペット達は実に鋭敏に主人の気持ちを察知するのではないのでしょうか。そもそもペットに癒されるという背景にはこうした動物達のいじらしいまでの主人想いがあるように思われます。

独り人間だけが周囲に敵対的なバリアーを敷き、あるいは妙に悲観的な視点に固執する訳ですが、その原因が私達の心にあること、またそうした状況が周囲の者も本人自身の肉体にも有害な作用を及ぼすことを著者は私達に警告しています。

ひとえに屋外の自由な生活を楽しんでいる野鳥のように伸び伸び時々刻々の生命の発動を楽しむと同時に、より良い想念を発し周囲の者にその影響を及ぼすことが求められています。私達一人一人の発する想念がこの惑星の未来を担うということも出来ます。

193 Remember, we have shown earlier that thought can become a habit. We can develop thought-patterns of selfishness, discontent and greed; or we can cultivate thought-habits of humility, serenity and generosity. The choice is ours. And if a true analysis were to be made, we would find our lives are governed less by circumstances than by our thought habits.

193 私が以前、想念は習慣になり得ると説明したことを思い出して下さい。私達は自己中心や不満、そして貪欲の思考パターンを発達させることも出来ますが、一方では謙遜や落ち着き、寛容の思考パターンを育むことも出来ます。選択は私達の自由です。そしてもし、本当の分析がなされるなら、私達が自分達の生活が周囲の環境より自分達の思考習慣に多く支配されていることに気付くことでしょう。

【解説】

戦うべき相手は自らの想念パターンということが出来ます。これまで様々な人々が想念の実現力、影響力について語って来ました。そもそも良からぬ想念には物事を進化させる要素はなく、あらゆる要素を悪化させるだけの内容でしかありません。

それに対して宇宙本来の上質な想念の持ち主はあらゆる災難を避け、その生命発現にも多くの道が拓ける筈です。それ程に私達の日常発する想念は力を持っていることを自覚しなければなりません。

よく環境がその者に影響を与えと言われますが、本項で著者が言うように、物理的な環境よりもはるかに大きく本人の日常的な想念パターンが本人に影響を及ぼしているということでしょう。

かつて仏陀がこの地球に生誕され、悟りを得られた時、周囲の弟子や従者達はもちろん、自然界の多くの野生動物達がそれを歓んだと仏典に記されていたと記憶しています。私達人間の抱く想念の力に目覚めることが如何に難しく、また素晴らしいことかを伝える物語となっている訳で、多くの者がその師を求めて来たことが分かります。

一人一人が日々の想いの中に少しでも仏陀のような存在になろうとする努めが重要です。

194 It does not matter whether we live in luxury, or in poverty; we have the right to choose our thought-patterns. Our bodies may be enslaved by the false economic barriers that have been raised on earth, but our minds are free. Thoughts are ours to control, when we better understand our bodies and our minds.

194 私達が贅沢な暮らしをしているのか、貧しい生活をしているかとは関わり無く、私達には自分達の想念パターンを選択する権利があります。私達の肉体は地上で培われて来た偽りの経済的障壁によって奴隷にされているかも知れませんが、私達の心は自由です。想念をコントロールするのは他でも無い私達ですし、そうすれば私達が肉体と心を今以上に理解することになるのです。

【解説】

途上国においては特に貧しい人々の暮らしを多く目にします。大量のゴミの埋立地で有価物を集める人達はそれ以外に生活の糧を得ることが出来ない人達です。また一方では同じ国の中でも豪邸に暮らす人達も数多く存在します。こうした格差問題に対して私達は立ち向かっている訳ですが、よく言われることに「教育」がそのカギを握るとされていることがあります。

つまりは私達の心により高次の知識を学ばせ、科学や文化への造詣を深めることが、やがては良質な仕事に就く機会をも提供するということでしょう。

その延長線上には本項で言う私達の日々の想念のコントロールがあり、自らの心の勝手な想念に振り回されてはいけないのです。またそれらの基本条件が形成されない内は、過酷な経済システムの下での奴隷に押しやられることにもなりかねません。

195 Those with whom we come in contact daily, will affect our lives; but only to the extent we permit them. For example, when we meet a disgruntled person and listen to him expound his philosophy of gloom, unless we are on guard, a feeling of depression will envelop us which may last for hours or even days. This is caused by the melancholy vibrations emanating from his mind and body, affecting our mind and body cells with a feeling of despair. But when we have understanding, we can refuse to accept his attitude, and keep our minds serene while listening to him. This balance of mind will counteract any harmful radiations that might otherwise influence us.

195 私達が毎日接する相手は、私達の生活に影響を与えます。しかし、それは私達がそれを許す範囲までです。例えば私達が一人の不機嫌な人物と会ったとし、その者が自分の憂鬱の哲学を講釈するのに耳を傾けたとすると、私達は警戒していないと、意気消沈のフィーリングが私達を包み、何時間或いは何日も続くこととなります。これはその者の心と肉体から発散している憂鬱の振動によって引き起こされますし、私達の心と肉体細胞に絶望のフィーリングを作用させるのです。しかし、私達に理解があれば、私達はその者に耳を傾けている間にもその者の姿勢を受け入れることを拒み、自分達の心を澄んだ状態に保つことが出来ます。この心のバランスは私達に影響を与えるかも知れない有害な放射物を阻止するのです。

【解説】

万人の悩みを聴いて下さる御仏、更には病状を訴える患者の声にじっと耳を傾ける医師、そのいずれもが窮状を訴える者を理解しようと優しく微笑みかける一方で、一人一人の想念を自分にそのまま取り入れることはありません。病を治す者、窮状を救おうとする者は相手の想念を理解する一方で、同調することではないように思われます。

特にテレパシー能力の開発途上では想念に対する感受性が高まる為、かえって低次元のものにも多く気付くようになることから、自分自身を守る為にも、心のバランスを保つ訓練が必要となります。

しかし、それも初期段階の課題であり、それ以上に進歩すれば相手の想念から影響を受けず、相手を支援しその状況を解消させることも可能になります。歴史上の偉人の多くが一度に多数の民衆の訴えを聴き、各々適切なアドバイスをしたとの記述も多くあるように、教師たる者、どんな相手に対しても救いの手を差し延ばすことが求められています。またそうすることで教師自身も一歩ずつ進化の道を歩むことにもなっています。

196 Let us now take the example of the cheerful, optimistic person, who looks upon all manifestation and "knows it to be good." The uplifting thought frequencies from this person will elevate our own vibrations, and our day will be enriched through contact with him. And although not necessarily conscious of it, as long as this influence lasts our minds will be operating on a higher frequency level. Just like the house that was impregnated with love and laughter, drawing us back for frequent visits, we will seek this person's company.

196 今度はあらゆる創造の現れを見て、「良きものであると知って」いる陽気で楽観的な人物の例について取り上げましょう。この人物からの高揚させる想念振動は私達の波動を高め、私達の一日はその人物と接する中で豊かなものになることでしょう。そして、それを意識しておくことは必ずしも必要ではないのですが、この影響が続く限り、私達の心はより高い周波数レベルで運用されることとなります。丁度、愛情や笑いで満ちた家のように、私達はそこを何度も訪れたいと思わせるように、私達はこの人物と同行することを求めることでしょう。

【解説】

いつかどこかで述べたかと思いますが、以前ある方から「人間明るくなければダメだ」というお話を伺ったことを覚えています。当時はその意義をよく理解出来ていなかったのですが、ようやく最近になってその重要性を認識出来るようになりました。明るさというのは、宇宙に流れる生命力そのものが万物を本来の創造の目的に沿うよう、即ち創造主の恵みの方向に導いていることを受け入れていることだったのです。

しかし、これは全てを何処かの教祖に委ねてしまう新興宗教の類の姿勢とは異なる点に注意が必要です。各自が宇宙に流れる生命力を知覚でき、自らの役割、心身の働き等々を自ら学ぶ中で、たとえ現実社会が乱れ、低次元な想念で汚染されていても本来の行く末は明るい展望があり、何より現在の生命活動の中に真理があることを自覚することが重要です。

その人から発せられる想念・印象は人間のみならずあらゆる生命体が同調し理解し合えるものと信じています。想念・印象のレベルでは互いに相手を理解できる訳で、良き印象を放つ者に多くの者が集まることは当然のことです。かつて地上に居られたイエスや仏陀は今もって多くの者に慕われ、教会や寺院にそのイメージが建立されています。そのお姿に手を合わせることで各自の想いを伝えようとしているのです。

197 I strongly advise each student to observe this law working in his own life; for it is a perfect example of the meaning of "like attracting like." If we open our minds to the gloomy thoughts of the pessimistic person, these vibrations will have a depressing, narrowing influence on our lives; and if the contact with this outlook is continued long enough, our thought-pattern may drop to the same bigoted, mental level.

197 私は個々の学習者に、自分自身の生活の中でこの法則が働いていることを観察するよう強く促しています。何故なら、それが「類は類を呼ぶ」の完璧な例示であるからです。もし、私達が悲観的な人物の憂鬱な想念に対し私達の心を開けば、これらの振動が私達の生活に意気消沈と偏狭さを与えるでしょう。そしてこの人生観との接触が長く続けば、私達の想念パターンは同じ頑迷な精神レベルに落ちるかも知れません。

【解説】

私達が今注意しなければならないことは、私達が如何に他人に影響され易いか、また他人に影響し易いかということです。とりわけ或る勢力が戦争を起こしたいと思えば、好戦的な思想を植え付けるような映画やTVその他、出演させる者等をそのような類の人達にしてしまうかも知れません。

その結果は人々の心の中の怒りや恨みを増長させ、遂には戦争へと駆り立ててしまうのです。しかし、その結果は何ら問題は解決せず、生命を失い、国土は荒れ果てて戦費にお金全てが使われるだけのものになりかねません。かつて戦前の諸国家がそうであったように、大衆をある方向に動員するためにあらゆるメディアが使われていましたし、現在もその傾向がある訳です。

私達はどの想念・印象を受け入れるべきか、注意深くあらねばなりません。必ずしも自分の心が喜ぶものが正解とは言えない事情もありますが、少なくとも人間本来の道に沿うものであるかどうかの判断は出来る訳で、一つ一つ賢く選択するしか方法はありません。

そこで大事になるのは、自分自身でこれまでの経験から誤りのないもの、正しいものを確実に掴んでおくことなのだと考えています。確かなものは古典でも最近お目にかかった人物の言動でも良いのです。良いもの、美しいものを日頃から観ておくと、どれが正しいものかは容易に判断でき、人生の航路を真っ直ぐ進めることが出来るものと確信しています。

198 But if we open our minds to the thought of the optimist, a feeling of well-being pervades us, bringing a sense of peace. For happy thoughts stimulate and expand, activating little used lobes in the brain; broadening our horizons and giving us a better understanding of the Cosmos and all that exists therein.

198 しかし、私達が楽観的な人物の想念に私達の心を開けば、幸福のフィーリングが私達に拡がり、平和な感覚がもたらされます。何故なら、幸せな想念は頭脳の中でほとんど使われていなかった脳葉（訳注：脳の内、全体の8割を占める大脳は、前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉の4つの葉[よう]から成るとされています）を刺激し、拡張して活性化させますし、私達の視野を拡げ、宇宙とそこに存在する全てのものに対するより良い理解を与えるからです。

【解説】

英語に楽観的な生き方を表す"Happy go lucky"という表現があります。起こり得る全てのことを受け入れる覚悟があり、一瞬一瞬の今を大切に日々の生活を充実させ、かつ楽しむ姿勢を示すものです。

本項では、著者は前項（197）に対し、全て楽観的な生き方をせよと私達に説いています。もちろん私達自身や周辺の社会に問題がない訳ではありません。それは地球の開闢以来長年月続いている問題で、その全てを自分独りで立ち向かうことは出来ませんし、目に見えて解決の方向に進まないからと言って、落胆しても何ら状況は変わりません。

それよりは先ずは自分自身が手本を示す上から、人間本来の姿を表現することが重要となります。進化した他惑星人は私達の数万年先を生きる手本であり、私達は彼らを見倣って生きることが必要です。

「キリストに倣いて」("Imitatio Christi")は有名ですが、同様に一人一人が「同乗記」によって伝えられた他惑星人の生き方に私達のこれからのヒントが記されています。

199 You can easily demonstrate this in your own life. Consciously implant a thought of worry or anger in your mind, then study the effect it has on you. You will notice a feeling of heaviness spread rapidly through your body as the discordant thought impinges its influence upon the cells, disrupting their normal activity. Still holding the thought, watch how the law of affinity attracts impressions of a similar nature; and how each additional thought adds to the weighty feeling in the body. Here, we are breaking Nature's fundamental law of harmony. And because of the barrier of tenseness created in the mind, causing inharmonious functioning of the body cells, telepathic reception is almost impossible.

199 貴方はこれをご自身の生活の中で簡単に実証して見せることができます。意識的に貴方の心の中に心配あるいは怒りの想念を植え付けて、その後それが貴方に及ぼす影響を研究することです。その不調和な想念が各細胞にその影響を打ち付け、それらの正常な活動を妨げるにつれて、貴方は重苦しい感じが急速に貴方の身体中に広がることに気付くことでしょう。依然としてその想念を持ち続けた場合、親和の法則が如何に同種の性質の印象類を引き寄せ、更には個々の加わった身体に重苦しい感じを付け加えるかを観察することです。ここに私達は大自然の調和と言う基本法則を破っているのです。そして心の中に造り上げられた緊張の障壁の為、肉体細胞の不調和な機能をもたらして、テレパシクな受信はほとんど不可能になることでしょう。

【解説】

そもそも何故楽観的な生き方が必要なのかについて、本項は逆説的に私達に解説しています。疑いや悲観的な考えはこれまでの私達には多く見られた訳で、その結果、遂には身体影響まで及ぶ悪影響に私達はさらされて来ました。そのような状態ではテレパシー能力の開発もおぼつかない訳です。

私達は自身の60兆にも及ぶ膨大な数の英知ある存在を擁しており、それらが印象類を感受してくれる訳ですから、それらが働きやすい環境を整備することが大事です。それが楽観主義の本質です。

その結果は体内に宇宙的な波動が共鳴し、本来の生命力が満たされることとなり、私達はこれまで自らの心の誤った観念をはじめて脱ぎ捨てる事が出来るという訳です。もちろん仏陀のように瞑想の過程で自覚することも大切ですし、日常生活の行動の中に生命の息吹を発現する中でも、自らの使命を表現することが出来ます。こうして私達は自ら抱く想念・印象が実は大変大きな力を有していることを知り、その取扱いを大切にできるようになるのです。

200 Now, consciously change your thought-pattern by replacing the above thought with a cheerful one. Notice how the sensation of heaviness dissipates, and the body actually seems to lighten as the cells resume their normal activity. Notice how with the relaxing of the brain cells, thoughts once more flow freely. It is in this state of coordinated harmony between the mind and body cells, that true telepathic reception is possible.

200 今度は前述の想念を快活なものに置き換えることで、意識的に貴方の想念パターンを変えて下さい。如何にその重苦しい感じが消失し、身体が実際に個々の細胞が正常な活動を再開するにつれて、実際軽くなるように思えることに気付く筈です。頭脳細胞をリラックスさせることで、如何に想念が再び自由に流れるかに気付くことです。心と肉体の細胞との間のこの調和したハーモニー状態の中で、真のテレパシー的受信が可能となるからです。

【解説】

テレパシーは私達の心から来るものではなく、全身の細胞からもたらされる訳で、これら細胞が本来の活動が出来るよう、リラックスさせることが基本です。本項では私達に努めて穏やかにリラックスした状態に私達の心を持って行くと体内の変化が進み、目に見えて状態が変化すると説いています。

私達はこうして原因と結果のつながりが理解出来れば、自分がどの方向に進めば良いか明確になる訳で、以後は迷うことはありません。少しずつ体験しながら進歩して行くことが出来ます。

重要な点は、自分で体験し、学ぶことであり、自分の体験を通じて得た知識、体得した見識だけが次の人生に持ち運べる内容かと思っております。単に書物を読んだだけの知識は浅く、すぐに忘れやすいものです。それに比べて自ら体験した事柄は未永く記憶されることは間違いありません。自ら体験して得た知見ほど大切なものはなく、他者に対しても自信を持って伝えられることになります。そういう意味で各自の人生経験が他者にも大いに役立つのです。

201 Since we all have certain daily routines we must follow, it is advisable to learn to do everything with joy. Be happy there is a task for you to do, and be thankful you are able to do it. No task is irksome, regardless of how menial, unless we give it the power to irritate us. Do not allow the little vexations of life to control your mind and upset the functioning of the body cells, for this closes the door to receptivity.

201 私達は皆、何らかの決まりきった仕事を持っていますので、何事も楽しく実行する仕方を学ぶのは賢明です。貴方には仕事があることに幸せを感じることを、そして貴方がそれを為すことが出来ることに感謝することです。仕事は如何につまらないものであっても、貴方がそれに苛立ちのパワーを与えない限り、退屈なものにはなりません。生活に関するどんな小さな苛立ちにも貴方の心を支配させてはならず、肉体細胞の機能を狂わせてはなりません。何故なら、これは感受性への扉を閉めてしまうからです。

【解説】

若い頃、勤務先の先輩から「仕事は楽しく、遊びは真剣に」とアドバイスを受けたことがあります。日常の仕事の中に喜びを見出し、また楽しめる余裕を持って仕事を行うこと、また各自の趣味については真剣に取り組まないと上達しない等のことを表現したものであり、私が今なと大切にしている言葉の一つです。

社会における各人の担当業務はいずれも地味なものであり、多くは別の者に役立つ分担業務です。しかし、つまらない仕事に見えたものでも、病に倒れ、仕事が出来なくなれば如何にその仕事が出来ることが幸せであったかが良く分かります。仕事を持つことは直接社会の役に立つ任務の一端を受け持つ訳で、それを喜びとすることは人生を楽しむ秘訣でもあります。

その心境を達成する為には、心の不平不満、苛立ちを感謝の気持に転換しなければなりません。私達の抱く想念が穏やかで楽しいものであれば、自然と周囲もそのような状況に変化するものと思われれます。仕事を楽しめるようにすることが人生を充実させる秘訣のように思われれます。

202 I cannot stress too strongly the importance of our daily attitudes; for it is during the long hours of routine living that our thought-habits are formed. While it is an admirable practice to devote a specified number of hours each day to study, if, with the closing of the book, the mind reverts to the old thought-pattern of worry, the benefit gained from study is nullified.

202 私は私達の日々の姿勢の重要性について強調してもし過ぎることはありません。何故なら、私達の想念習慣が形成されるのは、決まりきった日常生活の間であるからです。毎日、特定の時間を学習に充てることは賞賛に値する訓練ですが、その一方でもし、本を閉じると同時に心が心配の古い想念パターンに戻ってしまうなら、学習で得た恩恵は無くなってしまいます。

【解説】

時々刻々心が抱く想念が私達自身を作り上げています。従って、もちろん良質な書物を読んで気分が一時期高揚したとしても、本を閉じた瞬間に元の想念状態に戻るのであれば、結局は効果は限られたものにならざるを得ません。

とかく心は様々な言い訳を使って、旧来の生き方を続けようとししますので、それに対しては何らかの覚悟が必要になるものと考えています。

ここでは不安に思う心に対し、楽観的な見方に転換することが説かれていますが、その効果を得るためには、心底そのことを理解し、24時間心の状態をそのような心境に保つ必要があります。その上で、具体的にこの想念の実現力がどれほど強力なものか良く観察することです。

せつかく学ぶ以上は、片足を旧来の岸に置いたままにせず、全身を新しい船の上に乗せて進むことで、はじめて彼岸に渡れるというものでしょう。

203 We have shown the detrimental influence destructive emotions have in our lives; yet, there is a simple demonstration to prove how easily their hold can be broken. If we can get an angry person to accept a pleasant thought, his strong, destructive emotion will quickly fade. The mind cannot retain thoughts of anger, fear, anxiety, worry, or any of the other destructive emotions which plague it, when one is happy. In this balanced state, we are using Nature's law of harmony; which relaxes the mind, releases tension in the body, and opens the way for unhampered telepathic reception.

203 私達は、私達の生活の中で破壊的な感情が持つ有害な影響について示して来ました。しかし、如何にそれらの支配が容易に壊れるかを示す簡単な実例があります。もし、私達が或る怒っている人間に、楽しい想念を受け入れさせることが出来れば、その者の強い破壊的な感情はすぐに消失することでしょう。心はその人物が幸せである場合、怒りや恐れ、不安や心配、その他、心を病に陥らせている破壊的な感情を保持出来なくなります。そのバランスのとれた状態では、私達は大自然の調和の法則を用いており、それは心をリラックスさせ、身体の中の緊張を解放し、妨げられることのないテレパシー受信への道を開くのです。

【解説】

怒りや悲しみの想念が自分自身をも破壊する程の大きな影響力を持つことは、これまでも説かれて来た訳ですが、その想念もひとたび幸福感に置き換えられると全で一瞬で消え去るものだと著者は私達に説いています。

よく悩んでいる者が信頼出来る誰かに相談し、アドバイス等を受ける中で心境が変化し、気持ちが軽くなる事例は、この場合のように抱く想念が入れ替わった結果に相当します。客観的な周囲の状況は何一つ以前のままであっても、本人の気持ちが180度転換し、楽しい心境になると自ずと物事も良い方向に変化することになります。宇宙の生命活動と一致した想念の実現力はそれ程、強大な潜在力を持っているのです。

従って私達は常にこのことを頭に入れて周囲の者の悩みを聴き、相談相手になる必要があります。実際は問題を解決するのは本人なのですが、その解決の発端はその本人の心境の変化にある訳で、私達はその1点に対し支援をすることが求められています。

ご連絡 [2014-11-11]

いつもご覧戴き、ありがとうございます。
都合により、次回更新は週明け月曜日になる見込みです。

2014年11月11日

竹島 正

204 Since the adult mental attitude overshadows and molds the mental attitude of the young, we should be particularly careful in our dealings with children. The young mind, not yet cluttered by our accepted tenets, is naturally receptive to impressions. Because the child is dependent upon us, both for physical care and love, this makes a very close tie; and our thoughts will have a direct bearing upon the mental and emotional development of the young life. If we are tense and irritable, the child will become nervous and filled with a feeling of insecurity; if we are calm and balanced, the child will feel secure.

204 大人の心の姿勢が年少者の心の姿勢に影響を与え、形づくることから、私達は子供達を取扱う際には特に注意すべきです。私達が受け入れた諸々の教義に未だ散らかされていない若者の心は自然と印象に感受性があります。子供は身体上の保護や愛情の両面において私達に頼っていますので、これはとても親密な絆を形成しますし、私達の想念は年少者の生命における心や感情の発達に直接的に関連します。もし、私達が緊張し苛立っていた場合、子供は神経質になり、不安なフィーリングで満たされることでしょう。もし、私達が静かで調和かとれていれば、子供は安心を感じることでしょう。

【解説】

以前も述べたところですが、ルーサー・バーバンクの著書 (The Training of the Human Plant, 1917)の中に人間の子供が最も感受性が高いと記されています。確かに言語については学習に時間が必要ですが、本件のテーマであるテレパシーについては実は大人以上に鋭敏ではないかと考えています。

赤ん坊は言葉は発しませんが、相手の気持ちや周囲の雰囲気とは敏感に反応します。それは言葉によらない意思疎通を行おうとしていることもあるように思われます。

ともあれ、この世に創造されまだ生命誕生の息吹に満ちているこの段階の子供が将来どのような発展を遂げられるか、私達は注意深く見守る必要があります。決して大人たちの争いや不安その他、低次元想念波動の影響を与えてはならないのです。

将来、私達の惑星を担うこれらの新規来訪者が正しく育ち、期待されている任務を果たせるよう各々の成長を祈るばかりです。

205 Authorities now recognize it is the delinquent parent rather than the delinquent child who is the real culprit. This delinquency is not confined to the neglected child, for many of these young criminals come from homes where they have been given every advantage; but it would be interesting to make a survey of the mental outlook of their parents.

205 今や当局は本当の元凶は非行の児童よりは非行の両親であることを認識しています。この非行問題は捨て置かれた児童に限定されるものではありません。何故なら、これら若い犯罪者達の多くは、あらゆる点で恵まれた環境を与えられた家庭から出ているからです。しかし、彼らの両親達の心の視点について調査することは興味深いことでしょう。

【解説】 青少年犯罪の多くが家庭、中でも経済的貧しさの問題というよりは両親の物の見方に対する姿勢に原因があることを著者は私達に説いています。もちろん経済的な要因も大きいことあるのですが、それ以上に周囲の大人達の持つ想念パターンの影響がより大きいということです。非行に走る若者は経済的には恵まれた家庭から多く出ているという訳です。即ち大人達の精神状態がその子供達に大きな影響を与える訳で、私達自身が如何なる人生観を持って日々を過ごしているかが特に重要となります。実は最近、仕事でラオス・ビエンチャンに來ています。この国は経済発展はこれからの段階ですが、敬虔な仏教徒が多く暮らしており、街には数多くの仏教寺院が点在しています。先日も That Luang 寺のお祭りがあり、早朝に出掛けてみました。夜明け前、寺院周囲の広場に何千何万という人々が集まっていました。皆家族揃って正装し、手には僧侶に布施する品物を持って次々に人々が集まって来ます。ゴザを敷き座って僧侶が巡回するのを楽しげに待っています。広場にはスピーカーから読経が流れ、それに皆手を合わせている光景がありました。またそのお祭りに合わせて全国から数多くの僧侶も集まっています。アジア最貧国と称され、かつてのベトナム戦争では大きな被害を受けたラオスですが、人々の信仰心は篤く、また大変明るく楽観的な国民性が特筆するところです。日々の暮らしをどのような心境で送ることが真の幸福なのか、目下見聞する機会を与えられています。

206 In infancy and young childhood, before the indoctrination of accepted beliefs has filled the mind with preconceived ideas, the young life is governed almost entirely by impressions. Long before a baby can talk, it can receive thoughts and respond to them. Therefore, is not the importance of the parent's attitude self-evident? Remember, our children are little mirrors reflecting our emotional stability or instability.

206 古くからそのまま受け入れられて来た信条による洗脳が行われる前の幼児期や幼年期においては、年少者の生活のほとんどは印象によって完全に支配されています。赤ん坊が喋れるようになるはるか前、赤ん坊は想念を受け取り、それら想念に応答します。それ故、両親の姿勢が重要であることは自明のことではないでしょうか。私達の子供は私達の感情の安定あるいは不安定さを映す小さな鏡だということを忘れないで下さい。

【解説】 何事も自らの経験・体験を抛り所として学んで行くことが必要です。本項で述べられている内容も私達が社会の一員となるにつれてその社会の古い習慣や信仰に次第に染まって行き、本来の道を歩むことが妨げられることを示唆しています。本来は幼児期には既に印象を感知し自らの印象・想念に基づいて行動していたものが、両親その他社会の風習の中に埋もれてしまうということを本項では警告しています。家庭や地域社会における従来型の宗教が時に本人の進化の妨げとなる訳です。特に最近では中東諸国において宗教に根差した争いが目立ちますし、無垢な年少者が洗脳され狂信的なグループの手先となって命を落としたり、相手を殺害したりしていることが気がかりです。こうして本来成長を遂げるべき若者達を自分達の主義主張に組み入れ利用する者は未永く重いカルマを引きずるのは当然としても、それ以上に私達は未来ある少年達に真の進化の道を積極的に示す必要があります。

207 These are but a few examples of what I meant when I referred to impressions as being from effect to effect. This thought can be enlarged upon almost indefinitely; the only limitation placed on it is the scope of our imaginations. Each person should search thoughtfully into his daily life, recognizing and studying as many of these examples as possible. The key to opening the consciousness to commune with the Cosmos, is a thorough, impartial analysis and understanding of . . . mind. For it is through consciousness man expresses; so the better his understanding of the many pases of creation which are capable of influencing his mind - both from within the body, and from space itself - the more comprehensive will be his understanding of Cosmic Cause.

207 これらは、私が結果から結果への印象と表現した時に意味したことの多少の事例でしかありません。この考えはほぼ無限に拡大出来ます。唯一置かれた限界は私達の想像力の限界です。各自はこれらの事例を可能な限り多く見つけ出し、学びながら自分の日常生活を注意深く調べ上げるべきなのです。各自の意識を大宇宙との交流に開くカギは、……心を完璧に片寄らず分析し、理解することです。何故なら、人が表現するのは意識を通じてであるからで、肉体の内からと宇宙自体の両方から自分の心に影響を与えることが出来る多くの創造の歩みを良く理解すればするほど、大宇宙の因の理解は幅広いものとなるでしょう。

【解説】

印象の交流は創造物の間でも積極的に行われている訳で、人体の例を元に本章では具体事例について説かれて来たところです。

本項では、その印象の交流には際限はなく、制限は自らの想像の限界にあり、それを広げるには自らの概念・意識を広げる必要があると述べられています。具体事例をよくよく観察し、そこに起こっているメカニズムを正しく理解することで、はじめて私達の意識が広がるという訳です。

私達自身の精神と肉体がどのように自分自身も周囲にも影響を及ぼし、また及ぼされているかを公平、冷静に理解することが重要となります。そうする中で宇宙の因との関係も明らかになり、想念・印象の持つ作用と意義を理解することになるのです。

CHAPTER IV Other World Impressions and Thought Habits of Earth 208 Now let us return to a fuller explanation of the blending and interblending of the Cosmos. As a planet moves through space, traveling at awe-inspiring speeds both on its axis and in the orbit it follows around the sun, it is eternally depositing portions of its body in space as dust, gases, etc. The atoms forming these particles are all impregnated with thought frequencies from that planet - just as were the cells of the dwellings mentioned earlier impregnated with the thought vibrations of the occupants.

第4章 他の世界の印象と地球の思考習慣²⁰⁸ さて、ここで宇宙における融合と混和のより完全な説明に戻りましょう。惑星は宇宙空間をその自転軸及び太陽の周囲を付き従う公転軌道の両方で荘厳なスピードで運行していますので、その天体の幾分かを宇宙空間の中にチリやガスとして永久的に放出し続けています。これら粒子を形成する原子は丁度、以前お話した家の細胞が住人の想念振動を染み込んでいるように、皆その惑星からの想念振動を染み込ませているのです。

【解説】地球の公転速度は時速10万キロ、赤道上の自転速度は1700キロとされています。このように高速で移動する惑星からは絶えず宇宙空間に様々な粒子やガスが放出されていると同時に宇宙空間に存在する様々な物も地表面に沈着することが考えられます。宇宙は絶え間なく物質面でも交流しているという訳です。長年月の間にはこれら惑星間に様々な物質の交流が生まれ、互いに影響を与え合っているという訳です。問題はこれら物質を通じて各惑星の想念も運ばれるということであり、少なからず私達は他惑星から影響を受けていることとなります。こうして宇宙空間にあるあらゆるものは物質を交流することによって密接に結びついているということでしょう。日々の呼吸その他自ら発する物質が帯びる想念によって他の者は他の惑星に影響を与えることも有り得る訳です。

209 These gases and dusts will travel the waves of the sea of space, mingling and intermingling with similar dusts and gases from other worlds, until eventually they are gathered unto another planet through the same motion that cast them free from their home body. For centuries man has been aware of this star dust falling to earth, and science has studied it closely. While this cosmic dust sifts down from countless other worlds, our planet, in turn, is broadcasting dust particles and gases from its own body into space.

209 これらのガスやチリは宇宙空間という海の波に乗って移動し、他の世界からの類似したチリやガスと混ざりあい、混和して遂にはそれらの故郷の天体から放たれたと同じ運動を通じて、別の惑星に集められます。何世紀にわたって人はこの星屑が地球に降っていることに気付いており、科学はそれを綿密に研究して来ました。この宇宙のチリが他の無数の世界からの篩下（訳注：ふるいの目を通過する粉の意）である一方、私達の惑星はその天体からチリやガスを宇宙空間に放出しているのです。

【解説】

宇宙に存在するもの全ては、再び創造の過程で再利用され、活用されています。しかし、どう考えてもそれらは現在と同じ形態のまま再使用されるというよりは一旦は、高温高圧の精化の過程を経て元素自身の純粋な形態に戻された後、活用されて行くように思っています。

しかし、一方では原子自身は何ら変化は無い訳で、それらが体験し、かつて同調した想念・印象を忘れることはありません。太古の昔に遡る様々な記憶は保持されているものと思われます。

こうして宇宙創生の昔からの記憶が様々な原子によって持ち寄られ、蓄積される訳です。私達は必要に応じてこれらの無尽蔵の知識を求めればよく、その答えを持つ原子の一つがそれに応えてくれるかも知れません。宇宙の英知はそのような所にも働いているのです。

210 The thought frequencies pervading these dusts and gases are not altered by their trip through space. So when we intercept one of these vibrations that has come from another world and is now moving in our atmosphere, it does not mean we are in contact with a dweller on that planet. It can mean we have merely picked up a discarded thought from there, which contains no more value than any of the billions discarded by our own Earthlings.

210 これらのチリやガスに浸透している想念振動は、それらが宇宙空間を旅する間、変化することはありません。その為、私達がこれら振動の一つを掴み取ったとしても、それは私達はその惑星の住人とコンタクトしていることを意味するものではありません。それは私達が単にそこから捨てられた一つの想念を拾い上げたことを意味するだけで、私達地上の者が捨てた何十億もの内、いずれかを含む程度の価値しかないのです。

【解説】

毎朝異なる形の雲を見せてくれる空ですが、宇宙に繋がるその空からも本項に記されている他惑星を起源とする様々な微粒子がやって来ます。宇宙は互いに物質の行き来がある交流の場でもあるということです。

私達がそれら塵の中に保持された想念に気付くこともあるでしょうが、それは遥か昔に放たれた想念のかけらに過ぎず、現在の私達には価値の無いことの方が多いと本項は説いています。

しかし、私達の志向によっては、その中に有用なものを発見でき、新しい概念の一端を知る機会ともなる訳で、それら貴重な印象に気付けるかどうかは、まさに個々人の能力、感受性であるとも言えます。

類は類を呼び、互いに近しい波動を持つものは融合する傾向にある訳で、私達の志向に沿った想念・印象が自然と集まるものと思われれます。

211 It must always be borne in mind that all levels of mental development exist throughout the Cosmos. Since in recent years so much publicity has been given to the coming of visitors from other worlds, and particularly since some theologians now recognize that the mysterious visitations spoken of in the Bible undoubtedly referred to space people, many Earthlings are inclined to think that all dwellers on other planets are more advanced than ourselves. This is not true. All planets are class rooms in the Cosmic School of Life; and there exist many grades, from those far below us in development, to the very highest . . . which are beyond our present comprehension.

211 宇宙全体を通じては、あらゆる精神的発展レベルが存在することを常に頭に入れて置かねばなりません。近年、他の世界からの訪問者の来訪についてあまりに多くの宣伝広報が為されましたし、またとりわけ何人かの神学者は聖書の中で伝えられた神秘的な訪問は宇宙人を指しているものと今や認識している為、多くの地球人は他の惑星の全ての住人は私達よりはるかに進んでいると考えがちです。これは真実ではありません。全ての惑星は生命の宇宙的学校の中のクラスであり、私達よりはるか下から私達の現在の理解を超えた最高次のものまで多くの段階が存在するのです。

【解説】映画「スターウォーズ」などを見ると、戦い好きの宇宙人や技術は高度なものを持っていてもその精神レベルは地球人以下等、様々な宇宙人が出現しています。実際はどうか分かりませんが、本項で著者が示唆する内容にも呼応しているのかも知れません。私達は夜空を見つめては外宇宙から来る宇宙船を待ち望む者であり、多くの者が宇宙人の生活振りに憧れを抱くことも確かです。また過去には、仏陀やキリストをはじめとする人類全体の師とも称される方々が地球に来訪され貴重な教を残して行ったことも確かです。現にこの生命の科学シリーズも源はそれらと同じであり、それ故にこそ現在地球に語り継がれている宗教や哲理の大半は大変似ている内容を私達に指し示しているのです。こう考えれば、宇宙は高貴な者の住む惑星もある訳ですが、一方ではこの地球以下の惑星も多数存在する訳で、私達は長い階段の中の1ステップの惑星に過ぎません。このことを良く自覚してUFO・宇宙人問題に対応しないと地球を植民地にしようと企む宇宙人から悪影響を受けることにもなりかねません。自ら考え、自覚して常に正しい道を選択すること、その選択に役立つ知識・見識の普及が重要です。

212 Earth is one such class room in the Cosmos. It is a holy place, where we are given the opportunity to grow in understanding that we may climb to another rung on the endless Ladder of Life. When, through our own efforts, we place our feet upon a higher rung, we must then pause to assimilate the lessons to be learned at that level. But climbing far below us, struggling through the phases of development we have already mastered, are the dwellers of countless other planets.

212 地球は宇宙の中のこのようなクラスの一つです。それは私達に終わることのない生命の梯子でもう一つ上の段に登れる理解への成長の機会を与えられている聖なる場所なのです。私達自身の努力によって両足を上の段に置いた時、私達は次に立ち止まってその高さで学ぶべきレッスンを理解し、自分のものとしなければなりません。しかし、私達のはるか下方を登っていて、私達が既にマスターした発達の諸段階で奮闘している無数の他の惑星の住人達がいるのです。

【解説】

物事を立ち止まって整理することはとても重要です。自分にとって今何が必要か、これまで何を身に付けて来たのかを客観的に自ら評価することです。よくあるケースはただ闇雲に何かを進めようとするのですが、その場合は経験上あまり良い成果が得られないように思われます。

静かに自分を振り返り、整理する作業を実は本項で求められている訳です。

しかし、同乗記その他素晴らしい世界の存在を知ると、私達はとかく一足飛びにその世界に入りたがります。優れた世界に憧れ自らが暮らす世界を捨てたくなるものです。しかし、それでは本項に表現されているように目の前の階段を一気に飛び上れないままいつまでも上を仰ぎ見ているに過ぎません。

一つ一つの階段を登るのは、一步一步の足場を確保し、各段に自らを踏み込むことが必要で、その上で次の段に踏み出すことは言うまでもありません。

何かある程度の期間毎に内省をして何を学んだか、今の問題は何かを静かに考える時間が必要と思われ
ます。

213 True, the space people I have met from our system are more advanced than we on earth. That is why they have such compassionate understanding of our present struggles; for they once met and conquered the same problems which face us today. They know we will eventually place our feet upon the rung where they now stand, while they in turn, will climb even higher.

213 私が会った私達の太陽系の宇宙人達は、地球の私達よりさらに進化しています。そのことが彼らが現在の私達の奮闘に同情的な理解がある理由です。何故なら彼らもかつては今日私達が直面しているのと同じ諸問題に出会い、克服して来たからです。彼らは私達が何時かは彼らが現在立つ踏み段に私達の両足を置くだろうことを知っていますし、その間、彼らは更により高く登ることでしょう。

【解説】

何事も経験が重要です。生命の進化の場合も自らどのような努力をして何を得たのか、その際どのような心境を持っていたかなど、重要な点は良く記憶しておくべきでしょう。

宇宙人問題についても彼ら宇宙兄弟達が私達に同情し、手を差し伸べて下さるのはかつて自分達もその道を通ったからに他なりません。他人の痛みや苦悩を自らの体験上知っているからこそ、適切な支援の手を差し伸べることが出来るのです。

途上国支援の仕事も全く同様で、かつて私達が通って来た様々な問題が今これらの国では歩みつつある中で、必要なアドバイスをするのが仕事になっています。その場合、重要なのは実務の経験です。自ら体験した者がその体験の中で得たものを伝え活かしてもらう訳です。

同様に私達地球人もアダムスキー氏をカウンターパートとして他惑星人社会からこれまで様々な支援を受けて来ました。あれから随分と年月が経過しましたが、そろそろ成果を見せる時代が来ているように思われます。

214 So we can see that surrounding us in space are planets below us in development, and others far beyond the scope of our understanding. Impregnated vibrations from both lower and higher planets, through the blending and interblending of the Cosmos, influence our world in an ever-changing pattern.

214 ですから、宇宙の中で私達を取り囲んでいる惑星は進化において私達より下位にあるものもあり、一方では私達の理解の範囲をはるかに超えたものもあることが分かります。低次と高次の両方の惑星から帯びた振動は、大宇宙による混合を混和作用を通じて、永遠に変化し続けるパターンの内に、私達の世界に影響を与えているのです。

【解説】

私達の惑星が宇宙空間を通過する際の軌道の上に様々な惑星を起源とする微粒子群が存在し、それらと接触することによっても私達は様々な影響を受けることを本項は示唆しています。またこれら宇宙空間自身も丁度、海の潮流のように絶えず流れ、混じり合っている訳ですから、私達が今後遭遇するこの種のアイディアは到底事前に予測できるものではありません。宇宙は絶えず変化しているという訳です。

宇宙の中には高次から低次に至る様々な想念レベルがあり、それらが渦巻く中に私達が日々突入しています。これらやって来る想念は地球で暮らす数十億の人々の想念も含め、私達が遭遇する訳で、これらの中から何が有用なのかを瞬時に見極める必要があるということでしょう。

全てをやって来る想念に身を委ねるのではなく、それらが適切なものかを絶えず観察して、有用なものを取り入れることが必要で、その為にも私達の心の中を常時観察・監視することが重要となります。くしくも本日、聞いていたアダムスキー氏の講演の音声記録の中に、月からは毎日10トンもの塵が宇宙に向けて放出されているという当時のニュースが紹介されていました。宇宙空間にはこうした様々な天体を起源とする微粒子が流れているということです。

215 These emanations are the source of many of the confusing "messages" supposedly being received from people on other planets. You will notice they are filled with personal names, predictions of events to come, (usually dire), and divisions of all sorts. To all and sundry, they give personal messages confirming and condoning hidden desires in the heart of the recipient. These should be disregarded, for they are worthless to us in our present growth.

215 こうした放射物は他の惑星の人々から受信したものと想定され、多くの混乱を与える「メッセージ」の源です。それらは個人の名前や今後起る出来事の予言（通常は悲惨なもの）、またあらゆる種類の分裂で満たされています。各自に対しそれらは受信者の心の中の隠れた願望を確認し、容認する個人的なメッセージを与えます。これらは無視されなければなりません。何故なら、それらは私達の現在の成長にとって価値のないものだからです。

【解説】

もちろん鈍感な者は本稿で述べるような問題には直面しない訳ですが、少しでも印象への感受性を増す段階で、これらの諸問題に直面することになるものと思われま

す。いわば進化の過程で避けて通れない課題という訳です。

原理的に言っても私達が最初に気づきやすい印象の多くは自分の関心事や自分の精神レベルに合ったものとなる筈です。類は類を呼ぶということです。私達自身が内面で望んでいる或いは逆に危惧している内容に沿ったものが引き寄せられると言っても良いかも知れません。

しかし、これを毛嫌いしていても仕方ありません。先ずはその正体を見極め、これらは自分の想念レベルに近いものだと認識することです。そしてそれを取り入れなければ良い訳です。

私達が進化の過程で必要なことは、その場その場で自然に与えられるものだと考えています。このように宇宙空間から私達は影響を受ける訳ですが、宇宙には更に高次の想念・印象が圧倒的な強さで鳴り響いていることを自覚すれば、このような役に立たない印象類はやがて消失すべきものであることが分かります。

216 The higher thought vibrations, coming from the more advanced planets, often flow undetected through our minds; for they do not confirm our divisions, judgments and personal opinions. These people have grown to the realization of the oneness of all life. and their impersonal thoughts do not exalt our ego. Therefore, they do not fit into the familiar thought pattern of most Earthlings.

216 私達より進歩した惑星からのより高次な想念振動は、しばしば私達の心の中を感知されることなく流れ去ります。何故なら、それらは私達の持つ差別や裁き、個人的な意見を確認するものではないからです。これらの人々は全ての生命の一体性を自覚する程に成長しており、彼らの主観を交えない想念は私達のエゴを持ち上げることはありません。ですから、それらの想念はほとんどの地球人の馴染みのある想念パターンには合わないのです。

【解説】

覚えて置かなければならないことは、如何なる想念・印象もそれに私達の心が同調しなければ認識出来ないということです。たまたま高次な印象を感受出来たとしても、それはその瞬間、私達の心がそれに同期し得る状態であったために得られた成果なのです。

以前にも何処かで述べたかと思いますが、これは2つの同一形状の音叉は距離を置いて、一方の音叉を鳴らすと他方もそれに共鳴することに似ています。高次な想念は高次な心の持ち主にならなければ感受できません。

それは高次な想念が存在しないということではなく、私達の心がそれらを受取るレベルに達していないことに由来します。

217 To make this illustration more understandable, should you, while daydreaming, have the good fortune to receive one of the great thought-frequencies Plato set in motion while he lived on earth, you would not be receiving a "message" from Plato in the "spirit world." You would merely be picking up that thought vibration which was imprinted in space during his lifetime.

217 この説明をより分かりやすくする為に、貴方が空想している間に、幸運にもプラトンが生きていた時、思いを起こした偉大な想念振動の一つを得たとしても、貴方は「霊の世界」のプラトンからの「メッセージ」を受けたことにはならないということです。貴方は単に彼が生きていた間に空間に刻み込まれた想念振動を拾い上げているに過ぎないのです。

【解説】

私自身、未だこのような体験を持ちませんが、具体的な歴史上の人物からのメッセージ等という話は不確かで危ういものが多くあるようです。とりわけ催眠状態で得られるものについては、自分の心の潜在的願望が表現されているものが多いように思われます。

本項をはじめ、目下様々な箇所で宇宙空間に漂流する微粒子等に帯びた昔の想念・印象を感知してしまうことについての著者の忠告が続いています。これはテレパシー能力を開発して行く中で私達が直面することになる新たな課題について著者が事前に私達に真相を説いているものと思われます。

確かに宇宙には高貴な先人達に由来する遺産も多く残されており、私達はそれらを活用し、理解することによって自らの進化に生かすことが出来ますが、多様な宇宙空間の中にはその他私達に役に立たない想念・印象も多く残されていることも確かということです。

218 Many mediums are caught in this trap, and never escape from the illusion that they are in actual contact with the person. Not understanding the workings of their own minds or the impressions coming from the cells of their bodies, and having no comprehension of the vast sea of thought vibrations within which they live, they eagerly accept the "prophecies and messages" contained in the innumerable frequency levels around them. True clairvoyance is a natural unfolding of the perceptions, which will be discussed in Part Three.

218 多くの霊媒達はこのワナに捕えられ、自分達はその人物と実際にコンタクトしている幻影から逃れ出すことはありません。自分自身の心や自分達の肉体細胞から来る印象類の作用を理解せず、また自分達が生きている広大な想念波動の海を理解しないまま、彼らは自分達の周囲の無数の振動数レベルに含まれている「予言とメッセージ」をひたすら受け入れています。これに対し、真実の透視とは知覚の自然な開示であり、それは第3部で討議されることになるでしょう。

【解説】

本書が執筆された当時、米国には多くの霊能者や霊媒者が居たことが本項の記述から分かります。その多くの者がいわゆる「靈感」を得て、未来の出来事を予言していた訳で、エドガー・ケーシーもそれに含まれるものと思われま

す。同様の傾向は現代の日本にも当てはまります。街には多くの予言本が出回っており、皆来るべき災害を予言しています。そうする中で、多くのカルト集団が生まれ、自ら靈感を高めるにはどうすれば良いかを説いているものと思われま

す。客観的に地球の行く末を見れば、このような災害が起こることは確かなのでしようが、問題がそれらの多くがいわゆる超常的存在に由来していることです。一部の霊能者しか分からない源泉は大変危険です。以前にもCBAをはじめ多くの失敗例が日本でも起こっています。個人の心は大変、ずるく悪賢いものですから、それらの心に会員が利用される状況を問題視しなければなりません。

私達にもし、予言情報的なものが訪れたとしても、まずは本人の内に秘めて置き、それが真実のものか、一時的なものかを確かめる必要があります。それ程、未来の予言情報は危ういものであること、また私達はそれらに影響されることなく、毎日、各自が為すべき仕事を遂行する必要があります。

219 But of more importance to us in our daily lives than either the strong, destructive emotions, or the interception of vibrations from the lower planets, is the subtle manner in which we are influenced by the waves of thought floating around us at all times. Inasmuch as the total universe is composed of thought-producing action, we can easily perceive that the human form as well as every other type of manifestation, is not only bombarded with billions of thoughts per second from outside sources, but is also creating billions of thoughts pertaining to itself. In most cases, the thinkers who gave birth to those thoughts coming to us from the outside, were limited to an understanding of the world of effect. Therefore, their thought emanations are steeped in divisions, discriminations, personal likes and dislikes, and other expressions of the ego.

219 しかし、日常的な生活の中で私達にとって強烈な破壊的感情や低次元惑星からの振動の傍受より重要なのは、いつも私達の周囲を浮遊している想念波に影響を受けているような密かな種類のもので、全宇宙は想念造成の作用から成り立っている以上、私達は人体は他のタイプの創造物と同様、外部発信源から毎秒何十億個の想念が衝突するばかりでなく、自身に関連して何十億個の想念を造り出しています。多くの場合、外部から私達にやって来るそれらの想念を生み出した思考者は、結果の世界への理解に限られています。その為、彼らの想念放射物は分裂や差別、個人的な好き嫌い、またその他、エゴの表現に浸っています。

【解説】

時たまやって来る想念・印象よりも、普段から身の回りの接している想念・印象類の方が遥かに重要です。私達は想念・印象の影響を受ける者ですが、その影響はそれと関わっている時間による訳で、日常生活をどのような心境で送るかが特に重要となる訳です。

想念・印象は直接的に私達の身体細胞に影響を与えます。楽しい想念・印象は細胞を軽やかにさせ、沈うつな想念・印象は細胞の生命活動を沈ませます。私達が普段、さほど気づかないとしても、それら作用は絶え間なく私達に肉体細胞に影響を及ぼしているのです。

一方、これら想念自体の起源は、外宇宙ばかりでなく、自分自身も大きな発信源であると本分は説いています。自ら発した想念が自らの肉体を蝕む場面も多いものと思われれます。気持ちの持ち方、心境の保ち方が如何に重要かが良く分かります。自業自得と片付けることは簡単ですが、それでは救いは無い訳で、努めて各人の日常の心境が明日の人生を形作っている事実を私達は真剣に学ばなければなりません。

220 While these will not have the immediate impact upon our consciousness that contact with the strong emotions registered, unless guarded against constantly, they will insinuate themselves insidiously into our thinking pattern as opinions, criticism, snobbishness, and so forth. A flare of anger impresses the mind momentarily, but unless the person develops into a perpetual grouch, the mind will gradually regain its normal equilibrium; and once again resume its pursuance of thoughts in the same old rut it has been following.

220 強烈な感情と接触する際には記録する私達の意識に対し、これらは直ちには影響を与えない一方で、常時見張っていないと、それらは自分達を気付かれぬよう私達の意見や批判、上品振り等々の思考パターンの中に巧みに入り込ませます。怒りの炎は瞬時的に心に印象付けますが、当人が不機嫌を永続させない限り、心は次第に通常の平衡状態を取り戻します。そしてこれまで追従して来た古い轍（わだち）に沿った想念の追求を再開するのです。

【解説】

毎日の食事が本人の肉体を形作るように、私達が時々刻々摂取し、放出する想念が私達の心を作り上げています。よく生活習慣病の問題が指摘されますが、想念の場合も同様に大変重要なテーマなのです。本項で言うように一過性の問題よりは慢性型の問題の方がより深刻な影響をもたらすからです。

私達が普段何気なく抱いているような習慣的想念はゆっくりですが確実に私達の個性とも言える心に影響を与えます。加えて私達自身、習慣に従う傾向があることから、気づかない内にそれらの習慣的想念・心境に浸ってしまい、その影響が身体にも表れる訳です。

よく子供達の目は光っていると表現されますが、それは外界の出来事や新しい知識に関心を持っているからであり、一方でアルコールその他の依存症に陥っている者の目は曇っています。そのどちらが有意義な生涯を送れるかは明らかな訳で、私達は努めて習慣的な想念を廃し、常に新鮮な心境を維持しなければなりません。

221 It is the instinctive, inborn desire in Man for a better understanding of all he sees about him, that keeps his eyes raised heavenward and his hand ever reaching for a higher rung on the Ladder of Life. If this were not so, he would have been content with a sub-human existence; never seeking the answer to why the Sun God rode through the sky each day, or how his protector from the storm, the mighty oak, sprouted from a tiny acorn.

221 人が生命の梯子のより高い段を目指して両目で天空を見上げ、手を上の段に伸ばすのは、自分に関するより良い理解を得たいとする本能的な生まれながらの願望です。もしそうでなければ、人は類人の状態で満足していたでしょうし、何故毎日太陽の神が昇るのか、どのようにして小さなドングリから彼を嵐からの守護者となる櫟の木が芽吹くのか知ろうとはしなかったでしょう。

【解説】

唯一の救いとしては、本項に説かれているように、私達には進歩しようとする心、探求しようとする意思があることです。よく年齢を重ねるにつれて老化が目立つようになりますが、これもその本人が好奇心を無くし、向上心を失うことから来ているように思われます。

一般に芸術家にはボケは起こらないように思いますが、これも本人がより良いもの、より美しい世界を探求し、自ら表現しようとしていること、また他人から評価されることが、その理由であると思っております。そもそも高齢になって毎日何も新しい試みを行うことなく、漫然とした生活を送るほど、つまらないものはなく、当然、心も身体も退化してしまうこととなります。

私達は常に身の回りのものに関心を持ち、その些細な生命の営みの中にも大きな真理を見出す努力をし、自己の心境を高めようとする向上心こそが、進化の本来の道を照らす光であると思っております。

222 To the impatient mind, man's progress seems discouragingly .slow; but the Living Soul is ever unfolding and expanding. And though at times we may appear to have slipped back two steps where we have taken one, slowly but triumphantly man is preparing himself to become an occupant in another of the many mansions in the Father's house.
222 せっかちな心にとって、人間の進歩はがっかりする程、遅く見えます。しかし、生ける聖霊は永遠に開示し続け、拡張し続けます。そして時として私達は一段昇った所で、2段滑り落ちるかも知れませんが、人はゆっくりではありますが、意気揚々と父の家の多くの館の内のもう一つの館の主人となるよう準備を進めているのです。

【解説】

進歩は実にゆっくりしたものです。私自身もこの分野に触れてから半世紀近くも経過しましたが、未だにいわゆる超能力は出現していません。しかし、本項はそうした外見上成果が上がらない者に対しても優しく継続的な努力を説いています。

そこには人間の本質として向上心が備わっており、身体内を司る生命力自体が次々に真理を明かしてくれること、人間本来の姿として進化する道程が備わっていることも大きな要因となっています。私達は自然と、自らの生きる目的を丁度、各学年で学ぶ生徒のようにこの惑星で学び取ること、更には次の生涯に他の人生が待っていることを知っているのかも知れません。

もちろん、手痛い失敗もある訳で、本文に記されているように、一步前進二歩後退という事態も中にはあるでしょう。しかし、私自身のわずかな体験からも、努力は必ず報われますし、継続して精進することで自ずと成果は後から付いてくるものです。結果である成果を得ようとするのではなく、究極の生きる目的を見据えて日々を大切にすることが大事なところです。

223 But to accomplish this he must first learn to control his emotions, his sense reactions, his selfish desires; and to understand that he is one with all creation. He must comprehend that the atoms vibrating in his present body have been used and reused throughout creation; therefore, they have participated in every phase, from the lowest conceivable form, to immense planetary bodies that ages ago were absorbed back into space. There are no divisions except those man has imposed upon himself.

223 しかしこれを達成する為には、彼は自らの感情や自らの感覚の反応、利己的な願望をコントロールすることを学ばねばなりません。そして自分が全ての創造と一体であることを理解する為にでもあります。人は自分の現在の肉体の中で振動している原子群は創造を通じて利用され、また再利用されて来たことを理解しなければなりません。ですから彼ら原子群は考えられる最も低次元形状物から大昔に宇宙空間に吸収された惑星体に至るまであらゆる段階に参画して来たのです。人が自分自身にこれらを押し付けられない限り区分というものは無いのです。

【解説】

私達の心は一体毎日何を考えているのか、全く宇宙的な素養のないものばかりを追い続け、遂には力尽きてその生涯を終わってしまうことも多いものと思われまます。

既に私達は誰でも万物は原始からなり、その原始は時代を通じて変化はなく、次々に物質を通じて移動し、転生していることを知識として知っています。

これに対し、本項では著者はテレパシー能力を修めて行くに従い、物質を構成する原子の振動にも気づくようになると示唆しています。言い換えれば本来のテレパシー能力とは自身の肉体を作り上げている各原子の活動に気づき、その持つ記憶を学べる能力を指すということです。

これら原子は私達のこの生涯では身体を構成していますが、次の機会には別のもの、更には惑星を形作るもの等々、宇宙各地に広がる程の活躍の場があるのです。従ってこのように考えれば、長年月の間には、宇宙は混和融合され、文字通り皆同胞の素材から出来上がっていることが分かります。全てのものが皆、原子レベルから言っても文字通りの兄弟姉妹であるのです。

224 We have shown earlier the influence uncontrolled emotions play in our lives; how bad temper can separate us from our friends and cause people to avoid us; how anxiety can bring unhappiness to us and to all around us. Therefore, is it not clear that our first task should be the conquering of these destructive emotions? No one can do this for us. Only we can change our thinking habits. However, now that we have a clearer understanding of the workings of our bodies and minds, this should be an easier goal to reach.

224 私達は先に、制御されない諸感情が私達の生活に及ぼす影響、即ち、如何にして不機嫌が友達から私達を引き離し、人々が私達を避けるようにさせ得るか、如何にして不安感が私達や私達の周囲の者全てに不幸をもたらす得るのかを示して来ました。従って私達の最初の任務はこれら破壊的な感情を克服することにあるべきだということは明らかではないでしょうか。誰もこれを私達に代わって行うことは出来ません。私達だけが私達の思考習慣を変えられるのです。しかしながら、私達は私達の肉体や心の働きについてより明確な理解を得ている今、これは到達するに易しいゴールである筈です。

【解説】

私達の最大の問題点は自身の感情にあることを本項では改めて説いています。長年の友人付き合いも何らかの契機で感情の行き違いが不仲をもたらす等、せつかくの出会いを損なう結果も多いものです。それも心自身の問題に帰着しています。そういう意味でも私達は自らの心の動きや特徴を良く監視して置く必要があります。

こうした自分の心の問題は各自で解決して行く他方法はありません。優れた教材、素晴らしい助言は大変貴重ですが、それを取り入れ実践して成果を得るか否かは、本人次第という訳です。他人は助言は出来ても本人に代わって何かをしてあげる訳には行かないのです。

自分の思考習慣を見直して、より良いものに積極的に転換して行くこと、その結果、自身に現れた成果と影響をよく覚えておき、成果があった心境を努めて再現し、新しい自分の作り上げて行く為の土台とすることです。

Summary of Part Two

225 There are six channels of impressions; three of effect, and three of Cosmic value. As we have shown you, the three of effect carry discriminations, divisions, and hatreds, so well-known in the world today.

第2部要約

225 印象には6つの経路があります。3つは結果の、残り3つは宇宙的価値を持っています。これまで示したように結果の3経路は差別や分裂そして憎しみ等、今日の世界で良く知られている要素を運びます。

【解説】

本項に続く各項において、著者はテレパシー講座第2部のまとめを記しています。とりわけ本項では私達がテレパシーと称している印象・想念の伝達ルートとして計6ルートがあり、多くは受け入れるべきものではなく、むしろ取り扱いに注意すべきことが説かれています。

私達は良くも悪くも想念・印象の大海の中に生きている訳で、宇宙に存在する者、あるいは過去に存在した者から発せられた想念・印象の響く空間に生きていることとなります。膨大な周波数の中のどのチャンネルに心を合わせるべきか、番組を正しく選択することが重要な訳です。

しかし余程注意しないと、自分の精神レベルに近い印象類が数多くやって来る中、本当に必要な印象に心を合わせるのは容易なことではありません。自分に必要なものは何であり、自分は何を求めているかを明らかにし、他の要素は心から排除する必要があるように思っております。

226 The first channel of effect that you should guard against comes from the average human mind. Since there are over two-and-a-half billion people on our planet, most of whom live under the daily influence of thought-patterns of avarice, personal judgment, and a thousand and one petty worries, you must try constantly to protect yourself against attracting these impressions to your mind. Remember, like attracts like. So endeavor to keep your thoughts on a level where they will not attract these emanations. If one is to develop to the state of Cosmic understanding, although these impressions will come to him, he will recognize their character and not lend himself to them. This is a major thing to watch for.

226 それに対し身を守るべき第一の経路は平均的な人間の心から来るものです。私達の惑星には25億を越える人々があり、それらのほとんどが強欲や利己的な裁きで千一夜の些細な心配事という日常的な想念パターンの影響下で生きている以上、貴方はこれら諸印象を自分の心に誘引しないよう自身を常に守らなければなりません。類は類を呼ぶことと覚えておいて下さい。ですから貴方の諸々の想念をこれらの放射物を誘引しないレベルに常に保つよう真剣に努力することです。もし、人が宇宙的な理解の状態まで進化すれば、これらの印象がやって来ても、それらの性質が分かり、自身をそれらに委ねることはないでしょう。これが警戒すべき主要な事柄です。

【解説】

前述の6つの経路の内、最大のものが本項で記されている地上の人間から発せられた想念・印象の類という訳です。“以心伝心”と称されるように特に近い間柄では相手の発想がそのままほぼ同時に分かってしまうものです。距離に関係なく起こるこの現象は想念の伝達というものが物理的な距離や速度という概念では表現出来ない要素を持っていることが分かります。

しかし、しずれにせよ、私達が良かれと思って同調する想念・印象の中には地球上の人間から発せられたものも数多く混在する訳で、私達は感受した印象の善し悪しを監視する必要があります。

私達は日常、これら地球に住む者達の精神影響を受け、また他人にも影響を及ぼしているという訳ですから、少なくとも自分が発する想念が自分自身はもとより他の多くの者に及ぼす影響を畏れ、皆にとって有意義な品質のものを日頃から発するよう心掛ける必要があります。世の中のあらゆる同胞の幸せを祈り心が貴重であり、惑星全体にも有用であることはこのことから容易に理解されることでしょう。

227 The second channel of effect that we should avoid comes to us through the interblending of the Cosmos, bringing thoughts from other planets, or systems, where the inhabitants have not yet evolved to our level. These, too, will carry divisions, judgments, discriminations, etc. Such thoughts are of no help to us. They will only add to the confusion already prevalent in the world today.

227 私達が避けるべき第二の経路は宇宙の混和を通じてやって来るものであり、他の惑星や太陽系等、その住人が私達のレベルまで未だ進化していない所の想念をもたらすものです。これらもまた分裂や裁き、差別等々を運んで来るでしょう。このような想念は私達には何の助けにもなりません。それらは今日の世界に既に流行っている混乱に付け加わるだけです。

【解説】

想念・印象の中には他の惑星の住人を起源とするものもあるという訳です。しかし、それも様々なレベルがあり、私達が同調し易いのは同レベルのもの、即ち現在の地球と大差ない或いはむしろ遅れている文明のものという場合も多いと本項は警告しています。

外宇宙を超えて到達した想念であっても必ずしも私達の役に立つものばかりではないという訳です。私達がこれら外宇宙に由来する想念に出会う経路としては、単純に空間に湧く想念を感受するというケースもあるでしょうし、高速度で宇宙空間を航行するこの惑星が宇宙を漂流する他の天体を起源とする微粒子と衝突することで、私達が感知するものもあることでしょう。

いずれにしても、たとえ外宇宙を起源とする想念・印象であっても、その訴える内容は先ずは吟味する必要があるということでしょう。或いは自らの精神レベルを向上させてこれら低次な想念を寄せ付けなくすることの方が効率的かも知れません。

228 The third channel to be shunned is that of the memories of discarnate entities who have lived in this world. These thoughts are often mistaken for "spirit communion." Remember the illustration we used about tuning into a thought frequency Plato had set in motion while he lived? This same principle applies to thought frequencies from others who have lived on earth; but unless they have evolved above the personal pettiness of most Earthlings, these thoughts are of no value to us. We are growing and unfolding daily, so except for a few outstanding minds who have sojourned here, we have advanced past the place in development these people had reached. The Law of Progression is a fundamental law of the Cosmos.

228 遠ざけるべき第三の経路はかつてこの世界に生存し肉体を失った存在の記憶の経路です。これらの想念はしばしば「霊的な交流」と誤解されています。私達が用いたプラトンが生きていた間に起こした想念振動に同調した事例を思い出して下さい。これと同じ原理が過去に地球に住んだ他の者達から来る想念振動にも適用されるのです。しかし、それらが大部分の地球人の個人的な些細な事柄を越える程進化したものでない限り、これらの想念は私達に何ら価値はありません。私達は日毎に成長し目覚めています。ですからここに逗留した一部の秀でた心を除けば、私達はこれらの人々が到達していた発達の場所を既に越えて進化しています。進化の法則は宇宙の基本的な法則なのです。

【解説】

私自身の反省も含めて、これまで各自がこの地上において放った想念のレベルについて考えるべきかと思えます。いったいどのような想念をこの地上の物質に帯びさせてしまったかということです。これら原子に残留した想念が未来永劫残って行くとしたら、私達は何と後世の者達に悪い影響を与える存在であるか、畏れる思いです。

おそらくはこれら想念は次第に減衰し、やがては失われるものと思われませんが、本講座を学ぶ者としては、先ずその現実に向き合う必要があるでしょう。

もちろん、地上に残るこれら不要な想念を私達は取り込む必要はありません。心が仮にそれらを感じたとしても、それらに同調してしまっただけでは、忌まわしい過去が未来に影響を残す結果になりかねません。私達は進化の道を歩んでおり、現在の私達を助け未来に導くものだけを取り入れる必要があります。その為には、先ずは心をそれら良質で高度な周波数を持つ想念・印象に同調出来るよう、普段から備えて置く必要があります。

229 For the most part, impressions coming from all three channels of effect are steeped in discriminations and judgments; but occasionally a message may come which contains certain gems of Cosmic Truth. The average person will recognize these gems and because of their presence, will then accept the entire message, divisions, personal promises, etc., as being of Cosmic origin. Whereas, the very presence of discriminations proves it to be from a confused source.

229 大抵の場合、これら結果の3つの経路から来る印象類は差別や裁きに染まっています。しかし時には、宇宙的真理について或る種の珠玉を含んだメッセージもやって来るかも知れません。平均的な人はこれらの珠玉に気付き、その存在の為に次にはその全体のメッセージや分裂、個人的な約束等々を宇宙の源泉から来るものとして受け入れてしまいます。しかしながら、差別の存在そのものが、それが混乱した源からのものであることを証明しているのです。

【解説】

仮に一部が宇宙的要素を含んでいたとしても、その全貌として他者を差別し、裁きを与えるものは、到底宇宙的なものとは言えません。本項で言う課題について未だ経験はありませんが、本講座の学習者はいずれ遠からず体験するものかも知れません。

よくある話は、最初の出発点は良かったのですが、次第に進む方向が悪くなり、最後は完全に誤った結末に至るケースです。ヒトラーをはじめ、このような例は実際、数多いのかも知れません。もちろん感受した本人が勝手な解釈を加えて歪めてしまうケースも多いことでしょう。しかし、その歴史的な事実も多くは地球から宇宙に再発信された筈です。地球にとっても大きな悲劇なのですが、宇宙にとっても迷惑な話です。

私達は自分の身体内部の原子の記憶から来るものや、宇宙空間から来るものも合わせて、様々な源泉からの想念・印象に日常、出会う可能性があり、それら想念・印象を瞬時に見極める能力が求められます。それはファインダーの視野に入って来たものに瞬時にピントを合わせ、その正体を見破る最新式のカメラに似ているのかも知れません。

230 The first channel of Cosmic impression comes from Cosmic Cause, or true Life Force, to the pure cause, or life force within us. We have shown that this Force in Intelligence permeates all manifestation, carrying no judgments or divisions. This is the Law of Relativity wherein, through interrelationship, pure knowledge is accessible to those who seek in humility. For the Cosmos can become an open book when we overcome our personality.

230 宇宙的印象の第一の経路は、宇宙の因、即ち真の生命力から、私達内部の純粹なる因、即ち生命力に向けてやって来ます。私達はこれまで英知におけるこの力が全ての創造物に染みわたり、如何なる裁きも分裂ももたらさないことを示して来ました。これは謙虚さを希求する者にとって相互に関係することによって、純粹な知識に触れることが出来る相關法則なのです。何故なら、大宇宙は私達が自らの個人性を克服する時、開かれた一冊の本になり得るからです。

【解説】

ここで注目したいのは、著者が宇宙の英知に由来する生命力というものは、あらゆる創造物に「染み渡っている」と表現していることです。丁度、私達の身体がスポンジや凍豆腐のように空間の多い構造から成っていると見た時、その空隙を宇宙的生命が隅々まで染み渡っているという訳です。

私達が目で見える物体の外見はここで言うスポンジ状のものですが、中には脈々と宇宙的生命力が息づいているということでしょう。

身体に染み渡る生命力は実は宇宙くまなくあらゆる創造物と融合しており、それらの間に障壁は無いものと考えられます。また、このように考えると、ある者が想起したアイデアは、これら宇宙生命力という媒体を伝わって宇宙くまなく伝わることも理解できます。

これらの理解は、身体の現象を注意深く見る中で促進されるものと思いますし、何十億、何百億もの太陽系を包含する宇宙に自らが直接つながっている安心感も育むものと思われれます。

231 While not of Cosmic value, when you receive a thought from a relative or a friend who is now living, you can accept it. This communication is natural, and will often carry an important message from a loved one. But guard against thoughts of discrimination or dissension--even from those we know best. For a discordant thought is just as harmful when received from someone dear to us, as it is from a total stranger.

231 宇宙的価値を有しないものの、現に生きている親類や友人から想念を受けた場合には、貴方はそれを受け入れても良いでしょう。この意思伝達は自然であり、しばしば愛する者の大事なメッセージを運ぶことでしょう。しかし、差別や口論の想念からは、私達が最も良く知っている者達からのものであっても、守る事です。何故なら、不調和な想念は私達と親密な者からのものであっても、全くの未知なる者からのと同様、有害であるからです。

【解説】

ここではよくある事例として、近親者間では想念・印象は伝達され易いことを示しています。夫婦や兄弟、親しい友人の間では何気なく一緒に行動をしたり、相手の気持ちを良く理解できるものですが、それらも本項と同様の事かと思われまます。

しかし、これらの想念・印象も発信した者の段階が低く、差別や裁きを含んでいる場合に対しては、注意が必要だと述べています。つまりは親しい間柄になった場合に、良くも悪くも両者が影響し合うということでしょう。

もちろん、想念・印象の感受性が高まること自体は良いことであり、本講座の目的でもあるのですが、注意しないと知らない間に差別や偏見等の送信者の心の影響も受けやすいという訳です。

232 The second channel of Cosmic impression, comes from the same interblending of the Cosmos which brings the thought frequencies from the lower planets; but in this case the thought frequencies are coming from people of higher development than those on earth. Impressions from them can be of great value to us, since they can help us better conditions in the world.

232 宇宙的印象の第二の経路は、低次元惑星からの想念振動をもたらすのと同じ宇宙の混和現象から来ますが、この場合、想念振動は地球人よりも高次に進歩した人々から来ます。彼らの印象は私達にとって大いなる価値を持っています。それらの印象が、この世の中の状況をより良くする為に私達の手助けをしてくれるからです。

【解説】

もちろんアダムスキー氏や彼の周辺で活動して来た多くの宇宙兄弟達から、私達がこれまでどれほどの援助を受け、助けられて来たのかは計り知れません。今日、この講座を含め彼らの活動の成果として残された生命の科学学習講座を学ぶ皆様は、引き続いて彼ら宇宙兄弟からの支援を求めている方も多いように思われます。

しかし、その一方で逆の立場に立って、現在の私達がより低次元惑星に出向いて、命を懸けて何らかの啓蒙活動を行う気があるかと問われれば、途端にたじろいでしまうものと思われます。実はそれ程に、1952年のデザート・センターのコンタクト以来、アダムスキー氏を窓口として行われて来た一連の支援活動は宇宙的に貴重な期間だったのかも知れません。そのプロジェクトに関わった宇宙兄弟達は、それに向け、言語の習得をはじめ、地球の社会構造の研究その他、長年の準備を経て実行して来た様に思われます。

宇宙空間の中には、私達のような低次元惑星の人達に支援の手を差し伸べようと希求されている高次元の方々も多くいらっしゃる筈です。その方々の支援アドバイスの心境は私達の身近にあって、いつでも私達が受容的な態度を整えれば、空間を超えていつでも私達は同期し、利益を受けることができると考えます。

ご連絡 [2014-12-26]

今年の更新は本日を最終回とし、年末年始の休みに入りたいと思います。
1年間、ご覧いただき、ありがとうございました。
明年は年明け、1月5日から再開する予定です。
少し早いですが、皆様、良いお年をお迎え下さい。

2014年12月26日
竹島 正

233 For instance, those of you who have read INSIDE THE SPACE SHIPS, will notice that the space people mentioned in the book compared their way of life to ours quite impartially. They did not criticize or pass judgment upon us; they merely analyzed the two phases of life. They pointed out the path of brotherhood we should follow, but they did not condemn us for our selfish shortcomings. Rather, theirs was an attitude of compassionate understanding for a wayward, younger brother. These more highly evolved people are the only ones we should look for enlightenment and help. Their thought frequencies are as accessible to us as the impressions from lower planets; but here again, because they do not conform to our normal thought patterns, we allow them to pass through our minds unnoticed.

233 例えば同乗記を読んだことのある皆さんは、その本に書かれている宇宙人達は何ら分け隔て無く彼らの生き方と私達の生き方を比較していたことに気付くでしょう。彼らは私達を批判したり、裁いたりしていません。彼らは単に、生命の二つの姿を分析して見せたのです。彼らは私達が従うべき兄妹愛の道筋を指摘しましたが、彼らは私達の利己的な短所に対し非難することはありませんでした。むしろ彼らの姿勢は一人のわがままな弟に対する思いやりのある理解の姿勢でありました。これら更に高度に進化した人々は私達が啓発と支援を期待すべき唯一の人達です。彼らの想念振動は低次元惑星からの印象類と同様に私達が近付き易いものです。しかし、ここでもまた、彼らが私達の通常の想念パターンと一致しないが為に、私達は気付かないままそれらを私達の心の中に通過させているのです。

【解説】

人々が慕う仏像の多くは穏やかなお顔で、いつも私達を見ているような状況を造り出しています。多くの者が困窮し、打開策を模索する中で、出会うのはこうしたどのような者に対しても暖かく向き合って呉れる仏様の姿がそこにあるように思われます。このように人々に安らぎを与える柔和な仏様ですが、それと同様な意味で記されているのが、本項の内容だと言うことが出来るでしょう。

他惑星の人々の中には、地球人に対して慈しみの心を持ち、支援して呉れる方々も多いことでしょう。私達は同乗記の中の彼らの会話の端々にそれらを理解することが出来ます。しかし、アダムスキー氏が去り、彼ら宇宙兄弟達の活動の様子が私達に直接伝えられなくなってからは、残念ながら地球は再び元の暗黒の惑星に戻りつつあります。

おそらくは長大な宇宙計画の下、同様なプロジェクトも再開されると思いますが、少なくともアダムスキー氏の伝えた内容を知る私達は努めてこれら支援の想念・印象を受け取るよう努力する必要があります。その為には、彼らの心境に自らの心を合わせ、彼らと以心伝心の関係を作り上げる必要があります。

234 The third channel of Cosmic impression, is the cell to cell communication. Remember, that every atom in the universe speaks the cosmic language, and is capable of communicating with every other atom. We have shown that the Mother principle in creation forms matter by gathering together atoms vibrating at different rates to bring forth manifestation. This Mother principle is equal to the Divine, or Father principle of creation; therefore, you will find in it no judgment or discrimination; for this would be discriminating against itself. Nature respects man equally; so does Cosmic, or Natural law. As the sun shines alike on the just and the unjust, judging no form-life, so does Cosmic Matter lend itself impartially to all manifestation. When we can look upon all form-life and see it in its true light, Nature unlocks her secrets, and gladly shares them with us.

234 宇宙的印象の第3の経路は細胞から細胞への意思疎通です。宇宙空間の中のあらゆる原子は宇宙的言語を話し、他の全ての原子と意思疎通が出来ることを覚えておいて下さい。私達は既に創造における母性原理は、創造物を生み出す為に異なる速さで振動している原子達を集めることによって形有るものを形成していることを示して来ました。この母性原理は聖なるもの、即ち、創造における父性原理に等しいのです。ですから貴方はその中に如何なる裁きも差別も見つけることはありません。何故なら、これは自分自身に対する差別になってしまうからです。自然は人を平等に尊敬します。ですから、宇宙や自然法則も同様です。太陽が正しい者にも不正な者にも等しく輝くように、宇宙の物質も全ての創造に分け隔てなく自身を委ねています。私達が全ての形ある生命を見て、その真実の光を見ることが出来る時、自然は諸々の秘密を明かして、それらを私達にゆっくり分ち与えるのです。

【解説】

木々の間の空き地に転がったドングリがやがて芽を出し、地中に根を張って若い杉苗としてすくすく成長し、やがては周囲をしのぐ大木に成長する様は、誰でも想像出来ます。自然は止むことなく必要な原子を集め、創造物を創造する活動を続けます。それは本項で言う宇宙を貫く永遠の法則、母性原理による活動だからです。そして私達人間はそれらの活動の恩恵に浴しているのです。

木々の生長は遂にはかつて無い程の大木となり、やがては寺社の建築、仏像の材料、その他人間の日常生活に役立つ物に加工されるでしょう。そうした製品や家屋の中に私達は暮らしている訳です。

更に考えれば、こうした身の回りのものにはかつての創造の息吹が残っており、これら分子原子達とのコミュニケーションも宇宙的なものであることでしょう。もちろん、森の中の静寂な雰囲気の中に宇宙的な活発な活動状態を感じることも本項に沿った訓練になります。本項で言う細胞から細胞へのコミュニケーションもそうした宇宙的活動に従事した或いは現在従事している分子・原子との交流ということになります。

235 There is one thing you must keep firmly in mind when practicing telepathic communication. Let no thought go out from you bearing discrimination, judgment, or harm to another form. And at all times guard vigilantly against allowing similar thoughts to enter your mind. Cosmic impressions, with their all-encompassing understanding of the whole, are the only three avenues which can be of any help to us in climbing the Ladder of Life.

235 貴方がテレパシー通信を練習する際にしっかり記憶して置かなければならないことが一つあります。それは貴方から差別や裁き或いは他の形あるものへの危害を帯びた如何なる想念も出してはならないということです。そして、常に同様の想念が貴方の心に入り込まないよう絶えず見張っていることです。全体に対する全てを包み込む宇宙的印象類のみが私達にとって生命の梯子を登る上での助けになり得る唯一の3つの大道なのです。

【解説】

原文では"Let no thought go out from you bearing discrimination, judgment, or harm to another form". (それは貴方から差別や裁き或いは他の形あるものへの危害を帯びた如何なる想念も出してはならないということです。)の部分は太字で印刷されています。それ程に重要なポイントがこの部分であり、私達はこの点を絶対に忘れないように心して置く必要があります。

更に言えば、何故私達が自らこうした差別や裁き、他者への危害を与えようとするような想念を発してはならないか、についてよくよく考える必要もあります。おそらくその理由の一つはこうした想念を発していると、その後は同種の想念・印象に同調し易くなり、遂には宇宙的想念が入り込みにくくなることが考えられます。

一方、このことは本人の未来にとっては、その後の進化に直接的に影響する重大な事項であることに注意が必要です。

古くから「怒りは敵と思え」という言葉があり、イエスも「右の頬を打たれたら、左の頬を差し出せ」と説いています。

実は身体の損傷以上に、心のあり方、その人の心境がその後の進化にとって大切な要素なのです。その為に、今生の命を犠牲にしたとしても、穏やかな心境こそ守るべき条件だと説いているように思われます。

236 Since we are part of this world, we must differentiate between the acts in our lives. We are allowed to analyze for the purpose of understanding, but must not divide or condemn. We have not the right to sit in judgment on our brother. He has come this way to learn his own lessons. And just as we cannot attend school for our children and expect them to receive an education, so we cannot attend the School of Life for another. We can offer a helping hand or a guiding word, but at no time should we try to force our will upon him. Remember, he may be struggling to learn the lessons we have already mastered, but he must master them himself.

236 私達はこの世界の一部である以上、私達の生命における諸活動の間を識別しなければなりません。私達はその理解の目的の為に分析することが許されています。しかし、差別したり、責めたりしてはならないのです。私達には兄妹に裁きを下す席に座る権利はありません。その兄妹は自身の教科を学ぶ為、ここに来たのです。また、私達が私達の子供達に代わって学校に行くことで子供達に教育を受けさせることが出来ないことと全く同様に、他の者に代わって生命の学校に出席することは出来ません。私達は助けの手を差し伸べたり、導きの言葉を掛けることは出来ますが、如何なる時であっても私達の意味をその者に強制しようとすべきではありません。覚えておいて欲しいのは、その者は私達が既にマスターした諸教科を学ぼうと努力しているかも知れませんが、彼は自分でそれらをマスターしなければならないということです。

【解説】

私達はただ全てのものを一つの創造物として、それで良しと安住すべきと言う訳ではありません。一つ一つの創造物を研究し、それらの仕組みや役割を学ぶことが、理解を深める為には必要になって来ます。しかし、その過程で、物事に優劣を付けたり、好き嫌いや善悪のラベルを付けることは厳に慎まなければなりません。

本項はこうした分析の過程は大変重要である一方、とかく私達はその中で自分の勝手な判断で、他者への批判を行い易いことを戒めています。

仮に自分から見て、問題の多い人物であったとしても、その人に代わって何かをして上げることは出来ませんし、長い人生航路の中でたまたま現在、その位置、その段階に居ることを先ず良く認識して置くことが重要です。どのような場合でも各人が学習の途上にあることを踏まえて、安直に判断を下さないよう努める必要があると本項は説いています。

237 Let us use the example of a wayward child. The parents will correct the child for a breach of discipline, but they do not condemn it. They understand that as the child grows, it will gradually learn right from wrong. All human beings throughout the Cosmos, are children learning lessons . . . and should be recognized as such. Jesus exemplified this when He said, "Father, forgive them; for they know not what they do." If this law is obeyed, we shall have no trouble in employing the Cosmic Language.

237 わがままな子供についての例を用いましょう。両親は躰を破ったとしてその子供を正しますが、責めることはしません。両親は子供が成長するにつれて次第に誤ったものと正しいものの違いを学ぶようになることを理解しています。宇宙を通じて全ての人類はレッスンを学ぶ子供達であり、そのように見なされるべきなのです。イエスはこう言ってそれを例示しました。「父よ許して下さい。彼らは自分達が何をしているのか分かっていないのです」。もしこの法則に従えば、私達には宇宙的言語を導入しても何ら問題は起きないでしょう。

【解説】

彼ら他惑星人が私達をどのように見ているかを、本項は端的に表現しています。私達は一見、大人のように見えても実際には自分の心をコントロール出来ない、やんちゃな子供なのです。やがて成長するにつれて、痛い体験を踏みながら誤った方向と正しい方向とを身に染みて知ることになる訳ですが、彼らはアドバイスは出来ても、私達本人が自覚しない限り、すぐには改めることは容易ではないかも知れません。人生の歩み方は各自で自覚して行く他はないということです。

しかし、それにも拘わらず地球には数多くの支援の手がこれまでも差し伸べられて来ました。本文にあるイエスもその一人と思われます。ここで読者の皆様に注目して戴きたいことは、本文中のイエスの言葉「父よお許し下さい。彼らは自分達が何をしているのか分かっていないのです」という発言がどのような場面で発せられたかです。十字架に掛けられ槍で身体を突かれ苦しみの中にあってもなお、その者達を叱るのでも呪うのでもない、そのような大変な罪を許してやってくれと、イエスは述べているのです。

かくも大きな差があるのが、私達地球人と他惑星人達との間にある実態です。しかし、これほどまでの広い包容力を持って他人に接することがテレパシー能力導入に必要であることを著者は私達に示唆しています。宇宙に染みわたる生命力はそれ程に寛容は性質を持つということかと思われます。

Suggested Exercises

238 If you wish to test your ability to receive impressions, there are many simple experiments you may try. But while doing so, always bear in mind these three important facts. First, when you allow the feeling to give the impression freely, there is no division between your mind and the mind of the one with whom you wish to communicate. Second, all objects are living forms. In their structure, besides the elements necessary for them to maintain their individualized form, each cell contains the same Intelligence which gives you life. Each particularized cell can receive impressions, and is capable of transmitting its experiences. Third, control your sense reactions carefully. They must remain completely neutral. Do not let your senses tell you anything is impossible simply because they have not had experienced it previously.

推奨される練習例

238 もし貴方が印象を感受する自分の能力を試したいと思うなら、貴方が出来る幾つかの実験があります。しかし、それを行っている間、常に心に留めて置いて欲しい大切な事実が三つあります。第一は、貴方がフィーリングに対し自由に印象を与えるように許す場合、貴方の心と貴方が意思疎通を行いたいと思う人物の心との間には何らの区別は無くなるということ。第二は全ての対象物は生き物であること。それらの構造の中には個々の形を保つ為に必要な元素の他に、一つ一つの細胞には貴方に生命を授けているのと同じ英知が含まれているということ。一つ一つの個別化された細胞は印象を受け取ることが出来、またその体験を発信することが出来るということ。第三は貴方の心お諸反応を注意深くコントロールすることです。心の諸反応は完全に中立に保たれなければなりません。貴方の諸感覚が貴方に何事も過去に経験したことがないという理由だけで、不可能だと告げさせてはなりません。

【解説】

テレパシーを実践するに当たって重要な概念について本項は3つの側面を説いています。

まずは意思を通わせる相手との一体感です。そもそも相手と一体になることで相手の心に浮かぶのと同様に同じアイデアが自分の心に浮かぶようになるということかと思われれます。知らず知らずのうちに双方が影響し合うことも発現するものと思われれます。興味ある点はこうしたいわゆる心を寄せる行為は空間や距離に関わらず行われるということなのです。

更には心を通じ合う行為は相手は人間だけではないとする点があります。いわゆる無生物であってもそのものが体験したものを知ることが出来るということでしょう。竜安寺の石庭は日本を代表する庭園ですが、岩と小石からなる庭が見る者に壮大なイメージを与えることもこうした鉱物との交流の一例なのかと思われれます。

最後に著者はこれらテレパシーの受信の際に、未知の印象、時として自分にとって怪訝な感じを持ったとしても、それら保守的な心の意見に耳を貸すべきではなく、あくまで心は自分の意見を述べるのではなく、中立な立場を貫くようにと述べています。外部からの印象を善し悪しの区別をするのは、即ち裁きにつながると警告しているのです。ありのままを受け入れて、その全体像を得れば、自ずとその良否が判明する筈であり、単に未知のものを毛嫌いしてはならないという訳です。

これらの要点を踏まえた上で、いよいよ各自のテレパシー訓練に入っても良いと著者は説いているのです。

239 Exercise 1. Two people can experiment with sending and receiving messages. Try this while in the same room, then at a distance; confining your attempts to simple impressions at first. When you are the "sender," form the mental picture clearly in your mind, then release it. Do not concentrate! Concentration does not add power to your thought, but rather interferes with it through the tension it creates in your mind. This is fully explained in Part • of this course. The recipient should remain relaxed, allowing his thoughts to flow freely. It is considered a good average if at first you can successfully exchange three out of five impressions.

239 練習1. メッセージの送り手と受け手の2名で実験出来ます。最初は単純な印象に試みを限定し、同じ部屋の中で試した後、次に離れて行きます。貴方が「送り手」の時には貴方の心の中に明確な心像を作り上げた後、それを放出します。集中してはいけません。このことはこのコースの第3部に完璧に述べられています。受け手はリラックスを保ち、自分の想念が自由に流れさせるようにしなければなりません。最初は5つの内、3つのやりとりが成功すれば、良い打率だと考えられます。

【解説】

もし適切な相棒が居れば本項に述べられているような実験も可能ですし、双方の学習を進める意味でも大きな意義を持つものです。しかし一人で学ぶ者にとってどのようにして訓練の場を得るのかについてはいろいろ工夫する必要があります。その際、私は本項で言う「リラックス」と前項(238)で説かれた「一体感」こそが重要なヒントであると考えます。

例えば、著名な仏画や仏像、或いはマリア像等々、これまで人々が敬愛して来た像の中には、様々な思いが投じられて来ている筈です。また像はその者に対して慰めを与え、或いは励ましを授けて来たものと思われまゝ。そしてそのことは像に永らく残留しているものと思われまゝし、同時にその像に結びついている本物の人物、宇宙深く離れた惑星に御住まいの導師にもつながっているものと思っております。

これこそが、他惑星人が写真に写ることを拒む理由の一つでもあるのです。鋭敏な彼らは自らのイメージに向けられた想念に対しても感応してしまう程のテレパシー能力があると考えべきです。

私達が目指すべきは、こうした人類の師とも言える人物と交わり、学ぶことであり、同調すべきはこうした高次元の想念の持ち主ということです。

240 All experiments should be conducted as a game, for a serious attitude will produce tenseness; thereby defeating your purpose. Human nature being what it is, tension from trying too hard is bound to enter, so your first attempts should be for short periods only. These experiments should be discontinued at the first sign of fatigue, for nothing constructive can be accomplished then.

240 全ての実験はゲームとして行われるべきです。何故なら真剣な姿勢は緊張を作り上げ、それによって貴方の目的を挫くことになるからです。そもそも人間の性質として、一生懸命やり過ぎると緊張が入り込むことになるのです。そこで貴方の最初に行う試みは短時間にしておくべきです。これらの実験は疲れの最初の兆候が現れたら、中断しなければなりません。それ以降、何ら建設的なものは達成されることはないからです。

【解説】

ここで著者がテレパシー訓練の取り組みについて、ゲームのように気軽に行えとする本来の意味についてよく考える必要があります。テレパシー訓練はいわば自分の心を対象とする訳ですから、先ずは心の取り扱い方について学ぶ必要があります。心は大抵、セツカチで直ぐに結果を見たいとする訳で、また肉体同様に疲れ易いことが挙げられます。まして長年月、惰性で生きて来た訳ですから、今まで眠っていた才能を引き出すことは容易ではない筈です。

つまりは無理せず、楽しみながらやるような余裕を持って、リラックスした状態で行えとしているのです。一生懸命に何かを得たいと闇雲に努力しても一朝一夕には進まないというのが、この種の訓練・修行の共通するところ。そこに「休まず、あせらず」と言われる由縁があります。長く取り組んでいれば、ある日何気ない機会に目覚めることも多いからです。

自らの持つ潜在的能力に気付き、それを発現する一連の修行がこのテレパシー訓練であり、その成果は各自の進化に直接結びつく大変重要な課題です。この課題は同時に各々が死ぬ瞬間まで精進すべきものであり、そのこと自体は決してゲームではあり得ないのです。その点を踏まえての取り組み姿勢だという点を理解しておくことが重要と考えています。

241 Exercise 2. Thoughts can be received from jewelry or other personal effects; for the frequency of the owner has been recorded upon the metal, or cell structure, of the object. It is interesting to try this experiment without the owner's knowledge, then see how nearly correct your analysis has been. If that person knows what you are attempting, thoughts pertaining to the object will naturally pass through their mind; and these could be picked up by you. This would be thought-transference from the person, rather than testing your ability to receive recorded impressions from the cell structure of the object.

241 練習 2. 想念は宝石や他の個人の持ち物からも受信出来ます。何故なら所有者の振動がその対象物の金属や細胞構造に記録されているからです。持ち主に対する知識の無いまま、この実験を行おうとすることは興味深いものがあり、どれくらい近く貴方の分析が正しかったかを知ることです。もし、その人物が貴方が行おうとしていることを知っていれば、その物体に関連する想念類は自動的にその人物の心を通過することでしょう。そしてこれら想念は貴方に拾い上げることが可能となります。これは、その物体の細胞構造からの記録された印象類を受信する上での貴方の能力を試すというよりは、その人物からの想念移動になることでしょう。

【解説】

私達各人が日常身に着けているものには、私達の日頃の想念活動が染み込んでいるということでしょう。それらの品物は本人から離れた場所に置かれても、しばらくの間は私達が感知出来る程の強さが残留しているものと思われます。

このような遺留品から持ち主の状況を探り出すこともテレパシーの一つと本項は述べています。

また同時に、その品物について誰かが探っていることを持ち主が知れば、実はその品物を經由して持ち主の想念が伝わり易くなるとも述べています。いわば想念が伝達され易い経路が出来、丁度身体の神経経路のように遠隔地と繋がるような状況かと思われます。

実は東日本大震災以降、「絆」の大切さが説かれているところですが、こうした想念の伝達経路の確立ことが真の意味の絆の意味かと思われます。

242 Try this same experiment with the contents of a sealed letter. If you are able to receive two or three thoughts from the letter, it is a very good average. This same exercise can be used with playing cards.

242 これと同じ実験を、封をした手紙の中身について行って見て下さい。もし、貴方がその手紙から二、三の想念を受け取ることが出来れば、とても良い成績です。これと同じ練習はトランプカードについても用いることが出来ます。

【解説】

テレパシー訓練を進めて行くと、いわゆる「勘」が働くようになるように思います。これは言葉で何かのメッセージが来るといようなものでなく、極めて短い間、瞬間的に「そうしたい」、「その方が良い」といような「感じ」が生じ、その忠告を受け入れて行動した結果、実際にそのような結果が得られることで、その印象の正しさが実証されたといような事例です。

もちろん、封書の中身を外側から見る為に私達は学んで来た訳ではなく、本項は自分の理解のレベルを試す為のリラックスした遊びということになります。

そして本当に私達が身に着けなければならないのは、この瞬間的な印象に如何に気付き、それを素直に受け入れる態勢を整えて置くかであり、その練習の機会は日常生活の至る所に存在しています。

243 Exercise 3. Test your ability to unify your mind with an object by giving a command to a coin to appear "heads" when it is tossed. Try this same command with dice.

243 練習3. 投げ上げた時、硬貨に「表」を出せと命じることで、物体に対して貴方の心を一体化させる貴方の能力を試して見て下さい。これと同じ命令をサイコロに対しても試みて下さい。

【解説】

3番目として上に投げ上げたコインが地上に落ちる際の裏表に自らの意思を反映させる実験を著者は例示しています。

実は私自身はこのような実験は好まないのですが、本項で著者が言う、対象物に自らの心を通わせて自身の意思を伝えるところが重要なところです。

結果はとりあえずどうでも良く、その物体と自分の心が通じ合える関係を志向するところがポイントになります。また、本項の主旨はコインの裏表等々、微妙な分岐点には私達の微力な心の作用も目に見えた効果を発揮出来るという意味もあるでしょう。

しかし、私達がテレパシー能力を開発しようとしているのは、ゲームの勝負に勝ちたいからではありません。自らの持つこうした物質との意思交流能力や実現力の育成こそ重要なところです。決して目先の結果に左右されることなく、進むべき方向を目指すことがより重要です。

244 When you look at a fire, endeavor to see the coarser substance transformed into gaseous elements through intense friction.

244 貴方が火を見る時は、粗い物質が強烈な摩擦により、ガス状の元素に変質する様子を見ようと努力することです。

【解説】

護摩行をはじめ古来より、炎には様々な意義を見出して来たように思われます。実は身近にある化学反応である炎は、同時に私達の感性を訓練する教材でもある訳です。

私達は学校で様々な化学反応を学んで来ましたが、それは単なる知識として蓄えられているだけで、現実の生活の中で、それらの反応を見ようとはしないものです。しかし、私達の身の回りには活発に活動する目には見えない極微小な原子の姿が数多くあります。その一つがものが燃えるという現象なのです。

このものが燃える状況の中に私達は既存の物体を構成していた原子がエネルギーを受けて、新たなパートナーと結合し、従来の固体組織を解消し、自由な気体へと昇華する姿を見る必要があります。

もちろん、見ると言っても肉眼では限界がありますので、どのようなことが起こっているかを洞察することが必要で、その訓練がテレパシーの感性を高めることに繋がっていると著者は説いているのです。

245 Approach a tree with a feeling of unity, then try to realize, your oneness with that life-form. In time, you will feel its pulsation. You will be able to trace its intricate network of roots through the earth, understand how they gather the needed elements for growth, and at the same time act as a ground for the tree. The portion above ground, the trunk, spreading branches and leaves, serve as an antenna; drawing life-giving elements from space that are just as necessary for its growth as are the minerals it obtains from the earth. The entire history of the tree, from the time the seed germinated, through all the years of drought and flood can become an open book when you are able to receive impressions from it. This knowledge and much more is available to you, because the same Breath that gives you life as a form, gives the tree life. You will find that the more you work with this inner feeling, the more you will become united with all phases of nature. This can be carried to the point where a flower will turn and nod to you.

245 自分と一体であるとするフィーリングを持って木に近付き、その生命体と貴方が一体であると認識するように努力することです。やがて貴方はその木の脈動を感じるようになるでしょう。貴方は地面の中の根の複雑なネットワークを辿ることや、それらの根が生育に必要な諸元素を如何にして集めるか、また同時に木の基盤として役立っているかが分かるでしょう。地面から上の部分、幹や広がる枝や葉は地中から得るミネラルと同じように成長に必要な生命を与える元素を引き込むアンテナの役割をしています。木の全歴史は貴方がそこから印象を受けることが出来れば、種の発芽から、日照りや洪水を含んだ木の全ての歴史が明らかになるでしょう。この知識やそれ以上のことが、貴方には手に入ります。何故なら貴方に生命体として命を与えているのと同じ生命の息がその木に命を与えているからです。貴方がこの内なるフィーリングについて力を尽くす程に、貴方は自然の全ての側面と一体化することに気付くことでしょう。このことは花が貴方に振り向き、うなずくという所までに成し遂げられ得るのです。

【解説】

考えて見れば植物ほど私達生き物全体に奉仕してくれている存在はないことが分かります。樹木一つをとっても、春に若葉を伸ばし、虫や鳥達、動物の食物を提供する他、成長した末には身に斧を入れることを許し、私達人間に住まいや道具を与えて呉れます。その植物と一体になれるよう、自分を訓練することは私達にとって新しい生命の躍動をもたらす大きな意味があります。

本項では木の内部に流れる樹液や地下深くの根の活動についても気付くよう促しています。これらは樹木の観察の際に肉眼だけでなく、肉眼では見えない部分についても積極的に気付くようになることを求めているのです。

実は植物のより大切な役割は、空気中の二酸化炭素を吸収し、代わりに酸素を供給することにあります。私達はこれのお蔭で地球上に生存しているのです。それら作用は肉眼の目には写ることはありません。樹木の幹を通して流れる樹液や葉の内部で行われているこれら植物の外気との気体分子の出入りについて、自ら樹木と一体となって感じ取る訓練が必要です。こうして植物と一体になれば、その後は私達はこれまでとは異なる、生き生きした本来の自然環境の中に生きて行くことが出来ます。それは同時に樹木自身が私達に応答し始める時でもあるのです。

ご連絡 [2015-01-22]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

都合により、次回更新は来週月曜日（夜）以降になる予定です。

246 Exercise 4. If possible, stand some distance from a body of water (its size is unimportant), preferably on a hilltop or rise, so you are looking down on it. Then, realizing your unlimited capability as consciousness, picture how cool and refreshing that water will feel as you place your foot in it. You can soon get to the place where your whole body will be invigorated by the contact; for in reality, there is no distance between your body and where you have directed your feeling. The feeling is the consciousness of the body. Once we realize feeling is not shackled to the physical form, therefore is not confined to one place, distance offers no barrier. It is in this manner that consciousness can roam the universe.

246 もし可能なら、水面（その大きさは重要ではありません）から、ある距離離れて、望ましくは丘の頂上か高台に立ち、下の水面を見下ろして下さい。そして意識としての貴方の無限の能力を実感しながら、貴方が自分の足をその中に浸けたらどんなに冷たく気持ち良いかを思い描いて下さい。貴方は貴方の全身がその水との接触で爽快になる所までにまもなく到達出来るでしょう。何故なら、実際には貴方の身体と貴方が自らのフィーリングを差し向けた場所との間には距離は無いからです。そのフィーリングは肉体の意識なのです。ひとたび私達がフィーリングは肉体に鎖でつながれるものではないことを実感すれば、即ち一箇所に限定されることはなく、距離は障壁にはならなくなります。意識が宇宙空間をさまようようになれるのは、このようにして為されるのです。

【解説】

対象物と一体になるということが、どのようなことであるか、本項は的確に説明しています。今まで私達はこのような自分の意識の真の能力について学ぶ機会はありませんでした。ともすると「心霊」その他、「スピリッツ」等々の誤った概念が先行してしまいがちな分野ですが、本項に記されているように自ら体験して、自分の意識は肉体を超えて遠隔地まで自由に拡大すること、そこには距離は関係ないことが分かります。

以前にも述べたところかと思いますが、例えば暗黒の深海に生きる生物は眼を頼りとせず、周囲に近づく対象物を認識することでしょう。眼が機能しない中でもこの察知する能力がある為に、不自由なく暮らしている訳です。これは私達肉体の各器官も同様であり、各々の組織が作用して行くのに眼からの情報は必要ありません。独り私達だけ、私達の心だけが肉眼を頼りにしているという訳です。

そしてこのフィーリングによる感知領域の拡大には、私達が他者を思いやり、相手の状況を理解することとも繋がっており、真のオープンマインドの心境とも言えるのです。

247 When your impressions are not received clearly, examine yourself and try to analyze what is wrong. Did one of the four senses interfere? Did an old thought habit reassert itself? Do not allow either. For even a split-second's interruption can cause misinterpretation of the impression. We have really illustrations of how easily a trend of thought can be lost; for when we are relating an incident and someone interrupts, quite often we completely forget the point we were discussing. And because impressions flash through the mind at high speed, this situation is magnified a thousandfold.

247 貴方の印象類が明確に感受されない場合は、貴方自身を調べて何が間違っているか分析することです。四つの感覚の何れが妨害していませんか。古い思考習慣が再び顕在化しませんでしたか。そのいずれも許してはなりません。何故ならほんの一瞬の妨害も印象の誤った解釈を引き起こすからです。私達は如何にたやすく想念の方向性が見失われるかについて実際例を知っています。何故なら、私達がある出来事について説明している時、誰かが話に割り込んでしまうと、しばしば私達は議論していたポイントを完全に忘れてしまうからです。また、印象というものは心の中を高速度で一瞬ひらめく為、この状況は一千倍も拡大したものになります。

【解説】

本項では印象が瞬間的な衝動としてやって来る為、私達は余程それに注視していないと、見逃したり見失ったりすると警告しています。

本項で記されているように、私達はよく次々に来る外乱によって本来のテーマを見失うことはよく経験するところです。そこに印象という言葉に表せない瞬時の情報を取り扱う上での最大の課題がある訳で、努めて自らの心を完全に印象に対して信頼を寄せ、自分の意見を一切、口挟まないことが肝要です。

これら微妙なる心の状態こそが印象を感受する条件になっているように思いますし、皆様それぞれに体験上の工夫もあるものと思います。心が全くの鈍感でもまた、何か強い想念で満ちていても印象を受けることは出来ません。どのような印象・インスピレーションがやって来ようとも、それらを受容する用意が心の側で出来上がっていなければなりませんし、余計なもので中断されてはならないということです。

248 The more disinterested we become in ourselves as a personal ego, the finer our perception becomes. Cosmic Life, or conscious awareness, is never confined to the body. Our limited mind—the mind of effect—tries to hold all things within the realm of its concrete understanding. But the mind that we know is only a shadow; while Cosmic Cause is Reality expressing. When the individualized mind recognizes its limitations, then wills itself to that which knows its purpose for being, its power becomes unlimited.

248 私達が各個人のエゴとしての私達自身に対して関心が薄れるにつれて、私達の知覚力はより繊細なものになります。宇宙的な生命、あるいは意識の知覚力は私達の肉体に限定されることはありません。私達の限られた心、即ち結果の心は全ての物事をその確固たる理解の領域の中に把握して置こうとします。しかし、私達が知っている心は影でしかなく、宇宙的因が表現されている現実なのです。各自の心が心の限界を認識し、心の存在目的を知るものへ自身を仕向ける時、心のパワーは無限になるのです。

【解説】

ここで重要な所は、私達の心はとかく全てを自分の理解の下、自分の支配下に置こうとすることが、テレパシー訓練を妨げる最大の要因であるとしている点です。

もちろん、私達は学習を通じて、宇宙の仕組みや自分の肉体、心の作用を学んでいる訳で、心に知識は多かれ少なかれ蓄えられて行きます。しかし、それだからと言って心が全ての事柄を知ることは出来ないという点を先ず、明確にして置くことです。その上で心の及ぶ領域を超えた「宇宙的因」の存在を認め、その因こそが主役であり、自分の心は影に過ぎないのだということを認めることが重要となります。

そうすれば、心は絶えず宇宙的因に全ての指導を委ねるようになり、宇宙的印象に対して受容的な心境を保つことが出来るようになります。「他力本願」の意味もその辺にあるように思われます。

Part

III

CHAPTER I

Control of the Ego

249 In olden times, teachers of philosophy demanded strict adherence to certain disciplines of body and mind before they would accept a pupil. They did this because they knew that if a man could not control his sense mind and body-habits, he was not yet ready to receive higher instruction. Some great teachers demanded a five-year period of absolute silence from the pupil before they would even consider the possibility of instructing him. This may seem drastic to us today, yet it served a two-fold purpose. The student learned self-control through not being able to participate in conversation around him; and the enforced role of an impartial listener made it possible for him to study and evaluate both sides of every question.

第3部

第1章 エゴを統制すること

249 古くは哲学の教師達は弟子を受け入れる前に肉体と心についてある種の訓練に厳密に従うことを要求したものです。教師達は、もしその者が感覚心や肉体の習慣を統制できなければ、より高次の教えを受ける準備が出来ていないことを知っている為、そうしたのです。偉大な教師の中には、その弟子を教えられるかを考える前に、その弟子から5年間の間、全くの沈黙を課した教師もいました。これは今日、私達にとっては過激に見えるかも知れませんが、それには二重の目的があったのです。弟子は自分の周囲の会話に参加出来ない為に、自己統制を学びましたし、また隔てない聞き役としての強い役割によって、すべての問いに対する両方の側について学び、評価することが可能となったのです。

【解説】

実はテレパシー開発は自らの心の問題に直結する課題であるが故に、その進む道は他人にはどうすることも出来ない自分自身の内面のコントロール、自己統制が必要という訳です。

これまでいくら長い時間をかけているにも拘わらず、成果が目に見える形で現れないという場合にも、おそらくこの根本的な条件、即ち自分の心が持ち込もうとする外乱を抑制する作業に問題があると考えられるべきかと思われまます。

本文ではどなたかの発言かは存じませんが、5年間の無言の修行を命じていたことを紹介していますが、高ぶり奢った心の状態を本来の受容的な状態に戻すにはそれほどの長年月を要するものだと理解する他はありません。

従来、とかく安直な気持ちでテレパシー訓練を見がちでしたが、実は第3部に入って、より実践的な教科に入った途端、本文のような大変厳しい現実に直面することになります。

250 We would do well to ponder this ancient requirement, and incorporate a little of it into our lives today. Most of us are so busy imposing our opinions upon others, that we really do not listen to what they have to say. While others are presenting their side of the subject, our minds are so busy marshalling our own arguments to prove them wrong, that we do not hear more than a fraction of what is being said

250 私達は古代のこの要件についてじっくり考え、今日の私達の生活にその少しを組み入れた方が良いでしょう。私達のほとんどは他の者達への自分達の意見を押し付けることに躍起になっており、私達は実際には他の者達が何を言おうとしているのかに耳を傾けてはいません。他の者達が課題に対する自分達の側面を提示している間に、私達の心はそれらの提示が誤りであることを示すべく、自分達の議論を先導しているだけで、私達は相手が話している事柄の一部しか聞いていないのです。

【解説】

一般の傾向として、本項で指摘されている事柄は良く分かるのではないのでしょうか。相手の言う事を聞き始めた途端に、それに対し自分が主張したい事柄を頭の中で整理し始める為、本来、相手が伝えたいと思っている内容を把握しないまま、双方の議論が進むという具合です。

特に欧米での交渉その他、ディベート等と称されるものは、如何に相手を言い負かすかに重点を置いている訳で、個人の主張の正当性を争うのが常となっています。

これに対し、本項は先ずは相手の主旨を十分理解するよう、聞く姿勢が大切だと説いています。訴えかける相手を先ずは受入、聞き入れる姿勢はカウンセリングの基本とも思われますし、同乗記の中で他惑星人の会話風景にも良く描写されています。本章はエゴの統制がテーマなのですが、その課題の第一が、このような実場面における心の訓練にあるということです。

251 So the great teachers of the past, comprehending that real development cannot come until man has disciplined himself, refused to waste either their time, or that of the pupil, where growth would be doubtful. They understood that the Cosmic Law of Progression would in time inspire the person to realize the necessity of an honest evaluation of himself, and of his relationship to all creation. He would then know that self-control was a prime requisite.

251 その為、昔の教師達はその者が自身を訓練し終わるまでは真の発達がやって来ないことを理解していた為、成長が疑わしい間は、自分達やその生徒の時間を無駄に過ごすことを拒絶したのです。彼らは進化の宇宙法則はやがてはその者に自身について正直な評価を行う必要性を認識させることを理解していました。その者は次に自己統制が主要な必要条件であることを知るようになるのです。

【解説】

教師が弟子となる者に従順さを求めるには理由があります。それは単に教師の教えに従うことを要求しているのではありません。これから弟子となる者が真に成長出来る態勢にあることを見極め、それに相応しい準備が出来ている場合に対してのみ、入門を許すという訳です。そこには不用意な状況下で深淵なる教えを説いても、本人が拒否したり、混乱することを避ける必要があり、なまじ上辺の教義を覚えるだけでは益はないと分かっているからです。

実はアダムスキー哲学についても同様なことが当てはまります。入門者は急いで知識・情報を収集したい為、様々な情報を求める方も多いのです。しかし、その結果は、世の中に出回っている様々なニセ情報をも取り込むことになり、逆に混乱してしまうケースも多いように思われます。

本項にある教師に対する従順さは、実は人間としての教師に対するものではないという所を理解する必要があります。自分が日夜接する真の教師は自分自身の中にある生命活動であり、そこから与えられている印象の声に従順に生きること、その為には自分の心の勝手を許さず、ひたすら自分自身の内側から来る印象に聞き耳を立てることがポイントになるように思われます。

252 Telepathy is an expression of the Law; which is as ageless as the Cosmos. If man hopes to use it with understanding, he must recognize how imperative it is for him to practice self-discipline. As long as he allows dissension to continue within himself, his receptivity will be confined to the level upon which his mind works. The Laws of the Cosmos are immutable, and in time man will awaken to his potential; for the only limitations placed upon man, are those his unawareness imposes.

252 テレパシーは偉大なる法則の内の発現の一つであり、それは大宇宙と同様、永遠不老です。もし人がテレパシーを理解して用いたいと望むなら、自身にとって自己訓練を実践することが如何に必須なことであるかを認識しなければなりません。その者が自身の内側で意見の不一致を許す限り、その者の感受性は心が働くレベルに限定されるのです。大宇宙の諸法則は不変であり、やがては人は自身の潜在能力に目覚めることでしょう。何故なら、人の上に置かれた唯一の限界は自身の鈍感さが押し付けたものだからです。

【解説】

大事なことは物理や化学と同様に、テレパシーも同類の宇宙の法則の一つであり、そこには場所や時代、誰彼に関係なく、常に作用しています。その法則を理解し、訓練すれば誰でもその法則を何一つ制限なく、活用出来る訳で、先ずはその点を理解しておく必要があります。

問題は、その活用の道を閉ざしているのが何であるかということであり、本項ではそれを心の鈍感さ、無知さ加減にあると断定しています。つまり、心が十分に拡張され、印象への感受性を高めない限り、進歩はないということになります。

ですから、重要になるのは、自分の心を柔軟に保ち、あらゆる物事を受け入れ、受容する覚悟を持ち、身の回りに溢れる豊富な宇宙的資源に対して入口を閉ざしているのは自分自身の心であることに気付くことです。

253 Nothing in the universe is at rest; so all things must be conscious. The only difference between consciousness and intelligence is that intelligence, or the perception of thought, is the result of consciousness, or activity, acting upon itself. In other words, thought is produced by one unit of consciousness contacting another unit of consciousness; and the recognition of thought is intelligence, or knowledge. Consciousness is abstract awareness... intelligence is concrete awareness. Thus, all concrete facts, or phenomena, are merely manifestation of the abstract; and are dependent upon it for their existence.

253 宇宙には休止しているものは何一つなく、それ故に全てのものには意識的でなければなりません。意識と知性の間にある唯一の違いは知性ないし想念の知覚は、それ自身に作用する意識あるいは活動の結果であるということです。言い替えれば、想念は一つの意識単位からもう一つの意識単位と接触することで作り出されます。そして想念の認識は知性あるいは知識なのです。意識は抽象的な気付きであり、知性は具体的な気付きであるのです。このように全ての具体的な事実あるいは現象は、単にその抽象物の現れに過ぎず、その存在をその抽象物に依存しているのです。

【解説】

本項の意味は実に深遠です。特に印象的な内容は、想念を知覚することが知性であること、更にその知性は具体的な気づき（覚醒）である一方、意識は抽象的気付きであるという説明です。また、想念はどのように発生するかについても、意識と意識が接触することによるという点も重要なポイントです。

これらの諸点を必ずしも今すぐ理解出来る訳ではありません。少しずつ考えて著者がどのようなイメージを持って本項を記したのかを理解しようとするのが大切です。何故、「意識」をいう言葉を用いたか等々、アダムスキー哲学（進歩した他惑星の人達がたどりついた生命哲学）の理解の上で、重要な鍵を与えて呉れるのが本項です。

具体的になったもの、即ち結果を生み出した原動力が重要であり、それは言葉で表現すら出来ない抽象的とも言える存在があらゆる活動の源だということでしょう。皆さまのご健闘をお祈りする次第です。

254 When we consider that consciousness is activity, and that thought is energy produced by that activity, and that thought cannot be destroyed but can be transmuted or transformed, we must stand in awe before the realization of the prodigious bombardment to which our bodies are subjected by billions upon billions of charged particles flying through space in never ceasing activity. Since these countless variations of vibrations surrounding us at all times, and the human body is capable of receiving all of them through the feeling channel, why is that the average person receives so few? Why are some more receptive? What determines the type of vibration to which each individual is receptive?

254 私達が意識は活動であり、想念はその活動によって作り出されたエネルギーであり、想念は破壊されず変質あるいは変容するだけだと思える時、私達の肉体が止むことなく宇宙空間を飛来して来た何十億もの荷電粒子による桁はずれの数の衝突にさらされているという自覚を前にして私達は驚きの中、立ち尽くす筈です。私達を常々取り囲むこれら無数の諸振動はフィーリングの経路を通じてそれら全てを受信することができますが、一方で何故平均的な人間は感受がそんなに少ないのでしょうか。他の者がより多く感受できるのは何故か。各々が感受する振動の形式はどのようにして決まるのでしょうか。

【解説】

極言すれば常に活動しているもの、動いているものが生命の本質であり、意識であると著者は本項で説明しています。その活動の結果として想念が生まれるということもポイントでしょう。

私達はこのように世界を眺めると、実は私達には自身の内部の生命活動の他にも周囲の大気や外宇宙を貫いて膨大な数の荷電粒子が自身を通過しているという訳です。それら活動に対して、私達は目下、何ら気に掛けることなく日常生活を送っていますが、本来、それら微粒子（あるいは素粒子と言った方が良いでしょう）のもつ活動がもたらす印象も同時に生成されている筈です。そこに気付いていないことは、どうしてかということの本項では問いかけているのです。

あらゆるものに意識があり、その意識と触れ合うことで想念・印象が生成することは前項（253）で学びましたが、そういう観点で言えば、私達はありとあらゆる場面で膨大な数の時々刻々真新しい想念・印象が生まれる中で生きてることになる訳で、惰性や退屈とは正反対の目くるめく世界に生きていくことが分かります。

255 To answer these questions, let us imagine the creation of a human consciousness through a concentration of forces, or rather, particles of force. Let us visualize a vast sea of force, composed of invisible units.

By a means inconceivable to the human intellect one of these units is project forward through this force-space in a whirling motion, creating a form of magnetism within itself which draws other particles to it. Because of the magnetic force within them, which we have called the law of affinity, these particles cling together and gradually become more and more concentrated, or bound to each other, by a mutual form of activity.

255 これらの疑問に答える為、人間の意識が力の集中、あるいはむしろ力の粒子群を介して創造される過程を心に描いて見ましょう。目に見えない単位から構成された広大な力の海を目に浮かべましょう。人間の知性では認知できないある方法によって、これらの単位の一つがこの力の空間の中に回転しながら打ち出され、それ自身の中に磁力を造り出す結果、他の粒子をそれに引き寄せます。私達が親和の法則と呼ぶこの内部の磁力の影響から、これら粒子は互いにくっつき合い、やがてより密度が高まり、相互の活動形態を通じて互いに結合します。

【解説】

本項の説明は人間の意識が如何にして生み出されるかを説明する所なのですが、期せずして本項の示唆する内容は宇宙空間における星の形成にも当てはまるような、物質誕生の仕組みについても言及されているように思われます。

荷電した物体が動くとき周囲に磁場が生じることは既に私達も学んでいる内容なのですが、高速度で粒子が回転運動することで自身に様々な要素を引き寄せるという描写はまた、私にはこの地球が公転・自転することで自身の重力を維持していると著者が示唆しているように思えてなりません。

「宇宙哲学」の中でも述べられていたように、「活動」こそ重要な役割があり、何事によらず活動を停止した途端に崩壊が始まると言っても良いかも知れません。

256 Professor Einstein spoke of substance, or any mass, as a knot in time-space - a very logical definition. For any material form is simply a section of space tied, or bound, together. This concentration, or binding together of particles, creates a sense of individuality (which is almost totally interested in itself).

256 アインシュタイン教授は物質、あるいは質量を時空における一つの結び目のように表現しており、それは大変、論理的な定義です。何故なら、どのような物質についても形は縛り付けられ、あるいはくくられた一部の空間のまとまりでしかないからです。この集中、即ち、諸々の粒子群を一緒に束ねていることが、個性（全ての関心をほとんど自身に向けていること）を造り出しています。

【解説】

本項は他惑星人が物質をどのように観ているかを端的に表現しているように思います。たびたび私達は「原因」と「結果」の関係、更には日頃私達が結果、即ち物質の世界に囚われていると教えられて来ました。その物質の本質を本項はアインシュタインの言葉を借りて、空間の中の「結び目」と表現している訳です。

自らの存在領域を囲った空間を維持していることが物体の本来の姿ですが、そのように各原子を集積する中で、「自己保持」の要素が生まれ、自分を守る気持が芽生えるということでしょう。

しかし、その形に囚われては観る世界は限定されてしまいます。より自由で広範な世界は各原子が自由に舞い活動する宇宙空間にこそ有るというものでしょう。そこに私達のルーツがあると言っても良いかもしれません。

目の前の形は一時的に何らかの作用で各原子が集積したものに過ぎず、その本質は各々自由に宇宙空間を周回している原子その他の自由な者達であるということに気付く必要があるように思います。

257 For instance, let us mentally picture our own solar system-which resembles in every detail the tiny, invisible atom described earlier-with its twelve planets and countless planetoids revolving around a central sun. This solar system is traveling through space-force, which is composed of an infinite number of particles and innumerable other planets and suns, yet our own little system is so interested in itself that not one of the planets will wander off. They cannot help being affected to some extent by every other concentrated force in the universe, because no atom, or unit, can separate itself from the Cosmic Whole. But the planets do not allow any force to influence them sufficiently to draw them out of their chosen orbits around the sun.

257 例えば心で私達の太陽系を思い描いて見ましょう。それは以前お話したように、小さく目に見えない原子に細かい所まで似ており、中央の太陽の周りに12の惑星と無数の小惑星を伴っています。この太陽系は力の空間の中を移動しており、その空間は無数の粒子と他の無数の惑星と諸太陽から成り立っていますが、私達自身の小さな太陽系ではそれ自身の指向性が高い為、惑星のどれ一つとしてさまよい出るものはありません。諸惑星は如何なる原子や他の単位もそれ自身を宇宙全体から分離することが出来ない以上、宇宙空間の一つ一つの他の集約された力により幾分かは影響を受けざるをえません。しかし、諸惑星はそれらが選択した太陽の周囲の軌道から引き落とす程の影響を与えるような如何なる力も許すことはありません。

【解説】

中心の原子核の周囲を回る電子といういわば最小の世界と太陽の周囲を巡る12個の惑星の姿が相似になっていることは、実に深淵であり、ありとあらゆる所に宇宙の基本原理が表現されていることに驚くばかりです。アダムスキー哲学を学ぶ私達はこれが単に偶然の一致と観るべきではありません。それらは宇宙空間に存在するありとあらゆるものに適用される法則の現れと観る必要があります。

また、私達が暮らす地球も日々休むことなく自転・公転運動を続け、地上の生命を支えています。力強く回転し、運動する原理について、未だ私達が理解出来るレベルにはありませんが、その活動を通じて重力を生み出す他、昼と夜、季節の移り変わり、気流や海流が生まれていることも確かですし、惑星全体の気候を穏やかなものとしています。この大地の活動が私達生きもの全ての生命を支えていることに私達は気づく必要があります。

258 Because of its higher state of concentration, the same thing is taking place in our bodies to a much greater degree. The human consciousness, or personality, has come to the place where it is almost wholly interested in itself. That is, the chemicals composing the form are so highly organized that they do not feel the need of outside forces; although they must draw upon those sources for their support. Each human form is interested only in perpetuating itself; and through thousands of years it has created the habit of accepting only those impulses, or vibrations, that pertain to its own well-being.

258 そのより高密度の状況の為、同様の事柄は私達の身体の中では更に大きく起っています。人間的な意識、あるいは個性というものは、ほとんど全く自分自身にしか関心がない状態の所までに至っています。それは即ち、形を構成している化学物質は余りに高く組織化されている為、それらはそれらの維持の上から原材料を引き込む必要はあるものの、人体の外側の諸々の力を必要だとは感じていません。一つ一つの人体はそれ自身を永続させることのみに関心があり、何千年もの間、そのような衝動もしくは振動のみを受け入れる習慣を作り上げてしまい、それらは自身の満足の一部になっています。

【解説】

前項（257）に記されていたように、惑星程の大きさの物体になれば当然、それを構成する各要素・成分がそれを維持する為に莫大な力を結集することは容易に考えられます。私達の人体も同様で、その精密な器官を適切に運用して行く為に無数の仕組みがあり、各細胞・分子はそれに向かって日夜休みなく働いている訳です。

しかし、一方では本項に記述があるように、その個体の維持に集中するあまり、外からの印象・想念には門を閉ざしがちになるという訳です。この点について十分に注意しないとやがては自我（エゴ）のみの存在となり、本来のその創造物を通じて宇宙の創造主が表現したかった姿を達成出来ない状況に陥ります。

私達が宇宙的な印象・想念を感受しづらいのは、こうした事情にある訳で、この問題を解決することが本来の創造物の姿に生まれ変わることにつながります。

259 The intense concentration of the particles composing the body has set up such a definite barrier of resistance to the free-flying atoms of space, that the form appears to be acting under a self-made law; or to have a separate will of its own. The law of evolution which has brought the cells of the body to such a fine degree of organization, or concentration, does in time lead them into a field of universal expansion so that this barrier of resistance is lessened; and the human consciousness becomes more receptive to the vibrations about it.

259 人体を構成する粒子の強固な集中状態は宇宙空間を自由に飛翔する諸原子に対し、断固とした防御壁を作り上げており、人体は自ら作った法則の下で行動している、あるいはそれ自身の分離した意思を持っているように見えます。人体の諸細胞にこのような緻密な組織、あるいは濃度をもたらした進化の法則はやがて、この抵抗の防御壁を宇宙拡張の領域に導き、その結果、この障壁は小さくなり、そして人間の意識はそれに関わる諸振動をより多く感受するようになります。

【解説】

私達各々の創造物が一旦物体として集約し、個体に凝縮するとそこには個体を守ろうとする意思が働くという訳で、ある意味、私達人間に自我（エゴ）が発達してしまうのは、自然の成り行きなのかも知れません。つまりは誰もが通る道の果てが今日の私達の状況ということになります。

しかし、進化の道はこれからであり、本文中にも触れられているようにやがてはこの外界とのバリアー（障壁）を和らげ、外界との交流を促進することが求められています。それに呼応して自ら作り上げてきた自己防衛とも言える概念を捨てて、外から来る印象に対し門戸を開く必要があるということです。

260 We are an intensely selfish lot. If you were to make an impersonal analysis of your mental reactions, you would find that ninety-nine and ninety-nine-one-hundredths percent of your thoughts pertain to yourself, your home, your business, your mate, children and possessions. To break this down, eighty-five percent of your thoughts are dedicated to the idea of self-preservation; the other fourteen-and-ninety-nine hundredths percent, to self-pleasure. That leaves a mere one-one-hundredth percent to be devoted to a searching for universal knowledge.

260 私達は強烈なる利己的な奴です。もし貴方が自分の心の諸反応を客観的に分析するなら、貴方は貴方の想念の内、99.99%が自分自身や自分の家族、自分の仕事、自分の仲間や子供達、持ち物に関連していることが分かるでしょう。更に分解すれば貴方の想念の85%が自己保存の想いに、他の14.99%が自己快楽に捧げられています。つまりはわずか0.01%が宇宙的知識の探究に捧げられているに過ぎないのです。

【解説】

日々の私達が考えていることは、自分自身や身内のことばかりで、宇宙的なアイデアや真理についてはほとんど求めていないと、著者は私達に説いています。元来、求めていない訳ですから、それらがやって来ることもないと言える訳です。当然、自分が求めている方法に人生は展開して行く訳で、今日の状況は私達自身が造り上げたものと言うべきでしょう。

解決策は、果たして自分自身がどのような心境で毎日を暮らしているか、これまでの生活態度はどうだったかを端的に反省することが出発点かと思われれます。その上で自分にとって真に必要なもの、これまで忘れかけていた宇宙的感性や過去に地球に来訪された先師が説かれた内容について自ら探究しようとする姿勢に立ち戻る必要があるでしょう。

結局はこれまで通りの心境で生きて行くことの末路は望ましいものではないと見切りをつけて、新しいより新鮮な想念の受容者、発信者になり、少しでも宇宙的な生命波動に共鳴できる存在、自らを通じて表現出来る存在になることが必要です。

261 The human must have a definite reason for acting; first, as a duty of self-perpetuation; second, because the act brings pleasure. Either of these is pure selfishness; and creates this barrier of resistance against universal knowledge. This self-interest created by the concentration of cell consciousness, we call the ego. And because of our lack of understanding, it is this human ego which we seek to perpetuate.

261 人間は行動する際には明確な理由を持たねばなりません。第一は自己を永続させる為の義務として、第二はその行動が快樂をもたらす故です。これらのいずれもが純粹に利己的なものであり、宇宙普遍の知識に対して抵抗の障壁を作り上げています。この自己への関心は、私達がエゴと呼ぶ細胞意識の集中化によって造り上げられました。そして私達の理解の不足の故に、私達が永続させようと求めているものは、この人間のエゴなのです。

【解説】

各人が自分のことのみ関心を持っていることが、世の中に多くの問題を発生させていると同時に、各人についても内向きの姿勢ばかりで外界からの支援、宇宙から各生命体に授けられている貴重なる印象類に対して障害（バリアー）を造り上げています。

自分自身に関心を持つと言っても、大抵は容姿や他人の評価等を気にしての行動であり、自分自身の内部の生命活動への本来の探究心ではありません。本当に自分自身を追及する場合は、体内の各細胞の声を聴くような静かな心境にもなりますし、他の生きもの達との連帯感も生まれる筈なのです。

芸術家や作家が寝食を忘れて製作に没頭する時、そこには自分自身への関心は無く、その作品の中に自分を没入させ、一体化している筈です。その時、実は本項に記されているような障壁は消失し、本人を通じて宇宙的印象が現実世界に放出されているものと考えられます。

262 As I have said, all manner of vibrations are constantly beating upon the cell portals of our bodies. Inasmuch as every cell is a conscious entity, the mass as a whole is perfectly capable of intercepting any one of these vibrations. When the cell-minds do not receive them, it is because they have become too interested in the central ego of the form. This means that they have concentrated their actions about the ego to such an extent that they are not aware of the existing outer force.

262 これまで述べましたようにあらゆる形態の振動が常に私達の肉体の正面入口部分の細胞を叩いています。一つ一つの細胞は意識を持つ存在でありますので、全体の質量としての塊は、これら振動の如何なるものも捉える能力があります。細胞の心がそれらを受信出来ない場合は、それらが形あるものの中心のエゴに対し、あまりにも強い関心を持っている為です。このことはそれがエゴに自分達の行動をそれ程に集中化させて来た為に、それらが外部の力の存在に気付かなくなっていることを意味します。

【解説】

外界から飛び込んで来る想念・印象の振動に対し、私達が気が付かないでいる理由は一つ一つの細胞が自分自身の関心事に集中してしまっている為にそれら精妙な振動に気付かないからだと言われています。

自我（エゴ）中心の生活を送り、惰性の暮らしを送ってはいけません、かたくなさは全身に浸透し、感性の鈍い人間に成り下がってしまうという訳です。それを食い止め、本来の姿に戻す為には常に宇宙や身の回りの空間から得られる印象情報に関心を持つこと、常に受容的な態度を保つことが必要となります。

柔軟性や無欲、何事にも探究する姿勢や意欲は自分を度外視した他者への奉仕活動を通じて養えるものだと思います。私達が創造主の恵みによって生かされていることを知れば、その一部を他者に分かち合えることは、喜びであり、私達の身体細胞をより柔軟なものに変化させることとなります。

263 Let us use an illustration such as this: We will take an ordinary pie tin, sprinkle a very light layer of fine steel dust over the bottom, then place it at one end of the room. Standing at the opposite end of the room, we will play a note on a violin. Since it is a recognized fact that a musical note creates a certain vibratory wave in the atmosphere relative to itself, if the note is held steadily we will find that the steel particles have moved about to form a picture of the note played. Because these particles are in a state of non-resistance, therefore easily moved, waves will appear in the layer of steel dust. This non-resistant state is comparable to the atoms when they are free in space, vibrating in harmony as they express Cosmic Cause. In this state they recognize their oneness with, and dependency upon, Cosmic Force.

263 このような事例を用いましょう。一般的なパイ焼き用ブリキ鍋を用意し、底に細かい鉄粉を極く薄く散らばせ、それを部屋の隅に置きます。部屋の反対側に立ってバイオリンで曲を弾くことにしましょう。音楽の音曲はそれ自体に相関して大気中にある振動波を造り上げることはよく知られている事実です。もしその音曲が一定に保たれば、私達はその鉄粉が演奏された音曲の絵を形づくろうと動き回る様子を見ることでしょう。これらの粒子は非抵抗の状態にある為に、容易に動いて鉄粉の層の中に波紋が現れることでしょう。この非抵抗の状態は宇宙空間の中で自由に存在する原子達になぞらえることが出来、それらは宇宙の因を表現しながら調和した振動を起こしています。この状態の中で原子達は宇宙の力と一体化していることと、それに依存していることを悟っているのです。

【解説】

音楽の意義と作用は実際には本項に記されているように、空間を振動が伝わって私達の肉体細胞に到達し、振動に含まれるアイデアやメッセージをそれら細胞に伝達することにあると言えるでしょう。鼓膜での振動の受信ばかりでなく、身体全体でそのメッセージ振動を受信し、同調しているのかも知れません。

そのいずれにしても、私達の肉体細胞はこのような振動に同調し、その内容を表現する能力を有していることを自覚することは大切です。努めて良質な情報を志向して行かなければならないと古来から説かれています。それは私達自身、様々なものに影響され易いことにその理由があります。低次元の情報を見聞きすると身体もそれに呼応してしまうことは、多くの方に経験があることでしょう。

私達が本来、何処を目指すべきかは、明らかなのですが、そこを目がけて突き進むことは最初の内は容易ではありません。しかし、独りそこに向かって役立つ訓練を日々積み重ねることで、ますますその良質な源からの印象を受け入れ易くなることは間違いありません。

264 Now let us take the steel dust, sprinkle it lightly over the tin once more, and place a magnet in the center of the vessel. What happens? The particles immediately respond to the magnet, and gather around it in a concentrated form. It makes no difference what note we play on the violin now, nor how long we hold it.

The particles will not be moved by the lesser vibration, because they are so intensely interested in another and stranger force . . . the force of magnetism.

264 今度はその鉄粉を取り出し、再びブリキ鍋の上に薄く散らばせ、その容器の中央に磁石を一つ置きます。どうなるでしょう。粒子は直ちに磁石に呼応し、それに向かって集まるように取り囲みます。今度も何ら変わることなく私達がバイオリンでどのような音曲を弾こうとも、あるいは如何に長く音を鳴らそうとも何の変化も生じません。粒子は別のもの、磁石と言う見知らぬ力に対し強烈に関心を持っている為、弱い振動では動かされなくなっているのです。

【解説】

私達の身体の60兆個以上あるとされている細胞の一つ一つが肉体や自我に対してのみ服従し、その指示を待つと同時に、肉体の維持に専念しているという訳です。考えようによっては私達にとって大変、有難い存在な訳ですが、ことテレパシーの開発に対しては大きな障害となっていることも確かです。

もちろん、身体維持は大切なのですが、各々の細胞の集中力を少し弱めて、外界からの振動に対してもっと耳を傾ける姿勢が重要であることは間違いありません。その為にどうするかが問われていることになります。

一人一人が日常の生活の中で各自の細胞にその点を言い聞かせ、よりオープンで受容的な姿勢、心境を取らせることが重要になります。もちろん他人の意見を聞くことや広く社会全般の事情について関心を持つこと、宇宙的分野に自分の関心を目覚めさせること等、様々な試みを行って、その実現を目指すことが大切です。

ご連絡 [2015-02-19]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。
都合により、次回更新は週明け月曜日になる見込みです。

2015年2月19日

竹島 正

265 This is exactly what happens within our bodies. Since we are one with the Cosmos, our rightful condition is a free state so that we might be receptive to all vibrations. But, due to the exaltation of the personal ego within us, we are usually adhering to the false magnetism with which we have endowed it.

265 これが正しく私達の身体の中で起っていることです。私達は大宇宙と一つである以上は、私達にとってふさわしい状態は私達が全ての振動を感知できるような自由な状況です。しかし、私達内部の個人的なエゴの増長によって私達は自ら与えた偽りの磁力にいつも付き従っているのです。

【解説】

私達は本来、もっと自由に生きて行くべきなのですが、現状では自我に振り回され、自己中心の中でその日その日を過ごしており、本文の描写にあるように自我に引き寄せられ、何ら外界から来る精妙な想念振動に気付いていないのです。

こうしたことは過去生にもわたって長らく続けられて来た訳で、この問題の解決は一朝一夕にうまく行くものではありません。しかし、鉄粉の一粒一粒に対して他にも素晴らしい世界があることを自覚させれば、やがてはその自我の自縛も解消されることでしょう。

その為には、努めて良質な源泉を学び、他の手本を調べることによって、次第に自分の問題点も明らかになって来るものと思われれます。この問題は他人が全てを解決して差し上げることは出来ません。各自が自分の現状を見据えて、自分に合った方法で少しずつ改善して行く他はないのです。

266 It is quite possible, nevertheless, to bring about a free state of cell activity. We speak of this state as relaxation. And the secret of being a good recipient of telepathic communication is the ability to keep the body in a state of active relaxation at all times

266 それでも細胞活動の自由な状況を取り戻すことは全く可能です。私達はこの状態をリラクゼーション（訳注：本来は「緩和」或いは「弛緩」と訳すべきですが、原文の意味合いを込めてカナ表記にしました）と呼んでいます。そしてテレパシクな意思交流の良い受け手となる秘訣はいつの場合も活動的なリラックス状態に身体を保つ能力にあります。

【解説】

磁石を置いた鉄粉の場合と異なり、私達の各細胞は単に昔からの習慣や思い込みから自我（エゴ）に従っているだけで、本来はより自由で柔軟な存在にも成り得るという訳です。その本来の姿、即ち、本文中でリラクゼーションと表現された状態にもって行ければ宇宙からの印象波動に対しより鋭敏になれるということです。

何かの心配事で緊張したり、怒ったりすること、結果が自分の予想した通りに進まないことで落胆したりと、私達は様々な理由を付けて肉体を酷使しています。その結果、肉体細胞は疲れ、あるいは頑なになり、外界への関心は薄れてしまうでしょう。

しかし、私達各人は自らを相棒として訓練を行い、様々な失敗や成功を経験することで成長して行けるものです。一つ一つの小さな実践からその解決の糸口を見つけて本項に記されている肉体細胞をリラックスさせる心境を掴まなければなりません。それは現在の私達には難しいように思われがちですが、他惑星人には大変容易なこと、心身を若々しく保つ上で食物以上に大事なことはないかと考えます。

CHAPTER II

Relaxation, Interest and Receptivity

267 We have been taught that intense concentration is the only means by which anything can be accomplished in this world. We are told that the happy-go-lucky individual never becomes an outstanding figure in any line of endeavor; so we should at all times keep our shoulder to the wheel, our eyes on the ball, and our nose to the grindstone (a most uncomfortable position). But here again, we will find that we have been unwisely informed.

第2章 リラクゼーション、関心及び感受性

267 私達はこれまで強烈な集中が、この世の中で何かが成し遂げられる為の唯一の方法であると教えられて来ました。私達は楽天的人間は決して如何なる努力の分野でも秀でた人物になることはないと教えられて来ました。ですから私達は常に車輪に肩を付け、ボールに目を置き、砥石に鼻先をつけ（最も不快な姿勢を）続けるべきとされて来ました。しかし、ここで再び私達は愚かなる情報を与えられ続けていることが分かるでしょう。

【解説】

これまで世の中ではとにかく集中力が全てだと言われて来ました。そこには誤解があると本項は説明しています。努力し苦労して何かを達成しようとする事自体を否定するものではありませんが、本講座を学ばれて来た皆様はそもそも私達がどの分野に努力すべきか、精進しなければいけないかを考えれば、それら集中的な労苦は本来の目的から外れていることに気付く筈です。

私達が達成しなければならないのは、自らの身体の細胞達、更には自らの心を様々な束縛、自縛から解放し、もっと生命本来の自由で鋭敏な状況に造り上げることです。その為には、過度な労苦や努力は逆に肉体や精神を疲労させ、進化の道を歩めなくする可能性もあるのではないのでしょうか。

私達が気付かないだけで、私達あらゆる生きものには必要なものは全て時々刻々と与えられています。その贈り物を受け取れないでいる自らが問題なのであり、より謙虚に自らを解き放って宇宙を源泉とするそれら想念印象波動を享受する態勢づくりこそ、主眼にすべき事項なのです。

268 Let us look into past history, back to the great minds still influencing our thinking today. Here, we find the Master Teachers: Buddha, Jesus, Aristotle, Socrates, Plato, to name but a few, all sharing one common faculty. All were possessors of serene, balanced minds; which enabled them to pierce the veil of materiality and trace manifestation to its true Cosmic Source. Long after the big business tycoon has returned his body to the dust and been forgotten, their guiding words will continue to influence the destiny of the world throughout time

268 今日の私達の思考に今なお影響を与えている偉大な心について過去の歴史を覗いて見ましょう。ここに偉大な師である仏陀、イエス、アリストテレス、ソクラテス、プラトン等、わずか数人を挙げましょう。これら全員は一つの共通した才能を共有しています。全員が澄んでバランスがとれた心の持ち主であり、そのことが物質性というベールを貫くことを可能とし、真実の宇宙的源泉に繋がる創造作用をたどることを可能にしたのです。この大御所がその肉体を塵に返し、忘れ去られた後も長い間、彼らの導きの言葉は時間を越えて世界の運命に影響を与え続けることでしょう。

【解説】

私達が学び実践した結果、各々が体験して得た知識・知見は大変貴重と言えます。われは私達が学んでいるテレパシーについても物質同様に一定の法則の下に作用するものであり、その作用に時間や場所の制限はなく、所定の条件が満たされれば誰にも達成出来るものだからです。

本文では著者は5人の師を挙げて、偉大な魂であると私達に説いています。その5人の賢者は人類を長年月導くような優れた教えを残していること、その教えは物質から更に進んでその奥の因である宇宙的源泉にまで見通している大変、優れたものであると述べているのです。

その際、重要なのはその教えが以後、長らく人々の生き方を支える程の大きさを持つということでしょう。キリスト教をはじめ仏教でも尊師が語った言葉が経典として語り継がれ、今も修行や信仰の拠り所として世界中で読み継がれています。まさに、「天地は滅んでも私の言葉は滅びない」というイエスの言葉通りのことです。

その意味ではたとえ微力であっても、一人一人がかすかに掴んだ真理の断片を文字に表現し、それを残し、他の者の目に触れるような機会を持つことで、他の同行者に少しでも役立てられればと思うものです。

269 It is true that all form is brought into being through a drawing together of free elements; that concentration is the father of manifestation. So if we are interested only in discovering how much space we can press into the smallest conceivable mass, concentration is a marvelous thing. But I sincerely hope that the goal for which we are striving is much higher.

269 全ての形あるものは自由な元素を互いに引き寄せることを通じてもたらされたこと、集積は創造の父であることは真実です。ですから私達が如何に考えうる極小な塊に空間を圧縮させることが出来るかを知ることだけに興味を抱くなら、その集積は驚くべきものになります。しかし、私としては私達が努力しているゴールはもっと高いものであって欲しいと心から思っています。

【解説】

いわゆる「雲とつかむような話」と形容されるように、私達はより確実、堅固なものを志向して来ました。それには、分子・原子が一つの形に結実した姿を究極のありようと思っていることの反映でもあります。

確かに宇宙空間の希薄な状態から、私達の惑星や地上の生物にまでに到るには莫大なる濃密さに分子・原子が集積されています。更にはその集積物がそのものとして機能させる為に様々な組織の分化が起こり、それらが一体的に活動することによって私達生命体ははじめて成立する訳です。

そういう意味では、私達各人の肉体は大変貴重なもの、高度な創造物と言える訳で、その他の宇宙空間に漂っている微小物質に比較して価値が高いと言えるかも知れません。

しかし、それだからと言って、私達自身が輝きを持っていると考えてはならないでしょう。希薄は宇宙空間から私達の現在の身体のように各個体を形成した英知、見えない力について先ずは感謝し、様々な事例について探求することが重要となります。このような集中、即ち創造力の具体的な現れに対して、私達が日頃、どのように観察しているかが問われることとなります。

270 Our aim in this study is to discover how far out we can work from any given point. We are not trying to draw the universe into the level of the human consciousness, but to turn the human consciousness away from the personal self, that it may become universal. So the development of the true sense-man, and the reception of telepathic communication, does not depend upon concentration . . . but upon interest.

270 この学習における私達のねらいは、どんな与えられた地点からも如何に遠くに私達が作用することが出来るかを発見することにあります。私達は宇宙を人間の意識のレベルにまで引き寄せようとするのではなく、人間の意識レベルを各自の個我から離して宇宙的にしようとしているのです。ですから、真の感覚人の発達やテレパシー的意思疎通は集積にではなく、関心に依存するのです。

【解説】

私達が向かうべき方向性について、本項は端的に述べています。とかく私達は自分の理解出来る範囲に物事を押し込もうとして来ました。これまでの経験に照らして物事を当てはめたり、宇宙の姿を自分の思う世界に当てはめようとするを、「理解」だとして来ました。

しかし、本項は私達が進むべきは逆の方向であると指摘しています。これまでの自己の経験に全てを当てはめるのではなく、自らを逆に宇宙に拡大させるという訳です。従来集中方向から逆に宇宙空間への拡張こそ、進む道であるとしています。

その為には、私達は自身の心境を自身の肉体の障壁を越えて拡張し、周囲に知覚領域を拡げることが重要です。自身の意識レベルを自由に拡張してどれほど遠くまで知覚範囲を伸ばすかということです。それは本文で言う自分以外の事柄を自分と一体、自分のもの、自分の事柄として常に関心を持ち、変化を察知しようとすることにあります。

このように自身を自我から解放することで、想念・印象をより広範囲で把握することが可能になるということにもなるのです。

271 A very great difference exists between the two. Concentration is a fixed, or set condition, which allows only one idea to manifest at any given time. Interest is a state of curiosity which opens real consciousness to all ideas around it, and in this way actually creates an impersonal participation with them in a free state.

271 両者の間には非常に大きな違いがあります。集積とは固定化した固まった状況であり、如何なる時でも一つのアイデアしか現出を許さないものです。一方、関心は現実の意識をその周囲の全てのアイデアに開放する好奇心の状態であり、このようにして自由な状態の下、それらと非個人的なる参画を実際に造り出すのです。

【解説】

本項から私達は従来、あらゆる努力を「集中」という状態の下で行っていたことが分かります。一つの事柄に集中しないと何事も成就しないとも言われて来ました。もちろん、一定段階としてはそれも大切なのですが、その先には、もっと自由に想念を感受する心境を創り出さねばならないということでしょう。

一つの想念のみに集中することは、やがては固執、囚われにも通じてしまいます。そうではなく、もっと周囲にやって来る様々なアイデア・印象にアンテナを張って様々な印象を感受するよう自由な心境にしなければならないという訳です。

これまで私達は自らを目標に向かって集中させることが良いことだとして来ましたが、実はそうではなく、むしろ自らの意識を自分自身から外部に拡大させ、周囲に関心を持ち、自分を役立てるよう志向することが大切なのです。

272 During experiments conducted in the field of intentional telepathy by researchers, it has been found that the rate of accuracy in reception in any group is higher for the first series of tests than it is later. They have attributed this to mental fatigue, but it might more logically be explained as concentration fatigue; for it is produced by the enforced focusing of the attention upon one point, or idea. Because it demands an increased expenditure of the potential body force, any form of concentration will produce fatigue. The energy of the cells is being dissipated at a very high rate, and due to their tenseness caused by this mental strain, they are not able to replenish their energy as fast as they are giving it out. This creates an unbalanced condition in the body.

272 研究者達による意図的テレパシーの分野で行われた実験の間、如何なる集団においても正確さの割合は最初のテストが後のものよりも高いことが発見されています。彼らはこれを精神的疲労のせいとしていましたが、集中化による疲労と説明する方がもっと論理的と言えるかも知れません。何故なら、ある一点あるいは概念に注意を強制的に集中させることで疲労が作られるからです。その集中が潜在する肉体の力の消費量を増加させることになる為、どのような形であれ、集中は疲労を作り出します。細胞のエネルギーが非常に高速度で消失し、心の引き締めによって作り出された緊張の故に、細胞は自分達のエネルギーを補給することが出来ないまま、エネルギーを放出してしまいます。これは肉体にアンバランスな状態を作り上げます。

【解説】

精神を集中することが如何に体内のエネルギーを消費し、身体を疲れさせるか、本項は実例を示しながら、私達に優しく説いています。

よく「疲れを知らず」という表現がありますが、その時の心境は自由で何ものにも囚われない柔軟さと解放性があるように思われます。他人への気兼ねや結果への過度の期待、成果への執着等から全く離れた状況の中で、自由無げな自分が居り、感じるままに行動すること、またその結果が次々に良い方向に進んでしまうという状態です。

もちろん私達は種々試しながら、良い方向を学んで行く訳ですが、一旦、自らの体験上良い方向性を確認出来た後は、努めてその状況に自分の心を置くべきです。法則は常に存在し、万物を治めている訳で、同じ条件を造り出せば、再び動揺の結果がもたらされることは必然です。その意味でも私達は万物の支配者、宇宙の創造主に対して絶大な信頼を寄せて置く必要があります。これに反して、自ら強引に精神を集中させても、法則に沿っていなければ自らの思い通りに進む筈もない訳です。

ご連絡 [2015-03-04]

いつもご覧戴き、有難うございます。
都合により、明日の更新はお休みします。

2015年3月4日

竹島正

273 We are living examples of this law in action. Our modern mechanical age with its labor-saving devices, which should give us more time to become acquainted with ourselves and the universe in which we live, has enslaved the average person by the fast pace they now expect. We work, eat, sleep and play in a state of high concentration; then wonder why we suffer from constipation, colds, high blood pressure, and drop dead with heart failure in the prime of life. All the medicine in the world cannot make the little cells of our bodies operate efficiently while our minds are under tension.

273 私達はこの法則の生ける実例です。私達の現代の機械化の時代には労働を軽減する装置があり、それらは私達に自分自身と私達が住んでいる宇宙をよく知るためにより多くの時間をもたらす筈なのですが、平均的な人間を私達達が思い込んでいるテンポの速いペースの虜にしています。私達は高い集中度の下、働き、食べ、眠りそして遊びます。そして何故、私達が便秘や風邪、高血圧に苦しみ、生涯の全盛期に心臓麻痺で倒れるのかを不思議に思うものです。この世の全ての薬は私達の心が緊張下に置かれている間は私達の肉体の微小な細胞を効果的に動かすことは出来ないのです。

【解説】

世の中機械化が進み便利になっている訳で、本来私達各人には昔の人に比較して十分な余暇と余裕が出来ている筈です。しかし、日常生活の労働が様々な道具と社会基盤の整備によって大幅に軽減されて来た一方で、私達は依然として、慌しい毎日を過ごそうとしています。それは自分自身の勝手な思い込みと習慣によるもので、自らの生活・人生をそのように急がせているのだと著者は指摘しています。

実はその姿勢こそ心に緊張感を強いることとなり、肉体細胞を不要な集中状態に置き続けることとなります。その結果、それに耐え切れず、種々の健康問題が発生するという訳です。

本来はこの文明の功績である自動車や機械、電気その他、生活を便利にしてくれるそれらの恩恵を自身の探求や宇宙の探索に結びつけ、生命の本質、宇宙の真理の追求に充てるべきなのだとして著者は私達に説いています。これらからの時代、真に求められているのは、このような精神分野、想念・印象にまで遡った理解ということになります。

274 Interest, unlike concentration, does not deplete the cells. Due to their state of curiosity regarding the new information, the cells are open to the incoming force. Being in a free state, instead of using their stored-up energy as they do with intense concentration, the cells are so normally balanced in action that they receive equally as they give out; so no fatigue is felt.

274 関心は集中とは異なり、細胞を枯渇させることはありません。その新しい情報に関する興味を持った状況の為、細胞は入って来る力に対し開放しています。激しい集中ではそれら貯えたエネルギーを使っていたのに対し、自由な状態においては細胞は正常にバランスされ、出すのと同量を受け入れることとなる為、疲労は感じられません。

【解説】

テレパシー能力の開発過程で何故「関心」という心境が大事なのか、また、それがこれまでの努力の象徴である「精神集中」と何処が異なるのか、本項では著者が私達に説いています。

私達の全身の細胞が想念・印象を最初に感受する訳ですが、そのいわば昆虫達の「触角」とも言える鋭敏な機能を果たす為には、各細胞は周囲への関心を保ち、且つ十分健全な状況であることが必要であり、決して疲労状態であってはならない訳です。

最初の内は自分の周囲にどのような想念・印象がやって来るか、絶えず関心を持って見守ることで従来、気付かなかったものにも次第に気付くようになります。その時、重要だと思ふのは、一旦得た印象もそれに一つ一つ執着しては次の印象に気付くのが遅れてしまいます。即ち、只、やって来る印象に気付き、受け入れる姿勢、それをいち早く再び解放する心境が必要ではないかと考えます。

最近、目にした雑誌の中の一文中にあった記事です。「呼吸に集中し、頭から足先まで感覚を研ぎ澄ませる。外からの音を受け入れたらそれを手放していく。思考についても同じ要領で行うんだ。」（ホームレスの仕事を作り自立を応援する雑誌、The Big Issue日本版, vol.257, 2015年2月15日号、ベネディクト・カンバーバッチのインタビュー記事より）。どうも真理を掴んでいる人が多くなって来たように思われます。

275 But even with interest we must analyze our mental reactions; for there is personal interest, and universal interest. One may find that he is able to receive many impressions or premonitions regarding his own affairs; yet be a closed channel for national, world, or universal impressions. If this person will watch his thought action closely, he will discover that hundreds of thoughts pass through his brain during each day which do not register strongly; because they do not seem to pertain to himself, his personal experiences, or have appeal to his individualized knowledge of outside affairs.

275 しかし、関心についても私達の精神面の反応を分析しなければなりません。何故なら、個人的な関心もあり、宇宙的な関心もあるからです。人は自分が自分自身の事柄に関しては多くの印象や予感を感じることが出来ていることには気付くかも知れません。しかし、国家や世界、あるいは宇宙的な印象類については閉ざされた経路になっています。もし、この人物が綿密に自らの想念波動を観察するならば、毎日何百もの想念が強い印象を残さないまま自身の頭脳を通過していることを発見するでしょう。何故ならそれら想念は自身や自分の個人的な体験に属するようなものでなく、自身の外部の出来事についての個人的な知見に訴えるものではないというのがその理由です。

【解説】

実は「関心」と言っても、その内容にも課題があるのです。個人的な事柄への関心に終始してしまうのでは、宇宙的進化の道を進んでいるとは言えません。そうした状況に陥る原因は仮に宇宙的な印象がやって来たとしても、細胞あるいは心自体が自分に関係のないものとして、そのまま通過させて済ませているという訳です。

こうした状況を打開するには、私達は自分の関心を自己中心から周囲の者や自然界、更には宇宙へと拡大させる必要があります。努めて世の中の状況を見守る姿勢が求められる訳ですが、くしくも千手観音像のように、自らを様々な苦難にあえぐ人々に救いの経路として手を差し伸べる姿が象徴するように、人々の成長に役立つ存在になろうとする心境が求められるということでしょう。

276 If he gives these thoughts any recognition, he generally releases them immediately as mere figments of his imagination. But, after all, what is imagination? Is it not the faculty to objectify, or imagine, that which is invisible to the senses? As one Eastern philosopher aptly phrased it, "Imagination is the bridge between the known and the unknown."

276 もしその者がこれらの想念に何らかの認知を与えたとしても、その者はそれらを単なる自分の想像の産物だとして通常は手放してしまいます。しかし、結局のところ想像とは何でしょうか。それは既存の諸感覚には見えないものを具体化し、考えてみる能力ではないでしょうか。あるアジアの哲学者はこれをつましく表現しました。「想像とは既知と未知との間の橋である。」

【解説】

通常、私達が単なる「想像」として重きを置くことなく捨て去っているものの中に、実は私達自身が偶然出会った宇宙を本源とする想念・印象があるという訳です。せっかく巡り合えた宇宙的想念も私達自身がそれらの価値に気付かず見逃すことも多いということでしょう。

これら宇宙から私達に時折やってくるアイデアは、従来は単なる「想像」として価値あるものとはして来なかった訳ですが、一たびその価値に気付けば、私達は更に身の回りに起こるこれら印象の閃きに注意するようになることでしょう。

宇宙的印象は絶えず私達に注がれており、私達がそれに同調し、活用する為は無償で贈られています。テレパシー能力の開発は各自が一人一人に授けられるこれら創造主の支援の言葉を理解し、実行する為のものである筈です。

277 The wise man will learn to pay attention to all thoughts passing through his brain. He will heed not only those pertaining to self, but also those thoughts taking place outside his personal field of comprehension. For only in this way will he grow in knowledge and receptivity. It is indifference and lack of interest which causes man to lose the greatest jewels of wisdom . . . lose them through apathy when he actually holds them within his grasp.

277 賢明な者は自分の頭脳を通過する全ての想念に注意を払うことを学ぶでしょう。彼は自身に属するもののみでなく、自分自身の理解の分野以外で起る想念についても心に留めることでしょう。この方法を通じてのみ、知識や感受性において成長するからです。人に智恵の最大の宝石を失わせるのは無頓着と関心の薄さであり、実際、手に握っているにも拘わらず無感動のまま無くしてしまうのです。

【解説】

感受性という要素が人間の進歩にとって最も重要であることが、本項の著者の説明から良く分かります。人間、年を重ねるにつれ、習慣性が増し、感受性は衰えます。しかし、長寿の人を見ると多くは絵を描き、文章を綴り、時に詩人は日常の暮らしの中に多くの感動を持っているように思います。それらの事が本項で言う「自身の周囲を通過する宇宙的想念を感受し、それらがもたらす日々新たな感動に心身を同化させている」ものと思われれます。それこそが若さの源ということでしょう。

また自分自身以外のことに関心を持つということは、世の中全般や他者への関心、見守りという姿勢にも合致します。他人の世話をし、相談に乗ることもその一つであり、著者アダムスキー氏もそうした人達の良き相談相手となっていました。

他者の救済と通じて、自身が成長進化出来るということは、大いなる「善循環」と表現することが出来ます。

278 Often, however, the loss of important telepathic communications - whether from animate or so-called inanimate sources - is not due to lack of interest, but due to a too intense interest; or a personal greed for knowledge. A thought, as we have explained, does not travel in a lump like a cannon ball, but in a series of waves. One complete thought may produce itself in fifty thousand individual undulations. Yet, nine times out of ten the instant a forerunner of a thought-message strikes the human brain the ego, if interested, will grab it and immediately tense the brain and body cells by concentrating upon the incoming thought. That sudden tensening of the cell activity is merely slamming the door in the face of the incoming thought. The five or six hundred impulses which found their way into our conscious brain cells before the door was closed, produced only a fleeting impression in our awareness; which, because we have received only a portion of the message, often results in a sense of confusion.

278 しかし、重要なテレパシクな意思疎通の喪失は生物からであれ、いわゆる無生物からであれ、関心の欠如に起因するのではなく、しばしば過剰な関心や知識に対する個人的な貪欲さにも起因しています。想念は私達が説明して来たように、大砲の弾丸のように塊で移動するものではありません。一つの完全な想念は50,000個の個別なうねりによって自身を作り上げているかも知れません。しかし、10の内、9回は想念メッセージがエゴである頭脳を叩く瞬間、エゴが関心を示せばエゴはそれをつかみ取り、そのやって来る想念に集中することで、頭脳と肉体の細胞を即座に緊張させます。細胞活動をそのように急に緊張させることは、入って来つつある想念の目の前でドアをボタンと閉めていることに過ぎません。その扉が閉まる前に私達の頭脳細胞の中に入った500から600の衝動は私達の知覚の中に先頭の印象しか作り出すことが出来ませんし、私達はそのメッセージのわずかな部分しか受け取らなかったため、しばしば混乱の感じしか結果として残らないのです。

【解説】

一方で関心を持つ姿勢の中にも課題は存在します。つまりは本項で著者が解説しているように、私達自身に落ち着きが無く、直ちにやって来る想念・印象に飛びつき、身体細胞を緊張させて本来、続けてやって来る想念の糸口を遮断してしまう行動を取るという訳です。

実は心に十分なる余裕が無ければ、この新規な印象を十分に解釈できずに遮断させることにもなりかねないという訳です。芸術家、哲学者、詩人が皆、静寂の中に身を置いた後に作品作りに向かうのは、こうした心の状態を整えることに関連しています。創作活動の過程でやって来る宇宙的な印象に対し、気づくことはもちろん、受け入れる過程においても過度の興奮や緊張状態に陥らず、ある意味、冷静にその全体像を把握するよう心を整える必要があるからです。

止水明鏡という表現がありますが、やって来る想念・印象の本質がどのようなものをイメージしているのか、静かに観察することが求められています。

279 Thought-transference is much like a radio broadcast. In radio, a message or vibration is spoken into the microphone; passes through an amplifier and transformer; travels through space as an electric wave; is picked up by a receptive instrument; carried through the wires to the detector tube and transformer, where it again changes into the original sound waves. But if the power fails, or a tube goes dead in the middle of the message, the sound waves coming from the set will stop, and the speaker's voice may be interrupted in the middle of a word. When we tense our minds to an incoming thought, it produces the same effect on the brain that the power failure, or dead tube does in the radio set.

279 想念伝達は、ラジオ放送により近いものです。ラジオの場合、メッセージあるいは振動がマイクロホンの中に話され、アンプや変圧器を通り、電気的な波として空間を移動し、ある受信装置に拾い上げられると、電線の中を通過して検波管や変圧器に運ばれ、そこで再び元の音声波に変換されます。しかし、メッセージの途中でも、電力が無くなれば、あるいは真空管が作動しなくなれば、ラジオから出る音声波は停止し、話し手の声は途中で中断させられることになるでしょう。私達が入って来る想念に対し、心を緊張させると、ラジオにおいて電力が落ちたり、真空管が切れるのと同じ影響を作り出すことになるのです。

【解説】

テレパシーについては他ならぬ私達自身が受信機であり発信機であるという訳です。その機能を高めるには、私達に備わっているものの、永らく使用されず、おそらくは放置されて来た仕組みを一つ一つ再整備し、動かして行くことになることでしょう。

著者はテレパシーをラジオの仕組みと同じだと説いています。私達自身の取扱いが誤っていて過度に緊張したり、無関心で過ごしてはこれら関係する身体内の機構は本来の機能を果たすことなく衰えてしまうことになるのです。

重要なことは既に私達自身の中に必要な受信機、発信機は備えられており、それらが本来の機能を果たすようにしさえすれば、自ずとテレパシー能力は身に付くということです。その為には、まずその真実を受け入れ、自らの精神活動や状態を整えること、内省を通じて自身の内側の仕組みや実態を探究することが必要です。

280 It is not easy to hold one's self always in a state of receptivity, because it demands a perfectly balanced consciousness. It is not a simple task to keep the body in a state of relaxation and still maintain a positive interest in all action around, and within us. Yet, this state is necessary to a good recipient. We must learn to look upon our mental reactions as though we were an impersonal bystander, and our thoughts were nothing more than actions taking place upon a stage.

280 自我を感受性のある状態に保つことは容易ではありません。完全なる調和した意識が必要だからです。肉体をリラクゼーションの状態に保ち、しかも周囲や自らの内面のあらゆる活動に対して積極的な関心を維持することは容易な任務ではないのです。しかし、良い感受者にはこの状態は無くってはならないものです。私達はあたかも自分が個人的に関係がない傍観者であるかのように、私達の精神的な反応を観ること、また、私達の想念がステージで起っている演技でしかないかのように観ることを学ばなければなりません。

【解説】

バランスのある心境を維持するにはどうしたら良いか、本項で著者はその極意とも言えるエッセンスを述べています。

そのポイントとも言える内容が、客観的に自分を見つめること、いわゆる想念観察という手法です。

私達は実際には日常生活においても様々な仕事があり、外界とも接触します。次々にやって来る問題についても適切に対処しなければなりません。そうした場合、従来はとかく状況に流され、自分の全てがそれら状況への対応の中に埋没して来ました。しかし、それではバランスをいつの間にか失ってしまうことも多いのです。もちろん対応には誠心誠意行動する訳ですが、自分自身の中では、これらの行動を更に奥から観察する立ち位置が必要だということでしょう。

本項で記述のあるように、「私」としては与えられたステージで精一杯の行動をとる訳ですが、同時にその出来を観察する立場に立って自身の心を見守る姿勢が必要だということです。

281 To some people, this may seem a very haphazard way of experiencing life. For has not the human ego, through hundreds of thousands of years, been trained to the idea of accomplishment by aggression and personal effort? Yet, there are the fortunate few who have discovered the universal way of life. Such persons include not only the seers and the philosophers (who, we pointed out earlier, understood that mastery of the body was essential), but those in all walks of life. Thomas Edison, one of the great scientists of our times, once remarked, "I have found that the answer to some of my most perplexing problems come to me after I have ceased trying to solve them." In other words, the thoughts started to flow freely when his interest was impersonal; when his intense concentration had been released.

281 人々によっては、これは人生を経験する上で行き当たりばったりのように思えるかも知れません。何故なら、人間のエゴは何十万年もの間、攻撃と個人的な努力による物事の達成という概念で訓練されて来たのではなかったでしょうか？それでも宇宙普遍の生き方を発見できた幸運な人達もいます。これらの人達の中には先見者や哲学者（彼らは古くから肉体の支配が不可欠であることを指摘し理解していました）ばかりでなく、あらゆる人生の歩みの中におりました。今日の偉大な科学者であるトーマス・エジソンはかつて、こう述べました。「私のいくつか悩んでいた問題の回答は、私がそれを解決したいとする努力を止めた後にやって来ました。」言い換えれば、彼の関心が非個人的になった時、即ち彼の強烈なる集中が開放された時に想念が自由に流れはじめたということです。

【解説】

がむしゃらに「努力」すれば成果が出るという訳ではないことを、私達は多くの経験上知っています。一方、優れた成果を出し、素晴らしい作品を残す者も世の中には多いものです。問題はその違いは何処にあったのかについて、私達は正直に自身の心境や行動について考える必要があるにも拘わらず、「成果を出せない」と思い込むこと、結果に囚われ過ぎるだけで、真の原因を掴むことが出来ないでいることでしょう。

人間の心が考察出来る内容、言葉に出来る内容は膨大な印象の世界と比べれば実に小さな範囲です。また本人の経験も限られたものです。

これに反して、宇宙の知性に通じる印象・想念は私達が想像する以上に大きな実現力を持ち、知識も豊富ということでしょう。私達が自らの心境、即ち心の状態をリラックスしたものに保てれば、即座に解決策が提案されるという訳です。本文に記されているように大抵の偉人と称される人達は皆、この法則を独自の方法で活用して来たということでしょう。がむしゃらに集中して「努力」することをひとまず脇に置いて、自らの心を解放し、直感を信じることで解決を導くこととなります。

282 Relaxation is generally misunderstood. In consequence, there few people who have ever experienced true relaxation. Contrary to popular belief, it is not a state of inertia. It is a condition of intensified activity . . . because it is free activity.

282 リラクゼーションは概して誤解されています。結局のところ、これまで真のリラクゼーションを体験した人は少ないのです。よく信じられているのとは反対に、リラクゼーションは何もしない惰性の状態ではありません。それは、自由な活動であるが故に、激化した活動の状態なのです。

【解説】

前項（281）では私達は集中による弊害の為、容易に答えに辿り着けないことを学びました。本項のリラクゼーションとはこの集中状態とは反対、理想的な状況という意味で説かれている言葉です。

何事を行うにも自由で、抵抗や支障が無いこのような状況は、創造物の各々のあるべき心境とも言えるでしょう。植物の種が与えられた水分や温度の条件が整えば、一斉に芽を吹き各々が力の限り成長しようとする姿や、動物の幼生達の結果を恐れず、仮に他の生きものの餌になってしまうことにも構わず大洋の中で生きて行こうとする姿は、自由そのものであり、リラクゼーションを良く表しています。

しかし、独り人間だけは、このリラクゼーションを体得するに困難を抱えているように思います。自我というものがあらゆる行動を自身の保全に結び付け、その結果に執着しているからと思われる。私達の日常の心境を、自分の周囲の状況に関心を広げながら、より自由で活発なものに変えて行くことが、本項で言うリラクゼーションに繋がるものと考えています。

283 As an illustration; let us imagine we place a large number of goldfish in a small bowl. This crowded condition will not enable them to move about freely, and any motion on their part will cause them to bump into other fish. Each contact-shock will result in the expenditure of a certain amount of energy. If they try to force their normal activity in such congested surroundings, they will soon become fatigued. If they are wise, they will instinctively lessen their action; in which case they are reduced to a condition of lethargy. But as soon as these fish are placed in a larger receptacle they will again expand their activity to its natural state.

283 例示として小さな鉢に沢山の金魚を入れた場合を想像しましょう。この混み合った状況は金魚達に自由に動き回ることが出来なくさせており、少しでも動くとも他の魚にぶつかってしまうこととなります。この接触の衝撃は幾分かのエネルギーを消費します。もし、金魚達がこのような詰め込み状態の中で通常の動きを無理にしようとするれば、すぐにも疲れてしまうでしょう。彼らが賢ければ本能的に活動を低下させるでしょうし、その中で彼らは不活発状態に弱められて行きます。しかし、これらの魚達がより大きな容器に入れられるや否や、彼らは再び自然な状態まで活動を広げることでしょう。

【解説】

集密な状態というものが各自の活動を停滞させることになるという本項の記述は、分子の運動状態を連想させます。

気体の圧力は分子の運動の繁栄とされていますし、物質の密度は固体から液体、更に気体になるにつれて薄くなります。宇宙空間はこの希薄な気体の空間で、これまでの概念では何もない空間というイメージでしかありませんでした。

しかし、本項による考えからすると、この希薄とされる空間において各分子は最も自由に活動し、本来の活気を呈しているとも言えるでしょう。リラクゼーションについて学ぶ中で、各自が自由に想念活動を行う上で、こうした「空」なり「無」と称される空間が実は重要なのだと著者は示唆しているのかも知れません。

般若心経の「空」なる概念もそのことを説いているように思えます。

284 The same holds true of the cell entities of the human body. Our minds are constantly "bumping" into the worries and anxieties around us in the crowded fish bowl of our own creation; and each contact-shock dissipates a certain amount of energy. So we can safely say that tension is the chief cause of non-activity of the cells, and non-receptivity of telepathic impressions. But due to a misunderstanding of the true meaning of relaxation, there exists another condition that is just as detrimental as tension.

284 これと同じことが人体の各細胞実体についても当てはまります。私達の心は私達自身の創造物である混み入った金魚鉢の中の私達に心配と不安を常に「ぶつけて」おり、一つ一つの接触の衝撃が何がしかのエネルギーを消費させています。ですから私達は確かに緊張は細胞の非活発やテレパシー的印象の非感受性の主原因であるということが出来ます。しかし、真のリラクゼーションに対する誤解から、この緊張と同じくらい有害な状態も存在するのです。

【解説】

私達自身の心の不安定な状況が、私達自身の膨大な数の肉体細胞に容赦なくストレスを与え続けていると著者は私達に警告しています。人間の老化や疾病の多くはこうした私達自身の心その原因を造り出しているという訳です。

確かに物事がうまく行ったりした時、心が何らかの目標を達成したと感じる時、私達は間違いなく気分が良くなり、はつらつとした心境で周囲を見ることが出来ます。しかし、その状況も多くは長続きせず、再び何らかのストレス状態に陥ってしまうのが、私達の日常です。

しかし、私達の目標は何処に置くべきでしょうか。誰でも「死」は遠くにあって欲しい訳で、好んで病気になる者は居りません。与えられた生命を少しでも自分本来のお役目に貢献できる形で生き続けられれば、それは「本望」ということであり、誰でも自身の生命活動を継続発展させる義務があるのです。

それを実証する為には、先ず私達を取り組まねばならないことは、自分自身に対するこのような心の横暴を無くすことです。その為には、実際にどのような状況が自身の心と肉体との関係において起こっているかを、よくよく調べるのが大切です。肉体を構成する各細胞、各分子には極めて良質な体験をさせる必要があり、これは他者に対しても言えることです。周囲の者を含めてストレスの無い環境作りが大切だということです。

285 Not unlike the goldfish in the small bowl, the individual nearly always reverts from the extreme of tension to the extreme of lethargy . . . completely ignoring the half-way house of relaxation. Usually, if a person is told to relax, he simply lets down and loses interest in everything. By doing this he not only retards the cell action of the body, but he often goes even further and by main force of will tries to create a mental vacuum. This torpid state is what takes place in nature when certain animals hibernate through the cold weather, but with them it is in obedience to a natural law for the perpetuation of the species. You will notice that the customary foods of these animals is not available during the winter months; therefore, nature slows down the activity of their body cells, so they may husband their energy until Spring sets her bountiful table.

285 その小さな鉢の中の金魚とは異なり、個人はリラクゼーションという中間施設を完全に無視して極端な緊張から極端な無気力に逆戻りする程の方向転換を大抵は行います。普通、もしある者がリラックスするように言われると、その者はあらゆるものに対する関心を低下させ失わせてしまいます。こうすることで、彼は肉体の細胞活動を遅くするばかりか、しばしば更に進んで意志の主力を使って精神的な空白状態を作り出します。この不活発な状態は自然界ではある種の動物が寒い季節を通じて冬眠する時に起るものですが、動物達にとっては種の永続性の為に自然法則に従っているものなのです。皆さんは冬の間、これら動物のいつもの食べ物が手に入らないことにお気づきでしょう。それゆえ、自然はこれらの肉体細胞の活動を低下させ、彼らが春が食卓を用意するまで自分達のエネルギーを節約出来るのです。

【解説】

極端から極端に走るのが人の常という訳です。私達は真のリラックスをどのようにして達成するのか、ここで本腰を入れて考える必要があります。

本項で述べられているように過度な集中状態、緊張状態が肉体細胞にストレスを与え、消耗させることは前項までに学んで来ました。しかし、そうだからと言って、その正反対である何ものにも関心を持つとせず、何もしないただ惰眠によって時間を費やすことは、動物の冬眠にも近いと著者は警告しています。

冬眠の場合は生命存続の為に必要な厳冬期の対策である一方、このようないわば生命活動が停滞するということは私達には不要な状態であり、有害だということでしょう。

単純に「中庸」と表現することは簡単ですが、何故私達の心が全てを放棄し何もしない状況に陥るのか、また一方ではすぐに極度の緊張状態のいずれかの間を振り子のように転移しがちなのかについて、よく考える必要があります。物事を「良否」「優劣」その他の二元に分けること、「原因」と「結果」を分離すること等による私達の「裁き」志向の中に、その要因があるように思えるのです。

286 More than once I have heard the remark: "Oh, I was in such a beautiful state of relaxation. I was barely conscious of having a body, and my mind was simply a blank!" That is not relaxation. It is merely a state of lethargic indifference; and has almost no constructive value. When a person is truly relaxed his body feels tremendously "alive," and thoughts pass through his consciousness at such a high rate of speed it may seem to him afterwards that he has lived years in a few moments. Relaxation is the releasing of personal desire to the natural sequence of relativity, or continuity of thought; and the person has normal, unbiased interest in everything while in this state.

286 一度ならず私はこうした発言を耳にしたことがあります。「そう、私はとても素晴らしくリラックスしたことがあった。ほとんど自分が肉体を意識することなく、心もまっさらな状態だった。」しかし、これはリラクゼーションではありません。それは単なる無気力で無関心の状態でしかなく、建設的な価値はほとんどありません。人が真にリラックスしている時は、自分の肉体はとてつもなく「生き生き」感じ、想念は本人の意識の中を非常な高速度で通過する為、後でわずかの時間に何年間も過ごしたような感じをその者に与えます。リラクゼーションとは個人的な願望を人の手を加えない一連の関連性の流れ、即ち想念の連続性に解放することであり、その時、人はこの状態の中にあって、あらゆるものに先入観の無い関心を抱いているのです。

【解説】

私達が目指すべき心境について、著者は本項で詳細に説いていることに、私達は注目しなければなりません。

テレパシー能力は、本項に述べられているようなリラックスした心境でのみ養われる訳ですが、この「リラックス」とは通常、私達が言うリラックスとはむしろ、正反対のより活発な精神状態と言うところが重要です。本文にもあるように、時間的にはほんの一瞬でも極端に言えば何年も過ごしたような充実した精神状態、即ち自由な想念の流れが私達の目指すべき状況という訳です。

想念の流れに対し、心が一つ一つの判断を下すようなことを止め、自由に心を通過させることによつて、私達は想念の流れに対して抵抗のないパイプのような存在になり、短時間でも多くの体験、知識の授与を得ることが出来ます。

ここで更に注目したいのは、このような想念は宇宙から無尽蔵に私達に注がれているのですが、私達の心が入口を塞いだり、ストレスを造り出したりする為に、流れが妨げられて来た訳で、その障害が取り除かれれば、より自由に想念が流れ込んで来ることになることです。

充実した精神活動は決して疲労をもたらすことはありません。金魚の例のように抑制状態がストレスや疲労を造り出す訳で、より自由に伸び伸びした状況になることが私達本来のあるべき姿です。

287 I have said that in general, lack of receptivity is due to lack of interest on the part of the individual. We know that some persons are intensely interested in all that goes on around them, whereas others have limited interests. Why should this be? What causes the psychological difference?

287 私は一般論として、感受性の不足はその個人の側における関心の不足に起因すると言って来ました。私達はある人々は身の回りで起る全てに強烈に関心を持つ一方で、他の者達は限られた関心しか示さないことを知っています。これは何故でしょうか。その心理面の違いは何によるのでしょうか。

【解説】

感受性の由来は物事に関心にあることを私達は学んで来ました。しかしその一方で、多くの者が自分に関する事柄以外には無関心であることも確かです。本項ではそれがどのようにして起こっているのかを考えるよう、私達に説いています。

これまでの本文の記述の中から、私達は各肉体細胞を高密度で集積した状態を保つ上で、私達の心は絶えずこれら細胞をそれらの司令塔との自負している自身の心にのみ注目させようとして来ました。またそうした状況が金魚鉢の中の金魚のように各細胞に緊張を強いていることを学んで来ました。

このような一連の行き過ぎた心への集中が自分以外の事柄に関心を持たなくなり、従って感受性も育まれなくなったことにも繋がっているように思われます。また自然観察や生命探究など、未知なるものへの研究心はこれらの関心や感受性を必要としますが、その分野に興味が無ければ、自ずと関心も広がらず、想念をキャッチすべくアンテナを広げる必要もないことになります。しかし、本来、同じ恵まれた環境にあるのですが、関心がないばかりに、そのまま素晴らしい世界を見過ごした人生を送ることはもったいない限りです。

288 To answer these questions, we must again refer to the universal law of action. The scientific definition of this law is, "Any object set in motion has a tendency to continue in motion in the same line, or direction, until acted upon by some external force."

288 これらの疑問に答える為、私達はもう一度、運動の普遍的法則を引用しなくてはなりません。この法則の科学的定義は「如何なる物体も動かすはじめると、何らかの外力が作用しない限り、それと同一の直線、同じ方向に運動を続けようとする傾向を持つ」としています。

【解説】

私達は大きな流れの中に身を置いているということでしょう。とてつもない大きさとも言える球体の上に生活していますが、その球体自体、宇宙空間を一定のスピードで移動し、合せて自身も一定の速さで回転しているのです。こうした一連の動きは宇宙創造の時まで遡る程の長い時間の中、変わらぬ運動として、その表面に暮らす生きものたちの生活にとって無くてはならない安定した生存環境を提供しています。

このように安定した環境づくりには重要な慣性の法則なのですが、私達の精神活動にとっては要注意な要素であるという訳です。

これまで学んで来たように、私達はとかく惰性に流され易く、新しい事柄、新しいアイデアを取り込むことを年齢を重ねるにつれて、次第に行わなくなります。新しい事柄に挑戦し、成果を得るべく努力しても、結果に自信がない等々の理由を付けて、ひたすら従来のやり方を踏襲してしまう訳です。

しかし、これでは若々しさは生まれることはないのです。常に周囲の事柄に気を掛け、感性を高めること、得られたアイデアを実現させる具体的な行動をとることだけが、新たな経験を得ることに繋がり、身体細胞も活性化します。自身の内部を停滞状態から本来の生命活動状態に生まれ変わらせることが求められているという訳です。

289 Psychologically, we express this law by the statement that "a habit is difficult to break." In other words, any thought that is allowed to impress itself upon the body, sets the cells of the body into a state of motion corresponding to the thought-vibration. The body then has a tendency to continue in that particular motion until acted upon by another force which is strong enough, or positive enough, to change that vibration. The highly organized, concentrated, personal ego, in its aggressive manner, is so prone to force-frequencies that it intensifies the natural tendency of matter to continue in any motion, once that motion is created. When we allow habit-motions to become set, it necessitates contact with a very positive vibration to change them.

289 心理学的には私達は「習慣は打破するのが難しい」と表現します。言い換えれば肉体に対して印象付けることを許された想念は皆、肉体細胞をその想念波動に対応した運動状態に整えます。肉体はそれ故、次にその振動を変化させるに十分な強さや大きさを持った別の力によって作用されるまで、その特定の運動を継続する傾向があります。その攻撃的な振る舞いにおいて高度に組織化され、集約化された各個人のエゴは、力のある振動から大きな影響を受け易いため、一度運動が創り出されると継続するよう物質の自然の傾向を強めてしまいます。私達は習慣的な運動をセットすることを認めた後は、それらを変える為には別の強力な振動と出会う必要があるのです。

【解説】

何か強い印象を受けた後、長い間、頭からその内容が離れないことも多いものです。また、現在特に問題となっている過激思想による世界的なテロ集団の動きなど、いわゆる「洗脳」についても、本項の記述は私達の心の特徴をよく表現しています。

良いにつけ、悪いにつけて私達は想念に影響され易く、一旦それを受け入れた後は、長時間その示す方向に行動し、流され易いことは、私達自身肝に命じるべきです。もちろん、本講座のような本来あるべき姿に精進することは望まれることですが、世の中圧倒的多数はそれとは逆の方向に私達を招くものだからです。

対策の決め手は私達自身、自分の訓練として努めて良質なものに接しようと心掛け、邪悪なものを遠ざけることが賢明です。何度も邪悪な試みに自身をさらす必要はありません。その代わりに少しでも本来の生き方にプラスになる源泉を求め、それに出会ったら、生涯大切にすることです。良い友人、良い書物を得ようと思うことからそれが始まります。

290 Remember the illustrations we used of the pessimist and optimist? The pessimist has formed the thought-habit pattern of always looking at the gloomy side of life, and will resist the presentation of joyous ideas. Even though the sun might be shining brightly, if you were to comment on the beauty of the day he would remind you of the terrible storms we had last winter. His thought-habit pattern looks upon all manifestation with suspicion.

290 以前、私達が用いた悲観論者と楽観論者の例示を思い出して下さい。悲観論者は常に生命の暗い側面を見る想念習慣パターンを形成してしまい、楽しいアイデアの披露に抵抗しようとします。太陽が明るく輝いても、貴方が日光の美しさを評しようとしても、その者は貴方に前年の冬にあったひどい嵐のことを思い出させようとするでしょう。その者の想念習慣は全ての創造を疑問の念をもって観ているのです。

【解説】

私達は多かれ少なかれ自分自身の思考習慣を作り上げているのではないのでしょうか。本文にあるような悲観的見解に立つ者は常に物事をそのように観て、決して建設的な部分、好ましい点を観ようとはしないという訳です。

この他にも様々な思考パターンがある筈ですが、実はそれが私達自身の発達を妨げている原因のように思っています。即ち、これまでの「常識」、即ち思考習慣が真実の洞察を妨げ、折角の機会を逃しているということです。

同じ対象物を見て、そこから深遠な印象を受ける者と、何ら気づくことなく通り過ぎてしまう者との違いは何処にあるのか、よく考える必要があります。私達は自分自身の習慣に流され、価値に気付かず狭い心に束縛された生活を送っていることに、先ずは気づくことが必要です。その上で従来思考パターンを捨て、毎日新鮮な気持ちで朝を迎え、与えられた一日を有意義に過ごすことを心掛けたいものです。

291 On the other hand, the optimist will see the beauty in the drifting snowflakes. He will call your attention to the majesty of the towering clouds, and point out the gratitude of the thirsty ground. These two minds are using the same universal law of action. But one has set his mind in motion along a destructive, vibratory thought-habit pattern; while the other follows a constructive vibratory thought-habit pattern; recognizing all creation as a manifesting expression of the Supreme Intelligence.

291 他方、楽観論者は漂う雪片に美しさを観ることでしょう。その者はそびえ立つ雲の偉容と渴いた大地の感謝の気持に貴方の注目を呼び起こすことでしょう。これら二つの心は同じ宇宙普遍の運動法則を用いているのです。しかし、一方は自分の心を破壊的な振動の想念習慣に沿って動かしていますが、もう一方は全ての創造は至上なる英知の現出された表現として認め、建設的な振動の想念パターンに沿って自らの心を動かしているのです。

【解説】

本文では夏の夕方、毎晩のように繰り返される雷雨を前に、空に立ち昇る入道雲と乾いた大地の関係を指摘しています。私達が現象をどのように観ようとも、雨は地球の水循環にとってなくてはならない作用であり、大地に生きるもの全てにとって恵みの源です。

実は、現在滞在中の場所も目下、乾季の真っ最中で何ヶ月もの間、雨が降りません。その結果、多くの木々が葉を落として、ひたすら雨を待っています。気温が高いただけに植物にとっては辛い日々かも知れません。そうした中でも多くの木々が花を付け、葉っぱが無くなりかけても、花を次々と咲かせることを止めることはありません。プルメリアも次々に花を付けています。当所では、もうすぐ始まる雨季を祝う「水かけ祭り」も行われると聞いています。

あらゆる現象には、プラスの面もマイナスの面もある訳ですが、その本来の意義はプラスの面が担っていると観るべきでしょう。自然界をよく観察すれば、そのことは十分、理解出来る筈です。

292 We must understand that the human cell has a basic vibratory rate, that naturally responds more easily to other human vibrations than it will to those of animal, plant, or mineral life. But the human cells are just as capable of receiving impressions from all of these phases of nature, as they are from human beings. The same atoms, vibrating at different rates, make up the forms of human, animal, plant and mineral and they all speak the one universal language.

292 私達は人体の細胞は基本的な振動率を持っていて、動物や植物あるいは鉱物の生命に対するよりも、他の人間の振動により容易に自然と反応することを理解しておかなければなりません。しかし、人体細胞は丁度、それらが人間からであるのと同様に、自然のあらゆるこれら側面から来る印象を受信することが出来ます。同じ原子群が異なる振動率で振動し、人間や動物、植物や鉱物の形状をつくり上げており、それら全ては一つの宇宙普遍言語を話しています。

【解説】

以前にも述べたかも知れませんが。植物育種家のルーサー・バーバンク（1849-1926）の著作にTraining of Human Plantという本があり、その中で氏は「人間の赤ん坊が実は最も鋭敏なのだ」という趣旨を述べています。つまり、まだ言葉を発しない赤ん坊が周囲の大人達の想念を実に鋭敏に感じ取っていることに、ルーサー・バーバンクは気づいていたという訳です。

本文は、私達人間の細胞は同種である人間の感情に対して最も同調し易いのだと指摘しています。丁度、同じ形状の音叉が互いに距離を離しても容易に同期し、共鳴するのと似ています。ですから、人間は他の人間から影響を受け易く、また他の人間に影響を与え易くなっているという訳です。

その根本の原理は、私達体内の細胞を構成する更に先の各原子自身が持つ振動パターンが種によって異なることを著者は指摘しています。一方、原子はその振動という共通言語を有していること、またその為、全ての原子は私達の発する想念振動を含め互いに振動を感じ取ることが出来るということです。

ご連絡 [2015-04-02]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。
都合により、次回更新は週明け月曜日になる見込みです。

2015年4月2日
竹島 正

293 For example: We know that different species of the animal kingdom are able to communicate with one another. They do not use a spoken language as we do, but they convey their meaning to each other very clearly. I well remember a little fox terrier and a deaf white cat that belonged to friends of mine. These animals were inseparable companions, and although the cat was as deaf as a post, they often gave positive proof of their ability to commune with each other.

293 こういう例があります。私達は動物界の中の異なる種が互いに意思疎通を行えることを知っています。彼らは私達のように話す言語は用いませんが、互いに大変明確に自分達の意図を伝えます。私の友人が飼っていた小さなフォックステリア（訳注：犬の種名）と耳の聞こえない白い猫のことをよく思い出します。これら動物達は、離れがたい間柄であり、その猫は耳がまったく聞こえないのですが、彼らはしばしば互いに心を通じ合う明確な証拠を示してくれました。

【解説】

家で飼われている犬と猫も互いに言葉は発せずとも十分な意思疎通を持ち、互いを理解し合っていることは、本文の他に私達が日常的によく経験するものです。

この場合、動物達は何をもって心を通じ合っているか、敢えて各々の言語を用いる必要が無いかについて考え、観察する必要があります。言葉が必要でない意思疎通の世界が動物達の間で広がっているということでしょう。人間の場合、言葉の通じない外国で暮らす場合、不自由極まりない生活になりますが、動物達はもっと自由に、もっと広範囲に各自の意思を理解する能力があるように思われます。

その動物達の能力は多くの場合は自分の身を守り、あるいは獲物を見つける際にも役立つこととなります。たとえ背後や遠くからでも何ものかの視線を感じ取ることは、相手の存在を身近に感じる能力であり、その者が発した言葉になる前の想念を直接受信していることでもあります。

294 It became quite a game with my friends to place a tasty titbit in the center of the table, well out of reach of the little dog. The family would then pretend complete indifference to the action of the animal, who would circle the table, sampling the air. When he was assured his nose was not deceiving him, he would trot off to find the cat. Upon locating her sleeping curled up in a chair, he would nudge her awake and silently obviously converse with her. She would rise, stretch, and stalk across the room. One nimble leap would carry her to the center of the table, where she would pick up the morsel in her mouth and drop it to the waiting dog. Her task performed, the cat would resume her interrupted nap, while the dog chewed contentedly on the stolen food. This was no coincidence, for it so delighted the owners that they had the animals repeat it frequently for interested friends. In this case the dog and cat, different species of the animal kingdom, were merely using the universal language which is natural to all forms of manifestation.

294 私の友人達にとって、その小型犬が届かないテーブルの中央に、一口大のうまい食べ物を置くことは、楽しい遊びになりました。家族達はその犬の行動には全くの無関心を装うこととし、犬はテーブルの周囲を回って空気を嗅ぎます。自分の鼻が偽っていないことを確認するや、犬は猫を見つけようと小走りになります。椅子の上で丸まって寝ている猫を見つけるや、犬は猫を軽く突いて起こし、無言のまま、明らかに猫と会話します。猫は起き上がり、伸びをしてゆっくり大またで部屋を横切ります。敏しょうな一飛びで猫はテーブルの中央に乗り、そこで食べ物の一片をくわえて、下で待つ犬にそれを落としてやります。猫は任務を果たした後、邪魔されたうたた寝を再開し、犬は奪った食べ物を満足気に噛みしめていました。これは偶然の一致などではなく、飼い主は大変喜び、興味を持った友人達の為、その動物達に度々繰返えしやらせました。この場合、動物界の異なる種である犬と猫は創造の全ての形有るものにとって自然である宇宙普遍の言語を用いているに過ぎなかったのです。

【解説】

互いに仲の良い犬と猫の間に、各々の種によって異なる音声言語ではない想念・印象による意思疎通を行われている事例を、著者は自らの体験として私達に伝えています。

私達は長年、周囲の事柄に無関心であった為に、このような動物達の間の声によらない意思疎通に気付いていなかった訳です。

同様の視点で外を覗れば動物達は互いに言葉（音声）による会話は通じなくても何ら支障なく暮らしているように思えます。そこには言葉は通じなくても、ある程度相手が何を考えているか、何をしようとしているのかを感じ取ることが出来るという背景があるのです。これには遠く離れた場所からの人の視線を鳥達が鋭敏に感じ取ることも含まれています。

またその延長線上には植物達の日常もあることでしょう。動くことの出来ない植物は気候の変動や人間をはじめ動物達から受ける行為も甘んじて受けなければなりません。離れた木々の間で互いに印象で会話したりする状況は、芹沢光治良氏の「神の微笑」にも記されているところですが、植物も印象を受、発信する能力を有しているように思われます。

295 The basic vibration of any form is a constant thing; otherwise, the cell would not always reproduce its kind. But so far as the cell's activity and capability of transmitting impressions is concerned, it is unlimited in a relative, or natural state. It is this relative activity with which we are dealing in the study of telepathy; and it may be referred to as the sympathetic vibration. This sympathetic vibration can be demonstrated by using two violins exactly attuned. When we pluck the string of one, the other violin will respond in the same key. A similar experiment may be performed with ordinary drinking glasses, but these are limited in their vibratory range.

295 如何なるものもその基本的振動は不変のものです。さもなければ細胞はいつもその種を再生産できなくなるだろうからです。しかし、細胞の活動に関する限り、また印象を伝達する能力に関する限り、それは相対的あるいは自然の状態としては制限がありません。私達がテレパシー学習で取扱っているのは、この相対的な活動なのです。また、それは共感的振動と表現されるかも知れません。この共感的振動は正確に調律された二つのバイオリンを使って実証することが出来ます。私達が弦の一つを弾くと、もう一つのバイオリンが同じ音で呼応します。同様な実験が普通のコップについて行われるかも知れません。しかしこれらはその振動範囲に限られているのです。

【解説】

細胞固有の「振動」については、今日の科学レベルではDNA等の遺伝分子に対応したイメージを著者は述べているものと思われます。また、その一方で各細胞にはそれとは別の感受性を有しており、「相関性」についてはそれが自然の状態、即ち互いに相互関係を有する中で成立する状況の中の活動の一つであることをイメージしているものと思われます。

また、想念・印象の感受の特徴については、著者は「共感」(sympathy)であると説明しています。同じ場所、同じ状況下にあっても想念・印象を受け取ることが出来る者、出来ない者との間にある差異は実にその者の持つ共感性の違いということなのです。いわゆる無神経と称される者には相手の心情に対して共鳴するところが無いのです。その延長上には想念レベルにおいてもそのような波動に何ら同調する要素が無ければ、気づくことが出来ない訳です。

各自、感性を磨く為には、どうするかが次に問われることとなります。人によっては長い道程になるかも知れませんが、自身で同様な経験をする事で初めて相手の心情も理解出来るようになるものと思います。私達は更に、人間ばかりでなく、他の動物や植物、更には鉱物に至るまで、様々なものの心境を推し量る努力が必要だと思っています。そして、その先には、森羅万象、ことごとく神宿るの心境に到達するものと思われます。

【追記】

実は、本文の「相対的あるいは自然の状態として」(in a relative, or natural state)という表現については、本講座の独特な表現であると感じていました。それ故、「解説」部分では、私なりの解釈を述べたつもりです。

これと期を同じくして、今読んでいる「The gospel of Mary of Magdala (マグダラのマリアの福音書)」(by Karen L. King)の中のイエスの言葉にこれと似た表現があったのには驚きました。この本はいわゆる聖書外典の一つです。1896年にカイロで発見され、5世紀頃のパピルスにコプト語で記されたもので、残念ながら断片でしかありません。その後、ベルリンの博物館に収蔵され、出版の計画もあったようですが、戦争の為、断念。その後、1983年には同じ福音書の断片が今度はギリシャ語で記されたものとして発掘され、3世紀頃のものだと推定されていることが分かっています。

さて、本題は、そのわずかに残るイエスの言葉の中に、以下の記述が伝えられていることです。

「The Savior replied, "Every nature, every modeled form, every creature, exists in and with each other. They will dissolve again into their own proper root. For the nature of matter is dissolved into what belongs to its nature..」

(救い主はこう答えられた。「あらゆる自然、あらゆる形作られたもの、あらゆる創造物は互いの中と互いと共に存在します。彼らはいつか再びそれ自身の根源に溶け込むことになるでしょう。何故なら、自然界の物質はその自然の属するところに溶け込んで行くからです。」)

私がおと思ったのは、上記の「exists in and with each other」(互いの中と互いと共に)という表現です。本項(295)の"in a relative, or natural state"と大変似た表現であることには、驚かされます。また、イエスの述べられていることは、一連のアダムスキー氏の著作と同じ雰囲気を持っていることにも気づきました。

アダムスキー氏がイエスの高弟であったとはよく聞く話ですが、この「マグダラのマリアの福音書」に残る断片から分かるように、実は私達は遠くイエスの時代にまで遡った勉強を今しているところが大事

なところす。

296 The human form, in a natural state of impersonal relaxation, is receptive to all vibrations. Of course, it must be freed from habit action, the sense-man must be controlled, and the ego, or intense concentration upon its basic vibrations, must be relaxed. Telepathy comes as an impression through the feeling channel; and when we control our reasoning mind (or the ego), we can receive impressions from all phases of manifestation: for we are a unit with them

296 個人としての感情を持たないリラクゼーション状態にある人体は、全ての振動に対して受容的です。もちろん、それは習慣的行動からは解放されなければなりませんし、感覚人は統制され、また、エゴあるいはその基本振動への強烈なる集中は緩められなければなりません。テレパシーはフィーリングの経路を通じて一つの印象としてやって来ます。そして私達が詮索する心（即ちエゴ）を統制すれば、私達はあらゆる創造の側面からの印象を受信することが出来ます。

【解説】

私達自身の自然な状態が心の中への想念・印象の流れをスムーズにするという訳です。やって来る何ものに対しても詮索することなく、そのまま受け入れる姿勢が大切だということでしょう。

とにかく私達は自分自身の事柄のみ関心を持ち、エゴは自身に全てのものを注目させようとします。しかし、既に私達は十分学んで来たように、これらの集中状態から私達の全細胞、60兆個もの同士を解放し、それらを自由にしさえすれば、自ずとあらゆる想念波動に共鳴し、必要な知識を授けてくれることになります。

リラックスさせること、ストレスを感じさせないことが最も重要であり、私達は私達自身を本来の快適な生き方を進める為にも、実生活に応用し、身に付けて行かなければなりません。

人間は本来、あらゆる創造物と交流し、そのものを理解するだけの能力を付与されている筈です。また万物もそれらの理解者を待ち望んでいます。一人でも多くの者が、その心境を得る時、地上もそれに呼応して大きな進化を遂げるに違いありません。

297 Some individuals find they receive only telepathic communications of a dire nature; while others receive beautiful visions of a more universal expression. This difference in quality of receptivity can be explained by the fact that the relative vibrations of each person is different. (In speaking of relative vibrations here, I mean to denote the thought-habit of the individual.) And since it is not possible to receive a vibration to which we are not attuned, we will attract those sympathetic to our habitual thought pattern. Remember, when the violin is not properly tuned it will not respond to the sound frequency of the other instrument.

297 ある個人は自分達が不吉な性質のテレパシー的意思疎通しか受け取らないことに気付きますが、他方ではより宇宙的な表現の美しい幻影しか受信しません。この感受性の性質の違いは、各個人における相対的な振動が異なるという事実によって説明出来ます。（ここで言う相対的な振動とは、私としては各個人の想念習慣を印す意図で用いています。）そして私達が調律を受けていない振動を受信することは不可能である以上、私達は私達の習慣的想念パターンにそれら同情的なものを引き寄せるのです。バイオリンが適切に調律されていなければ、もう一つの楽器の音声周波数に呼応することはないことを思い出して下さい。

【解説】

私達一人一人はバイオリンのような弦を持った楽器に例えられています。即ち各弦の持つ基本周波数に合致した振動には共鳴しますが、その他については共鳴しにくいということです。各人の個性、これまで体験したものから来る個人の性格等が想念・印象の感受についても特徴を示すことになるということです。

何度となく述べられていることですが、「類は類を呼ぶ」という表現は、同様の共鳴現象、共感作用を示しています。従ってより高貴なアイデア、より上質な想念と出逢う為には、受けるこちら側もそれに近い性質を維持しておく必要があります。

逆に言えば、一旦良い方向に一歩を進めることが出来れば、以降は次々に事態は良い方向に循環（善循環）を示して行くこととなります。

298 The human instrument, or mind, may receive thought vibrations corresponding to its own thought-habit; but may be totally oblivious of vibrations of another nature. Thus, we perceive, it is necessary to develop a universal interest if we are to become unlimited telepathic recipients.

298 人体の計器である心は自らの想念習慣に対応した想念振動は感受するかも知れません。しかし、他の性質の振動に関しては全く気に止めないのかも知れません。このようにもし私達が無限のテレパシー受信者になろうとするなら、宇宙普遍の関心を発達させる必要があることが分かります。

【解説】

自分の志向する情報には各自のアンテナが向いているが、それ以外のものに対しては、例え到達していてもそれに気付かず、やり過ぎてしまうのが、私達の日常です。

そういう意味では古くから思い通り、自分が想い描く人物像に向かって各自が歩んでいることにもなります。しかし、必ずしも、その方向が適切なのかどうかは、よく考える必要があります。自らの固定観念が自らの人生を決め付けている可能性が高いからです。

多くの聖人が一度は自らを顧みて回心する中で、新しい展望を抱くことが出来、その人本来に託された役割を果たす事例もよく言われることです。

自分が持つ関心分野がそれで妥当か否か、本来の自分に必要な分野が他に見落とされていないかどうか、自らの周囲の状況や日頃の想念・印象の整理を通じて見つめなおす必要もありそうです。

299 We find that in the case of thought, like the spark of light, vibrations proceed outwardly from it in all directions. We can tune in on any radiation of that impression, and receive the full thought. Therefore, contrary to current belief it is not possible to transmit a thought directly to any one individual, to the exclusion of everyone else! For inasmuch as mind, the medium of thought transmission, permeates the whole of space and form, there is no place where a thought vibration is excluded.

299 私達は想念は光の閃光のようにそこからあらゆる方向に外に向って進行する振動であることに気付いています。私達はその印象のどんな放射線にも同調させ、その完全な想念を受信することが出来ます。従って最近、信じられていることとは逆に、他の者を除き、何か一人の個人に直接想念を伝達することは出来ないのです。何故なら心、即ち想念伝達の媒体は全宇宙と形あるものに浸透している為に、想念振動が排除される場所はないからです。

【解説】

私達が日常発する想念は、私達から四方八方に拡散し、伝播します。宇宙に生きる全てのものが発する想念はくまなく宇宙を巡り、響き渡る訳で、私達はこうした想念の行きかう海の中に生きているということになります。

あらゆる方法に想念は瞬時に広がって行く訳で、それを隠すことは出来ません。誰にでも想念は感受されるのです。自然界の動物達も植物達もこの感受する能力が高い為に、居ながらにして遠くで起こっていることやこれから起ころうとしていることを知ることが出来るのです。

同時に、私達の日々の想いはかつて地球に来訪し、貴重な真理を説き、今は別の星に御住まいの多くの師の元にも届いているものと思われます。寺や教会の聖像は皆、それらの師を私達にイメージし易いよう建立されており、それに手を合わせることで、私達の想いを届き易いようにしているものと思われます。

300 The secret of what is termed "direct transference" from one individual to another, is simply that with the thought projected the sender incorporates the image of the person he has chosen as recipient. A million people might receive the thought, but because it does not pertain to their personal affairs, they will let it pass through their minds unnoticed. But the chosen recipient will recognize his image in the thought, and direct his attention toward its perfect reception.

300 一人の個人からもう一人の個人への「感情の直接転移」と名付けられることの隠れた実体は、単純に放出される想念に送り手が受け手として選んだ人物のイメージを組み入れているのです。百万人の人々はその想念を受信するかも知れませんが、それらの人々の個人的な事柄にそれが関係しない為、それらの人達は自分達の心の中を何ら気付かれずにそれを通過させるのです。しかし、その選ばれた受信者はその想念の中に自分のイメージを認め、自らの関心をその完全な受信に向けて導くのです。

【解説】

自らが発する想念が宇宙くまなく発信され、その想念波動には同時に想いの対象者に固有の波動が付加されているという訳です。同乗記その他で他惑星人がアダムスキー氏に対して顔写真を拒む状況が記載されていましたが、その理由はこのことでもあった筈です。

即ち進化した他惑星人においては、テレパシーの感受能力が高い為、私達地球人がその写真をイメージして想念を発すれば、その多くが彼らに届き、彼らの生活にも影響を与えることが想定されます。そうした状況を避ける為、極力顔写真は地球人に渡さない方が良いでしょう。

一方で本事例から、相手をイメージしながら想念を送ることは、より伝達されやすいことは重要なポイントです。私達は知らず知らずにやって来る想念のいわゆる「フィルタリング」を行っているという訳です。それがどのような仕組みで行われているのかは知りませんが、膨大な想念波の中から、自分にとって大事なものを選択する機能もテレパシー能力向上の為には重要な事項です。自分にとって何が大切かを常に見定めて、必要な分野に関心（アンテナ）を向けるということです。

301 Now the question will arise: How is conversational privacy possible under these circumstances? I believe a good illustration of this occurred during a lecture I once gave. I had just finished explaining how the images and voices came silently to the mind, when a man in the audience rose and interrupted, saying he heard voices speaking distinctly. He was very insistent that these were audible, and his reception was not in the least silent. I then asked him, "If I were standing beside you, would I hear the same voices?"

301 そうなると質問が起るでしょう。このような環境の下では会話の秘密は可能となるのでしょうか？私としてはかつて私が行ったレクチャーの間に起ったことが良い例かと思っています。私が丁度、イメージや音声が無言のまま如何にして心にやって来るかの説明を終えた時、聴衆の中の一人の男が立ち上がって自分は明瞭に聞こえる声を聞いたと言って、私の話をさえぎりました。その男性はこれらは耳に聞こえるものであると主張し、自分の受信したものは少しも無言ではなかったと主張しました。私はそれで、「もし、私が貴方の脇に立っていたとすれば、私はその同じ声を聞けたでしょうか？」と彼に尋ねました。

【解説】

本項のように中には想念・印象が直接音声として認識される場合もあることでしょう。よく宗教の教祖がお告げを受けたり、強烈なインスピレーションを受けた場合等がそれに当たります。

いずれにしても、行為の前には必ず何らかの意思があり、それらが想念・印象の波となって周囲に放たれる訳ですから、誰でもその動きを察知できることになり、およそ宇宙に秘密など有り得ないのです。遠い世界（惑星）におあす仏様達にも、当然これらの想念は瞬時に伝わり、全てはお見通しということになります。

結局、私達地球人は他人には分からないと思って、悪心が生じる訳ですが、このようにたちどころに自らが考えることを他人に知られてしまう現実を見れば、少しでも心をキレイに保つことが如何に大切かが分かる筈です。テレパシー能力の開発は人間形成を促進する一助ともなるべきものです。

302 "Of course not," he answered without hesitation; then grinned, sheepishly. "Now I understand what you mean," he said, and sat down. The voices were audible to him, but not to those around him. Yet, if a person were to tune in on the same thought frequency he, too, would receive the same thought.

302 「もちろん、そんなことはありません」と彼は躊躇なく答え、次に恥ずかしそうにニコリと笑いました。「今、私は貴方の言う意味が分かりました」と言って席に座りました。その声は彼には聞こえたのですが、彼の周囲に聞こえるものではなかったのです。それでも、もし何らかの人物がそれと同じ想念波動に合わせることが出来れば、その者も同じ想念を受信したことでしょう。

【解説】

啓示とされる多くのものは、具体的な音声、或いは映像として感受者に受信されることも事実のようです。この場合、中には本人の意識が離れた場所に転移して、その状況を認知する事例も含まれているのかも知れません。しかし、いずれにせよ、想念・印象は感知される側において具体的な音声や映像に表現される場合も有り得るという訳です。

丁度、著者が何度となく説いているように、テレビ番組の放送電波のようなもので、電波信号の中には、本来、映像や音声として再現出来る仕組みが組み込まれているということでしょう。これら再現能力はあらゆる動植物にも同様に備わっていることでしょう。

一方、大抵の場合、印象は具体的な表現が為される間もなく、瞬間的に次々にやって来るものであると考えられます。実はその一つ一つに対して、改めて着目（執着）していると次にやって来るもの（印象）を受けることが出来なくなります。一説に毎秒何百、何千もの印象を感知する進化した他惑星人では、本項のような音声表現は現実的に非効率となる筈です。私達としては、印象・想念の流れを止めないよう、次々にやって来る印象をひたすら受け入れる姿勢が必要であると思っています。

私達に必要なものは、第一にこれら印象の流れを滞留させないこと、抵抗なく印象・想念を表現できる経路になり切ることです。またそうした中で各自の成長と体験の充実をはかることだと考えています。

303 A very good example of this may be found in the way many of our scientific discoveries are made almost simultaneously in separate parts of the world. Working independently, and often unaware of the research the other is doing along the same line, each scientist actually tunes in on the same thought vibration of universal knowledge; (the same as any number of people can tune in on a radio program).

303 これについての大変良い例は、多くの私達の科学的発見がほとんど同時になされているという経緯に見ることが出来ます。個別に取り組んでおり、しばしば他の者が同じ経路に沿って進んでいることを知らないまま、各々の科学者は世界の離れた場所で、実際には宇宙普遍の知識の同じ想念振動に同調しているのです。（他の多くの人々が同時に一つのラジオ番組にチューナーを合わせる事が出来るのと同じです）

【解説】

本項の例については、無線通信の発明がマルコーニ以外にも同時期に為されていたという記事を目にした覚えがあります。同じ印象・想念を同時に多数の者が感受し、実践に応用した例と言えます。

またこのように一般に奇遇やCoincidence(偶然の一致、符号)と呼ばれる現象の背景には、このような同じ想念・印象を感受したことが原因となっているように思います。もちろん、そのような多数の者に影響を与えるような想念・印象を発することが出来るのは私達よりはるかに能力の高い者と考えられる訳で、多くは惑星全体の指導者かも知れません。今日のような変革期には、より多くの先人が必要とされている訳で、今後はそれら重責を担うべき者が地上に生誕するものと思われれます。

いわゆるスペースプログラムと称される一大計画はこうした内容も含め、私達惑星全体を救済するものであると考えています。

304 In developing telepathy as a means of communication, remember impressions work from mind to mind; and distance is no barrier. As we first begin to use this universal language, we will find it easier to exchange impressions with a few chosen individuals until confidence is gained. With all parties working in sympathy a certain wave length can be established between them; making it possible for them to communicate much as radio "hams" talk back and forth around the world.

304 意思疎通の手段としてテレパシー能力を発達させるについては、印象は心から心に作用し、距離は障壁にはならないことを覚えておいて下さい。私達がこの宇宙普遍の言語を最初に用いるに当っては、確信が得られるまでは少数の選ばれた個人の間で印象を交換する方が容易であることがわかるでしょう。仲間意識を持って働く仲間の間では、ある波長が出来上がりますし、ラジオの「アマチュア無線家」が世界中と通話するように意思疎通を可能とするのです。

【解説】

親しい者同士の間には共通の周波数というようなものが確立するという事です。その結果、一人の発する想念は距離に関わらず仲間に感知され易いという訳です。

同じ周波数とは互いに同調出来る間柄であり、自他の区別なく接することが出来る関係でもあります。よく「心が通じる」という表現がありますが、文字通り、想念の通り道とも言える関係がそれぞれの間で成り立つということでしょう。

同様の意味から言えば、空に向かって宇宙船の飛来を願ったり、各自の体験を神仏に報告したりする心境の背景には、こうした親しい間柄の中に生まれる心のつながり、今日で言う絆（きずな）というものがある訳です。人々が求めているものの本質はこうした人々の中の心の連携、つながりであるように思われます。また、同様な意味からは、自然界の動植物は既にこの関係を十二分に培っており、無数のアリの行列や鳥達の渡り等、誰言うとなく一体となって行動する背景には、こうした能力を各々が備えているからに他なりません。

305 I believe the telephone makes a very understandable illustration for the exchange of impressions . . . which, of course, is operable telepathy. Remember, we have stressed the importance of an open, receptive mind; and mind, like the telephone, is a two-way instrument. If we keep our minds continually occupied with consciously sending out thoughts, any impressions coming to us will receive the "busy signal" and be turned away. The connection between mind and mind cannot be completed, because the frequencies of the incoming impression cannot get past the thought vibrations our own mind is broadcasting.

305 私は電話が印象の交換、それはもちろん実行力のあるテレパシーですが、それをとても分かりやすく説明する例になると思っています。私達がオープンで受容的な心の重要性を強調して来たこと、また心というものが電話のように双方向の装置であることを覚えておいて下さい。もし私達が想念を意識的に送ることで私達の心を常に占拠していたら、私達にやって来る想念があっても、それらは「話し中の信号」を受け取り、戻されることでしょう。入って来る印象が私達の心が送信している想念振動を抜けることが出来ないため、心と心の間の接続が完成されないのです。

【解説】

私達は自分の想いを伝えようとするには熱心なのですが、それは片手落ちであり、双方向の意思疎通にはならないと、著者は私達に注意しています。互いの想いが通じ合うことがテレパシーなのですが、自分の想念の発信を強めようとするだけでは、そもそも想念伝達は成立しないほど、不完全な状況ということでしょう。

ポイントは想念の発信も受信も私達の心が担うということです。送信、受信のどちらか片方のみでは、一方通行の関係となり、想念を介した意思疎通は出来ません。とかく私達は想念・想いを強くすることのみに関心を向けて来ましたが、実際には心鎮めてやってくる想念・印象に耳を傾ける姿勢、自然界からの静かなる助言のメッセージを傾聴する姿勢が大切だということでしょう。

また、私達が自らの想念に固執することは、体内にそれらの振動が強く残留する一方で、外部には発信されていない可能性もあります。ラジオ等の電波の回路を見ても分かるように、コイルを通じて電流が流れることが重要で、その流れた電流に基づいて二次側のコイルから電波が発信される訳で、自分の中の想念を一旦、通過させ、終結させることではじめて発信させるようなメカニズムがあるのかも知れません。いずれにせよ、想念を呼吸するような柔軟な心境が必要だということでしょう。

306 So let us make an effort to keep an open, receptive mind at least part of the time; and when our mental telephone bell rings just lift the receiver quietly, and impartially accept the impressions coming to us. This does not mean sitting idly in meditation, waiting with folded hands for some great thought to come to us out of the universal storehouse; but that we should continue normally about our daily lives.

306 ですから、少なくともある時間、私達はオープンで受容的な心を保つよう努力して見ましょう。そして私達の心の電話器のベルが鳴ったら、静かに受話器を取り上げ、そして偏らずに私達の方にやって来る印象類を受け入れることです。これは何もせず座って瞑想して何か偉大な想念が宇宙の倉庫から私達の所に来るのを、手を組んで待っていることを意味するものではありません。そうではなく、私達は私達の日常生活について普通の暮らしを続けるべきなのです。

【解説】

本項では印象感受の際の基本姿勢について説かれています。もちろん、印象感受に当たっては自ら受容的な心境になることが前提ですが、大事なことは著者は特別な瞑想状態ではなく、ごく普通の日常生活をしながら、その心境を保つことが必要だとしている点にあります。

また、宇宙根源から来る想念を電話が掛かってきた時のように対応するよう、説いていることも特徴的です。即ち、本文にあるように慌てて受話器をとったりせず、落ち着いてその示唆する内容を理解する姿勢です。この件については、後に別の項で本文に記述がある筈ですが、とにかく慌てて最初の部分だけを把握しただけで、有頂天になりその後、引き続いて送られてくる大事な部分を把握できない為に、多くは誤った情報となることを著者は警告しているように思います。落ち着いて全体像を理解することが必要だということです。

私達は各々日常の生活を送る中で、絶えず宇宙根源なる所からの印象を待機していれば、必ずスムーズに印象は訪れ、私達に有用なアイデアをもたらして呉れることは間違いありません。

307 I am assuming that by now you have seen the fallacy of tolerating thoughts of fear, worry, anger, anxiety, etc., and are viewing all things calmly; knowing that through this new balance in your life, you are truly about the Father's business. Therefore, your daily chores will no longer be a drudgery, and you can perform them with a composed, receptive mind. If you watch your mind carefully, you will find many of the real universal thoughts come while you are contentedly, physically occupied. This is what Jesus meant when He said, "Be ye therefore ready also; for the Son of man cometh at an hour when ye think not." Luke 12:40. He did not refer to His appearance in the physical body, but to a communion between the mind and universal knowledge.

307 私は今や貴方は恐れや心配、怒りや不安等の想念を許容することが誤った考えであることが分かり、あらゆるものを静かに眺め、貴方の生活のこの新しい調和を通じて真に父の御わざに従事していることを知っていることと確信しています。ですから、貴方の日常の雑事はもはやつまらぬ仕事ではなくなるでしょうし、貴方はそれらを落ち着いた受容的な心で行うことができます。もし、貴方が貴方の心を注意深く観察するならば、貴方は数多くの真に宇宙的な想念は貴方が満ち足り、肉体的にも手一杯の間にも貴方の所にやって来ることに気付くことでしょう。これがイエスが「あなた方も用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」（ルカ伝12章40節）と言った時、イエスが意味したものです。イエスは肉体としてのご自身の出現のことを述べたのではなく、心と宇宙普遍の知識との間の交わりについて述べていたのです。

【解説】

ここで本文中の"tolerating"（許容する）という表現について考える必要があります。

本文では自らの心の中に、「恐れや心配、怒りや不安」が入り込むことを許さないという意味で用いられています。即ち、私達は日常様々なストレスを受けるものですが、その結果、心はそのような想念を受入がちになります。しかし、私達はそのような種類の想念を一切、受け入れてはいけないと著者は強調しているのです。それがここで「"tolerating"（許容する）」を用いた意味なのです。

また、宇宙からの想念・印象を待つ対応として、単に座して沈想しているよりは、日常の仕事に手一杯になりながらの方が、可能性が高いことについても説かれています。私達がリラックスした心境を保ちながら、各自の仕事に精を出して過ごしている中にも、宇宙的な印象がもたらされ、アイデアは多く生まれるということです。

以前にも述べられていたように、宇宙は絶えず活発に活動しており、その波動に合わせることで、私達自身が宇宙に共鳴しやすい体質になるものと解釈できます。

308 Being the recipient is much more difficult than the conscious sending of impressions, because we have never been taught the necessary restraint to develop this facet of our lives. Since time immemorial, our four senses have quarreled and bickered amongst themselves; yet we have not been conscious of the unbalance this was causing within our being. We have worried and fretted over conditions we could not change; and we have unquestioningly accepted the concepts of gloom and doom because these strong vibrations impinge themselves on our bodies. But I believe it has been made apparent that with a measure of self-control, and a practical approach to life as it really exists throughout all manifestation, we can cast off these detrimental thought-habits and expand our consciousness to a clearer understanding of our rightful place in the Cosmic Plan.

308 意識して印象類を送信することよりも、受信者であることははるかに難しいものです。何故なら、私達はこれまで私達の生き方におけるこの側面を発達させる為に必要な抑制を教えられて来なかったからです。太古の昔から私達の4つの感覚は互いに言い争い、口論して来ました。それでも私達は、このことが私達の中にもたらしているアンバランスについて未だ意識していません。私達は私達が変わることの出来ない状況について心配し、思い悩んで来ました。また私達は憂鬱や非運の概念を疑い無く受け入れて来ました。何故なら、これらの強い振動はそれらを私達の肉体に衝突させて来るからです。しかし、私達は自己統制の手法とあらゆる創造を通じてのありのままに存在する生命への実践的なアプローチによって、私達はこれら有害な想念習慣を投げ捨て、私達の意識を宇宙英知の計画における正当な地位のより明確なる理解へと拡げることが出来るのです。

【解説】

私達が抱える心の問題は数多いのですが、その中でアダムスキー氏が最も戒めている要素が、本項で明かされているように思います。それが本文中に明記されている「憂鬱」や「悲運の嘆き」という感情です。この種の感情が想念・印象の感受はもとより、最も悪い影響を人体に与えるものと思われま

す。おそらくは体内の細胞の活動を停止させ、疾病部分の治癒を遅らせる等々の影響を身体に及ぼすものと思われま

す。私達はこれらの波動に対しては断固として受け入れてはならないのです。身体内部をバランスのとれた落ち着いた環境に保ち、自然界の一員として自然と調和した想念波動を体内に浸透させなければなりません。歴史上も多くの偉人、聖人達は時の権力者から迫害され、刑死に至ったケースも多い訳ですが、そうした極限状態の中にあっても、爽やかな心境を保つことが重要な所です。かつて十字架上のイエスは苦痛の中にあっても傍らの囚人に優しく語りかけたとされています。真理を理解した者に絶望や憂鬱の心境は有り得ないのです。

309 To accomplish this, however, we must learn to listen to the "small, still voice." This is a vital necessity in true telepathy. When a friend calls us on the telephone, for instance, we do not lift the receiver and rush into a monologue that lasts until the other party finally hangs up. We carry on an exchange of conversation. The same holds true when we are practicing telepathy. If we expect to advance, we must learn to listen-answer-then listen again, etc. And we will discover that the more we learn to listen, the more profound and impersonal will be the impressions coming through to us.

309 しかしながら、これを成し遂げるには、私達はその「小さく、ひそやかな声」に耳を傾けなければなりません。これは真のテレパシーにおいて決定的に必要なことです。例えばもし、友人から私達の所に電話が掛かって来たとしましょう。私達は受話器を取り上げて、相手が最後に受話器を置くまで、ぶっ続けの一人語りを慌ただしく行うことはありません。私達は会話の交換を続けます。それと同じことが私達がテレパシーを実践する際にも当てはまります。もし私達が進歩したいと思うなら、私達は聞く－答える－再び聞く等を行うことを学ばねばなりません。そして私達が如何に多く聞くことを学べば学ぶ程、私達にやって来る印象はより深遠で非個人的なものとなるでしょう。

【解説】

私達が最も戒めるべきものは、自分の望み、自分の訴えだけで自らの心を満たしてしまうことにあるでしょう。本項で著者が説いているように、自らの想いを発信した後は次いで訪れる外部からの印象に耳を傾けることにあります。決して一方通行では意思の交流は出来ないのです。

もちろん、この意思の交流の仕組みは相手が誰であろうと成り立つ訳で、私達自身が宇宙根源の創造主と対話する場合も同様です。目に見えない、直接触れることは出来ない相手であっても、想念・印象はやり取りすることは十分可能です。この距離に関わらない意思交流の仕組みが理解され、日常生活に応用することが出来れば、私達の生活レベルは格段に進歩するものと思われれます。

310 The space people I have met use telepathy in their daily lives. If you were to visit their planets, you would find the people smiling and greeting each other in apparent silence. Yet, they are actually conversing by mental communication, much the same as we use the spoken word. Many Earthlings have questioned the statement that personal names are not necessary among them; but a moment's consideration of what the free use of telepathy would mean, makes the statement self-explanatory.

310 私がこれまでに会った宇宙人達は、日常生活にテレパシーを使っています。もし貴方が彼らの惑星を訪れたら、貴方は人々が一見して声を出さず、互いに微笑み、そして挨拶していることを見出すでしょう。しかし、彼らは実際には心の交流により、私達が話し言葉を用いるのとほとんど同様に、実際には会話しているのです。多くの地球人が宇宙人の間には名前が必要ないとする声明に疑問を投げかけて来ました。しかし、テレパシーの自由な使用が何を意味するのかを少し考えれば、その声明は自明のことになります。

【解説】

テレパシー能力が人々の間に行き渡った際には、地上はかつて無い静かな環境になることでしょう。他惑星社会は言語によらずコミュニケーションが成立する訳で、そこには相手の意図は包み隠されず離れていても知り得ることになります。

また、それ故に優れた人物人格は容易に多くの人々が知り得ることとなり、多くの人達が師と仰ぐ聖人達の元を伺うことになるものと思われまます。

そういう意味では、同乗記には母船に乗っている長老の話がありますが、これも他惑星の人々がこれら聖人の知恵を学びたいとすることや、アダムスキー氏に引き合わせる意義について、宇宙兄弟達がよく知っていたからに他なりません。

おそらく、他惑星の社会は本項にある事例を見ても分かるように、私達が知らないことが数多くあるものと思われまます。それら一つ一つをこの惑星からでも少しずつ宇宙的印象を通じて知ることはこのテレパシー学習のもう一つの楽しみでもあると考えまます。

311 When mind talks to mind, it is the projection of mental pictures; so, for example, when space people want to refer to a mutual friend, they form a mental image of that person in their mind. I am sure we all can see the advantage of this; for how many times have we tried in vain to recall someone's name, and although it was right on the "tip of our tongue," the name eluded us? The person's face was pictured clearly in our mind and in a case like this, had we been talking to an individual able to receive telepathy, he would have recognized the person immediately. Every thought to which we give audible expression must first be clarified in the mind. So if, like the space people, we had been trained from infancy in the use of telepathy, we could receive thought frequencies without a word being spoken.

311 心が心に語りかける時、それは心に映るイメージを投影しているのです。ですから例えば、宇宙人が互いの友人の一人に言及しようとする時、彼らは自分達の心の中にその人物の心に映るイメージを形成します。私達は皆、この場合の好都合が分かると私は確信しています。何故なら私達は何度となく「口の先まで出掛かっている」けれど、誰かの名前を思い出そうとしてもだめだったことがあるからです。その人物の顔は私達の心の中にはっきりと描かれており、このような場合には私達がテレパシーを受信出来る人と話しをしている場合には、その人はその人物をただちに認識出来たと思うからです。私達が声に出して表現するあらゆる想念は、先ず最初に心の中で明確にされなければなりません。ですから、宇宙人達のように私達が幼い頃からテレパシーの使い方を訓練されていれば、私達は言葉を話すことなく、想念周波数を受信することが出来ることでしょう。

【解説】

あらゆる想念は先ず、自らの心にイメージとして形成された後、言葉に変換されるという訳です。このイメージをそのまま伝達出来れば文字通り、言語に関わりなく意思が伝達されることとなります。私達はこの点をよく理解して、自らのテレパシー能力を向上させる努力をすべきです。

これらいわゆる「心像」を感受する能力は、本来生きもの全てに備わっている才能の一つであり、私達はそれを少しずつ日常生活の中で育てて行けばよいということでしょう。自らの意見を持たずに印象をまるごと受け入れる姿勢は、心が余程素直な状況にならないと整備出来ないように思いますし、感受したばかりの内容を一つ一つ詮索するような態度も良くありません。与えられた内容がどのような意味を持つか、直ぐには判明しないことも多いようです。

私のささやかな体験では、そのイメージは事象が起こる数日前にもたらされることが多く、後日、あの時のイメージはこのことを示唆していたのかと思い出すことも多いようです。

いずれにせよ、私達は自らの心をいつでも良質な想念・印象を受け入れられるよう、常に整備して置くことが重要です。

312 Some of our scientists now tell us that telepathy is the language of the future. They say that when man has a better understanding of his mind, it will be the common means of communication. They recognize the importance of breaking the language barriers, for once the peoples of the world are able to exchange ideas freely, lasting peace will finally come to Earth. This concept can be expanded beyond the confines of our own planet. For if we were conversant with telepathy, it would not be necessary for the space visitors to learn our many languages. We could exchange ideas with ease with dwellers from other worlds by using telepathy, since mental impressions know no boundaries.

312 科学者の何人かはテレパシーは未来の言語であると述べています。彼らは人間が自らの心をより深く理解する時、意思疎通の共通した手段になるだろうと言っています。一旦、世界の人々がアイデアを自由に交換できるようになれば、地球に永続する平和が遂にもたらされるが故に、彼らは言語の壁を壊すことの大切さを理解しているのです。この概念は私達の惑星に限定されることなく更に拡がります。何故なら、もし私達がテレパシーに精通していれば、宇宙からの来訪者達にとって多くの言語を学ぶ必要がなくなるからです。私達はテレパシーを用いて他の世界からの住人達と気軽にアイデアを交換できることでしょう。心の印象類には境界がないからです。

【解説】

第3部第2章（リラクゼーション、関心及び感受性）のまとめにあるのが本文です。テレパシー開発の意義については、単に「無言の会話術」という範囲に留まるものではなく、広く宇宙全体、あらゆる生きものと自由に意思疎通が出来、私達創造物が父である創造主を更に身近に感じられるような、より大きな意義を持っていることが分かります。

その行き着く先は、山川草木皆同じ同胞として、共に同じ惑星に暮らすという、自然と調和した生活が待っているのです。

私達はその為に自らの日常に心の活動内容やその持つ想念レベルをよく観察して、少しずつ本来のあるべき方向に矯正する努力が求められています。

古来から様々な「教え」が伝えられ、多くの先人が努力の末に悟った結果、確信した知識がありますが、私の見る限り、悉くが同じ内容、同じ要点を伝えているように思えるのです。もちろん異なる時代、異なる言語による違いはありますが、大局的にはほぼ同じ内容が各々の先人によって見出され周囲に伝えられている訳です。

このテレパシーについても同様に、その教えの内容は普遍的であり、今後もその意義は変わるものではありません。

CHAPTER III

Clairvoyance, Clairaudience, Premonitions, Etc.

313 Through ignorance, man has endowed clairvoyance, clairaudience, the ability to foresee future events, etc., with mystical, unknowable powers. We are inclined to view with awe that person whose hunches are invariably right, and attribute this ability to a mysterious extrasensory origin. But the use of any or all of these, whether consciously or unconsciously, is merely perception, or alertness, working in the individual. This is true not only in regard to personal affairs, but this perception can also encompass universal conditions.

第3章

透視、透聴、予知、その他

313 無知故に人は透視、透聴、未来の出来事を予測する能力その他を神秘的な人知を越えた能力のせいにして来ました。私達はその予感がいつも変わることなく正しい人々を畏敬を持って眺めがちであり、この能力を何か神秘的な超感覚的な源泉に起因するものとして来ました。しかし、これらのいかなるものも用いることは、意識的であるか非意識的であるかに関わらず、それは単に各自に働く知覚或いは警戒の作用でしかないのです。この知覚作用は個人的な物事に関するばかりでなく、宇宙的な状況を包含することも可能なのです。

【解説】

テレパシーは誰でも身に付けられる能力であり、そこには何らの神秘が無いというところが大切な点です。とかく私達は能力者を崇拝しがちですが、それは誰とも変わる事のない人物であり、特別視することは良くありません。また、一方で、それら能力は訓練、学習の結果、身に付く訳で、その結果だけを追い求めてテレパシー学習を続けるのは本筋ではありません。生命の仕組み、宇宙との関連性の学習、自らの内省の過程でそのような生きもの本来の能力が育まれるからです。

また、一方で急激な能力の開発も適当ではないように思います。本項のように予知、透視能力の場合、自らが鋭敏になって感受するものの中には、現実世界の中で苦悩する人々の放つイメージも多いように思います。それらに対して十分な包容力が育成されていない者は、それらに対処することが出来ず、逆に不必要な影響を受けるように思うからです。

結局は私達自身の日頃の学習、鍛錬の成果として、これら能力が顕在化するのであれば、それは好ましいことであり、私達はそれら新しい能力も活用しつつ、日常生活を豊かなものにして行くことが出来るのです。

314 To understand how this can be accomplished, we must remember that feeling is the channel of perception. For regardless of how refined the organs of sight may become, they cannot possibly receive the image of anything that is not yet a concrete manifestation; yet, because the blueprint, or plan for all manifestation is drawn in advance, such information is obtainable. In the case of true clairvoyance, the personal ego must be controlled by an impartial interest in Cosmic Cause. The only limitation placed upon knowledge, is that put there by the personal, or particularized consciousness.

314 このことがどのようにして達成されるかを理解するには、私達はフィーリングが知覚の経路であることを思い出さなければなりません。何故なら、如何に純化しようとも、視覚は未だ確かな創造物となっていないもののイメージを受け取ることは出来ないからです。しかし、あらゆる創造の青写真或いは計画は先立って描かれていますので、これらの情報は入手可能なのです。真実の透視の場合、エゴは宇宙の因についての隔てのない非個人的なる関心によってコントロールされねばなりません。知識に置かれた唯一の制限は、その個人的或いは特殊化された意識によってそこに置かれた制限でしかありません。

【解説】

私達が磨かなければならないのは、視覚や聴覚その他の既存の4つの感覚ではないということが重要です。本項で記されている「フィーリング」という径路、即ち想念・印象を感受する径路こそ、もっぱら育成する必要があるのです。

この「感覚」は何処に主要な感覚器官があるというものではなく、全身の細胞が各々それらを感受出来るといういわば、全身がその器官となる訳です。想念・印象はこれら細胞がキャッチし、それらの情報はやがて心にまで届くよう、身体を整えることが必要です。

このいわば、新しい感覚・感性は人間よりも、他の生きものの方が数段、勝っており、彼らは日常生活に活用しているのです。

このように本来、創造物の頂点に位置する人間だけが劣っている訳は、本文後半に記されているように、私達の個人として培って来たもの、自我こそが妨げの要因だと説明されています。

315 Let us imagine the universe as an infinite expanse of space-force in a passive state of activity, denoting a condition of calmness. Every positive, or aggressive motion within that calm sea of space-force will produce an impulse, or vibration, throughout the whole span of the universe. And as every impulse, whether of light or thought vibration, will continue traveling through space until it has dissipated its energy either through friction, or has transmuted it by contact, when we introduce the time element we can understand that at some time practically every ray will contact every other ray in the universe.

315 宇宙空間を静けさを象徴する受動的な活動状況の中にある宇宙的力の無限の拡がりとして想像して見ましょう。その静かな宇宙的力の海の中では、あらゆる肯定的あるいは積極的な運動は一つの衝撃あるいは振動を宇宙空間全体にわたって作り出します。そして各々のインパルスはそれが想念振動の光であろうと、摩擦でそのエネルギーを消散するか、接触によって改質されない限り、宇宙空間を進み続けることでしょうし、私達が時間的要素を取り入れるなら、私達はいつの日にか、あらゆる放射線は宇宙空間で他の放射線と接触するだろうことは分かります。

【解説】

本項で私達が着目しなければならないことは、著者は空間を私達が発する衝動の波である想念・印象が作用する「場」としてしていることです。

私達の周辺から宇宙深く広がっている空間は、それ自体が積極的に何かを私達にもたらすことはないように思われます。常に受身であり、創造を求める波動に対し、それに沿った形を作り出すという、いわば静的なもの（本文でいう"passive state"）であるということです。実はこの点が重要で、私達が日常何気なく発し続けている想念が、実は周囲の空間に作用し、それら想念がイメージしているものを現実化する機能が常に働いているということです。

宇宙空間に広がっていくこの想念波動はまた他の想念波動と出会い、共鳴して、より強固な作用を果たすということも大切です。一人一人の想いが世界を作り上げるということでもあるからです。

私達はこれら自らの想いがもたらす影響にこそ畏れるべきで、努めて穏やかに明るい心境を日頃から育むことが重要になります。

ご連絡 [2015-05-12]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。
都合により、明日の更新はお休みします。

2015年5月12日
竹島 正

316 This geometric pattern of magnetic and electric rays is the cause of all manifestation. So, inasmuch as the human is capable of perceiving these vibrations consciously, there is only the necessity of overcoming the illusion of time-space interference in order to foresee future events-or look back on past happenings.

316 この磁氣的及び電氣的な放射線の幾何学パターンは全ての創造作用をもたらす因なのです。ですから、人間がこれらの振動を意識して知覚することが出来る限りは、未来の出来事を予知したり、過去の事件を回顧する上で必要なのは、時空の幻影の妨害を克服することが必要なだけです。

【解説】

ここでの注目点は想念には幾何学的パターン（模様）があるという所でしょう。著者は具体的には明かしていませんが、思い浮かぶのは同乗記の中で記されている宇宙船の内部にあったパネルに様々なパターンが自動的に描かれていたことです。

実は同様なパターンは現在ではパソコンの音声再生ソフトの中にも現れていることは多くの読者がご存知のことと思います。これは音声波動を変動する2次元のパターン図形で表現するものですが、同様なことが想念にも当てはまるという訳です。

もう一つの注目箇所は「時空の幻影」という表現です。私達はこれまで時間と空間に縛られて来ました。日常生活における時刻に従った行動、納期や期限に追われる仕事等々です。また空間についても同様に、物質に束縛された世界に私達は生きて来ました。

これに対して、著者はこれら「時空」は幻影であり、実在しないとまで説いているのです。即ち、逆に言えばこれら時間や物質は実体の意味を持たないものとも言い換えられるでしょう。それでは何が実体があることになるかについて考えなければなりません。本文では明確には表現されていませんが、実は想念・印象こそが実体のあるものであり、他派幻影であると説かれているように思われます。永続する真理は想念・印象の側にあることを著者は示唆しているのです。

317 We know that by ascending to a higher elevation we are able to overcome the illusion of space limitation to some degree. Even a small rise will broaden our horizons, and the view we have from the high mountain top seems unlimited compared to that which we had from the valley. When man turned his eyes toward the stars, he realized he must build instruments to aid him to view them more closely. So in his efforts to see ever farther into the universe, he invented and developed the telescope. But our scientists are aware that any instrument built by man is limited. It must be with a feeling of frustration that astronomers view the heavens; knowing that beyond the detection of their finest telescopes lies galaxy after galaxy, stretching into eternity. But once man consciously accepts his oneness with Cosmic Cause, the Cardinal Sense within him (the feeling element), is free to roam the universe at will.

317 私達はより高く昇ることにより、ある程度、空間の限界の幻影を克服できることを知っています。わずかな上昇でも私達の視野を広げますし、高い山の頂上から見る景色は私達が谷間から見る景色と比べて無限の拡がりのように思えます。人が星々に目をやる時、人は自分はより近くにそれらを見るのを助けるための装置を建設すべきだと自覚しました。そこで宇宙空間の更に遠くを見ようとする努力の中、人は望遠鏡を発明し、開発しました。しかし、科学者達はどんなものにせよ、人間によって作られた装置には限界があることに気付いています。天文学者達はある種不満気な気分天空を眺めていることでしょう。彼らの最も精密な望遠鏡の探知範囲の先には銀河に次ぐ銀河が無限に続いて存在することを知っているからです。しかし、ひとたび人が自分と宇宙の因が一体であることを意識して受け入れるや、人の中にある基本感覚（フィーリングの要素）は自由に宇宙空間を歩き回ることが出来ます。

【解説】

既存の社会環境の中、既存の感覚器官に依存した生活をしている私達は、これまで自ら設定して来た狭い概念の範囲の中で暮らして来ました。

それに対し、著者は私達が宇宙根源なる因と一体になることで、これらの幻影が消え去り、広大な宇宙の中に自由に生きることが出来ると説いています。おそらくは著者自身がテレパシー能力を開発する過程の中で、自ら身に付けた真理かと思われれます。

宇宙の因と一体になることこそが、テレパシー開発の最終目的であり、私達がそれを達成した後は、自由に宇宙空間を探求するようなことも出来ることになるのでしょう。

宇宙の広大さは、肉眼で夜空を一瞥しただけでは分かりません。望遠鏡を覗いても無数の星々が更に現れ、その先の宇宙空間に浮かぶ無数の天体の存在を示しており、どこまでの広がる宇宙の広さに驚くばかりです。その広大な宇宙が私達自身と繋がっているという実感こそ、大切にしなければなりません。

318 We ordinarily think of space as the distance between given objects, and of time as the intermission between acts. But space and time cannot rightly be separated - for they are twin infinities. We are quite correct in saying that time is the distance between events. When we consciously perceive forthcoming events, we are traveling in time, just as surely as we are traveling through space when we perceive hitherto unseen stars and nebulae through the telescope. In either case, we have expanded our vision by eliminating the time-space bug-a-boo.

318 私達は普通、空間を与えられた対象物の間の距離であると考えていますし、時間については行為の間の中休みと考えています。しかし、宇宙空間と時間とははっきりと分離は出来ません。何故なら、それら是对の無限物であるからです。私達が時間を出来事との間の距離であると言うことは全く正しいのです。私達がやがて来る出来事を意識的に知覚する時、私達は丁度、宇宙空間を旅して、今まで知られていなかった星々や星雲を望遠鏡を通して知覚するのと同じです。いずれの場合も私達は時空のお化けを取り払うことで、自分達の視界を拡げたのです。

【解説】

本項で大事なところは、「時空」と呼ばれるように、時間と空間とは本来、切り離すことが出来ない「対」になった概念であるということです。即ち、時間と空間は同じ種類の座標軸空間の中にあるという訳です。端的に言えば時間を遡るのも、距離を遡るのも同じであり、未来を予知するのも、今後起こり得る未来の姿を望遠鏡で先を見るのと似ているということです。

これまで私達は距離や時間は絶対的なもの、不変かつ確実なものとして来ました。しかしそれは物質世界の中でのことであり、精神世界の中で重要となる記憶や概念、アイデアの世界では、時間も空間も同じ要素に属するものではないでしょうか。それ故、急に鮮やかに記憶がよみがえったり、遠い場所の映像が目に飛び込んで来たり、私達の意識の世界には時空にとらわれない自由な活動があります。

もし、私達の日常が時空の制限にとらわれず、自由に想念・印象が飛び交う精神生活になれば、疲れを知らない充実した人生になることは間違いありません。

319 You may consider the illustration meaningless, because in the case of piercing space with the telescope to discern material objects we are looking upon something that has already happened, or upon manifestations that have already taken form. But how can we foresee that which has not yet taken place? It may even seem that we are in contradiction to the law of Cause and Effect; for we are seeing the effect before the cause has produced it. But is this true?

319 貴方はこの説明は意味をなさないとお考えになるかも知れません。何故なら、望遠鏡で物体を見つけようと宇宙を貫いて見ようとする場合、私達は既に起ったものや既に形を持った創造物について見ることになるからです。しかし、未だ起っていないものをどのようにして予知出来るのでしょうか。それは私達が原因と結果の法則とは矛盾しているように見えるかも知れません。何故なら、私達は因が作り出す前にその結果を見ているからです。しかし、これは本当でしょうか？

【解説】

時空の空間を旅することは、実は様々に飛び交い事物の生成の源となる想念の海を旅することでもあるのでしよう。その為にはこれから生じようとしている事物のイメージも把握することも多いものと思われます。

このように実際には私達が宇宙空間に出る際には、強烈に作用する想念イメージを目撃することになるものと思います。それが多くの宇宙飛行士達が自らの宇宙体験の中で精神的な飛躍を遂げる原因であろうと思います。

宇宙空間の中には、万物創造の働きが地上の場合に比べより強く現れるのではないかと考えています。

320 The greatest minds in the world today will not deny that all phenomena is the result of action. Here, we are dealing with that particular invisible vibration called thought, which, like light, travels out from its point of projection in millions of straight lines in all directions. There are billions upon billions of thought actions taking place in the universe. Like light, their vibratory radiation is a constant thing; traveling at a definite rate which never varies. These vibratory rays traveling through space at a certain speed will, according to the law of accuracy, contact or cross each other at a given point: producing predictable results. Anyone who has learned to turn his awareness to the state of universal interest, can consciously perceive these vibrations contacting; and from the reactions produced, can foretell the outcome before these actions have become visible to the recognized channels of sense.

320 今日、世の中の最も偉大な心を持つ者達は、全ての現象は行動の結果であることを否定しないでしょう。ここでは私達は想念と呼ばれる特別な、目に見えない振動を取扱っており、その振動は光のように放射のポイントから全方向に何百万もの直線として旅出しています。宇宙空間では何十億の何十億倍もの想念活動が起っています。光のようにそれらの振動する放射線は一定に動きます。決して変わることはない一定速度で進行しているのです。宇宙を通して旅するこれら振動する放射線は正確さの法則に従って、互いに与えられた地点で接触し、互いに交差することでしょう。そして予想可能な結果をもたらすのです。誰でも自らの気付きを宇宙的な関心の状態に転換することを学んだ者は、意識的にこれら振動が互いに接触しているのを知覚出来、その際作り出される反応から、これらの活動が認識された感覚の経路に見えるようになる前に、その事態を予見することが出来るのです。

【解説】

あらゆる現象はそれが現実世界に生じる為には、その原因となる活動が先行して成される必要があります。想念波は一たび放出されるや、宇宙空間をくまなく放射する波動となって空間に拡がり、やがては他の想念波に出逢って力を増したり、状況を変えることもあるでしょう。

そして、それらがその波動の持つ作用を発揮する条件の下に到達すると、具体的な創造作用が現実化するものと思われれます。その現実化は想念波の持つイメージと同じものである以上、想念波の段階で内容を知覚出来れば、物事が現実化する前に完成後の姿をイメージ出来ることとなります。熟する前にリングを味わう等々の事例はこれまでも説明されているところです。

よく建築家が設計図の段階で完成後の建物をイメージ出来るように、想念が未来の設計図である以上、想念波を知覚出来れば未来の姿をイメージ出来ることとなります。

321 An example of this occurred involving an acquaintance of mine who was the head of a large concern in the east. Wanting to make his home in the western part of the country, this man had left his business in the hands of a capable and apparently trustworthy manager; who also happened to be a large stockholder in the company. Except for the annual reports, and occasional correspondence between the two, the head of the company was not worried with the operational arrangements of the business, for he had utmost confidence in his manager's ability and honesty. I knew that my friend's interest lay in the east, but at that time, I was not familiar with the managerial details.

321 このことの一例が、東部（訳注：米国東部）における大きな仕事の社長であった私の知人の一人について起りました。西部に自分の家を持ちたいと思っていたこの人物は自分のビジネスを有能で見掛け上も信頼出来そうな支配人の手に委ねたのです。その支配人はまた、たまたまその会社の大株主にもなったのです。年間報告や二人の間の時々の連絡を除けば、その会社の社長は事業の運営手はずについて心配はありませんでした。彼は自分の支配人の能力と誠実さには絶大な確信を持っていたからです。私は私の友人の関心が東部にあることは知っていましたし、その頃、私はその経営上の詳細についてよく知りませんでした。

【解説】

アダムスキー氏は塗装業で成功していたとされており、その後、夢にイエスが現れてからは、それまでのビジネスを断念し、哲学・宗教の活動に専念するようになったとされています。

その結果、コンタクト以前から、Royal Orderをはじめ様々な形態の下に自らの啓蒙活動を行っており、そのような中に本事例もあったと思われます。

この場合、相談者は支配人に絶大な信頼を寄せており、実は当初、その支配人も誠実な仕事振りであったことが想定されます。しかし、問題は人間の心は変わりやすいもの、取り分け地球人の心のレベルは様々な誘惑に弱いものであることです。得られる利益を前に長年自分を信頼してくれた人を裏切ってしまふような下劣な心境をもたらすような想念も世の中には数多く漂っています。

そのような低レベルの想念に犯される危険性があるというのが、本文を読んだ際の感想です。

322 However, I received the impression that the manager was planning to gain control of the business and defraud the owner of his holdings. I conveyed this information to my friend, and although doubting its veracity, he started a quiet investigation into the company's affairs. The report he received carried overwhelming confirmation of these conditions, just as I had revealed them. My friend returned east immediately and took the necessary steps to protect his interests and regain control of the company.

322 しかしながら、私はその支配人が事業をコントロールし、オーナーの保有財産を騙し取ろうと計画しているという印象を受けました。私はこの情報をその私の友人に伝え、またその真実性を疑いながらも彼は会社の内状について隠密裏の調査を開始しました。彼が受け取った報告書にはこれらの状況を確認させる膨大な証拠を伝えており、私が明らかにした通りでした。私の友人はただちに東部に戻り、自分の財産と会社の支配権を取り戻す為、必要な措置をとったのでした。

【解説】

具体的な状況を見たこともなく、聞いたことがなくても、即ち肉体の経験が全く無い場合でも、想念・印象さえ感知出来れば、現在進行中の状況は手に取るように感じられるという訳です。

私達は自分が受けた印象・想念を大切にすることが非常に重要で、全ての問題解決にその原因究明過程で、私達は既存の事実だけでなく、背景にある状況について自らの感性で探り、印象を感知するよう心掛けることが必要です。

この場合、アダムスキー氏は自分の得た印象を相談者の為に必要な情報として相手に伝えた訳であり、その結果、相手は被害に逢わずに済んだ訳で、相談者からは大いに感謝されたものと思われます。本来、私達が開発するテレパシー能力の活用の一例として著者は本項を示しているのです。

323 This experience was a case of unintentional telepathy. Certainly, the manager had no intention of broadcasting his dishonest thoughts; and undoubtedly believed them carefully guarded from the world. Because of his perfect assurance in the integrity of the man he had left in charge, the head of the firm, the person most closely concerned in the affair, was not receptive to the thoughts of mismanagement. But I, who was receptive to all thought vibrations in an impersonal way, received the thought. As it came to my mind, I recognized it was pertaining to my friend, and thereby saved him much future difficulty.

323 この体験は非意図的テレパシーの一例でした。確かにその支配人は自分の不誠実な意図を広めようとするような意志は全く無かった訳であり、疑いなくそれらを世間から注意深く隠していたものと思われる。その友人が会社の首脳として後に残したその人物の持つ有能さに完全な確信を持っていたため、そのことに最も高い関心を持っていたその人物は、その経営の失敗についての想念を受容出来なかったのです。しかし、非個人的になって全ての想念波動に受容的であった私は、その想念を受信しました。それが私の心に来た時、私はそれが私の友人に関係していることに気づき、そうして彼を将来のより大きな困難から救ったのです。

【解説】

何事も想念・印象の世界では隠し事は出来ない訳です。地球では考えにくいことですが、他人が何を考えているか、誰にでも直ちに分かってしまうのが、他の進化した惑星では極く当たり前のことなのでしょう。

その結果、これらの惑星では地球人のような進歩の遅れた者が暮らすことは容易ではないように思われます。他の人々は何ら不自由なく想念での意思交流を行い、優れた洞察力を持っているのに対し、私達地球人は言語や文字に頼っている為、そのギャップは苦痛になるほどです。

一方で、他惑星人が地球で暮らす場合は、逆な意味で苦痛に感じるかも知れません。本事例のように相手をだますとか、餌食を探す者達の想念や被害者の悲嘆と数多く巡り合うことになるからです。しかし、そのような中であっても人々を導き、支援活動を行う彼らはより高い波動を保つことが出来る所が、素晴らしいということになります。

無欲の心境、何ものにもとらわれない心境こそ、テレパシー能力の土台です。

ご連絡 [2015-05-25]

いつもご覧いただき、有難うございます。

都合により、明日の更新はお休みさせていただきます。

2015年5月25日

竹島正

324 These same thought frequencies were intercepted by innumerable people, but because they did not recognize any of the participants they discarded them as being meaningless. This is further proof of the fact that it is not the pretentious front we show to the world that is of lasting importance, but it is the inner man who is the true expressor. To those around us we may appear a paragon of honesty, but if we harbor dishonest thoughts in our minds they can be intercepted at any time, thus unmasking us before the world. Truth has a way of revealing itself; for whether we like it or not, our thoughts belong to the universe.

324 これら同じ想念波動は無数の人々によって捕えられましたが、それらの人々にとって自分の関係者のものとは思わなかった為に、意味がないものとして捨て去っていたのです。このことは永く重要性を持つのは私達が世間に示す見せ掛けの前面ではなく、真の表現者である人間の内側であるという更なる証拠です。私達の周囲にいる人々にとって私達は誠実の模範のように見えるかも知れませんが、もし私達が不誠実な想念を心の中に抱くなら、それらは何時でも捉えられ、私達の正体を世間に暴露することになるのです。真実は自ら現れる道を持っています。何故なら私達が好む好まないにかかわらず、私達の想念は宇宙のものだからです。

【解説】

本文にある印象的な表現は、最後の「想念は宇宙のもの」というところです。

私達自身、自分のものは実は何一つ無いというところに気付く必要があります。私達の肉体は元をただせば地上にある諸元素が全てであり、血液も肉体も骨もそれらが元となって出来上がっています。即ち、肉体は自分のものでなく、本来地球に属するものを一時的に借り受けたものに過ぎません。

一方、それでは私達の発する想念はどうかという訳ですが、実はそれも本項では宇宙に属すると述べているのです。私達の心が勝手に造り上げたと思いがちですが、その想念も本来、宇宙のものと言っているのです。

それ故、私達は肉体や想念活動も含め、全てが宇宙空間に属するものということになり、もし「私達」という独自の存在が存続するというのであれば、それも宇宙に属するということになります。

325 Science has discarded the idea that universal ethers are a fixed standard of space, being absolutely motionless: and they now admit that nothing in the universe is entirely at rest. The units composing ether are in constant motion, as are the units of matter; and all are stirred by the same element of animation that gives impetus to thought. Just as each action within the human form leaves its impression upon the body cells, so every action that takes place in the universe leaves an impression, upon the cells of ether - not as a form-picture, but as a frequency.

325 科学は宇宙空間のエーテルが全く動きのない固定化した宇宙の基本単位であるとする概念を捨て去って来ました。そして彼らは今や、宇宙には何一つとして完全に静止したものはないことを認めています。エーテルを構成している各単位は物質の各単位がそうであるように、常に活動の状態にあります。そして全ては想念に衝動を与えるのと同じ要素によって揺り動かされています。丁度、人体の内側の個々の活動がその印象を肉体細胞に残すように、宇宙空間で起るあらゆる活動はエーテルの細胞単位に印象を残すのです。それは形のイメージではなく、振動としてです。

【解説】

本書が執筆された当時、宇宙空間、即ち大気の上層領域を示す用語として広く「エーテル」という言葉が使われていたようですが、電磁波を伝える媒体を示す用語でもあったようです。いずれにせよ、宇宙空間に存在するガス状物質を示す概念ということになります。

ここで注目したいのは、著者が、何らかの活動はその足跡として人体その他あらゆる所にその振動を残すということです。全ての行動が物質にその行動に特有の振動を与えるという訳ですが、これは物質の本源である原子の振動に影響を及ぼすことに繋がります。

即ち、良好な振動はその後永らくその原子を良好な振動状態に保つことでしょうし、もし自然法則に逆行した振動を与えた場合には原子の振動はやがて衰退するような事態に陥ることが想像されます。良質な想念・印象を生み出す行動が貴重という訳です。

326 We have called this accumulated data memory. And the Universal Memory is compiled from all individualized memories. So it is quite plausible to assume that a true sensitive, or one who is alerted to all phases of life, can recall the events of ten thousand years past, just as readily as he is able to recall the events of his childhood. By carefully observing the trend of sequences, he can predict what will take place fifty years from today from a careful evaluation of past events. The law of relativity demands certain results, or actions of balance, which are determined by the original motion

326 私達はこの蓄積されたデータを記憶と呼んでいます。そして宇宙的記憶は全ての個別の記憶から編纂されています。ですから、真に敏感な人、即ち全ての生命の側面に対し鋭敏な者は、あたかもいつでも自分の子供時代の出来事を思い出すことが出来るように、過去1万年の出来事を思い出すことが出来るとするのは、極めてもっともなことなのです。過去の一連の出来事の傾向を注意深く観察することによって、その者は今日から50年後に何が起るかを予想出来るのです。相関性の法則はそのままの運動によって決定づけられたある種の結果、即ちバランスの行動を要求するからです。

【解説】

宇宙空間に残るこのような印象の記録は宇宙的記憶とも呼べるもので、もし私達がそれを感知出来るようになれば、過去1万年もの歴史を紐解くことが出来るという訳です。

私達の惑星は自ら何も語る訳ではありませんが、その上で行われた様々な行為は深く体内に記憶をとどめているということでしょう。当然、想念は発現力を持つ訳で、惑星全体としてもどのような方向に進むのか、これら想念の総体から決まって来るものと思われまます。

記憶というものは、これら一つ一つの想念波動のデータの集まりであると著者は私達に説いている訳で、物事全てを振動の合成で説明しようとする数学のフーリエ解析もこれに近い考え方のように思われ、真理を突いた数学理論かと思っています。

327 Let us digress for a moment and discuss hypnotism briefly. Much publicity has been given lately to the practice of hypnotism for the purpose of recalling past lives. Many believe that by using this means, they can send the subconscious back to read the Book of Memory. But what does hypnotism really do?

327 少しの間、脇道に入って催眠術について簡単に議論しましょう。最近では過去生を思い起こす目的による催眠術の実施について多くの宣伝がなされています。多くの人々がこの手法を用いることで、潜在意識を記憶の書を読みを送り出すことが出来ると信じています。しかし、催眠術は実際には何を行っているのでしょうか。

【解説】

本講座の先々の文章を読んで行けば分かることですが、著者アダムスキー氏は催眠術はテレパシー能力の開発にとって、無意味どころか大変危険であると警告していることに注意すべきです。決してゲームのようなものではなく、その得られる情報も術者から与えられることも多く、疑わしいということでしょう。

本書が執筆された当時、米国各地ではまだ、催眠術が盛んに行われていたものと思われます。日本でもエドガー・ケーシー(1877-1945)の話は良く知られていますが、本項以降の記述はそれらに対する注意点が述べられています。

とかく私達は目先の「成果」を求めたがる訳ですが、安直に自らの意思を捨てて、他人に自分の心を委ねるのは危険が多すぎるとしてあります。また、本項のような自分の過去生の記憶は本来、必要な時によりみがえれば良く、大概の人の場合にはさほど思い出したくない人生であった可能性も高い訳で、興味本位に求めることについては注意したいところです。

328 In order for anyone to be hypnotized, he must voluntarily give up his will to the will of the hypnotist. This can be extremely dangerous if repeated too often, for the will of the individual is weakened. The sense-mind is stilled by hypnotism, and thereby opened to suggestions from the operator. The sensory reactions are so subdued that you can suggest to a hypnotized person that ammonia smells like essence of roses, actually holding a bottle of it close enough for him to take deep breaths. Under hypnosis the person will insist the aroma is pleasing, yet you will find that it is impossible not to recoil from the pungency of ammonia fumes while in a natural state.

328 誰でも催眠術にかかる為には、その者は自らの意思を催眠術者の意思に委ねなければなりません。これは頻りに繰返された場合、極めて危険になり得ます。何故なら、その個人の意思は弱められるからです。感覚心が催眠術によって鎮められ、それによって操作者からの提案に心を開きます。感覚の反応があまりに抑制されている為、催眠術にかけられている人物に実際にビンを手を持って鼻に深呼吸させる程近づけて、アンモニアの臭いをバラの精油だと暗示することも出来ます。催眠術下では、その人はその香りは心地よいと主張するでしょうが、自然の状態ではアンモニア蒸気の刺激からは尻込みしないでは居られないのです。

【解説】

催眠術が被術者が自ら心を術者に委ねることの危険性が良く説かれています。結局、私達が自ら自分の心を統制、拡張して心の守備範囲を目に見えるものから、更に既存の感覚器官が捉えられない印象の世界についても次第に触れられるよう訓練すべきということでしょう。

もちろん、素直であることはこの種の修行では大切な条件である訳ですが、教師を選ぶ時にはよほど慎重にしないと自らの道を誤る可能性も大きいということでもあります。とりわけ催眠術によるものは本項の示す通り近づくべきではありません。とかく急いで結果（見かけの成果）を求める私達には要注意な点ということでしょう。

教師を求めた挙句、多くの方が本来の道を外れてしまった例も残念ながら数多いように思われます。他の脇道にそれることなく、本道を歩み続けることの重要性は私の体験上、何度も申し上げても良いほど、大切なことのように思われます。

329 The so-called memories revealed while under hypnosis are usually due to one of two conditions. One, it is possible for the hypnotist unknowingly to suggest personal experience he has had to your mind; or you may receive strong thoughts pertaining to something he has seen or read that has impressed itself deeply upon his consciousness. Two, you may merely be recalling an incident that happened to you, which your sense-mind had forgotten; or it may be some information you read or heard in early childhood. We would be astounded at the information stored in our memories in this fashion.

329 催眠術の下で判明したいわゆる記憶とは、普通は二つの内、いずれかの条件によるものです。一つは催眠術者が知らずに術者の個人的な体験を貴方の心に暗示している可能性がありますし、あるいは貴方が催眠術者が術者の意識に深く印象づけられた何かを見たり、読んだことに関連した強い想念を受信した場合があり得ます。二番目は、貴方が貴方の感覚心が忘れてしまっていた貴方に起った出来事を単に思い出しているだけなのかも知れませんが、或いは貴方が幼児期に見聞きした何かの情報であるかも知れません。私達はこのようにして私達の記憶が貯えられていることに対して、仰天することでしょう。

【解説】

これについては、よく催眠術で自らのアブダクション体験が如何にまことしやかに語られるようなケースが考えられます。実際の場面を知らないので明確な意見は申し上げられませんが、催眠術については術者の意のままに被術者が自らその気になってしまうように考えています。

また、本文に記されているように、日常の雑事から心が解放された時には、遠い昔の事柄も容易に思い出すこともあるでしょう。本来の「記憶」は身体の何処かに蓄えられており、それらは普段気付かない為、活用されていない訳です。本来、私達が行って来た活動の全ては宇宙に記憶され、それら体験から私達は多くを学び取る必要があるのです。

330 Only outstanding events in our lives are retained in our active memory files. Anyone can remember important happenings dating back to childhood; but, unless something momentous occurred on that day, can you remember the details of what happened to you one year ago today? Or, for that matter, can you recall every detail of a month ago today? Yet, these details were itemized and catalogued in your memory, and can be recalled.

330 私達の生活の中の目立った出来事だけが私達の活動状態の記憶のファイルに保持されています。誰でも子供時代に遡って重要な出来事を思い出すことは出来ます。しかし、何か重大な事がその日に起らない限り、一年前の今日、貴方に起った事柄の詳細を覚えていられるでしょうか。あるいはその件について一ヶ月前の今日の細かい個々の事柄を覚えていられるでしょうか。しかしそれでも、これらの詳細は貴方の記憶の中に箇条書きされ、分類されており、思い起こすことが可能なのです。

【解説】

本項で著者が説くように実際には私達が一瞬一瞬体験している物事は、本来私達の中に一つ一つ整理され、記憶されるという訳です。日常考えて見ても、時々出来事が起こった時点では私達はその後しばらくはその出来事の記憶を保持していることは確かです。しかし、月日が経つにつれて他の出来事への対応等から、その記憶は順次新しいものに移り換わって行きます。

しかし、実際には自分が体験した事柄は永久に私達の何処かに保持されており、それ故何らかのきっかけで記憶がよみがえることが可能となるのです。

ここで私達が考えなければならないのは、本文に記されているように記憶が箇条書きのように分類され、実は整然と保存されているというところです。場所については明示されていませんが、基本的には細胞の中に等しく蓄えられているのではないかと思われまます。

実はこの記憶は宇宙全体にも等しく繋がっているものと考えられ、それが宇宙の記憶の書とも表現されている訳で、私達はこの記憶の書に接することが出来れば、有史以前からの膨大な知識、経験の海の中で学ぶことが出来ることとなります。

331 Lying dormant through the years may be a memory involving some incident (either major or minor), that happened to your parents or to a neighbor, and which was discussed in your presence when you were very young. When a suggestion relative to any of these long-forgotten memories is given under hypnosis, they became readily accessible to us; for everything we have ever read, or heard, or seen, is stored in the mind.

331 貴方がとても小さい頃、貴方の居る前で貴方の両親あるいは隣人に起った（大きいにして小さいにして）何かの出来事に関連したある記憶が何年も休眠していたのです。催眠術下でこれら長い間忘れられていたものに関して暗示が与えられると、それらが私達に容易に接することが出来るようになります。何故なら、私達が読み、聞き、見たもの全ては心の中に貯えられるからです。

【解説】

本項で著者は、私達は自らの心の中に日常的な物事も含め、あらゆる体験が記憶保持されると説いています。思い出せないだけで全ては記憶されているという訳です。

しかし、ここで注意したいのは、日頃無感動でマンネリな生活を送っていると、そもそも行動の中に「体験」が無い訳ですから、記憶する内容もなく、月日が過ぎ去ってしまうことになります。それでは記憶も残す筈もありません。

よく毎日感動する体験が大事だと言われますが、それはこの新鮮、強烈な印象が発揮され、この記憶として各々蓄積するところにその意義があるように思われます。年齢を重ねるにつれ認知症等の障害が発症しやすくなりますが、それを予防する上でも毎日新鮮が心境で暮らし、豊かな記憶に包まれた生活を送れるよう自ら努力する必要があります。

332 Hypnotism is an exact science. In the hands of a competent person it is unsurpassed for the relief of pain. It has proved invaluable in aiding psychologists and psychiatrists to untangle confused impressions that have been causing mental disturbances to the patient. But it is not a parlor game! When used as such, it can create drastic upheavals in our minds.

332 催眠術はまさしく一つの科学です。力量のある人物の手によれば、痛みの解放にとって催眠術はこの上ない手法です。患者に精神的な動揺をもたらしている混乱した印象類を解きほぐす為、心理学者や精神科医を手助けする上でそれ（訳注：催眠術）は非常に貴重な手法であることが明らかにされて来ました。しかし、それは室内ゲームではありません。そのように用いられた場合には、私達の心の中に激烈な地殻変化をもたらす可能性があります。

【解説】

本項では唯一、催眠術の活用事例として患者の痛みを取り除くこと、また精神疾患の原因となっている混乱した心の状況を解きほぐす効用について挙げています。

これらは催眠術を適切に用いることによって有効に働かすことが出来る数少ない例という訳です。

しかし、この他大多数の場合は、術者側の支配力が増すこと、また被術者側の心の自主性が損なわれることにより、自我の消滅その他、本人の存在そのものが危険にさらされる等の大きな問題に直面することになると警告しているのです。まさに、茶の間のゲームに成り得るものではなく、私達はより慎重に取り扱うべきなのです。

よくマインドコントロールや洗脳という表現がありますが、それほどに私達の心は弱く、身を委ねる指導者を望みがちです。しかし多くの場合、そのカリスマ教師なる者は、やがて大衆を支配し、自分の餌食にするようになります。これまでどれほど多くの事例を私達は経験して来たか数知れません。催眠術はテレビや新聞その他様々な媒体で私達に浸透しているように思います。私達はこのような中で、自らの判断、決断で進めて行く他、解決策は無いというものです。

333 Why should one delve into such a dangerous medium when he can recall his past without the aid of a hypnotist? When man gets to the eternal care of his real Self, this can be done in a true sense. Then will be revealed to him the many states through which he has passed in development; and the purpose for which the form of man was created. For the first time, he will then realize that he was a witness as one with the Father to all creation; for the story of creation and the part man played in it has been indelibly impressed throughout space. Therefore, since man is the product of space, and he is a Divine Thought in action, he ever strives toward his natural heritage; which is an understanding of the Primal Story.

333 人は催眠術師の助けを必要とせず自らの過去を思い出すことが出来るにも拘わらず、何故このような危険な媒体を探求しようとするのでしょうか。人間は彼自身の真の自我による永遠の庇護に到達すれば、これは正気の中で為されることになるのです。そうなれば、自分が成長の過程で通過した多くの状態を自らに現すことでしょう。また、その人が創造された目的についてもです。その結果、彼ははじめて自分が全ての創造の父と共に居た目撃証人であったことを自覚することでしょう。何故なら、創造の物語と人間が行動したふるまいは宇宙全体に消えることなく印象付けられているからです。従って、人間が宇宙の産物である以上、また人間が活動する聖なる想念である以上、人は自分の生まれながらの相続財産、即ち原始の物語の理解に向かって努力を続けるのです。

【解説】

危険な催眠術に近づかなくても真の自我に到達できれば豊富な記憶の世界が様々な事柄を教えてくれるという訳です。

私達人間が過去にどのような行動を取り、どのような体験をしたかについては、宇宙全体の中に記憶され、それらに到達することで十分な知見を得ることが出来る訳で、自分自身を失わせるような催眠術に近づくべきではないのです。

本文に説かれているように、何かの行動した際に本人が放つ想念・印象は空間に保存記憶され、それは万物始原の宇宙創造にまで遡る膨大な記憶の書として存続するという事です。私達は自ら良質な想念を放つことと同時に過去に記憶された優れた想念を見出し、学ぶ必要もあるのです。

334 All knowledge is available to man from the vast sea of thought in which he lives. Out of the billions of thought-rays that radiate from the center of projection of one action, only ten may be intercepted by human intellects; while the rest of the thought-rays will travel on through the universe. Yet, at any time they may be picked up by an individual who is receptive to them. Though all the writings of man be destroyed, a truth once recognized can never be lost; for it has made its impression upon the mind-substance of space, and remains a universal memory. In the ancient teachings these thought patterns, or individualized records of action, have been referred to as the Akashic records; while the Bible speaks of them as the Book of Remembrance.

334 人には自らが住む想念の広大な海から、すべての知識が入手可能なのです。一つの行動の放射の中心から発する何十億もの想念線の中で、人間の知性はわずか10個の想念しか感受しないかも知れません。しかし、その一方では残りの想念線は宇宙空間を進行し続けます。しかも、いつかそれらは感受できる個人によって取り上げられるかも知れません。人間の書いたもの全ては破壊されたとしても、一度理解された真実は決して失われることはありません。何故ならそれは宇宙の心の物質の上に印象づけられ、宇宙的な記憶として残るからです。太古の教えの中では、これらの想念パターンあるいは個々の行動の記録はアカシックレコードと言及して来ており、聖書はそれらを記憶の書と呼んでいます。

【解説】

本文を記述の通り受け取ろうとする場合、私達は私達の行動は実際には何十億もの想念を発生させていることが分かります。実は私達はその内、せいぜい10個程度を自覚するに過ぎず、他の部分は共鳴・認知されることのないまま、宇宙に拡散されるという訳です。これについては例えば道に咲いている花の美しさに気付いたとします。しかし、花が咲く為には、そのほかに何十億もの想念が働いている訳で、その想念・印象のごく一部しか私達は知覚していないということを著者は説いているということになります。

この膨大な想念の世界について私達はこれまで想像することさえなく、漫然と日常生活を送っていましたが、自らの行動の一つ一つがそれほど多くの想念・印象を伴うものであることは、大きな驚きをもって受け取られるに違いありません。

これら宇宙空間に放たれた想念は以後、失われることなく宇宙に残留している訳で、一度、真理が明らかになれば、それ以降、証拠の記録が失われる等、如何なる事態に陥ろうとも、真理は失われることはありません。たとえ発見者本人が亡くなっても、また記録類が失われても、その真理の自覚は宇宙空間に想念・印象として保管され、未来永劫消えることはないからです。

335 Inasmuch as all knowledge in the universe is thought vibration or frequency which permeates space, thus creating certain pressures, every form must of necessity exist within these pressures. So if the form is not too firmly encased in a hard shell of personal interest or indifference, it will become a figurative mixing bowl where all thought vibrations can unite and produce concrete knowledge of a universal nature.

335 宇宙における全ての知識が宇宙を透過し、ある種の圧力を創り出す振動ないしは周波数である限りは、あらゆる形有るものはその必要性から、これらの圧力の中でも存在しているに違いありません。ですから、その形有るものは、個人的な関心や無関心の硬い殻の中に堅固に包まれていない限り、それは比喩的に言えば、全ての想念振動が結合し、一つの宇宙的性質を持つ揺るぎない知識を作り出せる混合用のボウルになることでしょう。

【解説】

一口に「柔軟性」と言いますが、実は私達の身体細胞の一つ一つが自らの自我の殻を融解させ、外界に対して受容的になると言う意味で実は言い得ている表現と言うことになります。

本項は実際、テレパシー能力を高めるということが自身の各細胞が文字通り柔軟に外部からの高周波の振動という印象波に対して鋭敏になることにつながることを説いています。

文字通り「頑なさ」は自らの自我（エゴ）への過度の集中がもたらしたものであり、外界との関わり、関心を失っているのは外界からの印象を感受することは出来ません。独り宇宙の中で取り残されることにもなります。

テレパシー能力の向上を目指す私達は努めて心身を柔軟にして、外界からの印象に鋭敏になって日々新しい知見を享受することで感受性を高めることはもちろん、若々しさを保つことが求められています。

336 True clairvoyance is merely the ability to direct the attention of the real Self without producing a state of concentration, and to relax the sense-mind of the body to the point where it is open and sensitive to all impressions. The recognition of any particular personal feeling will automatically interfere with the incoming vibration. If, at the moment of contact with a specific impression, the recipient allows his interest to dwell upon it impersonally, all knowledge pertaining to that impression will reveal itself; because the facts are related and cannot be separated.

336 真の透視とは集中状態を作り出すことなく真の自我の注目を導き肉体の感覚心を開放的であらゆる印象に鋭敏な所までリラックスさせる能力に過ぎません。如何なる個人的なフィーリングもそれが感知された場合には、自動的に流入する振動を妨げてしまいます。もし、ある特定の印象と接触した瞬間、受信者が自らの関心を非個人的にそこに宿ることを許すなら、その印象に関連する全ての知識が自ずと明らかになるでしょう。何故なら、事実は相互に関連しており、引き離されないからです。

【解説】

もちろん本項の記述内容全てを現在の私達が理解出来る訳ではありませんが、著者の説く言葉の断片から、私達が気付くべき事柄も多いように思われます。

その一つが著者は印象の受信に関し、私達は「真の自我 (the real Self) の関心を向けさせる」ということ、また一方では「肉体の感覚心は開放的に保つ」と述べている所があります。「テレパシー」講座以降、アダムスキー氏はこの「真自我」を「意識 (consciousness)」という表現に変えています。大事な所は「真自我 (意識)」と「感覚心」を明確に区別して取り扱っている点にあります。

即ち、先ずは自分の意識を対象に向けさせるというように積極的に意識に働きかける一方で、感覚心に対してはあくまで受容的に留まることを求めている点に注目したいものです。以前から述べられているように、目、耳、舌、鼻に捉えられる範囲はほんの表層のみであり、如何なることがあろうと既存の感覚には限界がある訳で、それらの経験を拠り所にする感覚心にはもはや発展性は無いということでしょう。それに対し、「真の自我 (意識)」はひとたび印象の世界を知れば、たちどころに新しい可能性が広がって来る大きな意義を持つ存在だという訳です。

337 Here, again, we are dealing with the law of affinity, which brings all things to fruition. It is this law that impels each different form to draw to itself those chemical elements which will promote its growth and individuality; it is this law that stabilizes activity in all planes of manifestation making a definite analysis possible in any field where we have understanding. And it is only because the laws of the Cosmos are immutable that telepathy, clairvoyance, clairaudience, and kindred phases of development can be understood. For all so-called prophetic knowledge is nothing more than telepathic deduction. However, due to the fact that thought vibrations travel at such high speed that complete reception is instantaneous, it is rarely recognized as telepathy by the recipient, or by the researchers in the field of thought-transference.

337 ここでも再び私達は親和の法則を取扱っており、その法則はあらゆるものに達成をもたらすものです。個々の形あるものにそれぞれの生長と個性を促進させる化学元素を摂取させようと駆り立てるのはこの法則です。あらゆる創造のレベルにおいて活動を安定化させ、私達が理解するあらゆる分野において明確な分析を可能とするのは、この法則です。テレパシーや透視、透聴そして同類の発達面が理解されるのも、この宇宙の法則が不変であるからに他なりません。何故なら、いわゆる予言的な知識はテレパシーを用いた推論でしかないからです。しかしながら、想念振動はそれほど高速度に移動する為、完全な受信も瞬間的であるという事実から、受信者や想念移動の分野の研究者達によって、それがテレパシーであると認識されることはめったにありません。

【解説】

万物が親和の法則の下に成り立ち、また常にその下で活動過程にあるということです。中でも想念・印象はその作用としてその内容に沿った実現力を持つ訳ですが、その原理も同じ親和の法則に基づいています。

こうして万物は互いに影響を与え、また影響を受け合うことで互いの結びつきが強められ、物事が安定するようになると説かれています。創造が永続される為には常にこの相互作用が機能している必要があるのです。

私達が日頃放つ想念は、あまりにも高速で通過してしまうため、多くは全ての内容を受感しにくいのですが、その片鱗でも感知出来れば私達の暮らす世界は随分と変化することでしょう。印象を大切にすることを生活の基本にすることが大切です。

338 For instance, there may have been many cases in which the destruction of a city by flood or earthquake has been predicted by those alerted to the chemical changes that were taking place in nature. Often, these prophecies proved correct. Yet, information obtained by this means is not generally accepted as authentic, and is usually ignored by those in a position to avert the disaster or alleviate the suffering.

338 例えば、自然界で起っている化学変化に注意を喚起された人達によって、洪水や地震によって都市が破壊されることが予知されて来た多くの事例があります。しばしば、これらの予言が正しかったことが証明されて来ました。それでもこの手法で得られた情報は、一般的に信頼出来るものとは受け取られず、大抵は災害を回避し、被害を緩和する立場にある人達によって無視されて来ました。

【解説】

最近とみに災害発生頻度が高まっており、人々の不安感も増大しつつあります。そこで様々な憶測も流れ、不安感をあおる訳ですが、私達テレパシー講座を学ぶ者はそれら災害について冷静に考え直す必要があります。

その一つは不安心理が不安（恐怖）自体を増幅してしまうということです。想念は類似したものを集めますので、再びそれらの情報が周囲に寄って来ることもあります。更にはその恐れが逆に現実をそのように変えてしまうこともあります。想念の実現力に注意しなければなりません。

しかし、そうした中にあっても真実のテレパシー能力開発者は自らの印象として間近に迫った何かを「感じる」ことが出来るかも知れません。大抵の場合、その印象が正しかったかどうかは後日判明する結果で判断出来ます。言い換えれば、どのような感じを持ったかを記憶しておき、後日の結果と対比して正しい印象とはどのような感じのものであったかを学ぶという訳です。

いずれにしても、私達は目の前の自然ややって来る印象波から多くを学び、自らの生活に活かすことが求められており、これらの能力は草木や小鳥達の方が私達より数段高いことは確かだと思われま

339 We must remember that thought, or conscious knowledge, knows no limitation for the well-balanced, unfettered individual; and we must also remember that every action, and every mechanical stress of pressure, is the source of a radiated vibratory wave. An example familiar to us all is the knowledge required by a civil engineer to ascertain the stability of any mass of substance. He must be thoroughly conversant with mathematics, stress analysis, weight loads, pressures, etc. He must know the tensile strength of the materials used, the weights of those materials, and be able to estimate the pressure to be exerted upon the finished structure. He is, of course, dealing with established facts that have been acquired through years of experience and research; and given all the data, he can deduce the stability of any specific construction.

339 良くバランスがとれ、自由に開放された個人においては、想念や意識上の知識には際限がないことを覚えておく必要があります。また、私達はあらゆる行動とあらゆる機械的圧力の力点が振動波の源泉であることも覚えておく必要があります。私達に馴染みのある例として、物体の安定性を確かめる為に土木技術者が必要とする知識があります。彼は数学や応力解析、荷重負荷や圧力等々に完全に精通している必要がありますし、完成した構造物に加わる圧力を推定することが出来ます。彼はもちろん、またこれまでの何年もの経験や研究を通じて得られた確定した事実を取扱うことも出来ますし、すべてのデータが与えられれば、どのような特定の建築物でも、その安定性を推定することが出来ます。

【解説】

私達の行動により発せられる波動の源は各行動の際に生じる力学的な力に起因するという訳です。筋肉を動かす際に電気波動が出ることもこれに関連していることでしょう。行動には行動を起こす意思とそれが肉体各部に作用して具体的な身体の動きとなる訳で、それらの一つ一つのプロセスが何らかの波動を発しているということです。

本文中では世の中の構造物についてそれが成立する為には個別材料の剪断応力や全体としての力のバランスが不可欠であり、土木技術者はそれらをマスターしていることについて述べられています。物事を創造する為にはあらゆる知識が必要であることが述べられており、現実には万物が存在することの裏側には、このような知識が備わっているのです。

私達は今日、高層ビルや長大な橋、その他様々な文明社会の成果の中で暮らしており、各々の専門家が蓄えた知識の恩恵に浴しているのです。そして、今後、私達が更に知らなければならないのは、私達自身の身体の仕組みがその生命活動が如何に優れたものであり、それらが誰の力でそのように機能しているか、自身の内面を探求することです。

340 Yet no civil engineer, nor geologist, nor seismologist can predict earthquakes. Why? For the simple reason they are not in possession of all the facts relating to the earth. Yet these facts exist as absolute frequency data! For if they did not exist, there would be no cause to produce the eventual effect.

340 それでも土木技術者も地質学者、地震学者も地震を予測することは出来ません。何故でしょうか。それは彼らが地球に関しての全ての事実を保有していないという簡単な理由からです。しかしこれらの事実は絶対的振動データとして存在しています。何故なら、もしそれらが存在していないとすれば、そのいつかは起る結果（訳注：地震）を作り出す原因が無くなることになるからです。

【解説】

本項で著者が言う「Absolute（絶対的）」とは「間違いなく存在する」という趣旨で表現されているものと思われま。地中深く起こっている岩石と岩石のぶつかり合いは、今日では地震発生のメカニズムとして広く知られるようになりましたが、これは地球内部が文字通り活動していることを意味します。そして、その結果生じる地殻の変動は私達にとっては地震や火山活動として認識される訳です。

この地殻の活動の様子は地中深くからやって来る振動である地震波として私達は捕らえています。また、その振動から私達は何を理解すべきか、著者は私達に問い掛けているのです。

通常、私達は生じた地震波の記録を元に、震源の場所やその地震の原因を学ぶのですが、もし、事前にこれら極初期の振動を理解すれば、より多くの災害防止に役立てられるかも知れません。地球内部から来る様々な振動も、岩石から発せられたメッセージという意味でテレパシー感受の対象なのです。

341 For instance, geologists have discovered that a great earth fault lies along the Pacific coast of America, extending from Alaska to Mexico, and beyond. Varying pressures are being exerted here, and the earth around the fault has a certain strength of cohesion; but accurate readings of this are not ascertainable by the use of present day instruments. So although geologists know that this portion of the earth's surface is destined to move from time to time, producing earthquakes, because of their limited knowledge of actual conditions they cannot predict a definite date for these disturbances, nor can they estimate the severity to be expected.

341 例えば、地質学者はアメリカ大平洋岸に沿ってアラスカからメキシコ、更に遠くまで一つの巨大な断層があることを発見しています。変動する圧力がここで働き、また断層の周囲の地殻はある一定程度の結合力を持っています。しかし、この正確な値の読み値は今日の計器を用いては確かめることは出来ません。そのため地質学者はこの部分の地表は地震を発生させ、時折動く運命にあることは知っていても、現実状態に関する彼らの限られた知識の為に、彼らはこれらの変動の正確な日付を予想したり、予期すべき激しさについて予測することが出来ません。

【解説】

本項のテーマは現在、私達が最も関心を持っているものと言えます。過去、地球はこれら断層帯に沿って巨大な地震を繰り返し発生させて来ました。また、地殻自体が休み無く動き、大陸さえも長期の視点に立てば動いていることが知られています。またそれらはさほど遠い昔ではなく、生物が地上に棲息している中でもあった現象とされています。

現在、この地球は大きな変動期を迎えようとしており、これが1952年の砂漠のコンタクトをはじめとする一連の他惑星社会による支援プログラムの根本的な理由でもある訳です。

アダムスキー氏の三部作の一つであるこの「テレパシー」は、私達各人が本項に示すような地表深く起こっている地殻の動きを察知し、災害による被害を回避する為に示されたとも言うべきでしょう。頻繁に起こる大規模地震に対し、私達は自らの感性を高め、発生を予知して、被害を回避することもテレパシー実践の一つです。

342 However, complete knowledge of this, or any other circumstance, is possible through the feeling channel. When a person is sensitive enough to interpret the vibrations emanating from the earth, this information can be received as easily as a thought from another human being. They will then be able to estimate the pressures being exerted, and deduce the natural results to follow. The tiny atoms manifesting in the strata of the earth will share this knowledge with those capable of intercepting it.

342 しかしながら、このこと、あるいはその他の環境に関する完璧な知識はフィーリングの経路を通じて入手可能なのです。人が地球から発せられている振動を解釈できるほどに鋭敏であれば、この情報は他の人間からの想念と同様に容易に受信可能です。そうなれば加わっている圧力を予測し、来るべき自然の結末を推論することも出来るでしょう。地球の地層の中で創造を担っている微小な原子達はそれを傍受できる者にこの知識を分ち与えてくれることでしょう。

【解説】

地震を発生させる源である断層間のせめぎあいには莫大な力が加わっているものと思われます。それら地層に加わる圧力やそれらに伴う岩石も破碎がもたらす振動等を私達が感知出来れば、地表深く生じている変化等、地震に至るまでの経過について地表からでも知覚出来るものと思われます。

地中からは地震波のような振動も来るでしょうし、印象波の源となる想念波動も来る訳で、それらを把握出来れば地中における状況の変化を知ることが出来る訳です。しかし、このような振動の把握力については、人間よりは野性動物の方が遥かに勝っているものと思われます。

こうした地中深くから来る印象をよく感知した太古の人間は、それを地の神とイメージし、地鎮祭その他地球の安寧を地中の存在に願ったものと思われます。それに対して本文では、実際には個々の原子が印象波を発して知らせて呉れると説いているのです。

343 By observing the trend of human behavior during a change in atmospheric conditions, we have positive proof that chemical action does affect the cell consciousness. When the barometer drops a few degrees, many human mentalities drop with it. Any change in atmospheric pressures, such as those found at different elevations above sea level, influence the cell action of the body. This is noticeable to anyone, for the change of a few thousand feet will affect us all to some degree. As we climb higher, our heart action and respiration are speeded up, and at high altitudes physical exertion is an effort until the body cells make the necessary adjustment to the lighter atmospheric pressure with its accompanying lack of oxygen. Some people are so sensitive to this, that their bodies are aware of a change of only a few hundred feet.

343 大気の状態変化の間の人間の行動傾向を観察した結果、私達は化学作用は細胞の意識に影響を与えるという明確な証拠を得ています。気圧計が数度降下した時にも、多くの人間の思考状態はそれと一緒に低下します。大気圧のどんな変化も例えば海水面から異なる高度にある場合に肉体細胞の活動に影響を与えます。これは誰でも気付くことで数千フィートの変化は私達全てに影響を与えることでしょう。私達がより高く登るにつれて、私達の心臓の鼓動と呼吸は早まりますし、高い標高での肉体の消耗作用は肉体細胞が酸素欠乏を伴う薄い大気に馴れるまでの努力なのです。ある人々はこれに対し大変鋭敏で、彼らの肉体はわずか数百フィートの変化にも気付きます。

【解説】

わずかな気圧の変化にも私達の身体はその変化を感知し、適応力を発揮するという訳です。これは、私達の身体細胞がそれら微妙な変化を感知出来るということになりますし、その鋭敏さの程度は人によって大きく異なることが想定されます。

基本的な細胞の感受機能としてそれら外界環境の変化を認識し、また同時に必要な調整行為を行うという訳です。気圧の変化に対しては各惑星での異なる気圧に対しても自在に調整出来る能力を有していることはよく説かれるところです。

人体が多様な環境で生存出来ることは、極地に生きる人々や南米高地で暮らす人々その他、多様な環境の中で多くの人々が暮らしている事実から証明されています。

これら人体の対応力こそが大切なところであり、人類が自ら造り出したとは言え、様々な地球環境の中で行き続けられた理由でもあります。しかしながら、本来の自然環境は実に静寂で美しいものである点も強調したいところです。先日、久しぶりに梅雨明けの沖縄に行く機会がありました。青く澄んだ空の下、エメラルド色の輝く海を見つめると、元来手付かずの自然とはかくも美しいものであったかと感じ入った次第です。

344 We find that fog and cloudy weather produce a sense of mental depression in many people. Even the direction at which the sun's rays strike the earth will influence us all to some degree. During the winter our natural ability is slowed down; but with the first promise of spring a feeling of exhilaration surges through our body cells, and we take a renewed interest in life. Seismological disturbances produce a general feeling of restlessness; electrical storms affect the nervous system. Examples of this chemical action upon the cell consciousness are almost endless.

344 私達は霧や曇りの天気は多くの人達に憂鬱な感じを作り出すことに気付いています。太陽の光線が地球に当る方向でさえも、私達全てに何らかの影響を与えることでしょう。冬の間、私達の自然の活動は低下しますが、春のきざしとともに快活さが私達の肉体細胞の中に沸き上がり、私達は生命に対する復活した関心を持つのです。地震の揺れは一般的な不安のフィーリングを作り出しますし、電氣的嵐は神経系に影響を与えます。細胞意識に及ぼすこの化学作用の例はほとんど際限が無いくらいです。

【解説】

ここで重要なのは天候その他の影響は、直接心が受けるというよりは、私達自身の身体細胞がこれら外界からの影響を真っ先に受けた後、その身体細胞から発する印象から影響を受けていると説かれていることです。つまりは身体細胞の方がより鋭敏に外界からの影響を受けていることになります。

しかし、一般にはこれら自分の身体細胞が発する印象を私達はただ漠然と感じ取っているに過ぎません。何となく感じる程度に留まっています。しかし、この現象の奥には私達の身体各細胞が外界からの影響に対して鋭敏であり、その知りえた変化を私達の心に伝えようとしていることがある訳です。

このことを突き詰めれば、身体細胞からもたらされる印象という伝令言語を私達はより誠実に受け取ろうと努力しなければならないことが分かります。また、その延長上に、地中深く起こっている地殻変動その他の現象を感知する体制も生まれるものと思われます。身体内にある60兆個もの細胞が各々アンテナとなってあらゆる種類の波動情報を感知するという訳です。

345 Perhaps you have taken these reactions as a matter of course, attributing them to psychological rather than physiological sources. But the fact is, we cannot separate the two phases of expression; both are the result of chemical action. Any phenomena of sensation, whether it be a feeling of great joy because the sun is shining, or a pain in the stomach caused by eating some food for which the cells had no affinity, is the product of chemical reaction. In any channel of awareness, we cannot get away from the fact that we are living in a chemical universe. It matters little whether those chemicals manifest as a force, or as a substance.

345 おそらく貴方はこれらの現象を当然のごとく生理的というよりは心理的な源泉に起因する反応だと思って来たことでしょう。しかし、事実は私達はこの二つの表現の側面を分離することは出来ないのです。両者は共に化学反応の結果です。如何なる感情の現象も、それが太陽が輝いているが故の大いなる喜びの感じであっても、細胞に親和性が無く摂った食物によって胃に生じた痛みであっても、それは化学反応の所産なのです。如何なる知覚の経路であっても私達が化学的宇宙に生きている事実から離れることは出来ません。それらの化学物質が力として現れようと、物質として現れようと大差はありません。

【解説】

森の中のすがすがしさにはフィトンチットと呼ばれる木々から放出される成分が関係していることや、昆虫達の行動の源にはフェロモン等、微量な成分が関係していることが知られています。実際には、本文で述べられているように、私達の印象の源にはこのような化学物質が関係しているということでもあります。

私達自身の気分にも種々のホルモンが関係しますし、逆にそれを用いて精神疾患を治療する場面もあることでしょう。また逆に薬物依存によって実生活が破綻するケースも出てくることもあるのです。

このように私達は化学物質によって精神的にも影響を受ける訳ですが、だからと言って物質万能で良いとする訳ではありません。先ずはそのような身体の仕組みを知った上で、正しい道を歩むことです。その為には単に化学物質の効力を知るのではなく、それを生み出すより深い仕組みについて学び、物質に依存しない生き方を自ら構築することが重要となります。

346 It is realized that those trained to use superficial knowledge and book-learning will continue to deem such truths as fantasy. Those who believe that all problems must be solved either with pencil and paper, or by physical experiments, will find it difficult to accept the theory of a universal language that is capable of revealing all existing knowledge.

346 上辺だけの知識や机上の学問を用いるよう訓練された人達は、今後もこれらの真実を空想だと見なすだろうことは分かっています。あらゆる問題が紙と鉛筆、或いは物理的実験のいずれかによって解かれる筈だと信じている者は、存在する知識の全てを明かす可能性がある宇宙普遍の言語についての理論を受け入れるのは困難なことでしょう。

【解説】

現在この講座で私達が学んでいる事柄は、これまで地球上では教えられて来なかった言わば、真理の真髄とも言えるものです。従ってこれまで表立っては伝えられたことはなく、永らく埋もれていたものと言えます。

従って、この内容は通常の科学や常識の範囲を超えたものとされても仕方ありません。しかし、私達が従来行き詰まった状況を打破するには、このことを踏まえた上で何処にその違いがあり、何故私達がそれら要素を見逃して来たのかを探求する必要もあるのです。

人間は生まれながらにしてそれら想念・印象の感受性を有して来た訳ですが、年齢を重ねるにつれ、それら能力は封印され、やがては忘れ去られてしまったように思われます。しかし、真理は誰にも分かり易く単純なものな筈です。想念・印象の果たす役割を学ぶこと、自然の中での生命の営みを観察することで、私達はこうした想念・印象の作用の中に生きていることを理解することが出来ます。

347 To explain fully this universal force and its workings would be impossible: for it would demand a knowledge of Primal Cause. But whatever method was used to throw the Cosmic Force of the Universe out of its natural state of equilibrium, and set it into primal concentration or chemicalization, was also the beginning of thought.

347 この宇宙普遍の力とその働きを完全に説明しようとするのは困難でしょう。何故なら、それには原始の因の知識が必要とされるからです。しかし、自然の平衡状態から宇宙空間の宇宙的な力を取り出して、それを原始の密度状態、即ち化学処理に作用させる為に、どのような方法が用いられるにせよ、それはまた想念のはじまりでもあったのです。

【解説】

想念のはじまりとは私達が考えているような個人の勝手な考えや思いつきといったレベルのものでないことが本項の記述から良く分かります。

元来の想念、即ち物質に作用し、物事を発現させるような実効力のある「想念」は、その源を宇宙の原動力的なものに由来し、その作用は平衡状態にある物質界に作用して、その持つイメージの実現を図るものと言うことが出来ます。実はそれ程に私達が扱う想念・印象は元来、発現力を有しており、慎重に取り扱う必要があるのです。

しかし、私達は自身の発する想念を含めて、あらゆる想念・印象に対してこれまで重きを置いて来ませんでした。極一部の人々がその重要性に気付き、修行の一環として心身を正す訓練を行っていたに過ぎません。しかしこれからは、私達一般人が自らの進化の為に、これら想念・印象について基本原理を学び、かつ各自の実生活の中でその内容を活かすべき時代になっています。

348 Science, in its investigation of telepathy, has come to the conclusion that it is the result of a refinement of the sense organs, whereby they are able to pick up light or sound vibrations from a distance. But let us take a case in particular. A mental picture appeared to me of a conference between two individuals with whom I was acquainted. I saw the room in which the meeting was taking place very clearly, and the voices of both men were as distinct as if they were standing beside me. There seemed to be the greatest friendliness between them, and their transaction appeared to be of the most sincere and amiable character. But I became aware that a deception was being premeditated by one of the men.

348 科学はテレパシーを調査した結果、それが感覚器官を純化させ、遠方からの光や音を捕捉できるようになった結果であるとの結論に達しました。しかし、ある事例を特に取り上げましょう。私に私が知り合った二人の人物の間の協議の場面の映像が現れたのです。私にはその会合がもたれた部屋がとてもはっきり見えましたし、二人の男の声もあたかも二人が私のそばにいるように明確でした。彼らの間にはこの上ない友好的な雰囲気があり、彼らのやりとりは大変誠実で好意的な性質のものでした。しかし、私は彼らの内一人によってある策略が企てられていることに気付いたのです。

【解説】

本項で大変興味深いのは、著者アダムスキー氏が身の回りの人物に関して実に明確なビジョンを認知していたことです。実際には、本項に記載されている以上のことがあったものと思われます。たとえ遠隔地に居ても、遠く離れた場所で起こっていることを本文に記されているように明瞭に把握していたということでしょう。

即ちテレパシーとは現代科学による通常目や耳の感覚機能が研ぎ澄まされるというだけのものではなく、あくまで印象による知覚であり、距離に関わり無く知覚出来る能力だという訳です。

私達の心の中で発する想念は実は距離に関わり無く関心を持つ者であれば誰にでも感知されるということでしょう。それ程、心の作用というものは大きな影響を及ぼすということでもあります。私達は常にこれら同期する印象に鋭敏であることが必要であり人生のヒントはいつでも与えられるということでしょう。私達が創造主に関心を持っていれば、創造主は私達に時々適切な指導の言葉を授けてくれるからです。

349 Why did this idea come to me? I received the impression because the man in question, although deliberately saying one thing, was unconsciously broadcasting the scheme he had in mind, The other man, depending upon his auditory organs for enlightenment, believed the words he heard spoken. But because I was able to receive the transaction through the feeling channel, I discovered the deception. I revealed this impression to the intended victim, enabling him to take the necessary steps to guard against the fraud.

349 何故このアイデアが私にやって来たのでしょうか。問題の男が巧妙に一つのことを言っているにも拘わらず、無意識に自らの心の中に持っている企てを発信していた為、私はその印象を受信したのです。もう一方の男は光明を求めるのに自らの聴覚器官に依存していたため、その男が話したのを聞いた言葉を信じていました。しかし、私はフィーリングの経路を通じて両者のやりとりを受信出来ていた為、その策略を発見したのです。私はこの印象を意図された犠牲者に明かし、彼にその詐欺に対して身を守る必要なステップを取らせることが出来ました。

【解説】

本事例で重要なのは悪事を企む者がそのキレイ事の発言と同時に発してしまった本当の狙いを示す想念を、テレパシー能力者には隠し通すことは出来ないということです。即ち、実生活において、私達が開発を進めるテレパシーは随分と役立つものであることが分かります。

一方で、このことは想念・印象の伝達・感受は目や耳という既存の感覚器官ではない別のルートから寄せられることが分かります。既存の感覚は所詮、表面的な事象しか取り扱うことが出来ない訳です。しかし、真実はこの想念・印象の世界にあると言える訳で、私達は想念・印象を第一に生活して行く必要があります。一歩先が分からない混沌とした世の中であるが故に、自ら得た印象を拠り所として生きて行く必要があるのです。

今のところ、これらを秩序立てて教えて呉れるところはありません。私達地球人側の問題も多いのですが、加えて他の様々な妨害勢力も横行しているように思えます。私達は自らを教師、学習事例として各自工夫しながら、本来の道を切り開いて行く必要があります。

350 What was it that enabled me to receive the thought of deception in this particular case? It was not the eyes or ears, for the meeting took place in another city, some distance from me. Was it the brain? No. The brain is merely a transformer and amplifier within the body. While it is true that any vibration striking the body is carried to the brain to be transformed into conscious perception, the actual reception of that vibration does not depend upon the brain, but upon the element of feeling within the nerve plasm of the body. This element is that positive nuclear spark, or soul, of the atoms composing the physical body. So the thought of deception came to me through the feeling channel.

350 この事例で私に策略の想念を受信させたのは何であったのでしょうか。それは目や耳ではありませんでした。何故ならその会合は別の都市、私の所からはかなり離れた場所で行われたからです。それでは頭脳であったでしょうか。いいえ。頭脳は身体の中の変換器や増幅器でしかありません。いかなる振動も頭脳に運ばれ意識的な知覚に変換されることは真実ですが、実際の振動の知覚は頭脳に依存せず、身体の神経原形質の中のフィーリングの要素に依存しています。この要素は肉体を構成しているプラスの核のスパークあるいは魂のことです。ですから策略の想念はそのフィーリングの経路を通じて私にやって来たのです。

【解説】

本項ではより具体的にどのようにして印象が感知され、認識されるようになるかを本講座ではじめて言及しています。即ち、私達が印象を感受するのは目や耳という既存の感覚器官ではありません。しかし、それは何か別次元のような神秘的な感受性でもないという訳です。私達の全身くまなく張り巡らされている神経網がそれら印象を感知し、伝達するものだと説いていることに注目しなければなりません。

人体の神経細胞はいわば全身の見張り役です。通常は細胞の異常や異物の侵入を監視する訳ですが、もっと大きな意義として想念・印象の感知ということがあることとなります。

全身に分散した各細胞は感知した様々な情報を瞬時に脳に伝達し、その脳で言葉その他の表現に変換されるという訳です。私達がこれまで自らの心を柔軟に保ち、あらゆるものに関心を持つよう勧めて来たのは、全てこの神経細胞の生長に繋がっているのです。

351 We have shown earlier how emotions affect not only the brain, but the body as a whole. Every cell composing it reacts to the thought. So in the case of the above mentioned mental picture, the thoughts of deception in the mind of the man produced certain chemical changes in the cells of his body; and impressions from his body cells alone could have been received. However, in this particular instance, the thought actually passed through the brain-amplifier, and therefore created more forceful waves in the mind-element of space. These waves exerted definite pressures around innumerable people, yet they were ignored. One person-myself, in this case-being in a state of receptivity, became aware of this pressure acting upon my body, and allowed the transmission of it to register upon my brain without interruption.

351 私達は以前、どのようにして感情が頭脳だけでなく身体全体に影響を与えるかについてお示しました。身体を構成しているあらゆる細胞が想念に反応するのです。ですから、上述した心の映像の場合、その男の心の中の策略の想念は彼の身体の細胞に何らかの化学変化をもたらしました。ですから彼の肉体細胞からの印象だけでも受信は可能だったのです。しかし、この事例の場合には、その想念は実際に頭脳増幅器を通った為、宇宙空間の心の要素の中により強力な波動を創り出しました。これらの波動は無数の人々の周囲に明らかなる圧力をもたらしましたが、人々は無視したのです。この場合、私一人が感受出来る状態であったため、私の身体に加わるこの圧力に気づき、その圧力を妨害することなく、私の頭脳へ伝え、登録させたのです。

【解説】

本項でのポイントの一つに身体細胞自身が本人の想念に大きく影響を受けるということが挙げられます。即ち、自らの想念は真っ先に60兆個もの自身の細胞にこそ最も大きな影響を与えるということです。このことは自身の体調その他身体の状況がどれもなおさず本人の心境を反映したものであると言えます。

もう一つは発せられた想念・印象は空間中に瞬時に伝播され、他の者にも容易に認識されるということです。その内容が本人の脳に伝達され、具体的な内容として表現された後は更にその威力は大きくなるということも重要な部分です。

私達はこのように日々想念が飛び交う海に生きている訳で、良くも悪くもそれらの影響を受け、また知らず知らず他者に影響を与えながら生きていることとなります。

352 It is possible for the sense organs to be so sensitized, or refined, that they are capable of intercepting vibrations from a great distance, or they may receive higher frequency vibrations than can be heard by the normal individual. We are all aware that both our sight and hearing are limited to a very short range, compared to what our scientists know is possible. Yet, occasionally, individuals are born with exceptionally keen sight, or acute hearing; enabling them to see much greater distances, or hear higher or lower pitch frequencies than the average. But these are physical attributes. Two good examples are to be found in the bird and animal kingdoms. The bird, with its microscopic eyes can detect the movement of tiny life forms from high in the air. The silent dog whistle familiar to us all, is pitched too high to be audible to human ears, yet canines respond immediately.

352 感覚器官が鋭敏にされ、あるいは純化されることで遠距離からの振動を傍受したり、普通の人間が聞こえるよりも高い振動数を聴くことができるというのはあり得ることです。私達は皆、私達の視覚や聴覚は私達の科学者が可能だと知っている範囲と比べて大変狭い範囲に限られています。それでも時折、例外的に鋭い視覚や鋭敏な聴覚を持って生まれた人々もあり、はるか遠くが見えたり、平均より低い音律を聴くことができます。しかし、これらは肉体の属性です。二つの良い例が鳥と動物の世界に見出すことができます。鳥はその顕微鏡的な眼で上空高い所から小さな生き物の動きを見抜くことが出来ます。私達皆に馴染みのある無音の犬笛は人間の耳には高過ぎて聞こえませんが、犬達はそれにただちに応答します。

【解説】

今でも野生動物の世界では、人間には到底及ばない目や耳等の能力が報告されています。上空遙か彼方から地上を見張る鷹の目や、人間の鼻では感知出来ない極微量の臭気を犬は容易に嗅ぎ分け、犯人の足取りを追跡出来る警察犬等、枚挙にいとまありません。

これらは私達動物に備わっている既存の感覚器官も、その本来の能力は私達の想像以上に優れたものであることを意味しています。

更に加えて、想念・印象に対してもこれら既存の感覚器官が反応出来れば、それらの持つ振動を目からは映像に、耳からは音声として再現出来るのかも知れません。丁度、テレビやラジオ受信機としてです。その結果は、単に漠然として印象のみならず、より具体的で鮮明なメッセージとしてオリジナルの想念を再現出来るかも知れません。

私達の日々のテレパシーに関する生活を豊かにする為にも既存の感覚器官についても訓練することは大変、望ましいことと言えるでしょう。

353 Through millions of years of evolution, man is endowed with physical senses and a faculty for reasoning; and he has come to depend solely upon these avenues of perception. But what of nature? Does it possess the faculty of reasoning? Is it endowed with the organs of sight and hearing, taste and smell? Does the tiny seedling germinating in the warm, dark bosom of the earth use recognized sense perceptions to decide which chemicals to extract, and which to reject for proper growth?

353 何百万年もの進化の間、人間は肉体の諸感覚と論証の能力を授けられて来ており、これらの知覚経路のみに依存するようになりました。しかし、自然はどうでしょうか。自然は論証能力を持っているでしょうか。視覚や聴覚、味覚や嗅覚を授けられているのでしょうか。大地の暖かく暗い懐の中で芽を出している小さな種は、適切な成長の為にどの化学成分を抽出しどれを拒絶するかを決定する為に感覚による知覚を用いるのでしょうか。

【解説】

私達人間はこれまで肉体の感覚と論理性を拠り所として発展を遂げて来た訳ですが、そろそろそこにも限界が来ているという訳です。今後の発展進化には別の要素、即ち印象・インスピレーションを活用した生き方が必要だと著者は説いているのです。

実はこの能力、既に植物その他人間以外の生きもの達の間では、太古の昔から活用され、自らの生存に無くてはならないものになっています。私達は彼らの生き方を学ぶ中でその応用法を身に付ける必要があるのです。

その為には、先ず日頃の自らの判断根拠に自ら得た印象を置くことだと思っています。最初の内はもちろん誤りも多く失敗もあるでしょうが、他の生きものが過酷な自然環境の中にあってもこれから来る天候変化を予測し、備えることで世代を越えて生き続けている状況を良く観察し参考とすることです。まさにこれから先は各自それぞれが宇宙を旅する存在になる筈で、本講座は知識の基本編を説くに過ぎません。

354 No! The plant, the sea, the air, and the minerals of the earth have no faculty of independent reasoning. However, they possess the same natural guidance that causes human forms to be receptive to changes of conditions, for they contain the feeling element. Therefore, atmospheric and other conditions affect them just as they do humans; and they respond without question. For the same Life Force known as the Breath of Life in man, flows through their forms.

354 いいえ。植物や海、大気や地球の鉱物は独立した論証能力を有していません。しかし、彼らは人体が状態の変化を受容出来るのと同じ自然の導きを有しています。何故なら、彼らはフィーリングの要素を持っているからです。それ故、大気やその他の状態はそれらが人間に与えるのと全く同様に彼らに影響を与えますし、彼らは疑いなくそれに応答します。何故なら人間において生命の息吹きとして知られる同じ生命力が彼らの体の中にも流れているからです。

【解説】

テレパシーの基本にあるものは、地球上にあるありとあらゆるものが有している生命の息吹 (the Breath of Life)に他なりません。実は生命があるということは、とりもなおさず印象・想念をやり取り出来ることになるのです。

しかし、これまで私達地球人は肉体の四感覚に全てを依存し、目に見え耳に聞こえる結果の世界のみが存在する唯一のものと見做して来ました。その結果、一部の芸術家や達人を除いて、想念・印象・インスピレーションが行き来する世界に気付くことなく、人生を終えていたものと思われず。

私達は目をつぶり、耳を塞いでもなお、外界の状況を知ることが出来る基本的な機能を有しているのです。実は身体内部の各組織は目や耳とは関わり無く活発な生命活動を行っています。その基本的なフィーリングという径路が、想念・印象を伝達し、また発しているということでしょう。先の段落

【350】ではそれらを神経細胞網として説かれておりましたが、今回の生命活動はその神経細胞の活動と極めて近い関係があるものと思われず。

355 The human being is the most highly organized and sensitized instrument of manifestation. He is therefore most capable of tuning in to the lesser vibrations, objectifying them, and rebroadcasting them into the universe as higher expressions. We cannot help being affected by the varying frequencies of the chemical universe in which we live, nor can we help affecting others by the thoughts we send forth into the mind-ether of space. We need only to become aware of such relative currents to make use of these facts.

355 人間は最も高度に組織化され、鋭敏化された創造の道具です。ですから人間はより下位の振動に同調させ、それらを客観化し、それらをより高次の表現物として宇宙空間の中に再放射することが出来るのです。私達は私達が住む化学的宇宙の変化する振動によって影響を受けざるを得ず、私達が宇宙の心のエーテルの中に送信する想念によって他者に影響を与えざるを得ません。私達はそれらの事実を活用するためには、それらの相対的な流れについて気付くようになるだけで良いのです。

【解説】

本項は私達自身の宇宙における作用について、更にはその宇宙から日々影響を受けるという相互作用について説かれています。

おそらくは私達人間が他の生きもの達の想念・印象を拾い上げ、それらを更に大きく高次の想念波動に増幅して宇宙空間に発するという事もあるのでしょう。仲介者としての役割です。実はそれ程にテレパシーに関する私達人間の能力は高いと言えるかも知れないのです。

また、同時に私達は宇宙から来る想念・印象にも大きく影響を受けています。微弱な想念・印象を感受した後、それを認識、発展させて力強い信念として再び宇宙に送り出すという機能も私達人間に期待されているところです。

356 If a man was submerged in a tank of water, he would influence and be influenced by the relative pressures existing between his body and the water mass. The same is true when dealing with the sea of the universe. For as surely as the law works in the coarser fields of manifestation (in this case the water), so it works in the finer. And what is the atmospheric, or etheric vibrations, but the pressure of life? The sooner we get away from our beliefs in mystery and superstition, the sooner we shall become the Knowers of Life in its fullness.

356 もし人が水槽の中に沈められたら、彼は自分の身体と水本体との間に存在する相対的な圧力に対し影響を与え、また影響を受けることでしょう。宇宙空間の海についても同じことが言えます。何故なら法則は粗い創造の場（この場合は水）で働くのと同じく、より精妙な場についても同様に働くからです。また、大気やエーテルの振動、否、生命の圧力についてはどうでしょうか。私達が神秘や疑いに対する思い込みから離れ去るやいなや、私達は生命の完全なる知者になることでしょう。

【解説】

私達が想念の海の中で生きているという実感は、丁度水中において全身が水圧を感じるように全身で感じるものと説いています。つまり、印象は私達の身体全体で感知するものであり、宇宙と直接、私達の身体が接していること、その結果、相互に直接影響を及ぼし合っていることが重要なポイントです。かつて大本教の出口王仁三郎(1871-1948)が周囲の者に全身で感じる歓びという表現をしたとされることを思い出しました（「巨人出口王仁三郎」）。本来、本項の内容はそれ程歓びに満たされた状況を示すものと言えます。

従来、私達は目や耳という特定の感覚器官を唯一の窓として外界からの情報を得ていましたが、実際には私達の全身が宇宙とつながっていて、常に相互に影響を及ぼし合っている訳で、必要な知見、ヒントは常にアクセス出来る環境にあるのです。

しかし、この恵まれた環境も私達はそのことに気が付かなければ、活用することは出来ません。自分が独りであると考えたり、たまたま思い通りの結果が得られなかっただけで、自らの境遇を嘆いていては、せつかくの恵まれた境遇も台無しです。私達はこの恵まれた環境を如何に活用し、本来の自身の役割を果たして行けるのか、本腰で取り組むことこそ求められています。

357 During the past centuries Earth man's progress has been chiefly in mechanical fields. Every universal principle of which he has become aware, he has expressed in mechanical terms. And in man's earnest effort to acquire greater knowledge, he has forgotten to develop the one instrument that is capable of leading him to such knowledge.

357 過去何世紀もの間、地球人の進歩は主に機械分野においてでありました。彼は気付くようになった宇宙普遍の法則全てを機械的な用語として表現して来ました。そしてより偉大な知識を得ようとする真面目な努力の中で、彼はこのような知識に自らを導く可能性のあるその道具を発達させることを忘れてしまったのです。

【解説】

これまでの人類の進歩は主に機械文明の分野であったと著者は指摘しています。これは地球における過去のいくつかの文明の中で現代文明を評しての著者の言葉ということになります。

自動車の自動生産、食品加工の自動化等々、私達は文字通り機械文明の恩恵を受けて生活しています。

しかし、これらを越えて更に深遠な知識を得て、物事の背後にある仕組みを理解しようと私達は努力を重ねる中で、私達自身が想念・印象の分野で既に常時宇宙と繋がっていることを忘れたまま答えを自分の外に求めている問題点を本項は指摘しているのです。

この本来、自らに備わっている「道具」は発展させることが出来れば、他の生きものと同じように厳しい環境の中にあっても何らの懸念もなく、日々の暮らしを楽しんで行ける自信（信頼）を宇宙に対して持つことが出来る筈です。

358 One day, by means of this human instrument upon which we look so condescendingly today, we shall produce miracles of manifestation such as our world has never known. But recognition of its telepathic potentialities must come first. A definite self-training program must then follow if we ever hope to place these divinely created bodies on the same level as the mechanical devices we now deem so miraculous. There exists such a vast scope of working possibilities in the area of mental and psychological development, that the adventurous soul need have no fear of running short of fields to conquer.

358 いつの日にか、今日私達がそれほど腰低く見上げるこの人間の道具を用いることによって、私達は私達の世の中がこれまで見たことのないような創造の奇跡を造り出すことでしょう。しかし、そのテレパシクな潜在能力に対する認識が最初になければなりません。もし私達がこれら神聖に創造された肉体を私達が今日奇跡だと考える機械装置と同じレベルに位置付けるなら、確固たる自己訓練計画が次に続かなければなりません。心や心理学上の発達分野には広大で実際に役立つ可能性が存在しており、冒険好きな魂にとって征服すべき分野が不足する心配はありません。

【解説】

これからは私達自身の肉体をテレパシーの媒介装置として発展させることだと著者は私達に説いています。他に機器等必要なく、自身の身体に全ての機能が備えられているからです。そしてその活用成果はこれまで見たことの無い程、素晴らしいものになるとしています。

各自の放つ想念・印象が創造力を備えていることについて私達はこれまで学んで来ましたが、その具体的発動について、今後各自が応用するに連れ、現実化するものと思われまます。

かつて金星旅行記や土星旅行記でアダムスキー氏が見た光景は、芸術性と機能性が一体となった建造物群でしたが、それらの街の美しさもこの作用の延長線上にあるものと思われまます。街はそこに暮らす者の精神性を反映すると思うからです。

既に私達はテレパシーの基本原則について学んで来た訳ですから、今後はそれを各自の工夫を踏まえながら、実生活に適用、応用すべきなのです。

359 When we understand our bodies, control our senses, and open our minds to the flow of universal knowledge, true clairvoyance, clairaudience, and all the rest will develop naturally within us. But when we have grown to the place where these perceptions do unfold, we will have developed beyond personal desires. Our interests then will lie in universal revelations.

359 私達が自身の肉体を理解し、感覚を制御して自らの心を宇宙普遍の知識の流れに開放する時、真の透視、透聴またその他の能力が自然に私達内部に発達することでしょう。しかし、私達がこれらの知覚作用が花開く場所に到達した時には、私達は個人的な願望を越えて発達していることでしょう。私達の関心はその後は宇宙普遍の創造の現出にあることでしょう。

【解説】

私達自身がテレパシー能力開発に関わる全てであるという訳です。自らの心を鎮め落ち着かせた後、肉体細胞を通じて感知される想念・印象の声を聴きながら少しずつ進歩することで、いつの日か本項で述べられているような状況に到達するものと言えるでしょう。

問題は長い道程だからと言って、歩みを止めたり、横道に入らないことです。これまでの経験上、物事は意外に早く結果に到達するものです。積み重ねることだけが最後のゴールに導く訳です。

私達の周囲には60兆個もの肉体細胞、言わば私達各人を助ける臣下が居て、私達を守って呉れています。私達はそれら臣下を食事や心の状態を正常に保つことで養い育むと同時に、それらからもたらされる報告に耳を傾け、因なる宇宙を理解しようと努めなければなりません。それから以後は私達が想像する以上の全く異なる展開、進化の飛躍が待っていると著者は説いています。

360 When we analyze life closely, we find it conforms rigidly to immutable laws. For all its apparent complexities, life is the soul of simplicity.... a symphony of harmonious, synonymous motion. We also will find that the inspiration for the first investigation came from some vestige of existing fact which impressed itself upon human awareness. So we must admit the reality of a language that is accepted, and acceptable, to the animate and the so-called inanimate. It is the soul of all action, all substance, and all force.

360 私達が生命を詳細に分析する時、私達は生命が不変の諸法則に厳格に従っていることを発見します。何故なら、その外見上の複雑さにも拘わらず、生命とは平易さの真髄、調和があり、同調した活動の交響曲であるからです。私達はまた、その最初の研究は人間の知覚作用に印象づけられた実在する事実の痕跡を元になされるようになったことを知るでしょう。ですから、私達は生き物にも、いわゆる無生物にも受け入れられた、あるいは受け入れられる、ある言語の存在を認めなければなりません。その言語は全ての活動、全ての物質、全ての力の真髄なのです。

【解説】

印象という形式の言語は生物・無生物に関わらず共通の言語です。即ち、想念・印象はあらゆるものと交信出来、相互に意見を述べ合うことが出来る訳です。一見したところ多様、多岐にわたる形態をとる生物ですが、細胞一つ一つには驚くべき共通点があります。

本項では細胞レベルにおける共通性とそこから発せられる想念・印象波が全ての共通の言語になっていると説明しています。

本章では透視や予知その他のテレパシー能力について学んで来ましたが、自身がそれら想念波の受け手となり、またそれらを自らの心で再現増幅することで、宇宙に再び反映、反射する役割を持っていることに注意したいものです。想念・印象こそが全ての活動の源であり、その良質な想念・印象を祈りや実践行動の中で宇宙に放出させるのが私達テレパシーを学ぶ者の役割になります。

CHAPTER IV

Thinking Versus Reasoning

361 Thinking is neither toil, nor stress, nor strain. Rather, it is the ability to allow thought action to take place in an unobstructed manner; and the power of observing its path to travel.

第4章 思考と推論

361 思考とは労苦でも重圧でも緊張でもありません。むしろ邪魔されることなく、思考行動が起こせるようにさせて置く能力、その流れが巡る道筋を観察する力なのです。

【解説】

私達は物事を考える時、その実際の作用は解決策自体を考案しているというよりは、自身の心を鎮めて周囲から発せられている解決に向けての想念・印象の存在を探っているような動作なのだと思います。

思考という活動自体に解決策を作り出す機能はなく、既に提供されようとしている解決策に気付くよう、また先々の進め方について整理しているという訳です。

実は長年、私達が問題を解決できずにいるのは、解決に向けて一歩踏み出すことが出来ないで、問題ばかりを先送りして事態を深刻化させてしまっていること、更にはその状況に惰性的に留まっているからに他なりません。

何事もまずは問題に取り組む意思や意欲が必要で、思考過程の中で実際の問題点を整理できれば大抵の問題はその段階で解決したと言って良いほど、ゴールに近づいているように思います。

362 Dr. Nicholas Murray Butler once said, "All the problems of the world could be settled easily, if men were only willing to think." He might rather have said, "If men only knew how to think!" This is the great lack in our educational system of today; our young men-to-be are not taught how to think.

362 ニコラス・マレイ・バトラー博士はかつてこう言いました。「世界中の全ての問題は、人間がただ喜んで考えようとするだけで簡単に解決されるだろう。」彼はむしろ、こう言いたかったのかも知れません。「ただ人間が考える方法を知ってさえいれば」と。このことは今日の私達の教育システムにおける大きな欠陥なのです。私達の将来若者となる者が考える方法を教えられていないのです。

【解説】

私達の日常は、表面的な事象や他人からの評価、結果に対する不安に多くを奪われ、満ち足りた心境を維持することは難しいようです。しかし、これらを放置しておくことは決して良いものではありません。毎日、充実した生活を楽しむ為には、常に心をオープンにし、外部から来る印象を的確に把握し、実生活に活かす必要があります。

そこに至る過程の一つとして思考がある訳で、問題に関わる様々な側面を整理する中で、根本的な問題を抽出し、関連する解決策に関する印象の有無を探索することになります。

しかしながら、これら重要な真の思考プロセスについて具体的な指南書は見たことはありません。本項で説かれている具体的な内容、工夫点については各自自ら開発し、成功事例を蓄積する中で編み出すことが求められています。

363 There is a vast difference between true thinking, and the misguided faculty of indiscriminate reasoning. Only two planes of life have the power of reasoning - animals and human beings. While as far as we know the vegetable and mineral kingdoms are devoid of reasoning, and the animal possesses this faculty only to a limited degree, all three planes of life manifestation respond to pressures without resistance. Because of his ability to reason, we have believed man to be the highest type of life on this planet. But actually, indiscriminate reasoning has so perverted his capacity to think universally that in many ways man is much lower than mere plant life. For plant life accepts and acts upon the impulses of nature, without questioning life's purpose.

363 真の思考と見境のない誤って導かれた推論との間には大きな相違があります。生命の内2つの平面、動物界と人間だけが推論の能力を持っています。一方、私達が知る限り、植物や鉱物界には推論は欠いており、動物もこの能力をただ限られた範囲に持っている一方、これら3つの生命の創造の平面は全て抵抗なく圧力に応じます。その推論の能力の故から、私達人間がこの惑星上で最も高位であると信じて来ました。しかし実際には、見境のない推論は人間の宇宙普遍に思考する能力を誤らせ、多くの場合、人間は単なる植物の生命より低次に置かれています。何故なら植物は自然の衝動に対し、受け入れ行動するからです。

【解説】

私達は本分の "indiscriminate reasoning (見境のない推論)" について、著者が何を説こうとしているか、よくよく考える必要があります。文中からも植物や鉱物はそれら "reasoning (推論)" という機能を持たず、印象波が到達して生じる体細胞への圧力変化を無条件で受け入れるとしています。

即ち、それら2つの王国に属するものは自らの意思を持たず、何ら詮索 (reasoning) することなく受け入れるという訳です。一方、動物には多少、自ら判断する機能が備わっており、人間は自由に推論を重ねることが出来るのです。

しかし、自由に物事を考えられることは好いことですが、それが真実から離れていては何らの成果は得られないこととなります。得られて印象のスパークから何を導き出すのか、その印象の意味を誠実、端的に受け入れようとするのが重要で、やたらに詮索する姿勢は単なる心の興味に過ぎず、問題解決を遅れせるものです。

今後、私達がテレパシー能力を実践する中で、最初に出会う課題は、様々な側面を持つ印象が数多く入って来る中で、それらに対し興味本位で取り扱ってはならないことを、著者は本項で説いているように思います。

364 Everything in the universe works under the Law of Affinity ... therefore, thought will draw to itself its own kind. If a mind is tuned to particular thought station and the tuning apparatus is not tampered with, it will receive the entire thought program. All that is necessary is for the mind of the recipient to remain quiet until the thought is completed.

364 宇宙の中のあらゆるものは親和の法則の下で働いています。従って想念はその種の想念を引き寄せることとなります。もし、心が特定の想念発信局に波長を合わせ、チューニング装置が壊されていなければ、それは全体の想念番組を受信するでしょう。受信者の心にとって必要なこと全ては、その想念が完了するまで静かにしていることです。

【解説】

親和の法則 (Law of Affinity) は、似たもの同士が互いに引き合うということで、あらゆる側面に成り立つとしています。実に私達が存在する肉体自身の細胞の構成から人々の仲間関係、更には地殻の結合に至るまで、あらゆる側面でその現れを見るべきでしょう。

想念も同じ訳で、私達が日常関心を持つテーマが、そのまま同種の他の想念に同調し易くなる訳です。自分自身が良質な想念を維持して行けば、それは即ち宇宙くまなくこの親和の法則の下、発せられた同種の想念に巡り合うことが出来るということでしょう。

即ち、何らかの課題についてその答えを探索する時でも答えを宇宙に求めれば、またたく間にして、広大な宇宙の中、この法則により必要な想念・印象が探索されて、自身がアクセスし易くなるということでもあります。丁度インターネットの検索で求める情報が瞬時に膨大な情報の中から類似した内容を持つものが利用者に提供されるのと同様です。私達はこの恵まれた環境であるテレパシーを自身に生かさなければ、実にもったいない限りです。

365 True reasoning is the faculty of recognizing sequence, which gives a purpose to life. For instance, when one turns his attention to a certain phase of thought, it is necessary for him to perceive whether he is holding to that particular phase. He should not allow his interest to wander toward, or rather be impressed by, other phases which are of a similar nature. For example, if a person received the idea of constructing a baby carriage, he may hold to the original thought flow until the element of motion is beginning to take shape in the image state; then let his attention wander and allow a thought of a similar type to slip into his mind. When the product is finished, and he stands back proudly to survey his handiwork, he discovers he has put rockers instead of wheels on the carriage. He had followed the original impression perfectly to the point where movement entered. He did not achieve one means of motion—the infant can be lulled to sleep; but he did not accomplish his original plan of making a means of conveyance. The general construction of the two objects is similar; and reasoning, that power of recognizing the sequence of ideas, should have told him he had lost the trend of thought.

365 真の意味の推論は連続したつながりを把握する能力であり、それは生命に目的を与えます。例えば人が自分の注目をある想念の側面に向けた時、その人は自分がその特定の側面をしっかりと掴んでいるか把握することが必要です。その人は自らの関心をふらつかせたり、類似した性質のある他の側面から印象を受けたりすべきではないのです。例えば、ある人が乳母車を作ろうというアイデアを受信したとすれば、彼は衝動の要素がイメージ状態として形を形成するまでは元の想念が流れるのを保持しているかも知れません。次には自分の関心を放浪させ、似たタイプの想念が自分の心の中に滑り込むことを許してしまいます。作品が完成した時、そして彼が誇らしげに彼の手作業の作品を吟味する時、彼は車の車輪の代わりに揺り足を付けてしまったことに気付きます。彼は衝動が入って来た時点では元来の印象に完全に従っていました。しかし、彼は運動の手段を達成することは出来ませんでした。赤ん坊は眠ることは出来ますが、運ぶ手段という元来の計画は達成しませんでした。この二つの物の一般的なつくりは同じですので、アイデアの連続したつながりを認識する力のある推論は、その者に想念のつながりを見失っていることを伝えるべきであったのです。

【解説】

受けた印象もそのまま何ら躊躇なく実行することは、植物や鉱物の世界ではそうでしょうが、動物、とりわけ人間の場合には、そこに本項ではreasoning（推論）と称される、そもそものその印象に対する診断が行われるように解釈出来ます。感受した印象が本当に自分の求めているものかどうか、或いはその想念が自分にとって有効なのかということ診断する機能です。

この診断が誤っていると、類似はしていても、今回の事情には役に立たない知見もあり得るからです。丁度、前項の解説で申し上げたように、インターネットの検索結果の全てがニーズに合致しているのではなく、そこから吟味して必要な情報に辿りつくのと似ています。

次々に移り変わる一連の過程について、情報（想念・印象）の変遷を見守る必要があり、これを著者は真のreasoning（推論）であるとしているのです。

366 In the preceding illustration we may safely say that after a certain point, reasoning was not used at all. When this happens it is usually due either to an untrained will, or to just pure mental laziness. Admittedly it is a ludicrous example, but similar examples on a smaller scale occur in our lives daily. Controlling the reasoning mind is what we meant when we spoke of "stilling" it. If we will make it our servant rather than our master, we will not put rockers on our baby carriage of life.

366 前述の事例では、ある時点以降、推論は全く使われていなかったと言えらると思ひます。このようなことが起る時は、大抵は訓練されてない意思であつたり、単に単純な心の怠慢のどちらかが原因です。前述の例は明らかに滑稽な事例ではありますが、同様な例は私達の生活の中ではより小さな規模で日々起っているのです。推論する心を制御するということは、私達がそれを「鎮める」と表現する際に意図するものです。もし、私達が心を主人としてではなく、召使にするようになれば、私達は人生の乳母車に揺れ足をつけるようなことはなくなるでしょう。

【解説】

本項で少し注意して戴きたいのは、著者はreasoning（注：日本語訳としては一般に"推論"と訳されますが、本来適切ではないのかも知れません）そのものは、良くないものとして取り扱っていない点です。前項（365）の解説でも述べましたが、感受した想念・印象に対する各々の関連性を診るという意味合いで用いられています。

この診断は実は心が担う為、そのチェックを怠っていると前項のような誤った結果に導かれてしまう訳です。

この問題を回避する為に必要なことは、心が冷静な診断が出来るように心を鎮め統制することだと説いています。瞑想をするとかという行動はそのことを目指しているということになります。しかし、ここでも重要なことは、心は診断はするものの、決してそれを自らを高め本人自身を導くような能力は持つておらず、あくまで本人の支援補助者であるということです。

367 Another instance of perverted reasoning can be found in a group of students listening to a class lecture. Some will absorb what they hear, and at the end of the session will be able to repeat almost verbatim the material presented. They will recognize the logic and lucidity of the subject, and can summarize all points coherently.

367 もう一つの混乱した推論の例は、教室での授業に耳を傾けている学生の一団の中に見出せます。ある者は自分達が聴いたことを吸収し、授業時間の最後には提示された材料をほとんど語句を暗唱するほどになるでしょう。彼らはその本題の論理と明瞭さを認識し、全ての要点を理路整然と要約することが出来るようになります。

【解説】

本項等で説かれている"reasoning"について、もう一つの具体例を著者は示しています。

本項で記されている事例は、多くの方が学生時代に体験しているものと思われます。本項（367）に記述されている部分は、通常の、或いは妥当な心のありようを示していますが、次項（368）については問題を提起している訳です。

私達が日常、次々に感知する印象は、丁度、本項で示されるような授業のようなものと著者は示唆している訳です。一度に全ての知識が伝達されるのではなく、ある時間経過の中で次々に情報が与えられるということでしょう。関連して次々に印象が入って来るとのことです。その一つ一つの情報を、一方では正しいつながらりであることを診断しながら、その伝えようとするイメージを大切に取り扱い、受け入れることで、最後には全体像を理解するという訳です。

368 Other students will grasp one statement that does not coincide with their preconceived ideas, and shut their minds to the rest. They will judge this idea according to their own knowledge of the subject, or compare it with some thought possessing a slight similarity. In so doing, they cut off the natural sequence being presented by the lecturer, and at the end of the session they generally find themselves decidedly confused over what has been said. Of course, they lay the blame at the door of the speaker-not to their own mental reactions.

368 他の生徒達は自分達が描いたアイデアと一致しない一つの発言を捉えて、その残りの話に心を閉ざすことでしょう。彼らはそのテーマに関する自分達の知識に従い、このアイデアに対し裁きを行うか、あるいはわずかな類似点を持ついくつかの想念と比較することでしょう。そうすることで、彼らは講師によって提起された自然な一貫性を切断し、授業時間の最後には、彼らは大抵、自分自身が明らかに語られたことに対して混乱していることに気付きます。もちろん、彼らは自分達自身の心の反応に対してではなく、講師のせいにするのです。

【解説】

本項では前項とは異なり、心の詮索好きさがせつかくの印象を拒絶し、印象の伝える全体像を見失ってしまう事例を示しています。

前項（367）同様、授業の例ですが、これも皆様が一度は経験しているものと思われます。つまり教師が述べた一つの事柄がたまたま一人の学生の意に反した、或いは一時的に納得が行かない内容が含まれていたために、本人はそのことで頭がいっぱいになり、その後の授業に身が入らなくなった事例です。

同様に、私達も想念・印象を感受する際、一見、不合理、不可解に思える時があるかも知れません。しかし、そこに囚われていてはそれ以後入って来る印象の流れを堰き止めることとなり、結局は混乱のみが残ることになります。

私達は当座、分からないことは分からないものとして記憶し、先ずは一連の印象の流れを途絶えさせないように心掛ける必要があります。先ずは合わせたチャンネルからどのような解決策が伝えられようとしているか、じっと理解しようとする姿勢が大切なのです。

369 This is what the average person does to the thought that impresses itself upon his consciousness. Consequently, instead of getting the clear impression of the attentive student, he receives disconnected fragments

369 これが平均的な人間が自分の意識に印象づける想念に対して行っていることです。結局のところ、注目し続ける生徒が明瞭な印象を得るのに対し、彼は互いに繋がりのない断片を受信するのです。

【解説】

感受した想念・印象の取り扱い方法について、これまでどの本も取り上げることはなく、教える教師も居なかった訳ですが、本講座ではじめて具体的な心のありようについて解説が為された訳です。

平易には記されておりますが、内容的には高度なものではないかと思われます。想念・印象の流れを心の過度な詮索や批判志向によって途切らせることなく、流れが続くよう経路を維持し、最終的にどのような全体像を意図しているのか判明するまで忍耐強く受け入れながら、観察するというものです。

こうした各断片の印象の関連性を理解することで、はじめて全体像が理解されるということでしょう。著者は同様なことを「生命の科学」の中では、ジグソーパズル（はめ絵パズル）として表現しています。

370 The difference between pure reasoning and perverted reasoning is the difference between definition and discrimination. We may say that a rose is red and is fragrant; and that a calla lily is white and possesses little fragrance. Our reasoning tells us they are two distinct objects; and defines their character by an act of recognition. But perverted reasoning could say that the lily is a mistake of creation, because it should have been red like the rose; or that the rose is malformed because it is cut up in little pieces called petals.

370 純粋な推論と歪んだ推論との違いは定義と差別の間の違いです。私達はバラというものは赤く、よい香りのするものと言いますが、カラー（訳注：植物名、オランダカイウ、日本ではカラーもしくはカラーリリーと呼ばれる。漏斗状の白い仏炎苞を持つ観葉植物）は白く、香りは無いと言うでしょう。私達の推論はそれらは二つ別個のものであることを私達に伝え、認識の行為によってそれらの特徴を定義します。しかし、歪んだ推論は、そのユリ（訳注：この場合、前述のカラーをユリと認識している）はバラのように赤くなければならないのになっておらず、或いはそのバラ（訳注：この場合は前出のカラーをバラと認識している）は花弁と呼ばれる小片に切れ込まれている為、誤って創造されたものだと言うかも知れません。

【解説】

観察したありのままを受け入れ、良否・美醜の差別なく「定義define」することと、その創造物が他に比べて欠点を持ち、劣るものとする優劣の差別を加える「perverted reasoning歪んだ推論」とを、著者は明確に区別し、後者の姿勢の誤りを指摘しています。

このことは何ものであれ、創造物には各々美しさと本来の役割を備えており、決して私達の勝手な差別を下してはならないことを意味しています。肉食獣が獲物を捕獲することは私達の目には残酷に見えますが、私達自身も魚を取ったり、肉を食している訳で、社会の仕組みとして、その作業を他の者が分担して担っているに過ぎません。

「好き嫌い」や「優劣」の感情の源は私達の心の姿勢にある訳で、私達はこれから次々にやって来る想念・印象に対して、そうした差別を向けることなく、ただひたすら、ありのままを受け入れてその中に意義や役割を見出すよう努める必要があります。「汝、裁くな」とは、実に簡潔で的を得た言葉です。

371 The rose had nothing to do with the creation of the lily, or vice versa; so man cannot judge one by the other. They are two distinct phases of plant life; and as such, should be recognized equally for their individual character. Yet, by judging and condemning the ideas that are presented to us through our senses, we daily judge and condemn the Creator's manifestations.

371 バラはユリの創造には何らの関係はありませんし、ユリも同様です。ですから、人間は他のものによって、そのものを裁くことは出来ません。それらは植物の生命の中の二つの別個の側面であり、このようにそれら個々の性質として等しく認識されるべきです。しかし、それでも私達の諸感覚を通して私達にもたらされる諸々のアイデアを裁き、非難することで、私達は創造主の創造物を毎日のように裁き、非難しているのです。

【解説】

想念・印象も含め私達が日々出逢うもの全てに対し、先ずは外見その他で優劣・好き嫌いの査定を厳に慎むことから始めなければなりません。実は、その点で私達の感覚が重要な責任を持っていることとなります。外見は視覚、臭いは嗅覚、味は味覚等々、私達の既存の感覚が主人（私）に代わって次々に来るものに対し、裁定を下していることが問題なのです。

この「裁き」を消すことが出来れば、従来それに掛かっていた私達の心は、もっと寛容、客観的に各々の現象を観察でき、やがては、より精緻な想念・印象の動きにも気付けるようになるものと思われま

す。「裁く」ことはまた、一方では「裁かれる」ことにもなる訳で、これら一人一人の変革は地道ながらも社会を変える大きな力になる筈です。

372 Reasoning should be used to evaluate all things impartially, and to elevate the sense perceptions to understand and accept Cosmic Intelligence. Pure reasoning must involve the elements of faith and confidence; not faith in one's self as a personality, but faith in the immutable laws of thought-action, and in the unlimited scope of awareness in the faculty of feeling. This, I have proven by my own experiences over a period of years.

372 推論というものはあらゆるものを差別なく評価するために用いられるべきであり、感覚の認識機能を宇宙の英知を理解し、受容するために用いられるべきです。純粋な推論は信頼と信念の要素を含まなければならず、個性としての自我への信頼ではなく、想念—行動の不変の法則やフィーリングの機能に対する無限の知覚展望への信頼です。これは私自身の経験によって何年もの年月を経て実証して来たものです。

【解説】

一連の著者によるreasoningの役割について、本項ではより丁寧に説明しています。つまり、テレパシーにおいて、従来は単に想念・印象の感受ということのみに重点が置かれていましたが、本講座においてはreasoningという心が果たすべき役割、即ちテレパシー能力の開発過程で心の発展が必要な部分として、このreasoningの作用を挙げていることに注目したいところです。

私の現状の理解では、如何なるルートであれ、想念・印象が感受される時、そこには私達自身の心の領域での作用が必要であり、心によるreasoningと本講座で称される観察・知覚が生まれます。その際に重要なのは、心の姿勢です。自らを尊大化し、他者を見下すような姿勢をとるか、或いはまた冷静にそれらが伝えようとするイメージを理解しようと受容的態度を保つかによって、その後の結果は大きく異なります。

もし、この時、心が自らを謙虚にして、それら印象が持つ伝達内容を理解しようと努めれば、成功事例も増し、益々テレパシー能力も深まるものと思われれます。

373 Volumes could be written on the subject of thought and its action, yet barely disturb the surface. It is one of the most interesting fields of research one can hope to find; for it is as vast as Infinity itself, and is the actual foundation of all our sciences.

373 想念とその作用のテーマについては何巻もの本を書くことが出来るでしょうが、それでも何とか表面に触れられるだけです。それは人が望み得る研究分野の中で最も興味深い分野の一つです。何故ならそれは無限遠そのものと同じほど広く、しかも私達の全ての科学の基礎でもあるからです。

【解説】

これまでの一連のテレパシーに関する解説が終盤に差しかかる中、著者は改めてテレパシーについての研究の意義を語っています。それは単なる遠隔透視や未来予知といった「超能力」と称される単純なものではなく、宇宙の仕組みそのものに迫る精緻な原理と言うべきで、何よりも各自が自身の心の修養や肉体の反応観察等により、研究を進めることが出来るものです。言い換えれば、研究の材料は私達自身であり、他に何らの材料も、費用も必要ありません。

同様な内容は「生命の科学」や「宇宙哲学」等、アダムスキー氏の他の著作にも共通して繰り返し伝えられていることです。実はこの想念の取扱いについてが最も私達地球人の劣るところで、過去何万年もの間、様々な文明が自滅し、崩壊した原因となっています。

実はこの地球自体が私達が学ぶ教室とも言える学習の場である訳ですが、そこでの重要教科が、この心の取扱いと想念・印象に関する学習と言えるということでしょう。かつて「禁断の惑星」という映画がありました。その中の主人公の一人である科学者の父親が発する想念が狂暴化して人々に危害を加えるシーンがありますが、まさに地球における最大の課題が想念問題であることを示唆した内容となっています。

374 If we are understand Original Cause, we must discipline our minds as we would a child, and deal with the four senses as we would four children. We are all individuals rays of Intelligent Cause manifesting through matter.

374 もし私達が原初の因を理解しようとするなら、私達は自分達の心を私達が子供に対するように躡けなければなりません。四つの感覚に対しては四人の子供に接するように振る舞わなければなりません。私達は全て物質を通して現出している英知ある因の個々の光明なのです。

【解説】

本項では自分自身に対する修養の取組姿勢を明確に示しています。

注目しなければならないのは、私達の視覚～味覚までの四感覚を自らの子供のように指導し、育成せよとしていることです。

確かに私達の最大の欠点は四感覚の独善的、支配者的な姿勢にあるのですが、それを矯正するのに、単にけなしたり、卑下することによってでは、正しく成育しないということです。子供を育てるように丁寧に一つ一つを納得させる中で、対話を進めながら少しずつ学ばせるということでしょう。

それは私達自身が創造主から発せられたスペクトルの一部であり、それなしでは虹の一色が欠けることとなり、創造物が完成したことになりません。一人一人が創造主にとってもかけがえの無い存在であることに気付く必要があります。それ故にひとたび自らの役割を自覚し、本来の発色を発現出来れば、虹も完成し、創造主は喜ばれることになるのです。

375 It was this universal Intelligence that Peter used when he said to Jesus, "Thou art the Christ, the Son of the Living God." Matt. 16:16.

375 ペテロがイエスに「あなたは生ける神の息子だ」（マタイ16章16節）と言った時、ペテロはこの宇宙普遍の英知を用いていたのです。

【解説】

アダムスキー研究者の間では、アダムスキー氏は使徒ヨハネであったという話が伝えられています。出典の根拠は今となれば確かめようもありませんが、当時アダムスキー氏に接した多くのコーワーカーの話として伝わって来たということでしょう。

本項の記述はそうした背景を知っていればよく理解できるというものです。つまり、著者アダムスキー氏はかつてイエスの高弟の一人として本項でペテロが述べた場に居たということです。

さて、ここで注目したいのは、地球を訪れる他惑星からの教師は決して自らの正体を明かすことはないことです。人々はその教師と接する中で、その正体を見抜くまで、じっと待っているという訳です。外見によって人は人物を判定しがちですが、ペテロは自身の内側の直感・感性から相手の正体を察知出来たことをイエスは喜んだというものです。私達も日常、このような感性を大切に、目や耳が伝え切れない本質に気付く必要があります。

376 Jesus acknowledged this when He answered, "Blessed art thou, Simon Barjona; for flesh and blood hath not revealed it unto thee, but my Father which is in heaven." Matt. 16:17.

376 イエスはこう答えて、これを認めました。「幸いなるかな汝、シモン・バルヨナよ。何故なら肉と血が汝にこれを明かしたのではない。天におあす私の父が明かした為である。」（マタイ第16章17節）（訳注：シモン・バルヨナはペテロの別名です）

【解説】

ペテロの洞察に喜んだイエスはペテロに対し、その洞察はペテロの肉体に属する既存の感覚によってもたらされたのではなく、宇宙の本源に由来する想念・印象を感受出来たことによるのだと祝福しているのです。言い換えればイエスから最初に及第点を貰ったのがペテロであるという訳です。

これと同様に、進化した他惑星人は、地球人の中にあっても決して正体を明かすことはないように思います。重要なことは、自らの正体を明かして、他の者達の関心を集めることではなく、私達自身の訓練として必要な内容を如何に進められるかであり、その為の支援を陰ながら行うのが彼らの使命であるのです。そういう意味で、私達は地球を訪れている多くの他惑星人に対して感謝を忘れてはならないのです。目に見えない形で多くを支援している彼らの隠れた活動にこそ、私達は関心を持たねばなりません。

377 Jesus used the word Father when speaking to the children of the world, for although He knew there was no word capable of conveying the true meaning of the Supreme, the term Father would give man a feeling of warmth, love, and oneness. And when we awaken this quickening in our minds as did Peter, we are actually entering the Kingdom of Heaven. For the Kingdom of Heaven is the Kingdom of Cause . . . while the kingdom of earth is the kingdom of effect.

377 イエスはこの父という言葉、この世の子供達に対して語る時のように用いました。何故なら、至上なるものの真の意味を伝えられる言葉は無かったことをイエスは知っていて、父という言葉が人に温かみや愛、そして一体感のフィーリングを授けることを知っていたからです。そして私達がペテロがしたように、この胎動に目覚める時、私達は実際には天の王国に入っているのです。何故なら天の王国は因の王国であり、方や地の王国は結果の王国だからです。

【解説】

聖書にはイエスが「父」と表現する箇所が何度となく出てきます。その意味を著者は本項で述べています。

私達が至上なるものを「父」と呼ぶ時、私達は自らをその子供として、子供の立場から至上なるものに尊敬と依存、更にはいつくしみの心を持っている訳です。

ペテロがイエスの正体を見抜いたのはイエスの肉体としての外観からペテロの目が判断したのではありません。いわばイエスの魂とでも言うべき本源的存在に対し、ペテロが気付いたからであり、そこにはペテロがその本源から放射される想念・印象を感受し、それらを正しく知覚出来たことに対してイエス自身が祝福したのです。自分の弟子がようやく所期の目標に到達したことを喜んだという訳です。

一旦、ペテロのように世の中のあらゆる存在に対し、至高なるものとの関係を知覚することが出来れば、以降は飛躍的に進化が早まるに違いありません。そのことをイエスはお喜びになったということでしょう。

378 Understanding is knowledge lived. When we understand the purpose behind each act, we do not judge. We then become observers, to evaluate all manifestations in relationship to Cosmic Cause; which gave them birth.

378 理解は生きた知識です。私達が各々の行為の裏にある目的を理解すれば、私達は裁きを行なうことはしません。私達はそれから、それらを誕生させた宇宙の因との関連性についてすべての創造物を評価するため、観察者になるのです。

【解説】

理解が全ての課題を解決するカギであると著者は説いています。物事の真の意義を学び、万物の相互関係を学ぶことがあらゆる問題解決に結びつくのです。全ての創造物の本来の意義、全ての行動の中にある真の意味を知り、その価値を学ぶことによって「裁き」は消滅し、相互理解、相互尊重が生まれます。

理解はその創造物が創造された意義を知り、また観察を通じて自己との類似性や関連性を知る中で、相互関係について学ぶことにも繋がって行きます。最高位の創造物である人間は、本来特段の労苦無く、暮らして行けるだけの環境を創造主から準備されて来た訳です。その唯一の任務は、自分の周囲の様々な創造物について学び、その意義を理解することにあるのです。

本項における「理解」とは仏教で言う「覚醒」に近い概念かと思われます。自然の営みに対する深い洞察と相互の結びつきへの理解は共通した宗教・哲学のポイントなのでしょう。

379 Once man learns that his purpose in life is to control his personal aggressive actions, he will become the recipient of all Cosmic impressions . . . born in silence, projected in silence, accepted in silence. For these are the impressions emanating from each conscious atom, using the Cosmic, universal language.

379 ひと度、人が自分の生きる目的が自己の個人的な攻撃的諸行動を制御することにあることを学ぶなら、彼は全ての宇宙的印象、即ち沈黙の中で誕生し、沈黙の中で放射され、沈黙の中で受信される印象の受取人になることでしょう。何故なら、これらは個々の意識的な原子が宇宙的、普遍的な言語を用いて発している印象だからです。

【解説】

結局、テレパシーは想念・印象の感受である訳なのですが、その目に見えず、耳に聞こえない"印象"は細胞の更に奥の各原子の語る言語であり、私達自身、自分の身体の細胞を通じてこれら印象に同期することで内容が分かるというものです。

そこには、結果の世界には未だ現れない精緻な情報がある訳で、これら印象との交流を通じて、新しい世界が広がるものと思われます。

一度、この印象の取扱いと対応姿勢を体験出来たら、以後私達は少しずつその方向への訓練を日常的に進め、自らの進化につなげて行く必要があります。

期せずして、本項解説がテレパシー講座の最終項に該当することになりましたが、日々、自分自身を生きた教材として取り組むことは各自の進歩を早める貴重な毎日になる筈です。

Conclusion

380 You have now become acquainted with the three tyrannical rulers that make up the life of the average person today: The ego, the emotions, and the four senses. We have shown you how each one influences your body and your mind.

結論

380 あなたは今や、今日の平均的な人間の生涯を作り上げている3人の専制的支配者に通じています。それらは即ち、自我、感情そして4つの感覚です。私達はあなたにこれらの各々があなたの身体と心に影響を与えていることを示して来しました。

【解説】

本項からは講座のまとめになります。

先ずはじめに著者は全体を振り返り、私達の日常生活が「自我」と「感情」そして「四つの感覚」に支配されていることを指摘しています。言い換えれば、「自尊心」「誇り」その他自分自身を高め、その価値が他人より勝っていることや、その優越性の誇示、更には支配欲等は、「自我」に由来しますし、多くの事件の元となる「激情」の発現等、それに一時期支配されたために、大罪を犯す例、また日々の生活の中で様々な他者への「裁き」等、自らの感覚の意見による偏見等々、多くの問題はこれら3つの要素が原因となっているということでしょう。

従って、私達はまず、自分の日常生活にそれら3要素を入り込ませないよう、常に監視する必要があります。今年には戦後70年の節目の年といわれていますが、戦争はこれら3要素が具体的にどのような状況を私達にもたらすかを示唆する代表的な例でもあります。アダムスキー氏が砂漠でオーソンと会見した1952年は、まだ戦後の傷跡が残り、世界が新たな核戦争に向けた歩みを進めている時期であり、これら一連の動きに対応しての、外宇宙からの支援プログラムであったことは今になってわかるというものです。

381 The personal ego, interested only in perpetuating itself, is unaware of its unity with all manifestation; and selfishly concentrates its efforts upon the personal self. But when, through understanding, we can get the ego to turn its awareness outward, it will return to its natural free state; and the real Self will recognize its oneness with the Cosmos.

381 個人的な自我は自分自身の永続化のみに関心がある為、全ての創造物との一体性について気付いてはいません。そして自分自身への努力に自分本位に集中しています。しかし、理解を通じて私達は自我をその知覚を外向きに転換させることが出来る時、それはその自然で自由な状態に戻ることでしょう。また、その時、真の自己は宇宙との一体性を認識することでしょう。

【解説】

私達が日頃悩んだり、苦しんだりすることの大半の原因は、自我（エゴ）に関連しています。仏陀もこうした煩惱や苦しみの原因を長い歳月をかけて分析、観察された結果、エゴの外側にある美しい世界に気付き、私達人間の行くべき道について覚醒されたということでしょう。

本項においては、更にこの自我なるものが本人を支配し、自らの永続性を担保したいがために、様々な対策を本人にとらせようとするのだと断言しています。生命の永続性への不安や自ら所有するとする財産の保全、名声の確保等、気にするものです。

しかし、これらへの対応は、そもそも本来の宇宙の流れ、法則に沿っていない以上、本人に成果をもたらすものではありません。

これ以上、私達は、自我への集中、こだわりを止めて、関心を他の分野に解放すべきです。自身の生命の永続性など、不確実なものにこだわるのではなく、より広い宇宙との一体性や関連性にこそ、永続性の力ギがあることに、いち早く気付く必要があります。

382 We believe the effects of emotions have been well covered in this course. We have pointed out the detrimental effect destructive emotions have on the body, and have given you examples in your daily life whereby you can prove this for yourself. So watch your thought-pattern habits; for your emotions are controlled by them. People are like apples in a barrel—we either mellow with maturity, or we rot. Unlike the apples, we have control over which of these will be our destiny; for our thought-pattern habits will decide our lot.

382 私達はこの講座において、感情がもたらす影響について十分に言及されて来たと思っています。私達は破壊的な感情が身体にもたらす有害な影響を指摘して来ましたが、あなたの日常生活の中での例示を示しましたが、それはそれによってあなた自身で確かめることが出来るものです。ですから、あなたの想念パターンの習慣を観察することです。何故ならあなたの感情はそれらによって支配されているからです。人々は樽の中のリンゴに似ています。私達は成熟して熟するか、腐るかのいずれかです。しかし、リンゴとは違って、私達はそのどちらが私達の運命になるかについて、支配権を持っています。何故なら私達の想念パターンは私達のめぐり合わせを決めることになるからです。

【解説】

私達は各自想念パターンを持っているように思います。その想念パターンから日常の想念が生まれ、感情へと発展し、良しにつけ悪しきにつけ私達自身や周囲に影響を与えているということでしょう。

ですから、先ずは自らの想念パターンが私達自身にとって適切なものかどうかを絶えずチェックすることがとても重要なことです。これはひいては「想念観察」とも呼ばれるものに繋がっている有効な手法の一つです。

しかし、何の為に観察を行うかがより重要です。私達は既にこの宇宙の基本的な潮流として、生命の息吹とも言える調和した美しさが万物の細部に流れていることを学んでいます。その源流を合致した想念を私達が日常放っていることが私達の進化の可能性を促進するものです。それ故に少しでもそこから外れた想念に交わり、乱されることがないか、常に監視する必要がある訳です。

年月が過ぎ、これら一連の精進が進む時、私達は本分にある完熟したリンゴになることが出来ますが、他方、乱れた想念の下では身体はボロボロになり、手の付けられない状況になると本文は警告しているのです。

383 The four senses, the arbitrary rulers of most lives, should be your servants. Each sense has a will of its own, its own reasoning faculty, and is possessed by its own fears. In many instances, it is the four senses through their condemnation of that which they have not previously experienced, that closes the door to new ideas.

383 ほとんどの人生の専制的な支配者である4つの感覚は、あなたの召使にしなければなりません。各々の感覚はそれ自体の意思を持っており、また、その固有の恐怖にとりつかれています。多くの場合、自らが過去に経験したことがないことを非難することで新しいアイデアに対して扉を閉めるのは、この4つの感覚なのです。

【解説】

確かに私達にとって想念・印象の取り扱いのはじめての事柄なのです。これまでは、目や耳、鼻や舌の反応の善し悪しで、外界のもの悉くを私達は判断して来ました。また、そこには長年の経緯から、これら四感覚が全てを取り仕切るようになっており、私達自身をも支配するようになっているのです。

しかし、想念・印象はこれら既存の感覚とは別のルートで知覚される為、最初の内はこれら四感覚が抵抗を示したり、疑いを持ったりすることになります。私達に対して、そのような根拠もあいまいなものに振り回されるなど批判することも多いのです。

実は、私達はこの想念・印象の知覚に関して何も無い状況から開拓して行こうとしている訳ではありません。エデンの園の寓話のように原始の創造の時代、私達は想念・印象を介して創造主と向き合って生活していたように思われます。日本神道で言えば、神人一体、万物に神宿るの世界です。しかし、その後、感覚が増長し、印象を必要としない生き方に変わってしまったように思われます。目に見えない世界より、目に見える結果を重視した生活です。

しかし、その結果、私達は印象の世界を忘れてしまったのです。このテレパシー講座は、私達を創造直後の状況に戻し、他の生きもの達が享受している輝かく日々に戻させるものなのです。

ご連絡 [2015-08-19]

いつもご覧いただき、ありがとうございます。
都合により、明日の更新はお休みいたします。

8月19日
竹島正

384 The mind is made up of the four senses, and they should be educated for the purpose of acquiring knowledge; rather than passing judgment. Mind is a catalyst, or go between, uniting matter and Intelligence. When, through its personalized reasoning mind combines the two wrongly, the results are usually unpleasant. Remember, we have said we are living in what could rightly be called a chemical universe; conceived out of Intelligence, and perpetuated by Force. Any student of chemistry knows that wrong combinations of chemicals can produce undesirable results. So any time your actions result in unpleasant experiences, analyze the combinations you have put together.

384 心は4つの感覚から成り立っており、それら4感覚は知識を獲得する為には、裁きを下すのではなく、教育されねばならないのです。心は物質と英知を結びつける触媒であり、仲介者です。心の個人化した推論を通じて心が両者を誤って結びつける時、その結果は大抵、不快なものになります。覚えておいて欲しいのは、私達はまさしく化学的な宇宙と呼んでよいもの、英知の中から孕まれフォース（訳注：宇宙の力）によって永続されるものの中に生きていますと私達が言って来たことです。化学を学ぶどんな学生でも化学物質の誤った組み合わせは望ましくない結果を作り出すことを知っています。ですから、あなたの行動が不快な体験になったとしたら、その時はいつもあなたが両者を結びつけた組み合わせについて分析することです。

【解説】

私達各人の心の作用について、本項では整理されています。即ち、当面私達の心が及ぶ範囲が限定されたものであっても、それは私達自身の肉体の隅々にまで及ぶことは分かります。その物質とも言える肉体と私達の想念とを反応させているのが心という訳です。

つまり、仮に想念・印象は無数に存在し、絶えず宇宙に莫大な数流れているにせよ、私達の心がそれを感知し、同調しなければ想念・印象は力を発揮出来ません。私達の心がその想念・印象の内容を解釈し、行動へと繋げることで、想念・印象が具体的な作用を発揮出来ることになります。

そういう意味では、私達の心は想念・印象と物質世界とを繋ぐ役割があるとも言える訳です。また、その心の作用は時として謝った解釈や自我の欲望その他誤った思考の下、事態を混乱させることもあり、私達はその結果を見て、誤った心の作用を反省することも多い筈です。

このように日々、自らの心境と対応して目前に現れる結果とを対比させることによって、私達は自らの心の有りようを修正して行く必要があります。

385 Mind is but the medium between matter and Intelligence that associates the two for manifestation. The sense-mind is a minute part of Cosmic Mind. If the sense-mind hopes to be the recipient of Cosmic knowledge, it should not try to recreate, or change, the information given to it by feeling, or consciousness.

385 心は物質と英知の両者を創造のために結びつける媒体でしかありません。感覚心は大宇宙心の極小な一部分です。もしも、感覚心が宇宙的知識の受取人になりたいと望むなら、感覚心はフィーリングあるいは意識によって与えられた情報を再形成したり、変えてはならないのです。

【解説】

これまで私達は心というものは、自我の行動を指図したり、他人を批判するだけの存在のように思ってきましたが、実は本来は更に大きな役割を持っていることが本項で説かれています。物質と英知を融合させる力が本来の心の役割なのです。

しかもその心なるもの自体、更に大きく拡がった大宇宙心なるものの一部だとしています。言い換えれば宇宙全域で行われている創造活動も心が介在する作用ということになります。その内、限られた範囲に閉じてもっているのが私達の現状の感覚心というものです。

従って、まずは私達の心の可能性についてしっかり認識する必要があります。良い想念を抱き、決して邪悪、低レベルな想念を起こさないことはこうした心の潜在力、実現力を考慮して申し上げている訳です。

私達は自らの内側にこのような潜在能力を持つ心を有していることを先ずよく認識して、それらの育成、教育に力を注ぐ必要があります。

386 Impatience is a major cause of unbalance in our lives, and interferes when impressions are coming to us. Our zealous desires often inject our own sense ideas in place of waiting for the full thought; and we distort the true meaning of the impression. Logic tells us to be patient and observant. We should learn to obey logic from the Cosmic angle.

386 せっかちが私達の生活の中の不均衡をもたらす主要な原因ですし、それは印象類がやって来た時に介入します。私達の熱狂的な願望は、しばしば本来の完全な想念まで待つべき所に、私達自身の感覚のアイデアを注入してしまうのです。そして私達は印象の真の意味をゆがめてしまいます。道理は私達に忍耐強く、またよく観察するよう教えています。私達は宇宙的角度から道理に従うことを学ばなければなりません。

【解説】

想念・印象の感受に関してアダムスキー氏はよくジグゾーパズルの例を説かれています。本項についてもそのイメージを掴むことが出来れば、著者が伝えたい内容が分かります。

即ち、想念・印象は一度に全てが与えられるという訳ではないようです。心にとってはバラバラなイメージとして断片的なものが送られて来るといふ訳です。全体像はこれらの断片を本来の位置に配置することで明らかになるのですが、それが判明するまでは、ひたすら冷静に待つ他ありません。そこに心の忍耐が必要になる訳です。他方、これに対し、せっかちにこれまでの心の延長で結論を急ぐのは賢明ではありません。最初の内は、未熟な心が十分な機能が無く、時間もかかるように思われます。

しかし、心が落ち着いて、ジグゾーパズルのようにこれら断片的な印象イメージを繋ぎ合わせることが出来るようになれば、早晚印象本来の全体イメージを掴むことが出来る訳です。この点において私達は短気であってはいけないのです。高速で私達を通過する想念・印象はパルス状の信号として私達はその断片を把握する為、このような状況が生まれるものと思われそうですが、やがて心の能力が高まれば、このような高速度の信号を一度に多量に捕捉できるようになり、理解も早まることになるでしょう。

387 We all make mistakes These are part of our experiences. Do not be discouraged, for we have centuries to undo; so be grateful for even a small crumb that might become an integral part of you. The difference between a wise man and a fool is -a wise man learns from his mistakes, and never repeats them; while the fool keeps repeating the same mistakes.

387 私達は皆、過ちをおかします。しかし、これらは私達の経験の一部なのです。がっかりしないで欲しいのです。何故なら、私達には元に戻す為に何世紀もかかるためです。ですから、些細な手足の曲がりについても、それがあなたの総体の一部になることに感謝することです。賢い者と馬鹿者との違いは、賢い者は自分の過ちから学び、二度と繰り返しません、一方、馬鹿者は同じ過ちを繰り返します。

【解説】

テレパシー能力の開発についても、私達は各自自ら学び取って行かねばなりません。もちろんその中には、誤った対応や失敗も数多く経験する筈です。しかし著者は、そんな私達に時間は十分にあるから心配しないようにと諭しています。誤りの原因を研究し、その痛い経験から学ぶことの重要性を説いているのです。

よく継続することが大切だと言われますが、テレパシー能力についてもそのことが言えます。私自身もこれまで何十年とアダムスキー哲学に惹かれた多くの方を見て来ました。しかし、その多くの方々は最初の熱狂的な資料収集、知識の獲得が終わると、後は大抵興味が薄れ、また違った情報の発信者の方に移り去るケースも多いように思われます。

実はテレパシー能力の開発等については、全くの個人の実践努力の占める割合が大きく、本来は実践の中で失敗から学ぶケースが多い分野ではないかと考えています。自分が日常保持する「心境」が現実生活にどのような影響を及ぼすかは本人しか分からない事柄です。その試行錯誤を積み重ねる中で、より良い方向を学んで行くのが私達本来の人生航路ということになります。

著者アダムスキー氏はテレパシー講座の終わりを前に、私達に今後は自らの判断で失敗をも糧をしながら、進化の道を歩むようにと諭しているのです。

388 May God bless you. May this course become You. For then you, the Prodigal Son, will have returned home to your rightful inheritance . . . one with the Father.

388 神の祝福があらんことを。この講座があなた自身になりますように。何故なら、その時、放蕩息子であるあなたは、あなたの正当なる相続財産の待つ自分の家に戻っているだろうからです。父と一体になって。

【解説】

著者アダムスキー氏はこの講座を終結するに当たって、私達にこの講座が私達自身のこれからの生き方そのものになるよう、また多くの祝福があることを祈っています。

テレパシー能力は単に一部の予知や遠隔透視の能力が高まるだけのものではありません。それは人間の生き方の根本に関わる内容であり、私達自身のこれまでの考え方や信条を根本的に見直し、改革する内容を含んでいます。

また、ここで注目して置かなければならないのは、これら能力は目指すべき理想として説かれているのではなく、他惑星人においては日常的な能力、誰にも備わった極く自然の能力となっていることです。この長い年月、混迷を続け、争いに明け暮れていたこの惑星にとっては、そのステージに到達することは容易なことではありませんが、一人一人が自らを進化させられれば、やがて先進的惑星文明にも近づくことが出来る筈です。そういう意味からも毎日の一人一人の心境が如何なる状態に保たれているかが重要なところですよ。皆様のご発展を心より願うものです。

本項で、第2集目の「テレパシー」講座が終了しました。
次回からは、第2集目の「宇宙哲学」講座に入る予定です。